

〔綿紡〕 東洋紡織・東洋紡織

Table with columns for roles (役員), positions (大株主), and company details (東洋紡織). Lists names like 小島太左衛門, 鈴木善七, etc.

東邦紡績株式会社

Table for 東邦紡績株式会社 with columns for roles (役員), positions (大株主), and company details. Lists names like 木村幸夫, 片岡恒次, etc.

東洋紡織工業株式会社

Table for 東洋紡織工業株式会社 with columns for roles (役員), positions (大株主), and company details. Lists names like 東京市東區龜戸町七丁目五〇, etc.

〔綿紡〕 東洋紡織

Table for 東洋紡織 with columns for roles (役員), positions (大株主), and company details. Lists names like 小島太左衛門, 鈴木善七, etc.

Table for 東洋紡織 with columns for roles (役員), positions (大株主), and company details. Lists names like 木村幸夫, 片岡恒次, etc.

Table for 東洋紡織 with columns for roles (役員), positions (大株主), and company details. Lists names like 東京市東區龜戸町七丁目五〇, etc.

(綿紡) 東洋紡織・東洋紡

製場品... 東洋紡織株式会社... 純毛糸(純毛及各種混紡糸)紡毛... 糸各種、サーチ、モスリン、ス...

原動機... 一、六一九馬力... 三、七、三、九、二、三... 六、二、三、坪、一、一、八...

東洋紡績株式會社

本社 大阪市北區堂島濱通二丁目八... 支店 東京出張所... 支店 京都出張所...

(船紡) 東洋紡

製場品... 東洋紡績株式會社... 純毛糸(純毛及各種混紡糸)紡毛... 糸各種、サーチ、モスリン、ス...

原動機... 一、六一九馬力... 三、七、三、九、二、三... 六、二、三、坪、一、一、八...

役員

社長 伊藤乙吉... 取締役 川澤正雄... 取締役 土屋重太郎... 取締役 山口正太郎...

(綿紡) 東洋紡

建敷機精原操職職倉用庶人人工織工副工月商標 治所 建敷機精 糸紡 物地機機 糸紡 六、六二〇坪

濱松工場

所 在 地 濱松 濱松市北濱村貴布備 一、二〇〇(電小松六七)

A

建敷機精原操職職倉用庶人人工織工副工月商標 治所 建敷機精 糸紡 八六

三軒屋工場

建敷機精原操職職倉用庶人人工織工副工月商標 治所 建敷機精 糸紡 計一、三三〇臺

名古屋工場

建敷機精原操職職倉用庶人人工織工副工月商標 治所 建敷機精 糸紡 計一、五五四臺

(綿紡) 東洋紡

A

建敷機精原操職職倉用庶人人工織工副工月商標 治所 建敷機精 糸紡 計一、五五四臺

(縮紡) 東洋紡

人事主任 平尾 鐵夫
庶務主任 原田 一章
倉庫係 長澤 進
職員係 男五〇人
地員係 一四九、〇〇〇坪
敦賀人絹工場
(電敦賀三七・七三三)
福井縣敦賀郡敦賀町
人絹 スフ
孔雀地球、金島、眞珠
人絹及スフ 二七噸
小野田 登彦
米村和一郎
西塚 健二
馬場 一夫
男六九人
一、四〇〇〇馬力
一、〇〇〇〇馬力
一、〇〇〇〇馬力
三〇、〇〇〇馬力
一〇、九一三坪
二九、五三三坪
堅田人絹工場
滋賀縣滋賀郡堅田町
(電堅田一八・四五)
人造絹糸、スフ
孔雀、金島、眞珠
人絹及スフ 二六噸
和田 鴻次郎
小口 源三

(縮紡) 東洋紡

人事主任 田中 優
庶務主任 原健三
倉庫係 岡富男
職員係 七三人
地員係 八六、四四三坪
守口整理加工工場
(電守口一八)
大阪府北河内郡守口大字
綿糸、綿布、加工
▽綿糸 三〇〇〇〇〇碼
▽綿布 三〇〇〇〇〇碼
根岸 平藏
尾田 平藏
中野 渡
高柳源十郎
久保貞彦
一臺、一、〇〇〇キロ
四九、二五二坪
五、九九六坪
大曾根工場
名古屋市長上飯田町
(電大曾根三六・二〇二七)
元東京モスリン紡織名古屋工場
▽合併シ昭和十年毛糸工場トシテ
梳毛糸 八四、五〇〇疋
安井 義忠
渡部 豆

(縮紡) 東洋紡

人事主任 村田 正人
庶務主任 荒木 甚之助
倉庫係 男三九人
職員係 男二〇七人 女一、二六六人
計一、三三三人
十七時間(二交代制)
五〇五臺、一、七五〇馬力
梳毛 三五、五〇〇疋(七七臺)
内課 リンダ 五八臺
ミニール 一九臺
一三、八〇〇疋(四二臺)
一三、一三四坪
一三、五八一坪
路工場
兵庫縣姫路市西中島九二
(電三五二・八一九)
絹糸ハ大正八年十月建設運轉ヲ
開始シ今日ニ至ル絹糸ハ大正十
年十一月運轉開始昭和三年十二
月當社大規模工場ノ夫ヲ合併シ
今日ニ至ル
絹糸 都島、春駒、赤金時ビ
絹糸 桃太郎龍、ピース
スフ 天女、三角地球、絹ス混
紡糸、眞珠
▽紡糸 絹 三六、〇〇〇疋
▽紡糸 絹 二八、〇〇〇疋
▽織布 試織 六〇〇米
正田 與八郎
川端 祐郎
田村 陽吉

職工員 男四四人 女一人 計四五人
男一九六人 女二、二六二人
計二、四五八八
十七時間(二交代制)
絹 三〇、六九六疋(一〇二臺)
綿 六、七二〇疋(一六臺)
二〇、六三六疋(七二臺)
デイドリツヒホジソン式力機機
計四臺
五五、四八四坪
二〇、五三一坪
住吉工場
大阪市西成區粉濱本町四丁目六
七(電或五一〇)
明治二十二年明治紡績トシテ創
立シ後大阪合同紡績株式會社
ニ合併シ昭和六年三月東洋紡績
ト合併今日ニ至ル
綿糸 三、四〇〇〇碼
井村 理一
鳥飼 廣一
鈴木 重二
光村 正一
男一五人 女四五〇人
計五〇〇人
十七時間(二交代制)
一四四臺、一、九三九馬力
綿糸 三六、九六四疋(九四臺)
六、四五二疋(一六臺)
二〇、一〇三坪
七、九七九坪
(縮紡) 東洋紡

職工員 男四〇人 女三三七人
計三七七人
十七時間(二交代制)
汽罐 ランカシャ煙管式 一臺
水車 一臺 三五〇馬力
綿糸 一三、九六八疋(三六臺)
一、二、五六〇疋(三五臺)
一六、二一〇坪
三、五一三坪
川工場
朝鮮仁川府高石町三七(電八五)
昭和九年六月一日操業開始
綿糸 綿布、粗布三八、鶯、金
剛山
▽紡糸 三、〇〇〇〇碼
▽織布 三、〇〇〇〇米
早川 次郎
男三三人
伏見工場
京都市伏見區榎木町一、一四八
(電伏見二六)
昭和十年三月一時操業休止セル
モ同年九月カタン糸工場トシテ
再操業セリ
綿糸 カタン糸
象、金象、白象、東洋
小原 甚之助
鹽田 隆太郎
五富利 清治郎
男八人
男四〇人 女三三七人
計三七七人
十七時間(二交代制)
汽罐 ランカシャ煙管式 一臺
水車 一臺 三五〇馬力
綿糸 一三、九六八疋(三六臺)
一、二、五六〇疋(三五臺)
一六、二一〇坪
三、五一三坪
川工場
朝鮮仁川府高石町三七(電八五)
昭和九年六月一日操業開始
綿糸 綿布、粗布三八、鶯、金
剛山
▽紡糸 三、〇〇〇〇碼
▽織布 三、〇〇〇〇米
早川 次郎
男三三人

職工員 男三五〇人 女一、四〇〇人
計一、七五〇人
十二時間(二交代制)
絹糸 三一、四八八疋(八二臺)
東紡式自動機機 一、三〇〇臺
二七、三二二坪
九、七七二坪
宮工場
愛知縣一宮市天王前一
(電一宮六七七)
昭和三年十一月起工、昭和四年
六月操業
綿糸
龍C A A A 軍人
▽綿糸 二、九〇〇〇碼
▽綿布 二、二〇〇〇〇米
松 永 勘 七
新 井 重 雄
多 田 直 次
山 本 定 雄
山 本 定 雄
男一五人 女六八八人
計一、一〇三人 女六八八人
十七時間(二交代制)
一九五臺、二、四九二馬力
豊田四號型
二七、六四八疋(七二臺)
アラット 四四吋巾自動機機
一、〇二八臺
七、一五四五坪
一、一九一八坪
八九

(綿紡) 東洋紡

Table with columns: 所在地 (Location), 工場 (Factory), 設備 (Equipment), 人員 (Personnel), 生産 (Production). Includes entries for 廣島工場 (Hiroshima Factory) and 津島工場 (Tsushima Factory).

(綿紡) 東洋紡

Table with columns: 所在地 (Location), 工場 (Factory), 設備 (Equipment), 人員 (Personnel), 生産 (Production). Includes entries for 三本松工場 (Mitsubara Factory) and 川之石工場 (Kawashiwa Factory).

(綿紡) 東洋紡

Table with columns: 所在地 (Location), 工場 (Factory), 設備 (Equipment), 人員 (Personnel), 生産 (Production). Includes entries for 小松島工場 (Komakijima Factory) and 四貫島工場 (Yonikajima Factory).

(綿紡) 東洋紡

Table with columns: 所在地 (Location), 工場 (Factory), 設備 (Equipment), 人員 (Personnel), 生産 (Production). Includes entries for 岡工場 (Okazaki Factory) and 津島工場 (Tsushima Factory).

(綿紡) 東洋紡

Table with columns: 所在地 (Location), 工場 (Factory), 設備 (Equipment), 人員 (Personnel), 生産 (Production). Includes entries for 京城工場 (Kyoto Factory) and 小松島工場 (Komakijima Factory).

(綿紡) 東洋紡

Table with columns: 所在地 (Location), 工場 (Factory), 設備 (Equipment), 人員 (Personnel), 生産 (Production). Includes entries for 小松島工場 (Komakijima Factory) and 四貫島工場 (Yonikajima Factory).

(綿紡) 東洋紡

Table with columns: 工場主任, 職工, 建築, 所在地, 月産, 設備, 原動機, 倉庫, 事務所, 工場. Includes entries for 川工場 and 本松工場.

九二

Table with columns: 工場主任, 職工, 建築, 所在地, 月産, 設備, 原動機, 倉庫, 事務所, 工場. Includes entries for 王子工場 and 張工場.

A

Table with columns: 工場主任, 職工, 建築, 所在地, 月産, 設備, 原動機, 倉庫, 事務所, 工場. Includes entries for 尾張工場 and 美工場.

(綿紡) 東洋紡

Table with columns: 工場主任, 職工, 建築, 所在地, 月産, 設備, 原動機, 倉庫, 事務所, 工場. Includes entries for 成工場 and 崎工場.

九一

Table with columns: 工場主任, 職工, 建築, 所在地, 月産, 設備, 原動機, 倉庫, 事務所, 工場. Includes entries for 天満工場 and 本松工場.

A

Table with columns: 工場主任, 職工, 建築, 所在地, 月産, 設備, 原動機, 倉庫, 事務所, 工場. Includes entries for 能工場 and 美工場.

東洋紡

男六〇人 女四〇〇人 計四六〇人
(電機) 東洋紡
精織機 一五〇、〇五六鐘 (三九一臺)
糸紡機 四九、四一六鐘 (一二六臺)
計一、五〇〇人 女一、五〇〇人

神崎工場

兵庫縣尼崎市今福字松ヶ下二八
(電機) 神崎工場
精織機 一五〇、〇五六鐘 (三九一臺)
糸紡機 四九、四一六鐘 (一二六臺)
計一、五〇〇人 女一、五〇〇人

富田工場

三重縣三重郡富田町大字松原
(電機) 富田工場
精織機 一五〇、〇五六鐘 (三九一臺)
糸紡機 四九、四一六鐘 (一二六臺)
計一、五〇〇人 女一、五〇〇人

知工場

名古屋市中區下廣井町三丁目一
(電機) 知工場
精織機 一五〇、〇五六鐘 (三九一臺)
糸紡機 四九、四一六鐘 (一二六臺)
計一、五〇〇人 女一、五〇〇人

豊田紡織株式會社

名古屋西區米田町一七二六
(電機) 豊田紡
精織機 一五〇、〇五六鐘 (三九一臺)
糸紡機 四九、四一六鐘 (一二六臺)
計一、五〇〇人 女一、五〇〇人

春木工場

大阪府泉南郡春木町春木五
(電機) 春木工場
精織機 一五〇、〇五六鐘 (三九一臺)
糸紡機 四九、四一六鐘 (一二六臺)
計一、五〇〇人 女一、五〇〇人

本社工場

名古屋西區米田町一七二六
(電機) 本社工場
精織機 一五〇、〇五六鐘 (三九一臺)
糸紡機 四九、四一六鐘 (一二六臺)
計一、五〇〇人 女一、五〇〇人

九四

九四



ES-9型 織機單獨用スィッチ

各種開閉器 紡績用 人絹用



P-A型 防塵型電磁並開閉器



ES-5型 電機機用油入開閉器



E-S 7型 油入轉極開閉器



ES-10型 完全耐酸電燈開閉器



OP-4型 油入電磁開閉器



OP-A型 油入電磁開閉器



ES-1 密閉型油入配電箱

株式会社 戸上電機製作所

本社 佐賀市佐賀驛東側 電話長 177・179 番 185・718 番
大阪出張所 大阪市北區梅田新道(太平ビル) 電話北長 3677・3678番
東京出張所 東京市芝區新橋驛前(新橋ビル) 電話銀座長 1650・1966番
名古屋出張所 名古屋市中區廣小路通(第一ビル) 電話本局 1978番
廣島出張所 廣島市上流川町(中國ビル) 電話 5688番
京城出張所 朝鮮京城府黃金町一丁目(朝鮮ビル) 電話本局長 555番
大連出張所 大連市山縣通り(東拓ビル六階) 電話本局 7669番
新京駐在所 新京市豐樂路251號

Table with columns: 所在地, 沿革, 製品及商標, 工場主任, 職員, 原動力, 特種機, 織機, 紡績, 建設. Includes information for 刈谷工場 (Kariya Factory).

Table with columns: 所在地, 沿革, 工場主任, 職員, 原動力, 特種機, 織機, 紡績, 建設. Includes information for 豊田式織機株式会社 (Toyoda Spinning Machine Co., Ltd.).

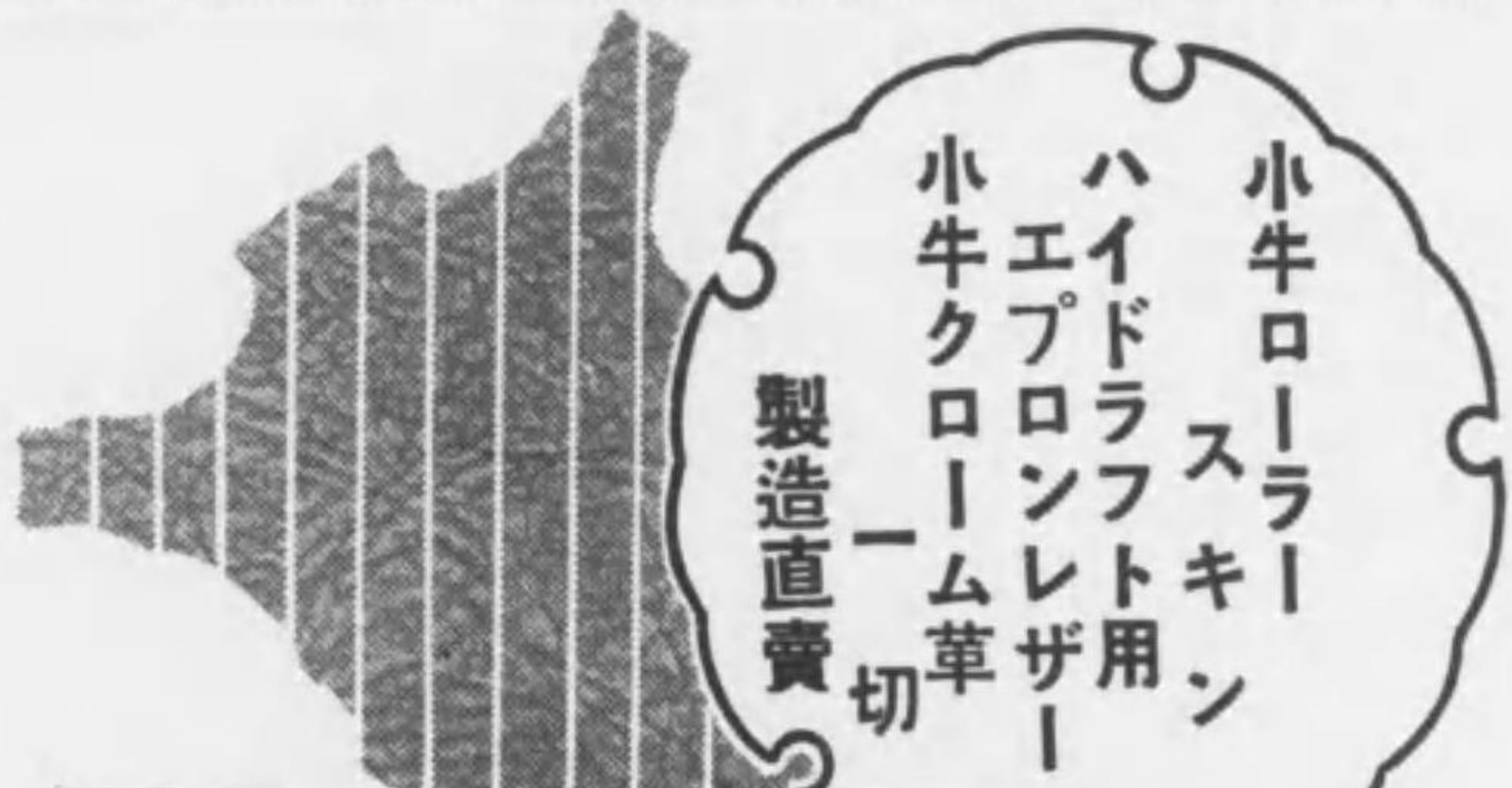
Table with columns: 役員, 株主, 資本, 最近配當, 決定期, 株主名簿, 株主総会. Includes financial and shareholder information.

(綿紡) 豊田紡・豊田式織機

工場

九六

小牛ローラー スキン
 ハイドラフト用
 エプロンレザー
 小牛クローム革
 製造直賣



帝國皮革工業所

所長 小林禾乃吉

本店・工場

兵庫縣川邊郡伊丹町
 電話(伊丹)五六〇番

大阪出張所

大阪市北區絹笠町九
 (大江ビル四階四六號)
 電話專用北(36)一九〇〇番

愛知 寛喜三郎 三、〇〇〇
 大阪 田附政太郎 二、九六〇
 兵庫 齋藤雄二 二、三〇〇
 東京 川崎清亮 二、〇〇〇
 川崎信託 二、〇〇〇

新川工場

所在地 名古屋市西區春日井新川字須ヶ口
 (電話)二二二・二二四
 男一八人 女七五人 計九三人
 電力 一〇五馬力
 綿糸 八、〇〇〇鐘

豊田押切紡織株式會社

【本 社】名古屋市西區葎原町四丁目一
 (電話)一七七一・一七八・一七五八
 昭和四年二月創立
 資本金 二、〇〇〇、〇〇〇圓
 役員 社長 豊田平吉
 取締役 豊田利三郎
 監査役 豊田喜一郎
 同 林野時
 同 鈴木貴

【工場】(本社工場)
 工場長 鈴木貴
 生産部長 鈴木貴
 男一〇〇人 女四九〇人
 芝浦 七五〇馬力
 一九、九五二鐘

(精紡) 豊田押切紡・徳島紡・内外紡

【機 織】二、四〇〇鐘
 【機 織】五五八臺

徳島紡績株式會社

【本 社】徳島縣名東郡加茂町田宮三四四
 (電話)二二五八
 事務所 大阪市北區玉江町二丁目福島紡
 内 昭和五年四月創立、昭和七年四月開業
 【資本金】二、五〇〇、〇〇〇圓(全額拂込)
 【最近配當】年一割及特配五分
 【決算期】上半期 自十二月 至五月
 下半期 自六月 至十一月
 【製品及商標】綿糸(二〇手外(三虎)紡糸 一、四六六五捆)

取締役社長 八代祐太郎
 取締役 坂本政五郎
 同 長尾好明
 同 植田寅之助
 同 森代政次
 同 八代武美
 同 千國寛一郎
 同 道滿筆
 同 坂本政五郎
 同 八代祐太郎
 同 長尾好明
 同 植田寅之助
 同 森代政次
 同 八代武美
 同 千國寛一郎
 同 道滿筆

八代祐太郎 一、〇〇〇
 植田寅之助 一、〇〇〇
 坂本政五郎 一、〇〇〇
 長尾好明 一、〇〇〇
 植田寅之助 一、〇〇〇
 森代政次 一、〇〇〇
 八代武美 一、〇〇〇
 千國寛一郎 一、〇〇〇
 道滿筆 一、〇〇〇

【工場】(本社工場)
 男一八人 女七五人 計九三人
 電力 一〇五馬力
 綿糸 八、〇〇〇鐘

【工場】(本社工場)
 工場長 鈴木貴
 生産部長 鈴木貴
 男一〇〇人 女四九〇人
 芝浦 七五〇馬力
 一九、九五二鐘

内外紡績株式會社

【本 社】名古屋市西區長者町九六
 (電本局七二九六四)

A 九七

〔綿紡〕 内外紡・内外綿

〔資本金〕 二、五〇〇、〇〇〇圓
〔株數〕 一、七五〇、〇〇〇株
〔手〕 三〇番手、二〇番(紫箱)
〔手〕 三〇番手、二〇番(赤箱)
〔手〕 一、二八〇圓

〔役員〕 取締役社長 遠山 静次
取締役 遠山 静次
取締役 遠山 静次
取締役 遠山 静次
取締役 遠山 静次

〔職員〕 主任 遠山 静次
主任 遠山 静次
主任 遠山 静次
主任 遠山 静次
主任 遠山 静次

〔工場〕 第一工場 田中 明次郎
第二工場 藤山 光彦
第三工場 中國上海西蘇州一九號
第四工場 明治四十四年設立
第五工場 松野 季義
第六工場 中國上海西蘇州十四號
第七工場 三宮 清市郎
第八工場 第五工場二同ジ
第九工場 大阪十一年設立

内外綿株式會社

〔本社〕 大阪市北區堂島中二丁目二五
〔支店〕 上海支店 (上海支店路)
〔支店〕 青島支店 (青島市外四方庄)
〔支店〕 金州支店 (關東州金州)

〔最近配當〕 一割二分
〔決算期〕 上半期 自六月 至十一月
下半期 自十二月 至五月
〔株數〕 新株 二四〇、〇〇〇株
舊株 三三〇、〇〇〇株

〔役員〕 取締役 佐々木 國謀
取締役 岡田 源太郎
取締役 山口 幸三郎
取締役 阿部 彦太郎
取締役 大西 繁二
取締役 大谷 喜一
取締役 牛田 虎之助

A 九八

〔株主〕 中野 嘉三郎
川部 利兵衛
阿部 彦太郎
川部 彦太郎
川部 彦太郎
川部 彦太郎

〔職員〕 主任 遠山 静次
主任 遠山 静次
主任 遠山 静次
主任 遠山 静次
主任 遠山 静次

〔工場〕 第一工場 田中 明次郎
第二工場 藤山 光彦
第三工場 中國上海西蘇州一九號
第四工場 明治四十四年設立
第五工場 松野 季義
第六工場 中國上海西蘇州十四號
第七工場 三宮 清市郎
第八工場 第五工場二同ジ
第九工場 大阪十一年設立

〔支店〕 上海支店 (上海支店路)
〔支店〕 青島支店 (青島市外四方庄)
〔支店〕 金州支店 (關東州金州)
〔支店〕 天津支店 (天津法租界)
〔支店〕 漢口支店 (漢口英租界)

〔支店〕 上海支店 中國上海漢口路一三〇號
明治四十四年十月十日設立
藤田 俊治

〔支店〕 青島支店 中國青島市外四方庄
青島市陶館路八號 朝鮮銀行內
大正六年十二月設立
石川 作太郎

〔支店〕 天津支店 (天津法租界)
〔支店〕 漢口支店 (漢口英租界)
〔支店〕 北京支店 (北京前門外)
〔支店〕 濟南支店 (濟南經二路)
〔支店〕 煙台支店 (煙台順泰街)

(綿紡) 内外綿

A 九九

(編紡) 日東紡

金州支店

所在地 瀋陽州關東州會新會州 (電會州七六七七)
大正十三年設立
支店長 眞文重隆
工場長 三

日東紡績株式會社

【本場】 福島市外杉妻村大字郷野目 (電六五・六七・一一五三)
總務部 郡山町藤山町 (電八七・八八・八五八)
東京營業所 東京市京橋區京橋三丁目(片倉ビルディング内) (電京橋專用六五五三 自三一六一至三一六九)
主任兼總務部長 內藤圓治
商務係主任 田中貞雄
大阪營業所 大阪市東區北濱二丁目(片倉ビルディング内) (電北濱專用六三三四自三〇四六至三〇四八)
名古屋營業所 名古屋市中區區八熊町字上新谷二三三八(電代表南一四九〇)

名古屋工場

所在地 名古屋市中區區八熊町字上新谷二三三八(電南一四九〇)
舊名古屋紡績株式會社名古屋工場ヲ昭和十二年九月一日ヨリ合併日東紡績株式會社名古屋工場ト名義變更ス
10番30番22番33番42番60番棉糸商標(龍鼓)
▽紡糸 五、三二二桐
高橋藤治郎
甲斐野市三郎
樋口亭二
男一八人 女一、一七三人
計一、三四五人
(内一時間(二交代制))
一八時間(二交代制)
(内一時間(休養))
二、一〇臺
三、四七三、四分ノ三馬力
綿糸 七五、二〇〇鍾
二〇、七九七坪一四
一、二一四坪〇一四
新湯工場
新湯市沼垂町字大山三五二
電特長一五一・一五九八
大正五年新湯紡績株式會社トシテ創立大正九年三月名古屋紡績株式會社ニ合併
綿糸 龍鼓
▽紡糸 一、一五二桐
吉澤博一
堀尾喜一

郡山第三工場

福島縣郡山市長者町(電六六)
大正八年十二月郡山紡績株式會社トシテ設立、大正十一年六月名古屋紡績株式會社ト合併シ、同社郡山工場トナル更ニ十二年九月一日ヲ以テ日東紡績株式會社ト合併ノ結果同社郡山第三工場トナル
工場トナル
綿糸 四二番手、龍鼓
▽紡糸 一、一〇〇桐
田中康年
男九人
男八七人 女四五五人
計五四二人
(内一時間(二交代制))
十八時間(二交代制)
汽機、多管式 一臺
電動機 七二臺、一、九一六馬力
綿糸 三七、四〇〇鍾(九三臺)
二〇、四七二坪二三
五、三五八坪七二
【備考】 詳細ハ「スフ」會社工場日東紡ノ項参照。

日清紡績株式會社

【本場】 東京市東區區戸町二丁目七七八 (電三二一九)
營業所 東京市日本橋區浪花町二〇ノ三 (電浪花二一五一一・二一五五)
本社工場 東京市東區區戸町二丁目七八 (電三二一九)
西新井工場 東京市足立區區原町一〇九〇 (電足二二二七)
濱松工場 靜岡縣濱名郡北濱村貴布禰 (電小松六七)
岡崎工場 愛知縣岡崎市針崎町 (電岡七二二)
戸崎工場 同 戸崎町 (電岡七一五)
名古屋工場 名古屋市中區區豊田町遺徳 (電南三二八)
高岡工場 富山縣高岡市神保町八一 (電高四)
富山工場 同 下新川郡堀川町堀 (電富四三八五)
青島工場 支那青島市外下四方庄
名古屋出張所 名古屋市中區區小路通三四第一ビル(電本一六五)
大阪出張所 大阪市東區區備後町二ノ五六第二野村ビル(電本七五六)

【月産】

▽綿糸純綿混紡共
十三年上期五四、四七七桐
▽スフ日産九・七桐
取締役社長 宮島清次郎
常務取締役 野尾壯四郎
取締役 岡田壯三郎
同 山本倍三郎
同 西村傳一郎
同 鈴木誠七郎
同 川崎友之介
同 中島伊三郎
同 福澤吉三郎
同 尾崎三郎
同 多賀辰三郎
同 佐藤吉次郎
同 森川一五郎
同 館山雄五郎
同 崎山義直
同 岡田直
同 間口伸之助
同 松崎仲二
同 平田政記
同 中村清次郎
同 能登谷元吉
同 服部研介
同 加藤直
同 西木直民
同 美濃部三之助
同 松山治亮

本社工場

青島工場長 内田簡二
名古屋出張所 櫻田武
大阪出張所主任 妙泉宣正
【投資會社】 日新染布株式會社、日本形染株式會社
【大株主】
明治生命保險株式會社 一五、〇〇〇
岡田壯四郎 一四、五〇〇
宮島清次郎 一三、三〇〇
中島伊三郎 一三、三〇〇
平沼久三郎 一三、三〇〇
丸水渡邊商會 一三、三〇〇
職員 男二一〇人 女二人
計二一二二人
【職工】 男一、一三三人 女九、二二〇人
計一、三六三人
【原動機】 電力 三八、九二〇馬力
【精紡機】 六二、九〇四八鍾
【織機】 九三、九七八鍾
坂本式遠州織機式 二、二〇八臺
【本社工場】
東京市東區區戸町二ノ七八 (電本田二二一九)
明治四十年二月創立
綿糸、綿布
綿糸(金龍、白龍、黑龍、紫龍)
▽紡糸 一、二〇〇桐
▽織布 五、〇〇〇碼
平田政記

(編紡) 日清紡

A

一〇一

職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名		
醫務主任	大島 仁	人事主任	廣岡 見二	工場主任	永井 重次郎	機務主任	三	機務主任	男二一人	機務主任	男二四五人	機務主任	女一、四七五人	機務主任	八時間半(交代制)	機務主任	汽機	電機	電機		
富山工場	富山縣上新用郡堀川町	富山工場	(富山四三三五)	富山工場	昭和八年十月創業	富山工場	綿布、三巾、四巾、金巾(桃)	富山工場	綿布、租布	富山工場	△紡糸一、三〇〇〇個	富山工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	富山工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	富山工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	富山工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	富山工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個

職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名		
機務主任	男一六人	機務主任	女六五〇人	機務主任	八時間半(交代制)	機務主任	汽機	電機	電機	電機	電機	電機	電機	電機	電機	電機	電機	電機	電機		
崎工場	愛知縣岡崎市戸崎町	崎工場	(岡崎七二五)	崎工場	昭和二年六月帝國紡績株式會社	崎工場	綿布、三巾、四巾、金巾(桃)	崎工場	△紡糸一、五〇〇〇個	崎工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	崎工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	崎工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	崎工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	崎工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	崎工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個

職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名		
機務主任	八時間半(一週間交代制)	機務主任	七六臺	機務主任	三、七四八臺	機務主任	坂本式自動機	機務主任	六四〇臺	機務主任	三、〇九三六坪	機務主任	八、〇〇四坪	機務主任	靜岡縣濱名郡北村貨布備	機務主任	一、二〇〇(電小松六七)	機務主任	一、二〇〇(電小松六七)	機務主任	一、二〇〇(電小松六七)
濱工場	靜岡縣濱名郡北村貨布備	濱工場	(濱名)	濱工場	大正十五年十一月二十八日創業	濱工場	綿布、三巾、四巾、金巾(桃)	濱工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	濱工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	濱工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	濱工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	濱工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	濱工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個	濱工場	△紡糸一、二〇〇〇〇個

日清紡

職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名				
機務主任	大正九年四月岡崎紡績ヲ買収、	機務主任	爾來増設ニ増設ヲ重ト今日ニ至	機務主任	ル	機務主任	△紡糸純綿混紡共、六三〇〇個	機務主任	(十三年上期、二七九、〇〇〇封度)	機務主任	△紡糸純綿混紡共、八八、四〇〇〇反	機務主任	(十三年上期、五三〇、〇〇〇反)	機務主任	△紡糸純綿混紡共、三、〇〇〇〇反	機務主任	(十三年上期、九、九〇〇〇反)	機務主任	加藤 研介	機務主任	平岡 重吉		
岡工場	岡崎市神保町八一(電岡四)	岡工場		岡工場		岡工場	電力、四、五八九キロ	岡工場	綿七九、四四〇(二二〇〇臺)	岡工場	スフ、二六、七六八(一七八臺)	岡工場	一三、八二〇(三五臺)	岡工場	合計一、四二〇臺	岡工場	坂本式自動機	岡工場	九四四臺	岡工場	同	岡工場	力機、四七六臺

岡崎工場

職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名		
機務主任	大正四年十二月岡崎紡績合資會	機務主任	社ヲ買収現在ニ至ル	機務主任	綿糸、赤龍(白龍)	機務主任	綿布、三巾、金巾	機務主任	△紡糸六〇〇〇個	機務主任	△紡糸八〇〇〇〇個	機務主任	美濃部 三之助	機務主任	紡績部 谷源吉	機務主任	高瀬 次郎	機務主任	男一人	機務主任	女四五〇人
岡崎工場	岡崎市針崎町東カンジ四六ノ一	岡崎工場	(電岡七二)	岡崎工場	大正十年四月岡崎紡績ヲ買収シ	岡崎工場	現今ニ及ブ	岡崎工場	綿布、三巾、金巾、ドリーター	岡崎工場	花馬蹄	岡崎工場	細布、紫桃、新興モス(商標ナシ)	岡崎工場		岡崎工場		岡崎工場		岡崎工場	

名古屋工場

職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名	職	名		
機務主任	名古屋市南區豊田町道徳	機務主任	(電南三二八、一六五五)	機務主任	大正十年九月二十日操業開始	機務主任	綿糸(白龍、黒龍、紫龍、赤龍、黒龍)	機務主任	△紡糸一、八五〇〇個	機務主任	△紡糸一、八五〇〇〇個	機務主任	△紡糸一、八五〇〇〇個	機務主任	△紡糸一、八五〇〇〇個	機務主任	△紡糸一、八五〇〇〇個	機務主任	△紡糸一、八五〇〇〇個	機務主任	△紡糸一、八五〇〇〇個
青島工場	中國青島市四方庄	青島工場	(電四方四、一四二、四三)	青島工場	大正十二年四月八日操業	青島工場		青島工場		青島工場		青島工場		青島工場		青島工場		青島工場		青島工場	

西新井工場
東中市足立區栗原町一〇九〇
東京紡績株式會社ヲ大正十三
年五月買収ス
綿糸(紫龍)50、原糸(40)原
糸(44)白龍(40)原
糸(桃)三(巾金巾)
▽紡糸 一、七〇〇、〇〇〇碼
▽織布 一、七〇〇、〇〇〇碼
中村清次郎
佐草泰明
本延一三三
宮村芳之
男一七五人 女六六二人
八時間半(二交代制)
汽罐 一 二基
發電機 一 五七基
電機 一 五七基
アサリクス 一 三三基
五二、三三〇噸
遠州織機 八三〇噸
五四、六〇七坪
一二、四三三坪
【備考】青島工場詳細ハ後掲「在滿・支紡篇」
日清紡績ノ項参照

原町紡績株式會社

本社 東京市麹町區丸ノ内二丁目六

大株主
古河合名會社 二一、六九九
長谷川鐵太郎 一、八三六
三益信託會社 五〇〇
青木十三郎 四三、五
木村信治郎 二一、五
職員 男一八八人 女二八五人
計四一九九人
工場 電力五六〇馬力 四五〇キロ
原糸機 スプン共 六三三基
自動織機阪式 八四基
力織機豊田式其他五四八基
染色機 綿スプ共 一臺
アマリン染色機 三〇基
ジャッカー染色機 三〇基
(月産能力約一、〇〇〇、〇〇〇碼)
(整理仕上機) 綿スプ共
整理仕上機一式 一〇〇基
(月産能力約六〇〇、〇〇〇碼)

株式會社服部商店

本社 名古屋市中區區宮町一丁目
(電話一七一七至一一二二)
一、二二九
工務部 名古屋市中區區熱田東町字東起
(電話總九二九・九三三)
大阪支店 大坂市東區區淡路町一丁目
(電話北濱二九七〇・二九七一・
二九七二・一五三六・二一八七
四四七三・四五二七)

和歌山出張所 和歌市十二番丁
(電九一七・三五七)
濱松出張所 濱松市田町(電八三三・八七九)
京都出張所 京都市下京區丸通松原下ル
(電中二八三三)
東京出張所 東京市日本橋區本町四丁目
神戸出張所 神戸市八幡通五丁目
(電兼合一九六四)
大正元年九月
【資本】 六、四〇〇、〇〇〇圓(全額拂込)
【株數】 一、二八、〇〇〇株
【最近配當】 六分
【決算期】 上半年六月 下半年十二月
【商標及製品】 雙童、三童兒、三ッ輪、及童、太鼓、水雷、象兎、雙大、寶珠、牡丹、ラヂオ、其他ノジンス、ドリル、金巾、天竺、朱子、細布等
▽紡糸 五、一二九、五編
▽織布 一三、六九七、四三一碼

服部商店

(綿紡) 服部商店

大株主 服部良一 二四、九一三

職員 三輪常次郎

工場 小澤齊一

原糸機 土屋好雄

織機 大森海平

染色機 南川嘉平

整理工場 服部良一

工場主任 兒玉金治郎

工場主任 兒玉金治郎

工場主任 兒玉金治郎

三輪常次郎 一〇、八三三
濱方博久 七、二二五
小澤齊一 六、五三四
林潤司 五、九三〇
村瀬市郎 二、六四六
大森海平 二、七八〇
川崎多吉 一、二八〇
尾崎友吉 一、三五四
土屋好雄 一、二五〇
職員 男七九八人 女六、五〇〇人
計八、七七八人
工場 電力六、一八六馬力
原糸機 綿糸一九六、八五六編 四七三臺
織機 六、四〇〇噸 一六臺
染色機 二四、七七九坪
整理工場 二四、七七九坪

櫻田工場

本社 名古屋市中區區櫻田町
(電話總一六七六一・六七七八)
一、一三〇
工務部 名古屋市中區區熱田東町字東起
(電話總九二九・九三三)
大阪支店 大坂市東區區淡路町一丁目
(電話北濱二九七〇・二九七一・
二九七二・一五三六・二一八七
四四七三・四五二七)

小牧工場

本社 愛知縣東春日井郡小牧町
(電三〇〇)
一、二二二人
女一五〇人
計一、三七七二人
十七時間(二交代制)
豐田式力織機 二六四臺
二、〇四一坪
一、一七〇坪

古知野工場

本社 愛知縣丹羽郡古知野町(電三八)
男三三人 女一九〇人
計二一三三人
十七時間(二交代制)

(縮紡) 服部商店・濱名紡

阪工場
 所在地 三重縣松阪市大字阪垣鼻
 (電)七六六・二八七・四五二・六〇〇・四五五・二九・二四・六・一〇五
 三重縣松阪市大字阪垣鼻
 (電)七六六・二八七・四五二・六〇〇・四五五・二九・二四・六・一〇五
 三重縣松阪市大字阪垣鼻
 (電)七六六・二八七・四五二・六〇〇・四五五・二九・二四・六・一〇五

濱名紡績株式會社
 所在地 靜岡縣濱名郡新居町二五〇
 (電)五二二・〇〇〇
 昭和九年十一月十三日創立

日高紡績株式會社
 所在地 和歌山縣日高郡御坊町大字島五
 (電)一四一・八七二
 昭和九年二月一日創立

新井工場

所在地 靜岡縣濱名郡新居町字新居二五〇
 (電)五二二・〇〇〇
 昭和九年十一月十三日創立

株式會社半田綿行

所在地 大阪府西區本町通二ノ八〇
 (電)四五二・四〇九
 明治二十五年四月十五日創立

(縮紡) 半田綿行・日高紡

A 一〇六

株 本 金 三、二〇〇、〇〇〇圓
株 本 金 一、〇〇〇、〇〇〇圓
株 本 金 一、〇〇〇、〇〇〇圓
株 本 金 一、〇〇〇、〇〇〇圓

日高紡績株式會社

所在地 和歌山縣日高郡御坊町大字島五
 (電)一四一・八七二
 昭和九年二月一日創立

株式會社半田綿行

所在地 大阪府西區本町通二ノ八〇
 (電)四五二・四〇九
 明治二十五年四月十五日創立

A 一〇七

柏島工場
 所在地 岡山縣淺口市郡玉島町大字柏島
 (電)五二二・〇〇〇
 昭和九年十一月十三日創立

株 本 金 一、〇〇〇、〇〇〇圓
株 本 金 一、〇〇〇、〇〇〇圓
株 本 金 一、〇〇〇、〇〇〇圓

(縮紡) 半田綿行・日高紡

〔綿紡〕 日出紡

鹽路 永二 一、二五〇
原田 秀太郎 一、〇七五
松村 敏雄 一、〇〇〇
田端 春三 八〇〇
瀧波 芳太郎 六一二
石川 三郎 五〇〇
株式會社今川商店 五〇〇
小池 道子 五〇〇
職員 男二〇人 女五人 計二十五人
計四八四人
電力 八五〇馬力
〔原動機〕 二、四〇〇瓩
〔精紡機〕 二、四〇〇瓩

日出紡織株式會社

〔所在地〕 和歌山縣日高郡御坊町大字箇五
八五ノ一
〔營業所〕 大阪市東區南久太郎町二丁目二
明治四十五年六月十五日
〔資本〕 二、〇〇〇、〇〇〇圓
〔株數〕 八、九二五、〇〇〇株
〔最近配當〕 第一新 一四〇、〇〇〇株
第二新 二一〇、〇〇〇株
〔決算期〕 上半期 自十二月 至五月
下半期 自六月 至十一月
〔月産〕 混紡 五四〇捆

〔役〕

〔十三年上期純綿混紡共四四、二八〇捆〕
一〇一四四番手
マヌファ糸 四、九二四封度
四〇番手 一〇番手
取締役社長 田中榮八郎
専務取締役 加名生良信
常務取締役 石田貞太郎
同 村野良三
同 伊藤健三
同 大川龍三
同 初井奈吉
同 上野助藏
同 野平助藏
同 西村真助
同 永井雅也
同 岩井一也
同 渡邊滿次
同 湯川直太郎
同 山脇謙二
同 田中清三郎
同 井本利三郎
同 和野孝一郎
同 森田次郎
〔大株主〕 西脇出張所主任
大川合名會社
田中榮八郎

A 一〇八

〔本代〕 初井合資會社 七、五四六
〔岩井〕 岩井千代三郎 六、八五六
〔田端〕 田端健三郎 六、〇三〇
〔瀧波〕 瀧波健之介 六、〇〇〇
〔石川〕 石川英一 五、四〇〇
〔今川〕 今川安重 五、三〇〇
〔小池〕 小池生良信 四、八七〇
〔職員〕 上野合名會社 四、四〇〇
〔伊藤〕 伊藤合名會社 四、三〇〇
〔大川〕 大川合名會社 四、二七六
〔初井〕 初井合名會社 三、一五〇
〔上野〕 上野合名會社 三、一五〇
〔野平〕 野平合名會社 三、一五〇
〔西村〕 西村合名會社 三、一五〇
〔永井〕 永井合名會社 三、一五〇
〔岩井〕 岩井合名會社 三、一五〇
〔渡邊〕 渡邊合名會社 三、一五〇
〔湯川〕 湯川合名會社 三、一五〇
〔山脇〕 山脇合名會社 三、一五〇
〔田中〕 田中合名會社 三、一五〇
〔井本〕 井本合名會社 三、一五〇
〔和野〕 和野合名會社 三、一五〇
〔森田〕 森田合名會社 三、一五〇
〔大川〕 大川合名會社 三、一五〇
〔田中〕 田中合名會社 三、一五〇

大津工場

〔所在地〕 滋賀縣大津市博所本町
〔資本〕 一、八五〇、〇〇〇圓
〔株數〕 一、八五〇、〇〇〇株
〔最近配當〕 第一新 一四〇、〇〇〇株
第二新 二一〇、〇〇〇株
〔決算期〕 上半期 自十二月 至五月
下半期 自六月 至十一月
〔月産〕 混紡 五四〇捆

技術係主任 石崎信夫
事務係主任 植田熊一
精紡主任 男六九人、女四九〇人
職工 二八、七四二坪七八
建敷地 七、九二四坪三八三

姫路工場

〔所在地〕 姫路市千代田町
〔資本〕 一、八五二圓
〔株數〕 一、八五二株
〔最近配當〕 第一新 一四〇、〇〇〇株
第二新 二一〇、〇〇〇株
〔決算期〕 上半期 自十二月 至五月
下半期 自六月 至十一月
〔月産〕 混紡 五四〇捆

技術係主任 高橋文雄
事務係主任 戸田克巳
精紡主任 男九九人、女五六五人
職工 六五、七八四坪
建敷地 三〇、九八二坪七六三

高工場

〔所在地〕 和歌山縣日高郡御坊町松原村
〔資本〕 一、〇〇〇圓
〔株數〕 一、〇〇〇株
〔最近配當〕 第一新 一四〇、〇〇〇株
第二新 二一〇、〇〇〇株
〔決算期〕 上半期 自十二月 至五月
下半期 自六月 至十一月
〔月産〕 混紡 五四〇捆

工場長(兼) 技術係主任 原田龜之助

〔綿紡〕 日出紡・日昇紡・平田紡

〔精紡機〕

宮西宗八 一〇七、八四〇瓩
男一九〇人、女一九六三人
三九、七八五坪四八
一六、四九〇坪四五八
〔備考〕 舞鶴第一工場
京都府加佐郡舞鶴町宇喜多
電舞鶴四九七・五五二
第一期計畫日産一六萬建設中
第一期工事完成八十二年十二月ノ豫定
舞鶴第二工場
京都府舞鶴市宇高野田里
エヌエフ
工場長 丹羽盛明
日出紡ノ項参照

平田紡績株式會社

〔本〕 三重縣三重郡富洲原町大字天ヶ
〔資本金〕 三、〇〇〇、〇〇〇圓
〔株數〕 三、〇〇〇、〇〇〇株
〔最近配當〕 第一新 一四〇、〇〇〇株
第二新 二一〇、〇〇〇株
〔決算期〕 上半期 自十二月 至五月
下半期 自六月 至十一月
〔月産〕 混紡 五四〇捆

A 一〇九

工場長 河野快藏

(絹紡) 平田紡・福島紡

名	肩	姓	肩	姓
平田	佐	短	九	四〇四
伊藤	傳	七	四	〇〇〇
伊藤	平	治	四	〇〇〇
長谷川	吉	三	六	〇〇〇
鈴木	兵	衛	八	〇〇〇
伊藤	信	義	三	〇〇〇
平田	佐	平	三	〇〇〇
平田	佐	真	三	〇〇〇
平田	佐	直	三	〇〇〇
平田	佐	治	三	〇〇〇
宗村	千	代	三	〇〇〇

富洲原工場

所在地 三重縣三郡富洲原町大字天ヶ須賀三三二
(電話一七五、二二〇)
製品 スプ糸、コロナイ、霜降糸、燃糸、スエ布、通綿、金帯、瑞光、南天、榮光、立馬、糸、三、〇〇〇

工場主任 早川愛之助
事務主任 早川愛之助
工場主任 早川愛之助
事務主任 早川愛之助
工場主任 早川愛之助
事務主任 早川愛之助

姫路工場

所在地 兵庫縣姫路市北條二一
(電話路一六) (補助) 細糸 20
製品 四綾、孔明、細布、馬美人

工場主任 阿部 一
事務主任 伊東 祐
工場主任 小島 貞
事務主任 久後 善十郎
工場主任 三〇、四〇〇
事務主任 五二二

倉吉工場
所在地 島取縣東伯郡倉吉町大字住吉町
(電話二〇)
製品 大正十四年六月山陰紡績株式會社
大正十四年六月山陰紡績株式會社
大正十四年六月山陰紡績株式會社

福島紡績株式會社

本社 大阪市北區玉江町二丁目三
(電話土佐堀一、一二二、一三三、一四四、一四四八、四七三〇)
明治二十五年八月五日

資本 一、〇〇〇、〇〇〇圓
最近 二、〇〇〇、〇〇〇圓
決算 五月、十一月

動力機 一、三五〇馬力
紡績機 八四、三〇〇
織機 二一、五〇〇
縫紉機 六、〇〇〇
製布機 一、三〇〇
製布機 四、四〇〇
製布機 二、〇〇〇
製布機 二、〇〇〇

〔役員〕

役	氏名	役	氏名
取締役社長	八代祐太郎	取締役	山内武次
取締役	山内武次	取締役	八代祐太郎
取締役	山内武次	取締役	八代祐太郎
取締役	山内武次	取締役	八代祐太郎

笠岡工場

所在地 岡山縣小田郡笠岡町
電話 一〇

工場主任 宇山 手
事務主任 猪原 正
工場主任 猪原 正
事務主任 猪原 正

倉吉工場
所在地 島取縣東伯郡倉吉町大字住吉町
(電話二〇)

倉吉工場
所在地 島取縣東伯郡倉吉町大字住吉町
(電話二〇)

A 一一一

A 一一〇

(綿紡) 福島紡・富士瓦斯紡

Table listing personnel (人事主任, 原動機, 精紡機, 建敷機) and factory locations (所在地) for Fukushima and Fuji Gas spinning plants.

富士瓦斯紡績株式會社

Table detailing company information for Fuji Gas Spinning Co., Ltd., including capital (資本金), assets (最近配當), and factory locations (本廠, 支廠).

A 一一二

Table listing board members (役員) and staff (職員) for Fuji Gas Spinning Co., Ltd., including names and titles.

Table listing personnel (人事主任, 原動機, 精紡機, 建敷機) and factory locations (所在地) for various spinning plants.

中津工場

Table detailing information for Nakatsu Plant, including location (所在地), production (製品及商標), and personnel (工場長, 主任).

保土ヶ谷工場

Table detailing information for Hoshikawa Plant, including location (所在地), production (製品及商標), and personnel (工場長, 主任).

A 一一三

(綿紡) 富士瓦斯紡

Table with columns for location (所在地), building (建物), and personnel (職員). Includes '庄工場' (Shimizu Factory) and '崎工場' (Sakai Factory) with employee counts and machinery details.

(電川崎二〇二〇・二八〇一)

Table with columns for location (所在地), building (建物), and personnel (職員). Includes '阜工場' (Hirakawa Factory) and '名古屋工場' (Nagaya Factory) with employee counts and machinery details.

A 一一四

Table with columns for location (所在地), building (建物), and personnel (職員). Includes '塚工場' (Tsuka Factory) and '生工場' (Ikuta Factory) with employee counts and machinery details.

(綿紡) 富士瓦斯紡

Table with columns for location (所在地), building (建物), and personnel (職員). Includes '阪工場' (Osaka Factory) with employee counts and machinery details.

Table with columns for location (所在地), building (建物), and personnel (職員). Includes '山工場' (Yama Factory) with employee counts and machinery details.

A 一一五

Table with columns for location (所在地), building (建物), and personnel (職員). Includes '桐工場' (Kiri Factory) and '生工場' (Ikuta Factory) with employee counts and machinery details.

〔綿紡〕 富士瓦斯紡・松太綿布

Table with columns for location (所在地), factory name (工場), and employee count (職員). Includes entries for 大分工場 and 安東工場.

明治紡績合資會社

Table with columns for location (所在地), factory name (工場), and employee count (職員). Includes entries for 大分工場 and 安東工場.

青島工場

Table with columns for location (所在地), factory name (工場), and employee count (職員). Includes entries for 青島工場 and 松太綿布株式會社.

松太綿布株式會社

Table with columns for location (所在地), factory name (工場), and employee count (職員). Includes entries for 松太綿布株式會社 and 青島工場.

相談役

Table with columns for location (所在地), factory name (工場), and employee count (職員). Includes entries for 相談役 and other roles.

橋工場

Table with columns for location (所在地), factory name (工場), and employee count (職員). Includes entries for 橋工場 and other roles.

(編紡) 明正紡

明正紡織株式會社

本社 大阪市東淀川區三津屋新町 (電北五二四二至五一四四)
本店工場 大阪市東淀川區三津屋新町
三島工場 愛媛縣宇摩郡三島町
川之江工場 香川縣三豐郡豐濱町
豐濱工場 香川縣三豐郡豐濱町

一一八

計課課長 大野一彦
製課課長 森崎義文
技術課長 尾崎松次
本店工場長 加藤政吉
同工場長 內島政吉
同工場長 三宅龜之助
同工場長 市川憲三
古川房吉
石川俊夫
鈴木保雄

大株主
大同生命保險 一、四〇〇、〇〇〇圓
共榮土地會社 七、一六〇、〇〇〇圓
津田勝五郎 六、〇〇〇、〇〇〇圓
小泉實逸 四、八八五、〇〇〇圓
吳錦榮合資會社 三、八八九、〇〇〇圓
山本發次郎 三、三四五、〇〇〇圓
久野野郎 二、三三六、〇〇〇圓
宮崎彌五 二、〇〇〇、〇〇〇圓

本店工場

所在地 大阪市東淀川區三津屋新町 (電北三四七二)
明治四十五年五月十日
創製及商標 綿糸 (三五) 綿布 (花人形)
月産 綿糸 一、三〇〇、〇〇〇碼
綿布 一、〇〇〇、〇〇〇碼

(編紡) 森林紡

川之江工場

所在地 愛媛縣宇摩郡川之江町 (電三三〇)
製品及商標 綿糸、織布用原糸二〇番手ナ (三五)
月産 綿糸 (花人形) 五、五〇〇、〇〇〇碼
綿布 一、〇〇〇、〇〇〇碼
三宅勉之助 三宅勉之助
男一九人 女三人 計二二人
男六二人 女四四〇人
計五〇二人

森紡績株式會社

本社 愛媛縣知多郡大府町 (電大府十一)
大正八年十一月創立
製品及商標 純綿糸 (寶山) スワ糸 (春光) 混紡糸 (若竹)
月産 純綿糸 四、〇〇〇、〇〇〇圓
混紡糸 四三〇、〇〇〇圓

森林紡績株式會社

本社 愛媛縣中島郡稻澤町大字稻澤字長永一 (電稻澤八)
昭和三十四年三月十八日設立
月産 綿糸 (鷗鈴) 七、五九〇圓

一一九

（綿紡）吉見紡

森林右衛門 森清次郎 森四郎 森吉次郎 森藤太郎 近藤三郎 淺野馬三郎 川島伸太郎 片岡泰造 中賀高太郎 須賀高太郎 龜井高太郎 塚田三郎 山田三郎 人事部長 原務部長 工場長 監査役 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

吉見紡織株式會社

【本 社】大阪府泉南郡田尻村大字吉見一三一 (電話四一四信連四〇) 營業所 大阪市東區北久太郎町二丁目 黒川ビル二階 (電話二二〇・三九〇四) 樽井支店 大阪府泉南郡樽井村一七五四 (電話樽井二二・信連六二)

兩毛整織株式會社

【本 社】(本社及工場) 桐生市三吉町一九三 (電話生三七五五・三七五六・三七五七) 營業所 東京市日本橋區室町四丁目 近三ビル (電話日本橋三五五一・三六八七) 明治四十年創立 資本 五五〇〇〇圓 (全額拂込済) 株數 普通株 四、〇〇〇株 優先株 七、〇〇〇株 決算期 自十二月 至五月 上半年 自六月 至十一月 製品及商標 綿糸 瓦斯綿布、交織布、(栗鼠) 紡糸 一五〇呎 織布 二五〇、〇〇〇碼

(綿紡) 兩毛整織・若林製絲

A 一一〇

大正三年十一月資本五十萬圓 正三年三月株式會社創立 正七年四月株式會社増資 正七年七月株式會社増資 正七年十月株式會社増資 正七年十二月株式會社増資 正八年三月株式會社増資 正八年六月株式會社増資 正八年九月株式會社増資 正八年十二月株式會社増資 正九年三月株式會社増資 正九年六月株式會社増資 正九年九月株式會社増資 正九年十二月株式會社増資 正十年三月株式會社増資 正十年六月株式會社増資 正十年九月株式會社増資 正十年十二月株式會社増資 正十一年三月株式會社増資 正十一年六月株式會社増資 正十一年九月株式會社増資 正十一年十二月株式會社増資 正十二年三月株式會社増資 正十二年六月株式會社増資 正十二年九月株式會社増資 正十二年十二月株式會社増資 正十三年三月株式會社増資 正十三年六月株式會社増資 正十三年九月株式會社増資 正十三年十二月株式會社増資 正十四年三月株式會社増資 正十四年六月株式會社増資 正十四年九月株式會社増資 正十四年十二月株式會社増資 正十五年三月株式會社増資 正十五年六月株式會社増資 正十五年九月株式會社増資 正十五年十二月株式會社増資 正十六年三月株式會社増資 正十六年六月株式會社増資 正十六年九月株式會社増資 正十六年十二月株式會社増資 正十七年三月株式會社増資 正十七年六月株式會社増資 正十七年九月株式會社増資 正十七年十二月株式會社増資 正十八年三月株式會社増資 正十八年六月株式會社増資 正十八年九月株式會社増資 正十八年十二月株式會社増資 正十九年三月株式會社増資 正十九年六月株式會社増資 正十九年九月株式會社増資 正十九年十二月株式會社増資 正二十年三月株式會社増資 正二十年六月株式會社増資 正二十年九月株式會社増資 正二十年十二月株式會社増資 正二十一年三月株式會社増資 正二十一年六月株式會社増資 正二十一年九月株式會社増資 正二十一年十二月株式會社増資 正二十二年三月株式會社増資 正二十二年六月株式會社増資 正二十二年九月株式會社増資 正二十二年十二月株式會社増資 正二十三年三月株式會社増資 正二十三年六月株式會社増資 正二十三年九月株式會社増資 正二十三年十二月株式會社増資 正二十四年三月株式會社増資 正二十四年六月株式會社増資 正二十四年九月株式會社増資 正二十四年十二月株式會社増資 正二十五年三月株式會社増資 正二十五年六月株式會社増資 正二十五年九月株式會社増資 正二十五年十二月株式會社増資 正二十六年三月株式會社増資 正二十六年六月株式會社増資 正二十六年九月株式會社増資 正二十六年十二月株式會社増資 正二十七年三月株式會社増資 正二十七年六月株式會社増資 正二十七年九月株式會社増資 正二十七年十二月株式會社増資 正二十八年三月株式會社増資 正二十八年六月株式會社増資 正二十八年九月株式會社増資 正二十八年十二月株式會社増資 正二十九年三月株式會社増資 正二十九年六月株式會社増資 正二十九年九月株式會社増資 正二十九年十二月株式會社増資 正三十年三月株式會社増資 正三十年六月株式會社増資 正三十年九月株式會社増資 正三十年十二月株式會社増資

本社工場

大阪府泉南郡田尻村大字吉見一三一 (電話四一四・信連四〇) 大正二年十二月資本五十萬圓 二〇年三月株式會社設立 同七年四月吉見紡織株式會社改稱 〇綿糸 九二四碼 〇スワ糸 七九、八〇〇封度 林三郎 松井利七 横田武雄 男二八人、女八人、計三十六人 男九人、女五、六二人 計六六人 十七時間(二交代制) 電動機 一九三臺 二、五三〇馬力

工場

群馬縣桐生市三吉町 (電話生三七五五・三七五六・三七五七) 四村喜一郎 富樫千春 男二〇人、女七〇〇人 十時間 汽機 丸鐵工所 三基 發動機 米國 二基 發動機 英國 一基 電動機 芝浦製作所 誘導交流式 五五臺 七〇〇馬力 内外國製 内外國製 一八臺 六、五五二 相繼糸機 二七臺 四、九六〇 内外國製 〇吋、〇吋四〇五臺 一七、五九七坪 七、一八九坪

若林製絲紡績株式會社

【本 社】滋賀縣大上郡河瀬村大字大方甲 七九〇 (電話根一〇一・高宮二二三三) 出張所 大阪府東區安土町二丁目吳羽紡績株式會社内 主任 若林展二郎

A 一一一

〔綿紡〕 若林製絲・和歌山紡

〔沿革〕 明治二十四年七月創立、大正九年四月組織變更株式會社トナルヲ設立ス

〔資本〕 二、五〇〇、〇〇〇圓(拂込済)

〔最近配當〕 年六分

〔製品及商標〕 生絲(太陽・蜻蛉、千生、蠶)

〔役員〕 社長 若林乙吉

〔職員〕 取締役 伊藤長兵衛

〔工場〕 大阪工場 若林三郎

〔支店〕 同 若林三郎

〔代表社員〕 伊藤長兵衛

〔出資者〕 若林三郎

〔株主〕 若林三郎

A 一三二

和歌山紡織株式會社

〔本社〕 和歌山市傳法橋南町一

〔大阪出張所〕 大阪市西區江戶堀上通一丁目二

〔最近配當〕 上半期 自十一月至五月

〔役員〕 社長 高橋彩兵衛

〔職員〕 支店長 桑本多村

〔支店〕 同 桑本多村

〔代表社員〕 支店長 桑本多村

〔出資者〕 桑本多村

〔株主〕 桑本多村

鷺津紡織株式會社

〔本社〕 靜岡縣濱名郡鷺津町

〔最近配當〕 大正八年十二月

〔役員〕 社長 小島儀一

〔職員〕 支店長 小島儀一

〔支店〕 同 小島儀一

〔代表社員〕 支店長 小島儀一

〔出資者〕 小島儀一

〔株主〕 小島儀一

帝國製絲株式會社

〔本社〕 大阪府中河內郡龍華町安中(管

業所) 大阪府東區平野町ガスビル

〔東京營業所〕 東京市日本橋區大傳馬町

A 一三三

〔大株主〕 吉田熊次郎

〔職員〕 主任 吉田熊次郎

〔支店〕 同 吉田熊次郎

〔代表社員〕 主任 吉田熊次郎

〔出資者〕 吉田熊次郎

〔株主〕 吉田熊次郎

〔工場〕 和歌山五筋目一〇

〔製品及商標〕 自動織機豐田式 五〇四臺

〔職員〕 主任 和歌山五筋目一〇

〔支店〕 同 和歌山五筋目一〇

〔代表社員〕 主任 和歌山五筋目一〇

〔出資者〕 和歌山五筋目一〇

〔株主〕 和歌山五筋目一〇

〔工場〕 和歌山五筋目一〇

〔製品及商標〕 自動織機豐田式 五〇四臺

〔職員〕 主任 和歌山五筋目一〇

〔支店〕 同 和歌山五筋目一〇

〔代表社員〕 主任 和歌山五筋目一〇

〔出資者〕 和歌山五筋目一〇

〔綿紡〕 和歌山紡・鷺津紡・帝國製絲

(綿紡) 杉野紡・泊紡・大正製綿・西川合資・合同莫大小

【資本金】 二、〇〇〇、〇〇〇圓
 【役員】 社長 村井貞之助
 専務取締役 堀永定省
 【原動機】 二、〇〇〇馬力
 【精紡機】 一四、七〇〇錠
 【機織機】 二九、三〇〇錠
 【職工】 男一五〇人 女五五〇人
 計 七〇〇人
 【備考】 富社ハ「織物篇」ニモ収録シアルモ
 東京營業所、原動機、精紡機、機織機、職工ノ各項目ニ就キテハ本欄校了間際ニ富社ヨリ到着セシ回答ニ據レリ。從ツテ「織物篇」収録分ハ然ルベク御是正ノ上参照乞フ。

株式會社杉野紡績所

【本社】 名古屋西區光高寺町六九四
 (電東二三五一)
 【沿革】 昭和九年七月創立
 【資本金】 三五〇、〇〇〇圓(拂込一七五、〇〇〇圓)
 【株數】 七、〇〇〇株
 【決算期】 上半期五月、下半期十一月
 【配當】 ナシ
 【製品及商標】
 ▽綿糸 四一十手(編扇)
 ▽スワ糸 四一十手(扇扇)
 ▽綿糸 一六七種
 (十三年上期、一、〇〇二種)

ワスフ 三三三三俵
 (十三年上期、一、九九二俵)

【役員】 代表取締役 杉野一三
 取締役 伊藤三九郎
 同 杉野廣三郎
 同 平林儀三郎
 同 藤井常次郎
 同 杉野正兵衛
 同 伊藤鐵次
 同 中野清三
 同 杉野太三郎
 同 宮野五郎
 同 杉野五郎
 同 野孝三
 同 野一三
 同 杉野儀三郎
 同 杉野廣太郎
 同 藤井常次郎
 同 伊藤三九郎
 同 女六人
 計 九〇人

泊紡績株式會社

【本社】 富山縣下新川郡泊町平柳

合同莫大小株式會社

【本社】 和歌山市南土佐町
 【沿革】 大正八年十一月創立
 【資本金】 三〇〇、〇〇〇圓(拂込二五五、〇〇〇圓)
 【社長】 牲川角之助

西川合資會社

【本社】 東京市龍野川區田端町二二一五
 【沿革】 昭和四年二月創立
 【製品】 綿糸製造

大正製綿株式會社

【本社】 滋賀縣犬上郡高宮町
 【沿革】 大正二年三月創立
 【資本金】 三〇〇、〇〇〇圓(拂込二〇〇、〇〇〇圓)
 【社長】 神野新平
 【工場】 二(富山縣野州工場、北海道小樽工場)

在滿支綿紡會社一覽表 (五十音順)

會社名	資本金(圓)	本社又は工場所在地(電話)	代表者
【滿洲】 營口紡績株式會社	八、〇〇〇、〇〇〇	營口市青堆子姓々大街(電四三二)	李 子
內外紡績株式會社	三三、〇〇〇、〇〇〇	關東州金州會新金州(電七七七七)	佐々木 國藏
富士瓦斯紡績株式會社	五〇、〇〇〇、〇〇〇	安東縣南七條通一丁目	日比谷 平左衛門
奉天紡績株式會社	四、五〇〇、〇〇〇	奉天市商埠地二七號路	陳 武
滿洲紡績株式會社	三、〇〇〇、〇〇〇	關東州大連管内周水子會周家屯(電大連西九二八五)	八 村 美 久
滿洲紡績株式會社	三、〇〇〇、〇〇〇	遼陽末廣町(電遼陽二五二)	鹿 村 美 久
【北支・中支・南支】 國光紡績株式會社	二〇、〇〇〇、〇〇〇		原 茂 久 雄
大日本紡績株式會社(大康紗廠)	一一、〇〇〇、〇〇〇	山東省青島市外四方(電三三五二)	小 寺 源 吾
上海製造絹糸株式會社(公大公司)	一一、〇〇〇、〇〇〇	上海楊樹浦越路二(電五二二〇六)	王 一 亭
上海紡績株式會社(上海紗廠)	一一、〇〇〇、〇〇〇	上海平涼路二七六七號	黑 田 慶 太 郎
泰安紡績株式會社(泰安紗廠)	五、〇〇〇、〇〇〇	漢口第三特別區太平路四號	南 壽 三 郎
天津紡績株式會社	二、四〇〇、〇〇〇	上海漢口路九三號(電五一〇七九)	持 田 三 郎
東華紡績株式會社	一〇、〇〇〇、〇〇〇	上海漢口路九三號(電五一〇七九)	石 田 三 郎
豐田紡績株式會社	一〇、〇〇〇、〇〇〇	上海揚樹浦路二〇〇號	飯 田 利 三 郎
同興紡績株式會社	一五、〇〇〇、〇〇〇	上海揚樹浦路二〇〇八六號(電五〇〇二〇)	佐々木 國藏
內外紡績株式會社	三三、〇〇〇、〇〇〇	青島市外四方庄	田 邊 輝 雄
日華紡績株式會社	一一、〇〇〇、〇〇〇	青島市外四方庄	宮 島 清 次 郎
日清紡績株式會社(隆興紗廠)	二七、〇〇〇、〇〇〇	青島市外四方庄	日 比 谷 平 左 衛 門
富士瓦斯紡績株式會社	五〇、〇〇〇、〇〇〇	同 滄口(電三三)	阿 部 房 次 郎
裕豐紡績株式會社	五、〇〇〇、〇〇〇	上海楊樹浦路二八六六號	

(綿紡) 在滿支綿紡會社一覽表

(綿紡) 在滿支紡織會社口紡・內外綿金州支店・富士瓦斯紡安東工場

在滿支綿紡會社工場要覽 (五十音順)

(註) 月産ハ大略昭和十三年七月度基準。生産設備ハ十三年上半期末ニ最近ノ消息ヲ考慮セリ。委託經營ハ十三年六月調。

在滿紡

營口紡織株式會社

〔本 社〕 營口市青堆子街々大街
(電長四三二一四)

〔資 本 金〕 昭和八年三月創立
八、〇〇〇、〇〇〇圓(全額拂込)

〔最近配當〕 普通一割 特配五分
〔決算期〕 上半年六月、下半年十二月

〔製品及商標〕 綿糸布(進玉、雙生、玉麟)

〔役 員〕 社長 李 子 初
常務取締役 野口 三郎
取締役 野口 三郎

〔工場〕 二(營口、奉天)
精紡機五、五七二八機、捻糸機
三、二二〇機、織機八〇〇
染色機三〇臺

〔所在地〕 關東州金州會新金州

內外綿株式會社

金州支店

〔電七六七七〕

〔製 品 及 商 標〕 第一工場 大正十三年五月竣工
第二工場 昭和二年七月竣工
第三工場 同十年十月竣工

〔機 械〕 第一工場 同十年十月竣工
第二工場 同十年十月竣工
第三工場 同十年十月竣工

〔部 門〕 支店 課長 眞子重路
工場 課長 松本重造
第一工場主任 藤田重吉
第二工場主任 柳田重平
第三工場主任 榎本安治郎
織布部主任 青井虎太郎
賣買部主任 今井重夫
工務部主任 武川榮一
原動機主任 皆川龍平
人事主任 筆松龍平
要品係主任 男二、〇九二人 女一、七四二人

富士瓦斯紡績株式會社

安東工場

〔操 業〕 計三、八三四人
二五時間(二交代制)

〔原 動 機〕 一八一臺 四、一六〇馬力

〔精 紡 機〕 第一工場 二九、六〇〇機
第二工場 三三、六〇〇機
第三工場 二九、一八四機

〔織 機〕 遠州自動織機 一、一五二臺
(三巾、三六吋及、二巾、三三吋第三工場ノミ)

〔敷 設 地 點〕 一八〇、〇〇〇坪

〔建 物 地 點〕 二一、七〇〇坪

〔所在地〕 滿洲國安東縣南七條通一丁目
大正七年八月安東洋行、滿洲絹
毛紡績所トシテ創立、大正九年
十二月津浦絹糸紡績株式會社ト
合併、日華絹糸紡績株式會社ト
改稱大正十年十二月當社ト合併
併合

〔工場主任〕 三浦重雄

奉天紡織廠

〔本 社〕 奉天市商埠地二七緯路
官商合辦

〔資 本 金〕 四、五〇〇、〇〇〇圓

〔株 本 金〕 四、一七五、〇〇〇圓

〔株 數〕 四、一七五、〇〇〇株(中政府持株二、
三八八、〇〇〇株、最近編入持株二、
三八八、〇〇〇株)

〔製 品 及 商 標〕 紡糸及ヒ附帶事業
細布 二五〇機

〔機 械〕 計一、八〇〇人 女二〇〇人

〔役 員〕 專務取締役 陳 榘 材
常務取締役 杜 潮 盛
同 員 松 尾 邦 治
同 員 男八人(日本人) 九〇人(滿洲
國人) 計九八人

〔職 工〕 男一、六〇〇人 女二〇〇人

〔精 紡 機〕 計一、八〇〇機

〔織 機〕 二五〇臺

滿洲福紡株式會社

〔本 社〕 關東州大連管内周水子會周家屯
(電大連西九二八五・本局七五〇
二)

〔出 張 所〕 大連市北區玉江町二丁目 福島
紡績株式會社內(電土佐編一一)

〔綿紡〕 在滿支紡織會社・奉天紡・滿洲綿紡・滿洲紡

〔職 工〕 計八八人 女一五一人
計四七四人

〔資 本 金〕 大正十二年四月一日創立、大正
十四年六月運轉開始、昭和二年
五月豊夜運轉

〔株 本 金〕 三、〇〇〇、〇〇〇圓

〔株 數〕 一、五〇〇、〇〇〇株

〔製 品 及 商 標〕 上半年五月 下半年十一月
總糸 100支 31/32 及 40支
總糸 100支 (三子、福助、扇
面、双喜)

〔機 械〕 紡糸 二、〇〇〇機

〔部 門〕 專務取締役 八代武次
常務取締役 彦坂萬次郎
工場主任 北野祐信
監査役 八代祐太郎

〔製 品 及 商 標〕 精紡機 二九、五二〇機
織機 一、〇二〇機

〔所在地〕 關東州大連管内周水子會周家屯
(電四九二八五・四〇三三三)
大正十二年四月創立

〔機 械〕 紡糸 二、〇〇〇機

〔職 工〕 男一二人 女四六〇人
計八八〇人

滿洲紡績株式會社

〔本 社〕 滿洲國遼陽末廣町一
(電二五二・三四三・四三三)

〔出 張 所〕 東京出張所 東京市日本橋區大傳馬町二ノ一
傳馬ビル 富士瓦斯紡績會社內
大正十二年三月十五日資本金五
百萬圓ヲ以テ設立、同十三年五
月滿洲國ヲ開始シ、昭和六年二
月半額減資、同十年十月倍額増資
シ現在ニ至ル

〔製 品 及 商 標〕 第一工場 一、一三一人
第二工場 一、〇〇〇機
第三工場 一、〇〇〇機

〔機 械〕 第一工場 一、〇〇〇機
第二工場 一、〇〇〇機
第三工場 一、〇〇〇機

〔部 門〕 取務取締役 鹿村美久
常務取締役 辛島寛太
同 員 永田久次郎
同 員 阿河孝平

〔職 工〕 計一、一三一人

A 一二七

A 一二六

（紡紡）在滿支紡篇 國光紡・大日本紡

Table with columns for company names (e.g., 國光紡, 大日本紡), locations, and employee counts. Includes sub-sections for '遼陽工場' and '青島工場'.

在支紡

Table listing branch factories (支紡) with columns for location (所在地), products (製品), and employee counts.

大日本紡績株式會社 (大康紗廠)

Table for 大日本紡績株式會社 (大康紗廠) listing factory locations and details.

上海製造絹絲株式會社

Table for 上海製造絹絲株式會社 (Shanghai Silk Manufacturing Co., Ltd.) listing factory details, locations, and products.

國光紡績株式會社

Table for 國光紡績株式會社 (Kokkō Textile Co., Ltd.) listing factory details, locations, and products.

公大第一廠

Table for 公大第一廠 (Kōdai No. 1 Plant) listing factory details, locations, and products.

公大第二廠

Table for 公大第二廠 (Kōdai No. 2 Plant) listing factory details, locations, and products.

(紡紡) 在滿支紡篇 上海製造絹絲

A 一二九

A 一二八

(綿紡) 在滿支紡織上海製造絹糸

上海取引係主任 青木茂
職用度係主任 男七三人(中日人共)
男四六九人(女一、六三四人)

公大第三廠

所在地 中國上海法租界非爾路一三八號
上海有恒路郵政支局信箱第三〇九三號

精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地
精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地
精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地

A 1130

原動部主任 豐田剛
人事係主任 今野利雄
倉庫係主任 矢野忠吉

公大第七廠

所在地 中國天津河北小千莊
鄭便信函天津旭街局第一二七號

精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地
精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地

上海紡織株式會社(上海紗廠)

本部事務所 上海四川路一八五號
出張所 上海市東區高麗橋三丁目東洋棉花

原動部主任 竹村信作
人事係主任 原田景憲
庶務係主任 寺野秀利

資本 中華民國幣銀三〇〇〇〇〇〇圓
最近配當 新株一〇〇〇〇〇株
決算期 上半年自五月至十月

精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地
精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地

(綿紡) 在滿支紡織上海紡織

精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地
精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地

精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地
精紡 粗紡 織造 廠製 商製 所製 所在地

(綿紡) 在滿支紡篇II泰安紡

毛糸 梳毛 一、九六〇鍾
 紡毛 一、六八〇 三、六四〇鍾
 梳糸 一、八〇〇 二、八〇〇鍾
 梳糸 一、七三〇 二、三三〇鍾
 二、八、四五二鍾
 三、八、八二五鍾 綿三、一八一臺
 九、五、二七五坪
 四、一、〇三七坪

【建敷】
 上海第一織布工場
 上海楊樹浦路第一一六一號
 六九六臺

【織精】
 上海第二紡織工場
 上海楊樹浦路第一九七〇號
 三二、〇〇八臺
 五八四臺

【織精】
 上海第三紡織工場
 上海楊樹浦路第一九七〇號
 八七、〇一六臺
 二四、一一〇臺
 一、〇五二臺

【織精】
 上海第四紡織工場
 上海閘路第一五號
 四、四九二鍾
 (內ミニール三、三六〇鍾)

【織精】
 上海第五紡織工場
 上海閘路第一九號
 四二、二〇八臺
 八四九臺

青島工場

青島市外沙嶺庄四道路八及九號
 設立開業
 一九三五年(昭和十年)六月五日

【所】
 青島市外沙嶺庄四道路八及九號

【製】
 綿糸 (龍門)

【工】
 電力一、八〇〇キロ
 四三、九八四鍾
 三、九六〇鍾
 八〇〇臺
 四六、八八八坪
 一五、六二七坪

【建敷】
 物地 一五、六二七坪

【本】
 泰安紡績株式會社 (泰安紗廠)
 中華民國漢口第三特別區太平路
 四號
 (電一四六六、二三五五)

【工場所在地】
 漢口硤口宗廟上首

【大阪出張所】
 大阪市北區中之島二丁目
 日本棉花會社內

【資】
 大正十三年九月二日創立
 五、〇〇〇、〇〇〇圓
 一、〇〇〇、〇〇〇圓
 二、〇〇〇、〇〇〇圓
 綿糸、粗布
 綿糸(善製)、細布(善製三寶)
 織布 四五〇〇捆

【月】
 取締役社長 南郷三郎

A 一三三

專務取締役 近藤宗治
 取締役 加藤末雄
 監査役 吳下武平
 長兼工場長 木多義夫
 事務部長 飯平禮守
 事務課長 大坪市郎
 事務課長 岩崎義夫
 工場副長 奥川徹也
 工場主任 田尻繁

日本棉花株式會社 九七、六〇〇
 近藤宗治 三〇〇〇
 大岡武夫 三〇〇〇
 木下武夫 三〇〇〇
 加藤末雄 三〇〇〇
 中村和郎 三〇〇〇
 門多義道 三〇〇〇
 吳下武平 三〇〇〇
 佛夜各十一時間(一週間交代)
 汽機 佛アルザンヤン 三臺
 發電機 佛アルザンヤン 三臺
 佛アルザンヤン (五四臺)
 二四、八一六キロ (五四臺)
 遠州織機 三〇〇〇臺
 一、九〇〇〇坪
 八、〇〇〇坪

株式會社天津紡績公司

【本】
 河北省天津河東老鹽坨地
 河北省天津法租界三號路五號

【所】
 天津老鹽坨地
 天津法租界三號路五號

【製】
 民國十一年實成紡績紗廠トシテ
 創立、誠信託公司管理タリシテ
 昭和十年休業ノ處、昭和十一年
 七月伊藤忠商事ト東洋トノ共
 同買收スル處トナリ工場ハハイ
 ドラフト化シ役員モ一新セリ

【品】
 綿糸 三鹿、大喜、三喜、紅福、如意

【役】
 取締役社長 持田 巖
 取締役社長 伊藤忠兵衛
 常務取締役 植松眞經
 常務取締役 新家 亮
 取締役 大志摩 孫四郎
 同 中谷庄兵衛

【工】
 二、六七、三四八鍾
 四、九二〇鍾

【精】
 天津工場
 天津河東老鹽坨地

【原】
 二七、〇二八鍾
 二、五二〇鍾

【機】
 (綿紡) 在滿支紡篇II天津紡・東華紡・豊田紡

委託經營裕大紡績 有限股份公司

【本】
 天津老鹽坨地
 天津法租界三號路五號

【所】
 天津老鹽坨地
 天津法租界三號路五號

【製】
 民國十一年實成紡績紗廠トシテ
 創立、誠信託公司管理タリシテ
 昭和十年休業ノ處、昭和十一年
 七月伊藤忠商事ト東洋トノ共
 同買收スル處トナリ工場ハハイ
 ドラフト化シ役員モ一新セリ

【品】
 綿糸 三鹿、大喜、三喜、紅福、如意

【役】
 取締役社長 持田 巖
 取締役社長 伊藤忠兵衛
 常務取締役 植松眞經
 常務取締役 新家 亮
 取締役 大志摩 孫四郎
 同 中谷庄兵衛

【工】
 二、六七、三四八鍾
 四、九二〇鍾

【精】
 天津工場
 天津河東老鹽坨地

【原】
 二七、〇二八鍾
 二、五二〇鍾

【機】
 (綿紡) 在滿支紡篇II天津紡・東華紡・豊田紡

東華紡績株式會社 (東華紗廠)

【本】
 上海漢口路九三號
 (電五一〇七九)

【所】
 大阪出張所
 大阪市北區堂島北町
 大正九年四月十日資本金二、〇
 〇〇萬圓ニテ創立
 昭和十年七月
 〇〇萬圓ニテ増資
 昭和十一年四月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和十二年六月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和十三年四月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和十四年六月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和十五年四月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和十六年六月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和十七年四月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和十八年六月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和十九年四月
 〇〇萬圓ニテ減資
 昭和二十年六月
 〇〇萬圓ニテ減資

【資】
 二、四〇〇、〇〇〇圓 (全額拂込)

【株】
 四八〇〇〇株

【役】
 常務取締役 石田秀二
 同 河崎助太郎
 同 小谷一郎

株式會社豊田紡績廠

【本】
 上海極司非而路二〇〇號
 上海漢口路一〇〇號
 名古屋市西區米田町(電西二五
 〇〇)

【所】
 大正十年十月二十九日創立

【資】
 銀一〇、〇〇〇、〇〇〇兩

A 一三三

(編紡) 在滿支紡織日華紡

第二工場

所在地 青島市外四方庄

第三工場

所在地 青島市外四方庄

日華紡織株式會社 (日華紗廠)

【本社】 上海勞勃生路九八
大阪市東區備後町綿業會館
(電本町一五五〇)

【沿革】

大正七月創立(資本金一千萬圓)同年臺灣紡織株式會社ヲ合併ス(資本金一千萬圓)昭和二年一月實生紡織公司ヲ買收シ喜和紗廠ト改稱ス同年八月華豐紡織公司ヲ買收麥豐工場ト改稱ス

【資本金】 一、〇〇〇、〇〇〇圓

【株數】 八、八〇〇、〇〇〇株

【決算期】 自十二月至五月

【製品及商標】 綿糸、各種香手及襪糸、綿布、布、細布、細紗其他(龍鳳、綿布、龍鳳、吉祥)

【役員】

取締役社長 田邊輝雄
常務取締役 友永藤三郎
同 森本將虎
同 河崎助太郎
同 伊藤竹之助

A 一三八

計一五一人 男一、九〇人 女六、〇三二人

計七、二二一人

計一、一五〇人

計一、一五〇人

浦東工場 (第一、二工場總稱)

【所在地】 上海浦東陸家嘴
(電浦東一〇四、一〇五)

【工場】

第一工場 一、九二一年設立
第三工場 一、九二二年設立
第四工場 一、九二二年設立
綿糸 一六手 二〇手
八尋 英夫 伸
吉田 三七人
男 二八五人 女 一、四四五人
計 一、一五〇人
十一時間半(二交代制)
二、三〇〇馬力
六四、七五二瓩

曹家渡工場 (第三、四工場總稱)

【所在地】 上海勞勃生路九八
(電二〇五六七)

【工場】 第三工場 一、九二一年設立
第四工場 一、九二二年設立
綿糸 一六手 二〇手
八尋 英夫 伸
吉田 三七人
男 二八五人 女 一、四四五人
計 一、一五〇人
十一時間半(二交代制)
二、三〇〇馬力
六四、七五二瓩

總糸機 二、八〇〇瓩

喜和工場 (第五、六、七工場總稱)

【所在地】 上海勞勃生路七六、八〇號
(電三二二六六)

工場長 興樹久治
紡織主任 鈴木忠治
紡織主任 川島貞一
原動機主任 電力 四、五〇〇馬力
一、一八、四六四瓩
五、六二八〇瓩

華豐工場 (委託經營)

【所在地】 吳淞漢濱 (電吳淞五七)
工場長 久保隆義
事務主任 大谷喜一
原動機主任 汽機 一、一五〇馬力
三一、四二四瓩
精紡機 一四、九二〇瓩

日清紡績株式會社

青島工場 (隆興紗廠)

【所在地】 中國青島市外四方庄
(電四方四一、四二、四三)

【沿革】 大正十二年四月十四日操業開始
【製品及商標】 綿糸(赤寶船、寶船、寶船)
【月産】 紡糸 二、二五〇噸
織布 一、二〇〇、〇〇〇碼

(編紡) 在滿支紡織日清紡・富士紡青島工場・裕豐紡

營業所長 內田節二

工場長 寺岡貞治

紡織主任 福田清治

【職員】 男一八八人 女七九六人
社宅 六〇〇人
電動機 芝浦 三相誘導
一、四〇四馬力
【精紡機】 ヘザリントン及アサリス
四二、六六〇瓩 (一〇五臺)
【織機】 豐田 五三九臺
六〇、〇〇〇坪
【建物】 七、八七〇坪

富士瓦斯紡績株式會社

青島工場

【所在地】 中華民國青島市外濱口
(電三三、五七、六二、六三、四二、一、五一、四〇)

【沿革】 大正十年十月創立
【製品及商標】 綿糸(五彩星)
【月産】 紡糸 一、四〇〇噸
織布 一、四〇〇、〇〇〇碼

【職員】 計一八八人 女六六七人
計一、五八四人

【採業】 二十二時間(二交代制)

【精紡機】 三、三六〇瓩(八〇臺)

【織機】 四八〇臺

【建物】 一、二五〇、〇〇〇坪

裕豐紡績株式會社 (裕豐紗廠)

【本社】 上海楊樹浦路二八六六號
出張所 八四、四四、四四、漢道二丁目
東洋紡績株式會社內
昭和四年五月二十七日、東洋紡績上海工場ヲ分離シテ新々ニ資本金五百萬圓全額拂込濟現會社ヲ創立
綿糸、綿布其他各種糸布ノ製造加工及販賣
【資本金】 五、〇〇〇、〇〇〇圓(全額拂込)

【最近配當】 一〇〇、〇〇〇株
【決算期】 年八分 四月 十月

取締役社長 阿部房次
取締役 庄司乙吉
取締役 華田健次
取締役 種田次三
同 關田健三
同 松坂啓七
同 伊藤傳七
監査役 伊藤傳七
主 東洋紡績株式會社 一九八、八〇〇

A 一三九

カミツ

神津製作所

高速度コーンワキエンター

人絹・本絹用
高級ワキエンター



カミツA型

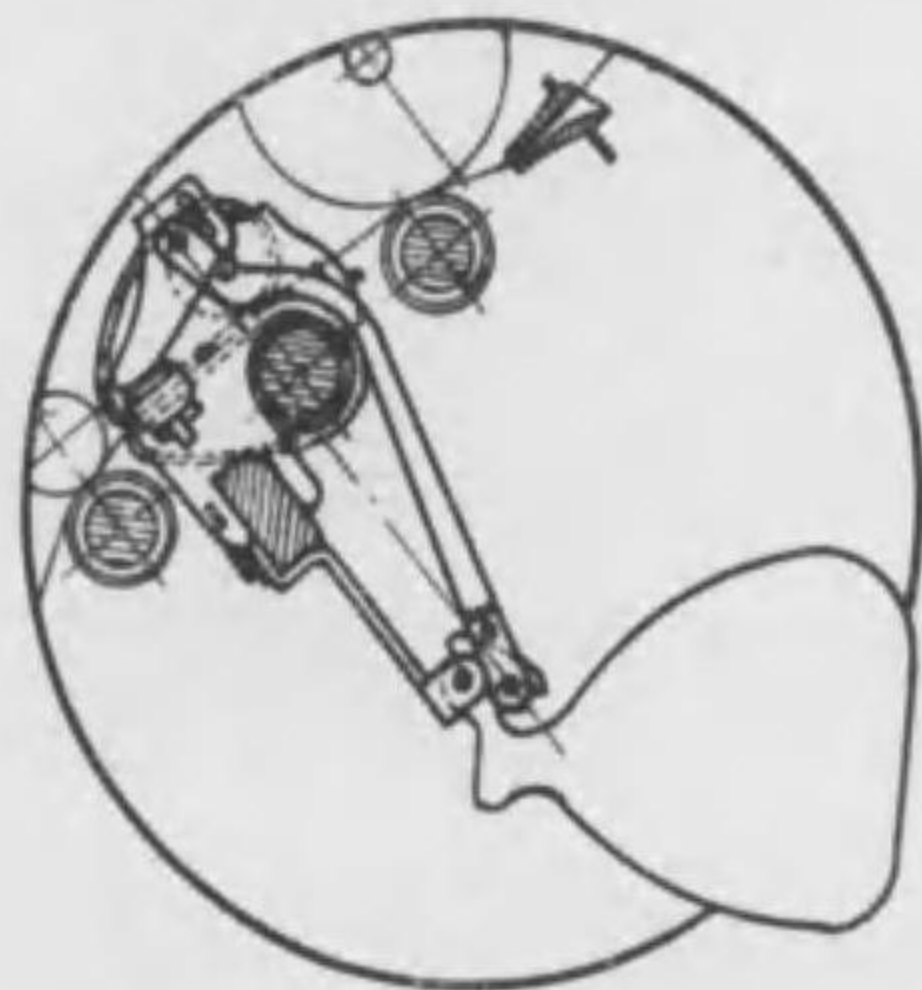
本絹用
テーバーエンドコーン捲
人絹用
スクエアエンドコーン捲

高速度管捲機
ピンコツブ捲



カミツB型

新榮光K型
超ハイドラフト装置



工場 兵庫縣川邊郡神津村森本八三八
電話大阪福島 4549番 伊丹579番
大阪出張所 大阪市東區備後町二丁目野村ビル五階
電話本町 1446番 1497番

神津製作所

特前 二二七

(綿紡) 在滿支紡需委託經營狀況

精梳	總機	精梳	伊藤	種田	庄司	阿部
一五六〇六八	一五六〇六八	一五六〇六八	一五六〇六八	一五六〇六八	一五六〇六八	一五六〇六八
〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇

紡計販用庶人工
績場務事長

山五杉中安安不
本島村同同破
利一半真真定
雄郎吉郎雄雄和
(十三年上期 六、六〇〇捆)
栗子二〇手、二〇手、四二捆
綿布一、八〇〇捆
〇(十三年上期 一六、三二〇、〇〇)

建敷 職 織總精原 原織
物地 工 機機機機 糸紡動 動布
部部部部部部部部部部
一五計男二豐七二一
三九五三三〇〇田二八〇〇
一八二〇〇〇〇〇〇田二〇〇〇
〇坪九坪八坪八坪八坪八
五七三九九九九九九九九
二二二二二二二二二二二二
〇九九九九九九九九九九
二二二二二二二二二二二二

月所	在	產地	天津工場
月所	在	產地	天津工場
天津工場	天津工場	天津工場	天津工場

内	上	東	大	同	裕	上	泰	日	豊
上海製造	上海製造	上海製造	上海製造	上海製造	上海製造	上海製造	上海製造	上海製造	上海製造
外	外	外	外	外	外	外	外	外	外

在上海華人紡委託經營狀況

A 一四〇

株式会社 大西商店

大阪市西區薩摩堀西之町一
電話新町景四四六・三三八八・三三四一

大西トラヴェラー製造所

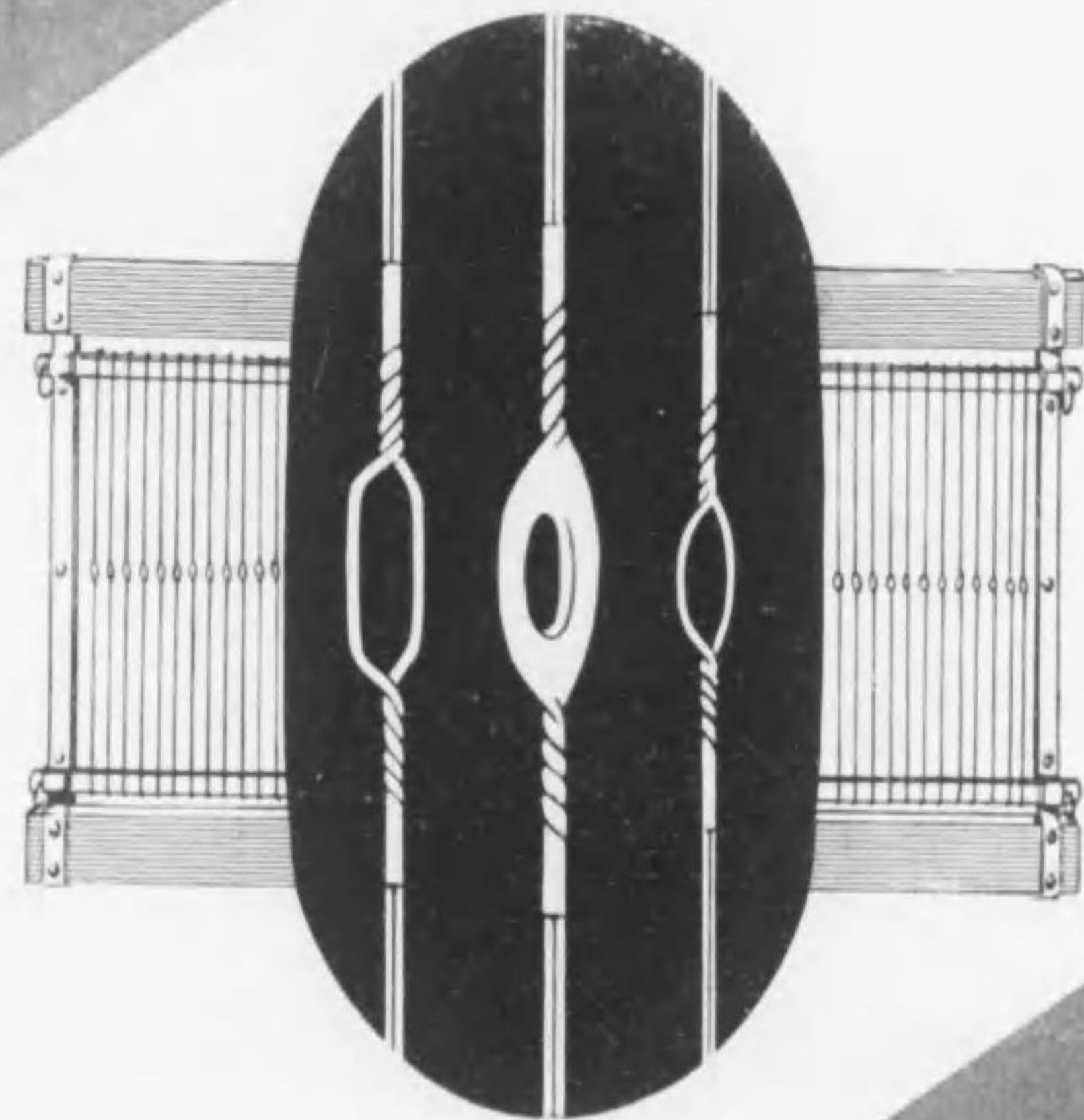
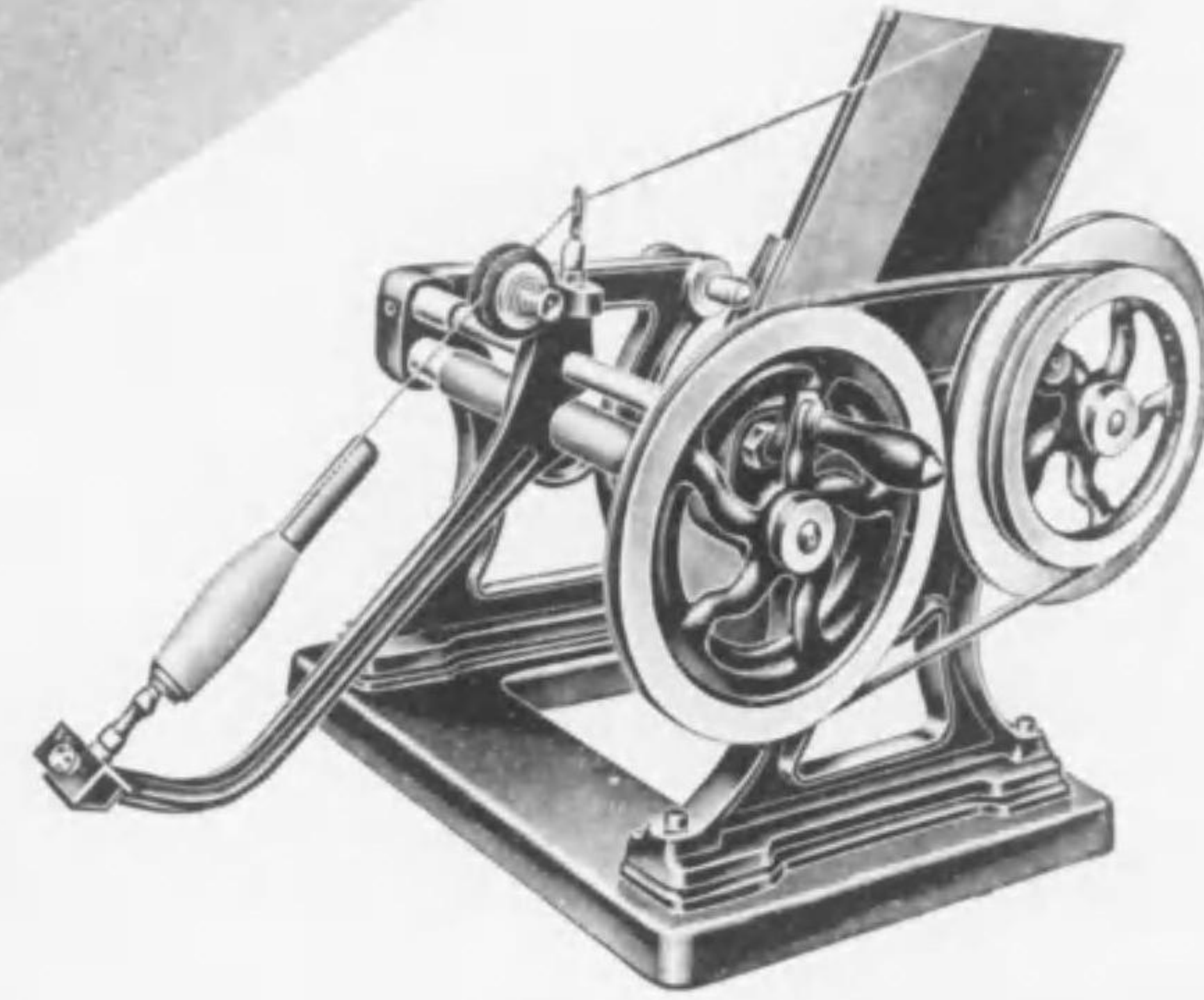
姫路市市之郷 電話姫路一六九二

大西ヘルド株式會社

布施市長堂三丁目 電話布施五七九

大西商店試験器工場

大阪市北區中崎町十二



MANUFACTURERS,
IMPORTERS AND EXPORTERS OF
ALL TEXTILE MACHINES & ACCESSORIES.

K. ONISHI & CO., LTD.

SATUMABORI, NISHIKU, OSAKA.

K. ONISHI TRAVELLER MFG. CO.

K. ONISHI WIRE HEALDS MFG. CO. LTD.

K. ONISHI TESTING MACHINE FACTORY.



全 國 人 絹 會 社 一 覽 表
 本 邦 人 絹 工 業 概 觀
 全 國 人 絹 會 社 工 場 要 覽

純國産 GTC潤滑油

國産時代！
 完成せられたる唯一の優良純
 國産品GTC潤滑油の御使用
 を………型録呈上

スピン ドル 油
 マシ ャン 油
 エアークムプレツサー油
 チーゼルエンジン油
 タービンエンジン油
 スTEAMシリンダー油
 マリンエンジン油
 モービスエンジン油
 アイスマシン油
 モーター及ダイナモ油
 絶 縁 油
 カツブグリース
 ボール及ローラー
 ベアリンググリース
 ギアグリース
 其他機械潤滑油脂一切



株式會社 田中源太郎商店

營業所 大阪市北區礎上町 電話北(36)代表2566
 東京市丸之内郵船ビル電話丸ノ内(23)2034・2035
 札幌市北二西三帝國生命ビル 電話札幌5282
 小倉市室町一丁目一四〇 電話小倉1183
 出張所 神戸市神戶區明石町明海ビル 電話三ノ宮(3)1834
 天津市日本租界芙蓉街一三ノ二 電話22621

株式會社田中源太郎商店

特前 二四〇

露光量違いの為重複撮影



全國人絹會社一覽表
本邦人絹工業概觀
全國人絹會社工場要覽

純國産 GTC潤滑油

全國唯一の純國産品
GTC潤滑油の優使用
記録史上

スピントル油
マシンスーパー油
エアークロム油
チーゼルエンジン油
タービン油
ステイムシリンダー油
マリエンチン油
モビール油
アイスマシン油
モーター及タイヤ油
絶縁油
カツクリース
ホール及ローラー
ベアリンググリース
キアーグリース
其他機械潤滑油脂一切



株式會社 田中源太郎商店

営業所 大阪市北區橋上町 電話共々35代2566
東京市丸之内區時計ビル 電話丸ノ内25 2034・2035
札幌市北區一國乳舎ビル 電話札幌3282
小倉市幸町一丁目24 電話小倉1183
出張所 神戸市神戶區有馬町南4丁目 電話三ノ宮3 1834
大阪市日本橋區美崎町一丁目2 電話22621

株式會社田中源太郎商店

電話

澤原鐵工所

人絹工場用
熟成車推進装置

諸官衙各會社御指定
カタログ御請求次第贈呈

澤原鐵工所

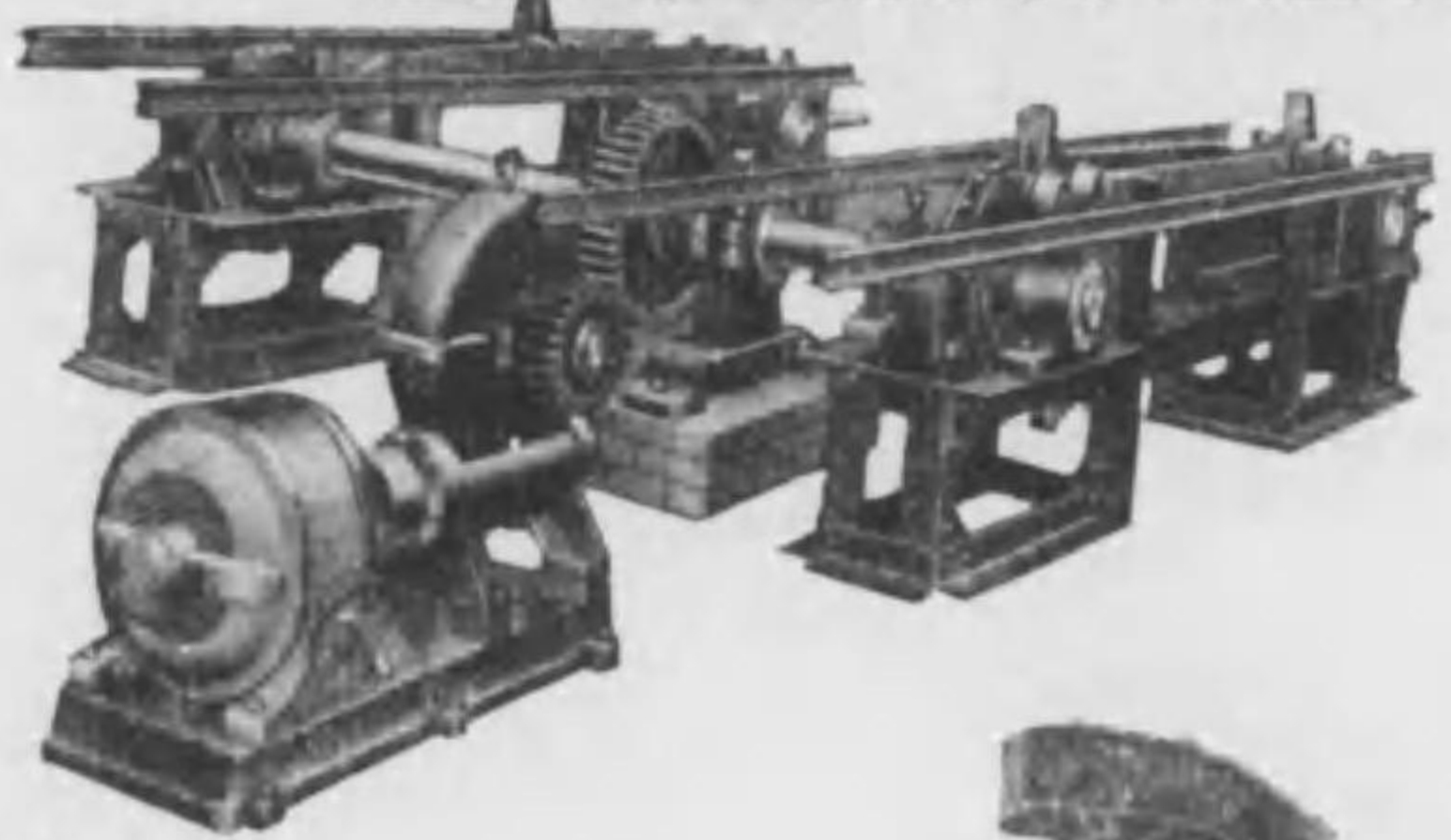
中表紙 三

ホータブルリフター

名古屋市中區古澤町九丁目四十五番地

電話 〇一四二七・五〇二八番
振替 名古屋九〇七七番

權威の機界輸搬運



手押運搬車



澤原式トレラー

特許澤原式標準型
リフトトラック

普通運搬車一〇臺に優るリフトトラック一臺



營業種目

專賣	特許	リフト	トラック	機	車	車	式	作
可	搬	昇	降	運	搬	車	一	
ホ	一	タ	リ	フ	タ	運	搬	
一	般	ブ	ル	タ	運	搬	車	
人	造	ル	工	場	用	各	種	製
紡	織	工	場	用	各	種	製	
各	種	工	場	用	各	種	製	
一	般	工	場	用	各	種	製	
諸	種	工	場	用	各	種	製	
機	械	工	場	用	各	種	製	

本邦人絹工業概観

目次

- 一、はしがき
- 二、人絹業躍進一服のかたち
- 三、本邦人絹工業の規模
- 四、需給事情概観
- 五、操短制より生産統制へ—未嘗有の高率操短—
- 六、生産状況
- 七、事變下の輸出状況
- 八、圓プロック輸出制限問題
- 九、人絹リンク制の採用
- 一〇、最高價格制の確立

一、はしがき

事變下の本邦人絹工業は、其の國際收支に寄與する程度、原料バルブの斯業に占むる位置等よりみて、綿業羊毛工業に較べては打撃若干少しと言へ、それが平和産業たる點に於いて變りなく、事變及び事變による戰時財政政策の影響は人絹工業へ全面的に波及した、それは一方では生産の減少、輸出の減退、ストックの激増等主として需給方面への打撃であり、他方では資金調整法適用による増資増殖制限、バルブ輸入・配給・割當統制、七割二分の高率操短、糸布とバルブのリンク制、圓プロック向輸出制限、販賣價格取締規則並に原糸の最高價格制等々矢繼早やの統制強化の實行であつた。需給方面と言ひ統制強化と言ひ盾の両面であつて根本は同じく戰時下日本人絹工業の受難圖繪たるに變りはない。以下其の主要なる點に就いて概説したが、尙ほ紡績系資本の進出人絹工業の朝鮮進出の頓挫、染工聯の問題、更に又特に人絹機業關係の諸問題等に就き殆んど觸れ得なかつた事を附記して置く。

二、本邦人絹業躍進一服のかたち

本年(十三年)一月より八月迄の原糸生産高は一億四千七百餘封度で、昨年同期の二億一千八百餘封度に較べると約五割の激減である。

十三年一—八月人絹生産高 一、四七四、一五〇(百封度面)

前年同期 二、一八四、四四四(百封度面)

これは從來連年激増を辿つてゐた傾向よりみるならば注目すべき現象であらう、人絹生産高累年増の跡は次の如し。

昭和九年 一、三七七、九五二

十一年 二、六一八、二五二

十一年 一、三三七、九五二

十二年 三、二四七、四九六

本邦人絹工業概観

B

一

かゝる生産の激減の原因は言ふ迄もなく輸出不振又ストック激増への対策として、未曾有の高率操短が採用されたからである、即ち十二年十二月一日以降実行率約五割八分を、又六月一日以降九月末迄は實に實効七割二分に及ぶ未曾有の超高率操短が實施されたが爲である、此の詳細については後述の如くであるが、此の操短率（リンク實施により操短率は七月末にて廢止となり、八月よりは生産割當制が實施され年内月産十三萬函と決定した、而して此の率は矢張り七割二分の高率操短と實質的には同様である）は年内一ぱい繼續される、十四年度はどうなるかわからぬが、假りに若干の解除を見ても矢張り相當率は保持されるであらうから原糸生産高は暫くは増加の足を止めるであらう、巨大なる生産能力は眠むり續けねばならぬ。

日本國內の見地より見る時以上の如き頓挫状態であるが、之を國際的にみて主要人絹生産諸國と對比して見る時はどうかにかに就いては今諸國の新しい資料が手許にないので明確にしがたいが、躍進昭和十二年度の人絹生産が米國を抜き遂に世界の王座を占めに反し十三年度は幾干かの劣勢を示すであらう。今参考の爲昨十二年度（一九三七年）の本邦人絹業の位置を眺めてみよう。

一九三七年の世界人絹生産は十一億八千五百八十二封度で一九三六年に較べ一六%の増加、各國殆んど増勢を示したが日・米・獨・伊は特に著しく、就中日本は斷然目覺しい躍進で三億三千四百餘萬封度で米國を抜き世界第一等となつた、全世界産額の二割八分強である。

世界人絹スワ生産高表（單位千封度） (Rayon Organon, June 1938 による)

年	アルゼンチン	オーストリア	ベルギー	ブラジル	カナダ	チェコスロバキア	フランス	獨逸	英國	ギリシャ	ハンガリー	伊國	合計
一九三四年	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	11,800
一九三五年	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	11,800
一九三六年	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	11,800
一九三七年	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	11,800
一九三八年	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	11,800
一九三九年	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	11,800

上掲表はスワ生産をも掲載してゐるが、之で見ると世界のスワ生産の躍進は人絹よりも遙かに大で、一九三七年度の六億二千三百萬封度は三六年度に較べ實に一〇九%の著増である、各國別にみると獨逸の二億二千萬封度を首位とし日本の一億七千五百萬封度、伊太利の一億五千六百萬封度と獨・日・伊の防共三ヶ國が斷然多く實に全産額の八八%を占めてゐるのも、其の國情、政治經濟事情と對照考察して興味深い、次表は此等三國の人絹・スワ生産の消長を示す。

日・獨・伊三國人絹・スワ生産高表（百萬封度）

年	日本		獨逸		伊太利	
	人絹	スワ	人絹	スワ	人絹	スワ
一九三四年	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
一九三五年	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
一九三六年	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
一九三七年	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
一九三八年	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
一九三九年	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500

かくて人絹及びスフ生産合計の一九三七年順位は次の如くなる。

一九三七年世界主要國人絹・スフ生産高(千封度)

- (1) 日 本 五〇九、一〇五
- (2) 獨 逸 三三三、〇〇〇
- (3) 米 國 三三二、三三五
- (4) 伊 國 二六二、九〇〇
- (5) 英 國 一五二、四二〇

以上、日本人絹業及びスフ工業の世界に占める位置を略述したが、昭和十三年度の日本人造纖維工業(人絹・スフを含めて)の躍進は些か變貌する事になる、即ち人絹は上述の如く一頓挫だがスフは戦時纖維工業として激増し結局の總計では依然世界の首位を占めるものと思はれるのである。

三、本邦人絹工業の規模

會社數……十三年八月末人絹聯合會加盟會社數は次の二十社である。

帝人、東洋レヨン、倉敷紡織、旭ベンベルグ、日本レヨン、東洋紡、昭和絹、第二帝人、錦華紡、東京人絹、福島人絹、太陽レヨン、鐘紡、出雲製織、日清紡、庄内川レヨン、岸和田人絹、日本毛織、日本人造羊毛、富士纖維

生産力……生産力を示す基礎數字としての据付鍾數は十三年八月末で五十萬四千九百九十四鍾あるが、之は年産六億封度以上に相當する、即ち一九三七年の世界人絹生産高の半ばを超過する膨大な設備にあたるわけだ。前年八月末及び十二年末との比較は次の如し

十三年八月末	五〇四、九九四鍾	十二年十二月末	四九七、四三六鍾	十二年八月末	四四二、八六〇鍾
--------	----------	---------	----------	--------	----------

日産能力を普通示す鍾數の正確なる算出は實際上非常に困難だが、今便宜上七〇〇鍾を日産一週分として換算せば日産七百二十噸となる、運轉分は八月末七割二分の高率操短で日産二百噸見當である、尤も之は人絹丈けに就いての話で人絹會社は休鍾の一部を利用してスフを相當額生産する事を許されてゐるから全般を通じて機械の運轉率は實際上もつと高い。

生産高……(原糸)十三年一月―八月間の平均一ヶ月生産高は十八萬四千三百函弱で十二年中の平均月産二十七萬六百函餘に較べると大分少い。(織物)十三年一月―五月間平均月産は商工省數字によれば三千四百二十五萬圓で十二年中の平均月産は三千九百三十五萬圓であつた。

輸出高……(原糸)十三年一月―八月間の月平均輸出高は僅か一萬七千餘函で、前年同期の四萬三千餘函に較べると激減である。

(織物)十三年月平均輸出は二千八百三十六萬方碼、前年同期は三千九百二十二萬方碼である。

原 糸	十三年一月―八月累計	前年同期比較減
織 物	十三年一月―八月累計	前年同期比較減

四、需給事情概観

需給状態の典型的パロメーターたる原糸ストック状態を一瞥してみるに次表の如く十二年下期以來増加の一途を辿つて居り特にそれは十三年に這入り著しく五月末には實に五十六萬函を突破する有様であつた、之は十二年末に較べ六割の増加であり、前年同期に比較せば實に四倍近くの激増である、かゝるストック状態で需給が良からう筈がない、大悪化だつたのだ。

原糸ストック高(百封度函)	十二年七月	一四二、三一	十三年一月	三七七、四〇七
	八月	一八三、五四一	二月	四七二、四五三
	九月	二一九、三六五	三月	五二三、〇二一
	一〇月	二一六、四八四	四月	五二七、九六七
	十一月	二七六、一二三	五月	五六五、八九二
	十二月	三四九、六二一	六月	四八二、〇五七
			七月	三七九、六五四
			八月	三二六、一〇七

(人絹諸會社及東京・大阪・福井三市場在荷の合計、人絹聯調)

然るに六月には四十八萬餘函と八萬函を激減し爾來七月、八月引續き減少し八月末は三十二萬六千餘函で前年末よりも少い、之は何故かと云ふに、六月一日需給悪化打開策として實効率七割二分といふ高率操短が適用されたからである、輸出は六月以後も好化と云ふ程に至つてみず又内需の方も大差はないのだから消費面の増加による原糸消化が別に變りなしとすれば矢張り超高率操短による生産減が有力に働いた事になる、即ち數字を拾つてみても五月迄二十萬函を突破してゐたものが六月には一躍十四萬七千函に

更に七月、八月と積減、八月などは僅か十二萬四千餘函に過ぎぬ(其保解除高を算入せず)、此の操短に就いては後に詳しく述べるから此處ではこれ以上觸れない。

需給事情の主要素たる生産、輸出状況の詳細に就いては後述に譲るとしてたゞ内地消費に就いて一言して置くが、政府の消費節約奨励に加ふるに、機織地の金融難、操短、受渡不圓滑等が相重なり國內消費の減少は十二年度下期以來著しかつたが、その後綿製品の國內消費禁壓による人絹製品の代替需要が年初より漸増を示し結局十三年上半期の純國內消費高は前年同期よりも微かながら寧ろ増加の氣配である、即ち帝人調査室の調べによると十三年上半期純國內消費高は七十一萬八千函に當り前年同期は七十一萬函である。尤もかかる國內消費回復には十二年度に極度に手薄にした手持を増加した機織家の引取數量が相當量に含まれてゐると見做されるから、今後の國內消費に對しても無條件の樂觀は禁物であらうが、併しそれにしても綿品羊毛製品の國內使用禁壓はいづれスフ・人絹製品使用に廻はつて來る筋合のものであるから人絹の國內需要にも別に減少は起るまい。次表は最近の人絹需給事情の大勢を察知せしめるであらう。

人絹需給表

年 月	月未捌付産數		供給高		輸出高		差引國內市場高		在荷高	
	(百封度函)	(百封度函)	(百封度函)	(百封度函)	(百封度函)	(百封度函)	(百封度函)	(百封度函)	(百封度函)	(百封度函)
一二年七月	220,780	254,674	112	55,914	67,350	173,426	132,111	40,315	220,780	254,674
八月	223,840	287,915	96	55,777	55,850	196,841	132,111	64,730	223,840	287,915
九月	224,280	322,000	84	57,335	63,618	198,052	132,111	65,941	224,280	322,000
一〇月	227,010	367,575	101	77,914	77,124	227,861	132,111	95,750	227,010	367,575
十一月	227,570	399,184	149	87,792	87,829	249,341	132,111	117,230	227,570	399,184
一二年一月	229,210	429,910	—	87,792	87,792	261,118	132,111	129,007	229,210	429,910
二月	229,910	458,816	77	87,792	87,792	271,018	132,111	138,907	229,910	458,816
三月	230,740	487,816	110	87,792	87,792	280,026	132,111	147,915	230,740	487,816
四月	231,740	516,816	—	87,792	87,792	289,034	132,111	156,923	231,740	516,816

印は供託解除高を加へた數

原糸輸出 織物輸出

原糸換算は羽二重は八碼を、三封度、其他は六碼を一封度とす

在荷高 阪神人絹布

會社及東京、大阪・福井倉庫在荷合計

上掲表に就き附言して置き度い事は「差引國內市場供給」なる項目が曖昧なる事である、ほんとは此の中に「朝鮮よりの原絲織物輸出」と「雜品輸出」なる二つの輸出項目が含まれてゐる、参考の爲に其の數量を擧ぐれば十三年上半期一ヶ月平均で朝鮮向輸出は約三千餘函、雜品輸出で平均一萬二千餘函、合計平均一萬五千二百餘函、前年同期は朝鮮向一ヶ月七千二百函、雜品輸出二萬函、合計二萬七千二百函に上つてゐた、即ち上掲表の國內市場供給量より十二年度下半期は大體二萬七千函を本年上半期は月一萬五千函を差引いたものが國內向として残るわけである、尙ほ國內純消費は之に月々のストック増を考慮せば略ぼ實數に近いものが得られるわけである。かかる點上掲表は需給表の意味からみて完全と言ひ難いので何づれ完全を期するつもりであるが、上掲表にしても之れだけの事項を考慮にいれて見て置けば若干の参考には資し得るであらう。

次に市況の動きに一瞥與へて置かう、年初需給均衡を見過され平穩裡に初立會を見たもの、其後上述の如く最大顧客の印度筋にてんで買氣が見えず、輸出は全般的に極めて不振を示す有様で若干の内需の明朗化など問題でない、ストックは増えるばかり、かくて相場も七十圓臺の低迷であつた、其後需給對策として未曾有の高率操短が實施され且つは綿業全面統制、綿糸清算取引の機能喪失により思惑は人絹に集中する状態を示し相場は昂騰五月末九十圓臺を突破した、昨年一月以來の高値である、其後最高値案に高一低を續けてゐた所、スフの手當難より綿畑筋より猛烈な買ひが起り六月廿一日百圓突破の狂騰相場となつたが、間もなく最高値を案じ九十圓臺に引戻り平凡裡に推移、七月二十五日最高値決定以後は最高値を標準に殆んど動きを見せない有様である。

一月―八月の三品人絹相場次の如し

三品人絹相場最高最低表 (圓)

年 月	最高		最低		平均	
	先	限	先	限	先	限
一二年八月	145.90	81.10	114.28	129.10	78.20	103.90
九 年	107.70	86.00	94.49	101.50	78.30	90.68
一〇 年	87.80	52.60	64.71	80.90	54.50	64.77

本邦人絹工業概観

B 七

一	年	六七・三〇	五〇・二〇	五九・七〇	八九・九〇	五一・七〇	五九・一九
一	二年	九五・〇〇	五八・二〇	七四・八九	九四・七〇	六一・一〇	七六・四五
一	二年九月	六九・〇〇	六四・〇〇	六六・四八	七三・一〇	六九・〇〇	七一・〇九
一	〇月	六八・二〇	六三・〇〇	六五・七六	七一・五〇	六六・九〇	六九・四〇
一	一月	六三・三〇	五八・二〇	六〇・三二	六六・五〇	六一・五〇	六四・〇六
一	二月	七三・七〇	六四・二〇	六九・四四	七七・五〇	六七・九〇	七三・三七
一	三月	七三・九〇	六八・六〇	七一・〇三	七七・五〇	七一・〇〇	七四・二六
一	四月	七四・五〇	七二・二〇	七三・四一	七八・六〇	七五・一〇	七六・六〇
一	五月	八六・〇〇	六九・九〇	七三・四八	九二・九〇	七二・七〇	七五・七四
一	六月	八〇・二〇	八六・五〇	八九・六八	九八・九〇	八四・九〇	九〇・七五
一	七月	九二・〇〇	八六・六〇	八九・七五	八八・四〇	八五・六〇	九〇・七五
一	八月	八九・五〇	八七・六〇	八九・一八	八八・九〇	八七・一〇	八七・九五

五、操短制より生産割當制へ—實質的には七割二分操短と同様—

需給対策としての操短は昭和十年下期以來繼續實行されて居り別に驚く事ではない、(第一次操短は昭和四年十二月より昭和七年十一月迄(昭和五年六月を除き)繼續實施され、たその後昭和七年金輸出再禁止による低爲替を武器とせる輸出伸長時代に撤廢されたが、その後新會社の振出、諸外國の關稅引上げによる輸出阻害により再び供起を惹起、こゝに昭和十年七月第二次操短とも言ふべきが開始されたわけである)併しそれは十二年十二月よりグツと高率に引上げられ注目されるに至つたのである、後に述べる新錘制限率を加算すれば昭和十二年十二月より十三年五月に至る人絹操短實効率は平均五割九分に及んだのである。

第二次操短の経過次の如し

期	間	方	法	制限率
昭和十年七月	休機	義務輸出	一〇%
八月	休機	義務輸出	一〇%
九月	右方法の外共保	義務輸出	一〇%
一〇月	右より義務輸出廢止	三〇%

自昭和十年十一月	錘	二〇%
至〃十一月二月	錘の外、供託	一〇%迄	三〇%
〃十一月三月	錘	三〇%
自昭和十一年四月	錘	三〇%
至〃十一月七月	錘	三〇%
自昭和十一年六月	錘	三〇%
至〃十一月七月	錘	三〇%
自昭和十二年七月	錘	三〇%
至〃十一月十月	錘	三〇%
十二年十一月	錘	三〇%
外に共保前月出來高の内五分以上は休錘に當てることを得	錘	三〇%
自昭和十二年十二月	錘	三〇%
至〃十三年五月	錘	三〇%

この結果、更に新錘制限にもとづく加重制限率を加算して實効平均五割九分(この事情をもう少し詳しく言ふならば一五・〇〇一錘以上の會社に於いては先づ据付錘数の四〇%次いで残りの運轉錘數六〇%の二五%即ち据付錘數の一五%分が休錘され結局に於いて五五%の操短、又一五・〇〇一錘以下の會社では先づ三七・五%の操短、次いで一五・六二五%、結局五三・一二五%に及ぶ操短で此等に新錘に對する附加率を加算すれば全體として平均五九%の高率操短となるわけである)

かくの如き高率操短に拘らず輸出不振、滞貨激増は止まらず、此處に思ひ切つた抜本策七割二分(自六月一日至九月末日)と云ふ未曾有の高率操短が實行されたわけである、即ち

- 一、基本操短率(据置)
 - (イ) 一萬五千一錘以上の會社は四割
 - (ロ) 一萬五千錘以下の會社は三割七分五厘
- 一、從來の右の規定による運轉權利錘數に對する一律二割五分休錘を
 - (イ) 一萬一錘以上の會社は二割五分
 - (ロ) 一萬錘以下の會社は二割五分
- 一、以上の休錘の殘餘運轉錘數に對し新に一律三割五分の休錘を實施

かくて結局一萬五千一鍾以上の會社は据付鍾数の七割七分五厘、又一萬五千鍾以下の會社は据付鍾数に對し六割七分五厘の操短率で之に新鍾加重制限率を加算すると全體平均操短率七割二分弱の高率となるわけである。

然る所、七月廿五日よりのリンクテ實施に伴ひ人絹聯合會では需給對策としての操短制を廢止し生産制當制を採用する事となつた、これは八月より實施で月産額を共保解除高を含め十四萬函に抑へんとするものである、此の割當方法は

- 一、十二年一、六月平均各社の一鍾當り生産量に運轉鍾数を乗じたものをもつて各社一ヶ月生産高(假想)を決定する
- 二、右各社合計は略ぼ十五萬函となるが十四萬函に對する超過分一萬函を前記各社生産比率により按分それぞれ控除して總生産高十四萬函に對する各社生産高を決定する
- 三、十四萬函のうち、一萬函は共同保管解除により、從つて實際生産高は十三萬函である

かくの如く新に生産制當制が登場したわけであるが、十三萬函といふ數字は七割二分操短と略ぼ同様のもので需給基調には兎も角も効果を與へてゐる、但しかゝる高率な生産制限によるコスト高、利潤低下等の諸點は之は又別問題である、人絹會社としては一日も早くかゝる高率生産制限の廢止時期到来を切望してゐるわけであるが、來年になればストックの拂底といふ點からのみみても相當は緩和を見るものと思はれる、勿論この事はバルブ輸入の適當な措置を豫定しての話である。

次に新鍾制限に就いて觸れて置かう、之は昭和十一年新増設工場續々たる運轉開始による生産激増により到底普通の操短のみでは効果なき状態に瀕み、將來の供給調整を目的とする設備の擴張制限を行ふに非ずば收拾し難くならんとの見地より先づ十一年十一月より一ヶ年間實行されたものである、而して此の新鍾制限は十二年十一月以降一ヶ年間も繼續される事になつた、がその間若干の變更をみる事となつた、即ち十二年十一月一日より向ふ一ヶ年間加盟各社の増設し得る限度を三千鍾とし、前回に於いて會社の規模に應じて逆比例を以つて規定せるものを一律に同數にした、なほ此の増設鍾に對する休鍾率の加重は前回同様運轉開始後一ヶ年間は十五割であつて年々五割遞減する事とした。

昭和十二年十一月以降新生産設備に關する規約

第一節 増鍾制限

第一項 加盟會員の昭和十二年十一月一日より昭和十三年十月末日に至る一ヶ年間に於いて増設し得べき鍾数は各會員三千鍾以内に制限す、但し加盟會社が他の加盟會社と合併し又は他の加盟會社の事業を買収したる場合に於いて其の増設鍾数の合計が合併又は買収の當時未だ三千鍾に達し居らざるときは三千鍾迄増設する事を得るものとす

第二項 加盟會社が非加盟會社を合併し又は非加盟會社の事業を買収したる爲め増加する鍾数は之を前項本文の増設と看做し加盟會社が合併又は買収の當時既に前項所定の最大増鍾を完了し居れる時は合併又は買収により非加盟會社より引續ぎたる生産設備の運轉をなすことを得ず

第二節 増設鍾に對する休鍾率の加重

第一項 増設鍾に對しては其の運轉開始後一ヶ年間基本休鍾率に其の十五割を加重し毎年五割宛遞減す、但し据付鍾數二萬鍾に達するまでの増設鍾に對しては其の運轉開始後一ヶ年間基本操短率に其の七割五分を加重し毎年二割五分宛遞減す

第二項 加盟會社が他の加盟會社と合併し又は他の加盟會社の事業を買収したるときは存續會社若しくは合併によりて設立したる會社又は買収會社は合併によりて解散したる會社又は被買収會社に課せられたる休鍾加重の期間を繼承し、加重率に付ては合併又は買収の結果より成る据付鍾數二萬鍾に達する迄の増設鍾に對し前項但書を適用し二萬鍾を超過する増設鍾に對しては前項本文を適用す

第三節 新加盟者に對する制限

新に本會に加盟せんとする會社に對して認むる鍾數は三千鍾とし之を増設鍾と看做して第二節第一項本文の規定を適用す尙三ヶ年間現行休鍾控除に關する決議を適用せず

六、生産状況

十二年一―八月生産高累計が一億四千七百四十一萬五千封度で前年同期に較べ五割減なる事は既述の如くである、九月以降の生産高も月産十四萬封度(共保解除を含む)と極つてゐるのであるから、之では本年中の生産高は二億封度を僅かに超す位で十二年度に較べ約六割の激減を示す事とならう、之では十一年と比較しても三割弱少く十年の生産高と略ぼ同様である。

次に特殊系と普通系との生産比率及びデニール別生産割合等に就いてみるに、特殊系と普通系の割合は十三年も十二年度も略ぼ同様で普通系の方が少しばかり多い(共に減少してゐるのは勿論である)、併し最近の趣向は益々特殊系(その最も主要なものはマルチ系)の需要増加の方向を通りつゝあり、現に市場では寧ろマルチ系が標準となつて取引賣買されてゐる有様である、從つて「特殊系」なるべきマルチなどは實質的には普通系になつて居り、東洋レーヨンのラナヨンとか帝人の絹麻とか、その他中空系等こそが名實共に特殊系になるわけである、此の點普通系特殊系の分け方は變化し曖昧となりつゝある事に注意を要する。

本邦人絹工業概観

一 一八月普通糸特殊糸生産累計比較

普通糸	十三年(一八月累計)		十二年 同期	
	七五三、一六七(百封度函)	七二〇、四八三(%)	一、一五一、〇四一(%)	一、〇三三、四〇三(%)
特殊糸	一、一六四、三九三(七八・九%)	九二、六五五(六・二%)	一、六一六、一一一(七〇・三%)	三、一六、八九五(一四・五%)
合計	一、四七四、一五〇(一〇〇%)	一、四七四、一五〇(一〇〇%)	二、一八四、四四四(一〇〇%)	二、一八四、四四四(一〇〇%)

次に生産をデニール別にみると全體に占むるパーセンテージよりみて一二〇デニールが増加し、一二〇デニール以上の太糸が減少してゐる。太糸は過半が輸出向であるから太糸減産は此の輸出減少の反映とみなされ、又一二〇デニールの比率増大は一二〇Dを多く使用する内地消費の比較的良好なるを物語つてゐると言へよう。

年	普通糸		特殊糸		合計
	普通糸	特殊糸	普通糸	特殊糸	
十三年中	七、五三、一六七	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三
十二年	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三
十一年	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三
十年	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三
九年	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三	一、一六四、三九三	一、一五〇、四〇三

次に各社別月別生産高を示す

会社別月別人絹生産高

(100封度函)

会社	十三年一月 二月 三月 四月 五月 六月 七月 八月												
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	一月	二月	三月	四月	
帝東洋	三、七〇七	三、四三三	三、五八六	三、七〇七	三、五三三	三、七〇七	三、五三三	三、七〇七	三、五三三	三、七〇七	三、五三三	三、七〇七	三、五三三
東洋	三、四三三	三、〇八一	三、二六六	三、四三三	三、〇八一	三、二六六	三、四三三	三、〇八一	三、二六六	三、四三三	三、〇八一	三、二六六	三、四三三
倉敷	三、二八三	三、一八一	三、三二六	三、二八三	三、一八一	三、三二六	三、二八三	三、一八一	三、三二六	三、二八三	三、一八一	三、三二六	三、二八三
旭本	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八	三、一五八
東洋	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一	三、〇八一
昭二	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八	二、九八八
第華	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九	二、八七九
錦華	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇
東人	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一	二、六六一
福島	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二	二、五五二
太人	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三	二、四四三
鐘陽	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四	二、三三四
日出	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五	二、二二五
庄内	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六	二、一一六

本邦人絹工業概観

B 一三

本邦人絹工業概観

岸和田人絹	三、八〇〇	四、〇〇〇	三、八〇〇	三、八〇〇
日本人造羊毛	二、六〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇	二、七〇〇
富士織維	二、八四九	二、八四九	二、八四九	二、八四九
合 計	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇

七、事變下の輸出状況

近年の人絹糸布輸出の伸長は次表の如し。(百封度換)

昭和九年	二二二、二四二	五一一、三三五・五	昭和十一年	四四三、三七一	八七七、五〇九・六
昭和十年	三〇四、二七九	七〇五、五七二・八	昭和十二年	五六四、一五八	八〇六、四三二・二

然るに此の躍進に近來一頓坐の傾向が現はれるに至つた、これが原因は事變の打撃影響によるもの大なりとは云へ決して之のみではなく諸因が相重なつたものである、即ち其の對内的原因とも言ふべきは先づ何よりもコスト高——全く世界的バルブ飢饉と輸入制限關稅引上げ實施に依る原料バルブの昂騰、硫酸、苛性ソーダ、二硫化炭素等の藥品、石炭並びに貨銀の値上り等により人絹コストは一兩年前に較べ、著しく高まつたので、之は從來低廉を武器として伸びて來た輸出の大きな障害になつた事言ふ迄もあるまい、それに軍需用品輸出による船舶不足も擧げて置いてもよからう、此等對内的原因に加ふるに世界的不況による購買力の減退——之はまことに味淡然として居り、本邦人絹輸出市場の如く其の大半が植民地半植民地の場合は米歐歐洲等の先進國が不況であるとして直ちに不況とは言ひ難いのであるが、邦品排斥特に日支戰爭による對日感情悪化に基く不買運動等々、即ち輸出不振には以上の如き對内對外の諸因相重り合つたに相違ないがコスト高、船舶不足、邦品排斥等をも事變が惹起せしものと見れば輸出不振は根本的には日支戰爭に還元せしめても強ち牽強附會でもなからう、これを市場別輸出數字に就いて眺めてみよう、先づ原糸輸出高だが——

原糸主要仕向先別輸出高 (1000封度)

仕向地	一〇年中	一一年中	一二年中	一三年(一八月)	一二年(同期)
滿洲	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三
支那	一七、八四一	一七、八四一	一七、八四一	一七、八四一	一七、八四一
香港	一、二七六	一、二七六	一、二七六	一、二七六	一、二七六
其他	一、二七六	一、二七六	一、二七六	一、二七六	一、二七六

印 度	一〇、一三三・一	一〇、一三三・一	一〇、一三三・一	一〇、一三三・一	一〇、一三三・一
蘭 印	六、八八八	六、八八八	六、八八八	六、八八八	六、八八八
ア ジ ア 合 計	一六、〇二一	一六、〇二一	一六、〇二一	一六、〇二一	一六、〇二一
歐 洲	八、四四二	八、四四二	八、四四二	八、四四二	八、四四二
カ ナ ダ 及 北 米	三、四一八	三、四一八	三、四一八	三、四一八	三、四一八
中 米	一、〇六六・八	一、〇六六・八	一、〇六六・八	一、〇六六・八	一、〇六六・八
南 米	一、一八一	一、一八一	一、一八一	一、一八一	一、一八一
ア フ リ カ	一、一八一	一、一八一	一、一八一	一、一八一	一、一八一
太 洋 洲	一、一八一	一、一八一	一、一八一	一、一八一	一、一八一
其 他 共 計	一、一八一	一、一八一	一、一八一	一、一八一	一、一八一

即ち上掲主要原糸輸出國の數字に就いてみるに、支那、太平洋州を除き何れも軒並に激減で、總計で十二年同期の四割五分と半分以下に減つてゐるのだ、而して何と言つても最大市場英印及び蘭印、中米の著減が大きく響いてゐる、英印市場は十二年度中輸出高は三千六十七萬封度で實に全原糸輸出高の過半を占める大市場なのだ、これが十三年度(一八月)では三百萬封度足らずで前年同期の一千七百八十餘萬封度に比し殆んど六分の一に迄縮少したわけである、之は印度農産物の不況による購買力の一般的減退——印度は支那と共に世界有数の農産國で年々の農産物の豊凶によつて國民の購買力は左右せられる所大である——並に前年度の思惑買に依るストツクの未消化、更に本邦市場の不安定性を眺めて積極的買氣を見せなかつたわけだ、支那向が若干増加した事は一寸奇異な感を興えるかもしれないが之は事變勃發直後の日貨排斥の打撃も其後の連勝により治安の恢復と共に次第に増加を來した事を意味するものである、それは次の支那向月別輸出高の推移をみれば明瞭であらう。

支那向原糸輸出高 (千封度)

一二年一月	五七四	七月	九二六	一三年一月	一一二一
二月	四五七	八月	三	二月	一、三七二
三月	三五一	九月	一	三月	七四六
四月	六〇〇	一〇月	一	四月	六四九
五月	九一一	十一月	五二一	五月	四六一
六月	一、五八三	十二月	一六	六月	一六〇

次に人絹織物輸出であるが、之れまた十三年一八月の輸出合計は二億二千六百九十萬方碼で前年度の三億一千三百七十萬方碼



特許國產

タイガ・ベアリング

無給油軸承

- 木質無給油軸承
- 金屬化木質無給油軸承
- 人造樹脂無給油軸承
- 金屬無給油軸承

- 油がいらず
原料材料製品を絶對によごさぬ
- 耐水耐酸耐アルカリ
人絹、製絲、化學工業用機械に最適品
- 生産費極減
油代人件費が省け壽命が長い
- 非金屬製品
金屬軸承に代り然も無給油なり



綿糸紡績機に於て、兎角等閑視されながら極めて厄介な存在である。テンション、プリー、メタル・クレードル、メタル・トラバース、ガイド、メタル・及スピンドル、メタル等に関する**とらぶる**は本ベアリングに依つて始めて解決されたと自負致して居ります。又本ベアリングの特性たる耐水、耐酸、耐アルカリ等は無給油の性能と相俟つて人絹、製糸及化學工業機械の軸承として各方面の御推奨を賜つて居ります。特にタイガー、ベアリング・の非金屬製品は非常時國策上金屬軸承に代り、然も無給油の性能を持つ唯一の國産品であります。

特許タイガ-無給油軸承
タイガーライト

合名會社 河野虎男商店

東京市京橋區八丁堀三ノ六 電話京橋(56)1839・8996番

八月累計

原糸	數量		金額(千圓)		減少率
	一三年	一二年	一三年	一二年	
原糸	一五、六四九(千封度)	三四、七〇九	五五%	一二、七〇七	五六%
織物	二二六、八九二(千碼)	三三三、七四一	三八%	七四、一二七	二六%

八、圓プロック輸出制限問題

以上の原糸織物の双方共輸出に於いて増加を示してゐるのは何づれも支那、滿洲が顯著で、之は今迄は日滿支プロック經濟の發展として喜ぶべきものであり、對滿支經濟工作の進捗を物語るものであつた、即ち十二年末には滿洲國の關稅改正があり、十三年五月末には中華民國臨時政府の手によつて關稅改正を見、懸案となつてゐた支那向輸入人絹糸布關稅は次の如く引下げられたのであつた。

人絹糸	舊率		新率	
	百疋に付	一〇〇金單位	一〇〇金單位	四五%
人絹織物	從價	八〇%	從價	四五%

(五月卅一日公布、六月一日より實施)

かゝる結果として滿關支所謂圓プロック向原糸輸出高は十三年一―八月累計九百十八萬六千四百封度(金額八百二萬三千餘圓)に及び其他の第三國向總計の六百四十六萬二千餘封度(四百六十八萬二千餘圓)に較べ遙かに上廻るに至つたのである、率にして圓プロック向數量五九%、第三國向四十一%、金額で前者六十三%、後者三十七%と云つた有様である。人絹織物に於いては圓プロック向七千二百六十三萬餘方碼(二千四百四十五萬餘圓)、第三國向一億五千四百二十五萬餘方碼(四千九百六十七萬餘圓)で數量で三二%對六八%、金額で三三%對六七%で第三國向けの方が多いが、併し圓プロック向が數量金額共に織物全體の三割以上に及ぶといふのは驚くべき躍進數字である。然かも十三年八月の統計によれば圓プロック對第三國向の比率で數量で四五%對五五%、金額で四六%對五四%で圓プロック向輸出の増大傾向を物語つてゐる。

尙ほ原糸織物合計に就いては圓プロック向三千二百四十七萬七千餘圓、第三國向五千四百三十五萬六千餘圓で、圓プロック向は全體の三七%を占めてゐる、これを一覽的にみれば次表の如し。

本邦人絹工業概観

輸出合計	十二年一月—八月計		十三年一月—八月計	
	数量	金額	数量	金額
輸出合計	1,549,000	1,549,000	1,549,000	1,549,000
圓プロック(満支)	1,184,000	1,184,000	1,184,000	1,184,000
第三國向輸出高	365,000	365,000	365,000	365,000
前年比較増減				
輸出合計	△19,000	△19,000	△19,000	△19,000
圓プロック(満支)	△15,000	△15,000	△15,000	△15,000
第三國向輸出高	△4,000	△4,000	△4,000	△4,000

輸出不振は刻下人絹業界の最も緊急の問題であり、これが挽回伸長の爲凡ゆる方法が講ぜられて来たのであるが、なかなか實効が擧がらぬ、同様の対策を採りつつあつた綿業界は遂に自由主義的(?)な個人リンク制を採用するに至つたものであるが、我が人絹工業も遂にリンク制採用を以つて抜本の策となさんとするに至つた、即ち商工省は七月二十二日其の大綱を、八月三十日細目を發表したのである、其の骨子とする所は原糸及人絹織物(布帛製品)については規定なしの輸出の一定量を確保しそれに應じて原料バルブの輸入を許可する事にある、これが實施は原糸のリンクは八月一日から、織物は十月一日からである、したがつて人絹リンク制の眞の活動と実績は十月一日から展開するわけである、次にリンク制の要綱及び細目を掲げ先づ簡単に内容の解説を加へて置こう。

九、人絹輸出リンク制の採用

輸出不振は刻下人絹業界の最も緊急の問題であり、これが挽回伸長の爲凡ゆる方法が講ぜられて来たのであるが、なかなか實効が擧がらぬ、同様の対策を採りつつあつた綿業界は遂に自由主義的(?)な個人リンク制を採用するに至つたものであるが、我が人絹工業も遂にリンク制採用を以つて抜本の策となさんとするに至つた、即ち商工省は七月二十二日其の大綱を、八月三十日細目を發表したのである、其の骨子とする所は原糸及人絹織物(布帛製品)については規定なしの輸出の一定量を確保しそれに應じて原料バルブの輸入を許可する事にある、これが實施は原糸のリンクは八月一日から、織物は十月一日からである、したがつて人絹リンク制の眞の活動と実績は十月一日から展開するわけである、次にリンク制の要綱及び細目を掲げ先づ簡単に内容の解説を加へて置こう。

施行大綱

輸聯商聯、人工聯および絲聯は一定數量以上輸出(圓プロック内)に對する輸出を除く、以下同じ)を確保する爲左記事項を實行することとなれり

- 一、絲聯所屬の會員は原絲に就ては輸出商を經由するか、若くは直接にこれを輸出し、織物用絲に就てはこれを人工聯に賣却し右賣却數量に相當する織物の輸出を輸聯商聯および人工聯に於て共同保證すること
 - 一、右共同保證の爲普通品に就ては原則として其販制を採用し(但し當分の間注文生産を認めること)輸聯商聯および人工聯は各五十萬圓の出資をなし各三名づゝの委員を選出しこれが運用をなすこと
 - 一、人工聯にありては(イ)特殊物の生産は輸聯または商聯の注文によること、(ロ)普通物の生産は輸聯または商聯の注文によるかまたは一部見込生産をなすこと、(ハ)製品の内地流入を阻止するため人絹織物關係工業組合をすべて加入せしめたる上登録印章の押捺などの手段を採用すること、(ニ)従軍の人工聯の行ひ來りたる生産統制を廢止すること
 - 二、輸聯にありては(イ)組合員は人工聯より荷受けしたる製品を輸出布帛製品用のものを除きこれを輸出するか若くは輸聯の他の組合員に對してのみ販賣し得ること、さらに(ロ)組合員は一定保有數量を超えて荷受けをなすことを得ざること、(ハ)右實現の爲登録制度を採用すること
 - 三、商聯にありては(イ)組合員は人工聯より荷受けしたる製品を輸出布帛製品用のものを除き商聯の組合員以外のものに販賣し得ざること、(ロ)組合員は一定保有數量を超えて荷受けをなすことを得ざること、(ハ)右實現の爲登録制度を採用すること
 - 四、輸出用布帛製品の輸出に就ては要調査輸出を取扱ふ特殊會社をして之を行はしむること
 - 五、ストックの輸出促進に就ては適當なる方法を講ずること
 - 六、バルブの輸入は原糸を輸出したる場合は個人リンクにより織物を輸出したる場合は團體リンクによること
 - 七、本輸出振興策實現の爲輸聯商聯人工聯および絲聯は可及的速かに右準備に着手すること
- 人絹輸出振興方策細目
- 一、見返りバルブの輸入は人造絹糸にありては百封度につき百四十封度、人造絹糸を含む製品にありては其の中に含まるゝ人造絹糸百封度に付百五十五封度の割合に依り之が許可を爲すこと
 - 二、日本絹人絹糸布輸出組合聯合會所屬組合の組合(以下輸聯組合員と稱す)又は日本輸出絹人絹商業組合聯合會所屬組合の組合員(以下商聯組合員と稱す)は左に掲げる數量を超えて人造絹糸を含む織物を保有することを不得ること
 - (イ)輸聯組合員に在りては同時に商聯組合員たるものと否とに拘らず昭和十三年一月乃至五月の期間に於ける輸出數量の平均二月分に相當する數量、(ロ)商聯組合員に在りては同時に輸聯組合員たるものと否とに拘らず昭和十三年一月乃至五月の期間に於ける荷受數量の平均二月分に相當する數量を以て前號(イ)の各組合員の保有數量の總和を按分したる數量
 - 三、見返りバルブの内地流用は之を認めざること
 - 四、本邦滿洲國關東州及び中華民國の所謂圓プロック内に於ける人造絹糸の一月平均消費量は十五萬兩を限度とすること

以上の要綱及び細目によつても明な如く人絹リンク制が個人團體兩制を採用した事は著しく特徴的である、羊毛製品にしても綿製品にしても何れも個人リンク制なので、果して何れが良きやは一長一短容易に断じ難いが兎も角業態の差異が人絹リンク制をして斯様な方法をとらしめたもので然らば其の理由はと云ふに「リンク制」の持論者なりし伊藤竹之助氏の言を借りて言へば、人絹社は原糸の輸出により個人リンクなるが故に在來のストックを輸出し又は輸出せしめた時にも原料バルブの輸入を許可せられ莫大なる資本投下による生産設備の休止を運轉せしめ得る可能があり、よつて以つてストックを輸出に振向け、續いて操業擴充による原價の低下は輸出増進力の源泉の一助たるの効果を擧げる事となる。

然るに織物に對しては其の製造の種類方法等餘りにも多岐多様であつて統制の困難を伴ふ事及び既成ストック品を輸出したる時には、それに要する原糸相當額の人絹糸を人絹社に安價に供給せしむる事となつて居るので、機屋或ひは輸出商に對して個人リンクを認める時にはバルブ輸入権にプレミアムをつく事等となつて弊害を伴ひ、かくては人絹社は堪え難い所である等の事によつて、之に對しては團體リンク制を採用する事となつたのであらう。

以上の所論成る程尤もであるが之に對して一部の人絹社社の意向を窺ふに、人絹リンク制も何も個人團體併用によらねばならぬと限らぬ、綿業同様個人リンク制にした方がよい、考へ様によれば人絹社社の兼營織機が無い丈けに全部の機屋を賃借せしめての徹底的な人絹社中心の個人リンク制の方法こそ大局的に効果的なのだと言ふ、この所論も全然の暴論と否定する事は出来ぬ、とすれば併用制の眞因は人絹織物の輸出が凡て人工聯、輪聯を通じ行はれて居る事、人工聯の組織の大なる事など案外兩者の對抗壓力即ち力と力との問題、そんな邊にあるのではなからうか。

尙ほ人絹織物の輸出が人工聯、商聯、輪聯の三團體の共同責任による義務輸出制が採られてゐるのも注目される、此の義務輸出制により輸出は否應なしにそれだけは促進されるわけだが、他方限られた期間内に必ず輸出される必要があり、此の事は輸出業者の自由競争従つて價格引下競争、これが惹起する海外の買叩き等も充分覺悟されねばなるまい。

尙ほ糸布とバルブとの換算率の點、見返へりバルブの輸入時期の問題、其他述べたい事も少くないが此處には省略して置くが只此のリンク制の効果は果してどうか、幾何程の輸出躍進を期待し得られるものであるか、糸布とバルブの換算率に於いてみらるゝが如くに相當輸出増進の拍車は考慮されてあるのだが輸出事情の項で既述した如き本邦人絹界輸出環境にあつては大した期待は持てぬと言はねばなるまい。

一〇、人絹最高價格制の確立

人絹にも愈々最高價格制が實施される事となり、七月二十三日次の關係省令及告示が公布された、即ち商工省令「人造絹糸販賣價格取締規則」、「人造絹糸ノ太サ制限ニ關スル件」、「纖維製品販賣價格取締規則」改正令、及び人造絹糸の種類並に最高價格を規定せる商工省告示。實施は七月二十五日より。

以上の省令告示は何づれも人絹最高價格設定を中心とするもので例へばデニール別製造制限にした所が今後の最高價格制の運用を逸脱せん爲業者が種々のデニールのものを製造する事を防止するために設定されたものである(尤も今回の制限では現在市場にある種類は全部認められた)

人造絹糸販賣價格取締規則第一條第二項の規定による人絹の最高價格は次の如し

△人絹を製造するものが販賣する場合

(A) ビ ス 糸		呼稱		最高價格(單位百封度)
デニール	銘柄	富士標 (東京人絹)	—	八八圓
一一〇 (總)	〃	〃	—	八五〃
一五〇 (總)	〃	〃	—	八三〃
二〇〇 (總)	〃	〃	—	八一〃
二五〇 (總)	〃	〃	—	八一〃
三〇〇 (總)	〃	〃	—	八一〃
スプール捲、コーン捲またはチーズ捲は二圓上げとす				
(B) マルチ捲あり				
七五 (總)	富士標 (東京人絹)	—	一三五圓	
一〇〇 (總)	〃	—	一一二〃	
一二〇 (總)	〃	—	九〇〃	
スプール捲、コーン捲、またはチーズ捲は二圓上げとす				

本邦人絹工業概観

(C) マルチ消費

七五(総)	同	(東京人絹)	一三八圓
一〇〇(総)	同	(〃)	一一五〃
一二〇(総)	同	(〃)	九三〃
一五〇(総)	金	魂(東洋紡)	九二〃

スプール捲、コーン捲またはチーズ捲は二圓上げとす

上表の如くマルチ一〇〇デニール九十三圓、ビス糸一〇〇デニール八十八圓と最高価格が決定されたわけであるが、人絹各界への影響はどうであつたか。

決定前業界では人絹の最高価格がどの邊に決まるかに就いては種々の推測が行はれてゐたが、ビス糸で八十五圓、マルチで八十八圓、或ひはビス八七、八圓、マルチ九〇圓と云つた風の推測が多く見受けられた、之からみると決定の八十八圓、九十三圓と云ふのは比較的いゝ値段と言はねばならぬ、特に取引の多いマルチ糸はいゝ値であつた、現に會社筋にしても別に不満は表明しなかつた様である、尤も人絹會社のコストは全くまちまちで會社によつて随分開きがあり、コストのウント高い會社の中にはもう三、四圓の高値を要求して居た向きもあつたわけである。次に糸屋はどうかと云ふに口錢を百分の三と限定された、之はスフの場合に於ける元賣二分五厘、卸賣一分五厘合計四分の口錢に較べて一分少いばかりでなく、今後の人絹生産十三萬函の中五萬函を人工聯へ渡し残りの八萬函のみが絲商を通じて市販されるのであるから其の口錢収入は愈々萎縮する事となつた次第である、最高価格は糸屋にとつては有難くなかつたわけだ。次に機屋であるが、之は人工聯の警告もあり高値買を控えて居つたので打撃と云ふ程の事はなかつた、即ち人絹の最高価格は全體を通過して業界に與へた打撃は大した事はなかつたわけである。

全國人絹會社一覽表 (五十音順)

會社名	資本金(圓)	所在地(事業上の營業所)	代表者
旭ベシベル	四六〇,〇〇〇	大阪市北區宗是町大阪ビル(電土佐堀四九〇二)	野口 遼
出雲製織	二〇〇,〇〇〇	同 東區備後町綿業會館(電一三二一)	尖道 寛一
鐘ヶ淵紡績	一〇〇,〇〇〇	神戸市林田區御崎町一(電兵庫八〇)	津田 信吾
錦華紡績	三三〇,〇〇〇	大阪市東區瓦町二和三ビル(電北濱七三九)	加藤 正人
倉敷絹織	五〇〇,〇〇〇	會敷市元町四九七(電倉敷一〇〇)	大原 孫三郎
昭和人絹	二一,二四八,〇〇〇	大阪市東區今橋四丁目一三三(電信託ビル(電六二〇二))	高橋 保
庄内川レヨン	六〇〇,〇〇〇	大阪市京橋區寶町一ノ七(電京橋一〇〇八)	豊田 利三郎
第二帝人	二五,〇〇〇,〇〇〇	名古屋市西區堀越町字榮越(電西五三八五)	桑 逸三
太陽レヨン	二〇,〇〇〇,〇〇〇	大阪市北區中ノ島二江商ビル(電北濱三一八八)	田村 駒治郎
大日本紡績	一〇,〇〇〇,〇〇〇	同 東區南久太郎町阿部市ビル(電船場一一七七)	小寺 源吾
帝人紡績	三六,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	久村 清太
東洋レヨン	三〇,〇〇〇,〇〇〇	同 東區安土町二(電本町三三四)	辛島 淺彦
東京人絹	七二,七二五,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	庄司 乙吉
日本人造羊	一〇,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	町田 徳之助
日本清紡績	二七,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	菊池 文吾
日本毛織	一〇,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	宮島 清治郎
日人絹	一四,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	金光 庸夫
福島人絹	一四,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	川西 清司
富士織維	一〇,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	八代 祐太郎
大日本セルロイド	二〇,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	日比谷 平左衛門
大日本セルロイド	二〇,〇〇〇,〇〇〇	同 北區中ノ島二江商ビル(電北濱四六三一八)	後藤 正峯

(人絹) 會社一覽表

B

二三

(取締役會長)
(常務)

西宗 茂二

(人組) 旭ベンベルグ

鐵興社 一〇,〇〇〇,〇〇〇
 日本窒素肥料 二〇,〇〇〇,〇〇〇
 日本合成化學 一,五〇〇,〇〇〇

【本 社】 東京市日本橋區京橋三(電京橋一〇六二)
 【本 場】 大阪府北區宗是町一(電土佐堀八三五〇)
 【本 場】 大阪府北區伏見町二(電北濱二五二二)
 【本 場】 大阪府北區備後町二(電北濱二五二二)
 【本 場】 大阪府北區備後町二(電北濱二五二二)

B 二四

全國人絹會社工場要覽 (五十音順)

△日産能力ハ人絹スフ關係ノミヲ掲載
 △人絹聯所屬各社ノスフ紡機ノ日本スフ製造工業組合ヘノ登録種數ハ殆ンド所謂二重登録ノ模様ニテ人絹聯登録人絹種數中ニ含まレ
 ト見做サレル、從ツテ各社ノ掲載種數ハ人絹及スフ種數ノ合計ト見做サレル
 △日産種數ハ各社ノ回答悉ルカリシ爲便宜上一應〇〇〇〇ノ割合ニテ換算セリ

旭ベンベルグ絹糸株式會社

【本 社】 大阪府北區宗是町大阪ビル
 (電土佐堀四九〇二一四九〇五)
 桐生市織物街二號館
 (電桐生二七二七)

【創 立】 昭和八年七月

【資 本 金】 四六,〇〇〇,〇〇〇圓
 【株 本 金】 三七,〇〇〇,〇〇〇圓
 【株 本 金】 舊株 五六,〇〇〇圓
 新株 三六,〇〇〇圓

【最近配當】 昭和十二年下期 一割
 昭和十三年上期 一割

【決 算 期】 上半期 自十一月至四月
 下半期 自五月至十月

【株 式 相 場】 舊株 五〇圓 新株 二五圓
 實物 昭和十三年一月至七月
 舊株 最高 七五・五圓 最低 六五・〇圓
 新株 最高 四四・三圓 最低 三二・〇圓

【大 株 主】 日本窒素肥料 六七七・五六九 四五五・〇〇一
 アルゲメーネ・タンズジエー
 ウニエ會社 四三三・二二八 三一・三二八
 野口道三 二三・〇四〇 八・五二〇
 ベルグ會社 一九・九〇〇
 アイ・グリー・ファルベン・イン
 ダストリー會社 一七・〇〇〇

【役 員】
 取締役社長 野口道三
 取締役 堀川誠次
 取締役 市川次郎
 取締役 榎並直三郎

大津レヨン工場

所在地 滋賀縣大津市所製津町
 電大津二五六・三三六・五二七・五二八

事務課長 立川正三
 原液課長 高松榮太郎
 紡績課長 藤川唯爾
 仕上課長(兼) 辻井武吉
 機械課長(兼) 辻井武吉

日産能力 人絹 三五五
 奇性曹達回收 ダイヤライザー(九五%)
 職工數 男三,〇〇〇人 女五,五〇〇人
 敷地坪數 計八,五〇〇坪

所在地 延岡市大字恒富
 電延岡三一七・三二二

事務課長 鹿田秀夫
 原液課長 田村嘉顯
 紡績課長 吉川應
 仕上課長(兼) 辻井武吉
 機械課長(兼) 辻井武吉

日産能力 人絹 三五五
 奇性曹達回收 ダイヤライザー(九五%)
 職工數 男三,〇〇〇人 女五,五〇〇人
 敷地坪數 計八,五〇〇坪

延岡ベンベルグ工場

所在地 延岡市岡富 電延岡三四一

事務課長 飯島貞雄
 原液課長 伊藤重之
 紡績課長 竹尾考一
 仕上課長 片桐茂
 機械課長 濱田豊

日産能力 人絹 二五五
 奇性曹達回收 ダイヤライザー(九五%)
 職工數 男三,五〇〇人 女四,二〇〇人
 敷地坪數 計一,三〇〇坪

所在地 延岡市岡富 電延岡三四一

事務課長 飯島貞雄
 原液課長 伊藤重之
 紡績課長 竹尾考一
 仕上課長 片桐茂
 機械課長 濱田豊

日産能力 人絹 二五五
 奇性曹達回收 ダイヤライザー(九五%)
 職工數 男三,五〇〇人 女四,二〇〇人
 敷地坪數 計一,三〇〇坪

(人組) 旭ベンベルグ

B 二五

(人絹) 出雲製織・鐘紡

計七、七〇〇人
一〇八、〇〇〇坪

出雲製織株式會社

【本社】 島根縣蘇州郡今市町
電今市一〇八
【營業所】 大阪市東區備後町三福業會館内
電本町一三二一
大正九年一月
【創立】 十二年四月、六月各一二圓五〇
【資本異動】 錢拂込徴収、十三年三月倍額増資第一回十二圓五〇錢拂込徴収
【資本金】 二〇、〇〇〇、〇〇〇圓
【拂込金】 一二、五〇〇、〇〇〇圓
【株數】 舊株 七二、〇〇〇
新株 一八、〇〇〇
【最近配當】 昭和十三年上期 一割
【決算期】 上半年期 自 十二月 至 五月
下半年期 自 六月 至 十一月
【一株拂込金】 舊株五〇圓 新株一二圓五〇錢
【株式相場】 現物 昭和十三年一月一七日
最高 七九、五圓
最低 五九、五圓
新株 同 一四、〇〇圓
昭和十二年
舊株 最高 八九、五圓
最低 五八、五圓

取締役 四方田保
同 藤及武太郎
同 佐藤 眞
同 米益 清一
監査役 飯田重之助
同 山田金右衛門
【製 品】 人絹、スフ
【生産設備】 人絹 日産能力 約一五廳
スフ
【生 産 高】 人絹(八月)
一、二〇D 三〇二、二〇〇封度
スフ(七月) 三九二、〇〇〇同
【工 場 敷】 一
【備考】 最近、軍トノ連絡一層密トナリソノ
點原料關係ソノ他テ比較的安心ナリ、詳細ハ
總務會社ノ部參照
石見人絹工場
所在地 島根縣美濃郡高津町
電高津一
沿革 (昭和十年一月起工、同年十二月
六日運轉開始)

商 標 珊瑚、眞珠
生産設備 人絹 日産能力 一五廳
スフ
電力使用量 (八月末現在)
受電 三、〇〇〇K.W.H.
計 二、一六〇、〇〇〇
高津川
一日使用水量 三〇個
農林省指定様式
職 工 數 男九〇〇人 女一、一〇〇人
計二、〇〇〇人
敷地坪數 九〇、六〇〇坪
建物坪數 一三、九七六坪

【備考】 詳細ハ「綿紡績」參照
【本 社】 東京市向島區隅田町二
電墨田二〇九
【營業所】 神戸市林田區御崎町一
電兵庫八〇
【出張所】 大阪市東區備後町三福業會館内
電本町一七七八
【創 立】 明治十九年十一月
【沿革】 綿紡績會社ノ部參照
【倍額増資】 昭和十三年十月一日倍額増資ト
ナリ從來ノ六千萬圓ヨリ一億二
千萬圓トナル、十一月一日一株
ニツキ十二圓五十錢ノ拂込徴収
【資本金】 一、二〇、〇〇〇、〇〇〇圓

(人絹) 鐘紡・錦華紡

【拂込金】 七五、〇〇〇、〇〇〇圓
【株數】 舊株 一、二〇〇、〇〇〇
新株 一、二〇〇、〇〇〇
【決算期】 上半年期 自 十一月 至 五月
下半年期 自 六月 至 十月
【最近配當】 昭和十二年下期 二割五分
同 十三年上期 二割五分
【一株拂込金】 舊株 五〇圓
新株 一二圓 五〇錢
【株式相場】 現物 昭和十三年一月一七日
最高 二九〇、六圓
最低 二〇〇、六圓
昭和十二年
最高 三四三、六圓
最低 二〇五、一圓

【備考】 十月一日倍額増資ト同時ニ從來ノ鐘
紡ノ織維工業以外ノ兼營ヲ鐵鋼實業ニ譲渡ス
ル事ニナツタ、康徳堂バルブ(第一期)年産七、
〇〇〇廳ノ操業開始ス、再生絹糸ノ生産ハ日
産二廳

防府人絹工場
所在地 山口縣防府市三田尻
電二三八・三三九・六六五
沿革 (昭和九年十二月建設着工、同十
年十一月人絹糸操業開始(五廳)
同十一月人絹糸一〇廳増
設、同十二年四月スフ三〇廳増
設)

工場長 渡邊定範
工務主任 土井 豊治
人絹工場主任 森 亮一
光棉工場主任 石田橋次郎
原動部主任 櫻田 儀正
人絹 一五廳 スフ 三〇廳
人絹糸 マルチ一〇〇デニール
同 一二〇同
同 一五〇同

商 標 スフ
原動機 電力 五、〇〇〇キロ
職 工 數 男一、七〇〇人 女九〇〇人
計二、六〇〇人
敷地坪數 一五四、〇〇〇坪
建物坪數 九、〇〇〇坪

【備考】 詳細ハ「綿紡績」參照
【本 社】 金澤市大豆田町一
電三九三〇
【營業所】 大阪市東區瓦町二、三和ビル

高砂人絹工場
所在地 兵庫縣加古郡高砂町
電一〇八・一七三・三三四
沿革 (昭和十年一月建設着工、同十
一年三月操業開始)

工場長 北野榮政
工務主任 山本 謙二
人絹工場主任 城 後 甚
光棉工場主任 前 納 廣 吉
原動部主任 田 中 菊 夫
人事主任 景 山 從
人絹 一二〇特種糸
紡糸法 ボビン式
光棉 卷取法 連續法
鐘、竹皮

商 標 鐘、竹皮
日産能力 人絹 五廳 光棉 一五廳

平塚工場 (建設中)
所在地 朝鮮平壤府船橋里
電平壤二〇七一
人絹一〇廳、完成ハ十三年末カ
十四年早々ノ豫定

錦華紡績株式會社
【備考】 詳細ハ「綿紡績」參照
【本 社】 金澤市大豆田町一
電三九三〇
【營業所】 大阪市東區瓦町二、三和ビル

B 二七

B 二六

【沿革】昭和八年二月當錦華紡績ノ姉妹
 立サレシモ同十三年七月二十六
 日再ビ錦華人絹ヲ合併ス

【資本金】三三、〇〇〇、〇〇〇圓
 【株数】二二、六八四、五〇〇圓
 【決算期】上半期 自 十二月 至 五月
 下半年 自 六月 至 十一月
 【最近配當】昭和十二年下期 一割
 同 十三年上期 一割(普)

【日産能力】約三二噸(人絹)
 (メフ)

【生産高】人絹(八月)
 四〇六、八〇〇封度
 (メフ七月)
 七七一、〇〇〇同

【銘柄】錦華(内地向)Alps(輸出向)普
 通人絹マルチ
 錦旗標 スフ

所在地 廣島市宇品町 電六六〇〇

沿革 昭和八年二月錦華紡績株式會社
 ノ姉妹會社トシテ錦華人絹株式會社
 錦華紡績ニ合併サレテ今日ニ至

主要職員
 工場長 藤岡 繁二
 副工場長 辻川 英一

廣島人絹工場

倉敷絹織株式會社

【東京出張所】東京市日本橋區大傳馬町二丁目
 一傳馬ビル六階
 電浪花一九一五―六

【創立】大正十五年六月
 大正十年六月設立、昭和九年三
 月日本化學製糸株式會社ト合併
 資本金三萬圓トナル、同十年
 十一月中國レリオン株式會社ト
 合併、資本金五萬圓ニ増額

【資本金】五〇、〇〇〇、〇〇〇圓
 【株数】三〇、〇〇〇、〇〇〇圓
 【決算期】新株 二〇〇、〇〇〇
 第二新株 四〇〇、〇〇〇
 上半期 自 十二月 至 五月
 下半年 自 六月 至 十一月

【最近配當】昭和十二年下期 年一割
 同 十三年上期 年一割

【株式相場】現物 昭和十三年一―七月
 最高 八三、一圓
 最低 五八、五圓
 新株 同 四六、〇圓
 同 四五、〇圓
 昭和十二年
 舊株 最高 一一二、〇圓
 最低 六四、五圓
 新株 同 九五、〇圓
 同 四八、八圓

【役員】社長 大原孫三郎
 副社長 神田 柳吉
 常務取締役 高橋 雄吉

【生産高】人絹(八月)
 一〇〇D以上 三三、四〇〇封度
 一〇〇D 一、一七四、一〇〇同
 一五〇D 一、一五〇〇同
 合計 一、二一九、〇〇〇同
 (メフ七月) 一、二二三、〇〇〇同
 (メフ七月) 一、二二三、〇〇〇同

【職員数】男七四一人 女八人
 計八二人
 男三、八三五人 女二、一六六人
 計五、九六一人

【工場数】四
 (備考)倉敷工場スフ日産一〇噸新設十三年
 下期竣工豫定西條工場スフ日産一〇噸増設、
 十三年下期竣工豫定岡山工場ニ萬人絹マルチ
 工場日産二〇噸新設、十四年上期竣工豫定

所在地 岡山縣都窪郡中洲村大字酒津
 電倉敷五八〇―一二
 昭和三年五月

主要職員
 工場長 原 林謙太郎
 事務課長 楠本 正治
 人事課長 野村 重基
 製造課長 太田 正治
 機械課長 日産能力 人絹 二四噸 スフ 四三七噸

【主要職員】

取締役 原 澄三
 同 吉井 伸助
 同 柿原 得一
 同 三村 起一
 同 大原 五郎
 同 大村 純一
 同 中村 純一
 同 大森 實

監査役 大 中村 純一
 同 大森 實

庶務課長 中 村 健
 秘書課長 福 成 常三
 會計課長 仙 石 襄
 製造課長 高 城 茂一郎
 製織課長 水 野 金雄
 機械課長 若 木 望太郎
 人事課長 福 井 周藏
 調査課長 根 來 謙三
 研究所長 友 成 九十九

【大株主】
 倉敷紡績株式會社取締役社長
 大原孫三郎 一七五、五〇三
 大原合資會社業務執行社員
 石井 熊夫 一〇六、四一九
 株式會社住友本社代表取締役
 小倉 正恒 一八、八〇〇
 住友鐵業株式會社事務取締役
 三村 起一 二七、〇〇〇
 住友化學工業株式會社事務取締役
 大 屋 敏 一、二八〇〇

(人絹) 倉絹

【投資會社】

第一鐵兵保險株式會社取締役社長
 太田新吉 一、二一四
 大株代行株式會社取締役社長
 黒川福三郎 一〇、四九〇
 原 澄 一〇、〇〇四
 住友吉右衛門 一〇、〇〇〇
 株式會社中國銀行取締役頭取
 大原孫三郎 九、九五〇
 廣海二郎 七、三二〇
 神田 柳吉 五、九五五
 株式會社福井銀行頭取
 市橋保治郎 五、二五六
 溝手 一 雄 五、一四二
 野 門 恒 四、五〇〇
 三宅 金 作 四、四二三
 長 馬 悅 藏 四、四一六
 千代田生命保險相互會社取締役社長
 今井利喜三郎 四、四一〇
 獎農土地株式會社取締役社長
 石井 熊夫 三、七五四
 柿原 得一 三、三四四
 國策パルプ工業、株式會社北支
 那開發株式會社、中支那振興株
 式會社、住友金屬工業株式會社
 倉敷紡績株式會社、敷島織布株
 式會社、富國人絹パルプ株式會
 社、四國中央電力株式會社、千
 住製絨所株式會社
 倉敷(内地向)金二馬(輸出向)普
 通人絹
 白クラス(内地向)金三馬白クラ

倉敷工場

【日産能力】極光(メフ)
 人絹總數五六、八六〇噸、八一噸
 (同答八四噸)、スフ六〇噸

【生産高】一〇〇D以上 三三、四〇〇封度
 一〇〇D 一、一七四、一〇〇同
 一五〇D 一、一五〇〇同
 合計 一、二一九、〇〇〇同
 (メフ七月) 一、二二三、〇〇〇同
 (メフ七月) 一、二二三、〇〇〇同

【職員数】男七四一人 女八人
 計八二人
 男三、八三五人 女二、一六六人
 計五、九六一人

【工場数】四
 (備考)倉敷工場スフ日産一〇噸新設十三年
 下期竣工豫定西條工場スフ日産一〇噸増設、
 十三年下期竣工豫定岡山工場ニ萬人絹マルチ
 工場日産二〇噸新設、十四年上期竣工豫定

所在地 岡山縣都窪郡中洲村大字酒津
 電倉敷五八〇―一二
 昭和三年五月

主要職員
 工場長 原 林謙太郎
 事務課長 楠本 正治
 人事課長 野村 重基
 製造課長 太田 正治
 機械課長 日産能力 人絹 二四噸 スフ 四三七噸

（人絹）倉絹・昭和人絹

擴張計畫
工場日産一〇〇〇〇
職工數
下期竣工決定
男一、〇七七人 女六七〇人
計一、七四七人

岡山工場

所在地 岡山市福島
電話六七八一―二
昭和十一年八月

工場長 橋本富三郎
庶務課長 榎本政一
人事課長 笠原旭
製造課長 今村晴男
機械課長 大山駿介
日産能力 男七九六人 女六五二人
職工數 計一、四四八人
敷地坪數 二二七、六〇九坪
建物坪數 延坪二八、六八四坪

新居濱工場

所在地 新居濱市甲一、五四四
電話四五五六五番
昭和八年十一月

（昭和七年八月）

昭和七年八月日本化學製糸株式會社創立、同九年三月現
在ノ倉敷絹織株式會社ニ合併
工場長 西村捨五郎
人事課長 木村捨三郎
製造課長 森分好雄
日産能力 男一、〇四七人 女五〇〇人
職工數 計一、五四七人
敷地坪數 延坪二二、四四五坪
建物坪數 延坪二二、四四五坪

西條工場

所在地 愛媛縣新居郡西條町
電話二四一―〇
昭和十一年七月二十七日

工場長 中村道雄
人事課長 川崎盛三
製造課長 波邊市郎
機械課長 紀野久次郎
日産能力 男九一五人 女三〇四人
職工數 計一、二一九人
敷地坪數 延坪二二、四四五坪

B 三〇

昭和人絹株式會社

建物坪數 延坪一八、四八〇七坪
【本社】 東京市京橋區寶町一ノ七
電話橋(五五)一〇〇八・一五一一
二〇九六・六〇〇四・三六〇〇
大阪市東區安土町伊藤忠商事内
【出張所】 電本町三〇五一
昭和九年八月資本金五〇〇萬圓
ニテ創立、同十年二月國光レ
ヨテ合併、同十一月三〇日同
二〇〇〇萬圓、同十一月三〇日同
併二一、四八千圓、生産設備
モ資本金ニ併シ増ス
【創立・沿革】
【資本金】 二一、四八〇〇〇圓
【株數】 全額 四二四、九六〇
【決算期】 上半期 自十二月至五月
下半年 自六月至十一月
【最近配當】 昭和十二年下期 八分
昭和十三年上期 八分
【株式相場】 現物 昭和十三年一―七月
最高 五六、三圓
最低 四一、〇圓
昭和十二年申
最高 七六、〇圓
最低 二八、五圓
【役員・主要職員】
取締役社長 高橋保三
専務取締役 井上富三

取締役 森英夫 伊藤三 吉田勇 岩崎清七 河西豊太郎 伊藤忠兵衛 伊藤竹之助 松岡潤吉 石井太吉 岡田壯四郎 金子成通 豊田利三郎 牧文雄
監査役 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同
本社經理課長 同

【鉨柄】 二〇〇D以上 六一、四〇〇同
合計 七〇二、七〇〇同
スフ(七月) 六六五、〇〇〇同
昭和(内地)向Sanurri(輸出向)
普通入絹 電力自給一、五〇〇kw(錦工場)
同 一、〇〇〇kw(高萩工場)
【藥品工場設備】 苛性ソーダ 三五噸
硫酸(九八%) 八五噸
二硫化炭素 一〇〇噸
過燐酸石灰 二五噸
二七噸

工場長 山本三郎
事務課長 大門泰治
製造課長 里村長之助
人造絹糸及スフ 人絹 一七、八〇〇噸
スフ日産 八噸
電力自給 一、五〇〇kw
敷地坪數 九〇、五九二坪

【大株主】

吳羽紡績株式會社 一四八、四〇〇
豊田式織機株式會社 一七、四二七
高橋商事株式會社 一六、二五〇
第一徴兵 一〇、〇〇〇
保險株式會社 九、四〇〇
森興業株式會社 四、三二〇
山一證券株式會社 三、一五〇
鈴木三榮株式會社 三、〇〇〇
富國徴兵 保險株式會社 三、〇〇〇
野間清治 二、五〇〇
千代田證券株式會社 二、五〇〇
投資會社 豊科紡績、日本光棉 一、二〇〇
日産能力 人絹、スフ 約四八噸
生産高 人絹(八月) 一、二〇〇
一五〇D 五二五、四〇〇封度
一五〇D 一二五、九〇〇同

【工場數】 三
【職工數】 男約三、〇〇〇人 女約二、〇〇〇人 計約五、〇〇〇人
【所在地】 福島縣石城郡錦村
電植田二四・二五・一三一
勿來五六
昭和九年人絹日産一二噸並ニ所
要藥品自製自給ノ計畫ヲ以テ建
設工事着手、翌十年六月工事建
完工、引續キ人絹日産七・五噸
ノ増設計畫ヲ立テ、十一月三
人絹工場紡糸機械並ニ仕上室等
ヲ備ケク

工場長 山本三郎
事務課長 大門泰治
製造課長 里村長之助
人造絹糸及スフ 人絹 一七、八〇〇噸
スフ日産 八噸
電力自給 一、五〇〇kw
敷地坪數 九〇、五九二坪

(人絹) 昭和人絹

B 三一

津工場
所在地 三重縣安濃郡安東村
三重大人絹合併當社工場トナル
松谷榮太郎
日産 約一、八〇〇噸
伊保工場
所在地 兵庫縣印南郡伊保村
兵庫縣印南郡伊保村
吳羽系ノ龍山人絹株式會社トシ
テ設立、工事業上、昭和八年ニ
合併シ、シモノナラシメ、昭和
手金調整法ノ發令ニ適ヒ建設
マ、放シタル状態ナリ

庄内川レーヨン株式会社

(人絹) 庄内川レーヨン・第二帝人

【本 社】 名古屋西區堀越町字乘越二三
八 電長西代表五三八五

【創立・沿革】 昭和七年十二月十二日、同八年
十月操業開始

【資本金】 六、〇〇〇、〇〇〇圓

【株 金】 四、五〇〇、〇〇〇圓

【株 金】 舊株 六〇、〇〇〇圓
新株 六〇、〇〇〇圓

【決 算 期】 上半期 自 四月 至 九月
下半期 自 十月 至 三月

【最近配當】 昭和十二年下期 七朱
昭和十三年上期 七朱

【一株拂込金】 舊株 五〇圓
新株 一二圓五〇錢

【役員及主要職員】

- 取締役社長 豊田利三郎
常務取締役 豊田喜一郎
取締役 西川秋次
取締役 鈴木利藏
取締役 三好甲子郎
取締役 岡本藤次郎
取締役 竹内登吉
取締役 岡部岩太郎
取締役 三好甲子郎

豊田紡織株式会社 二五、三〇〇 二四、三〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

株式會社 一〇、〇〇〇

本社工場

所在地 名古屋西區堀越町字乘越二三
八 電長西代表五三八五
昭和七年十二月十二日、同八年
十月操業開始

第二帝國人絹株式会社

【本 社】 大阪市北區中ノ島二江商ビル
電北濱三一八・三一八九
昭和九年九月十二日創立、同十
一年二月操業開始
昭和十年十月第二回二十圓五十

Table with columns: 工場長, 技術者, 主任, 庶務, 事務, 人事, 労務, 衛生, 福利, 教育, 訓練, 設備, 動力, 原動機, 職工數, 敷地坪數, 建物坪數. Includes names like 三好甲子郎, 杉江新太郎, etc.

【資本金】 二、〇〇〇、〇〇〇圓
【株 金】 一〇〇、〇〇〇圓
【株 金】 四〇〇、〇〇〇圓

【決 算 期】 上半期 自 十一月 至 四月
下半期 自 五月 至 十月

【最近配當】 昭和十二年下期 一割二分
昭和十三年上期 一割二分

【株式相場】 最高 八三・三圓
最低 五三・〇圓

【役員】

- 社長 藤 逸三
常務取締役 久村 清
取締役 永田 興
取締役 大橋 久
取締役 大屋 晋一
取締役 吉川 三
取締役 大岡 房
取締役 東川 成
取締役 宇田 義
取締役 岡田 和
取締役 岡崎 人

太陽レーヨン株式会社

【本 社】 大阪市東區南久太郎町阿部市ビ
ル 電船場一七七
昭和九年一月十六日創立、同十
一年四月操業開始
十二年三月十二圓五十錢拂込徴
收、六月十二圓五十錢拂込徴收、
八月一、五〇〇萬圓増資、第一回
十二圓五十錢拂込徴收

【資本金】 二五、〇〇〇、〇〇〇圓

【株 金】 一三、七五〇、〇〇〇圓

【株 金】 舊株 二〇〇、〇〇〇圓
新株 三〇〇、〇〇〇圓

【決 算 期】 上半期 自 十二月 至 五月
下半期 自 六月 至 十一月

【最近配當】 昭和十二年下期 八分
昭和十三年上期 八分

【商 標】 山 口 繁 四、九五〇
山 本 生 命 三、九三三
日 本 附 政 次 郎 二、六四〇
藤 本 證 券 二、六二六
野 淵 清 嗣 二、六〇〇
河 原 宇 平 二、一八〇
九 二 商 店 一、六一〇
伊 藤 平 治 郎 一、五〇〇
【投資會社】 帝人ノ子會社
【製 品】 人絹、スワ
【日産能力】 人絹約三七萬(十三年八月末)
【月 産 高】 人絹八月實產高
一〇〇D以下 四三、五〇〇封度
一〇〇D 四三九、〇〇〇同
一五〇D
二〇〇D以上
合計 四八二、五〇〇封度
スワ(七月) 七〇一、〇〇〇同
人絹普通糸 天橋、三原、工場
印(内地向)
天橋、美女、工場印(輸出向)
マルチネ、ダイヤ、白ダイヤ、
スパーバードイヤ
【備考】 藥品自給計畫ハ現況ニ鑑ミ考慮中

【資本金】 二五、〇〇〇、〇〇〇圓
【株 金】 一三、七五〇、〇〇〇圓
【株 金】 舊株 二〇〇、〇〇〇圓
新株 三〇〇、〇〇〇圓
【決 算 期】 上半期 自 十二月 至 五月
下半期 自 六月 至 十一月
【最近配當】 昭和十二年下期 八分
昭和十三年上期 八分
【一株拂込金】 現物 昭和十三年一・七圓
舊株 五〇圓 新株 二圓五〇錢
【株式相場】 最高 五八・六圓
最低 四〇・〇圓
新株 同 一九・三圓
昭和十年中

(人絹)太陽レヨン・日本紡

【役員】

社長 田村駒治郎
取締役 田村駒治郎
監査役 阿部市太郎

【主要職員】

販賣課長 廣海一夫
庶務課長 田村基三郎
購買課長 本庄三郎

舊株(最高) 七三、〇〇〇
新株(同) 二二、〇〇〇

B 三四

大垣工場

所在地 大垣市藤江町 電大垣七九五
昭和十二年五月着工、同十三年三月竣工、付テ終リ四月ヨリ操業ヲ開始セリ

朝鮮成興工場

所在地 朝鮮咸鏡南道咸興府沙浦里
(目下建築進行中)
(概要) 一時ノ人絹工場ノ朝鮮進出爲出モ戰時統制ニテ淘汰サレ残存セシハ日紡清津工場

大日本紡績株式會社

(備考) 詳細ハ「輪紡篇」參照
【本社營業所】 大阪市東區安土町二 電本町三三四・四〇一

【創立】

明治二十二年六月
當社ノ人絹部門トシテハ最早ニ朝鮮清津工場ノ建設ヲ計畫シ、樹テ日下給テ完成ヲ見ルニ至ツタ、併シ十三年九月岸和田人絹工場ヲ充テニオサメ以テ人絹部門ノ充實ヲミルニ至ツタ

【資本】

資本金 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
株式總數 一〇〇、〇〇〇株

【最近配當】

昭和十二年下期 一割二分
昭和十三年上期 一割二分

【株式相場】

現物 昭和十三年一月至七月 最高 一〇七、二〇〇
最低 九三、三〇〇

(人絹) 日本紡・帝人

大垣人絹工場

所在地 岐阜縣大垣市本今町
昭和十一年四月完全操業
昭和九年七月岸和田人絹創立サレ、同大垣工場ハ十一年四月完全操業ヲ見タモノナルガ、十三年同岸和田人絹ノ大日本紡績ニ合併シ、同日大垣工場トナル

清津工場

所在地 朝鮮咸鏡北道清津府永南洞
大阪市東區安土町二 大日本紡績
大阪本町三三四
内 電本町三三四
人絹日産二〇〇〇疋ノ計畫ニテ建設中ナルモ冬季凍結ノ爲ケケ月建完成延引シ十四年春頃トナラン

帝國人絹株式會社

本社 大阪市北區中之島二丁目二五

【出張所】

江商ビル 江商ビル
電北濱白四六三一至四六三八
東京出張所 東京市日本橋區室町四丁目(近三ビル)
電日本橋長一八三二

B 三五

(人組) 帝人

【沿革】 月十七日創立總會ヲ開キテ此處ニ始メテ當社成立セリ、當時ノ資本金ハ一〇〇萬圓、四分ノ一ノ拂込ナリキ。續イテ大正十年ニハ廣島工場、同十五年ニハ岩國工場夫々竣工シ、鋭意設備ノ擴張ト技術ノ進歩ヲ圖リシカモ終始一貫邦人技術ノミノ手ニヨリテナサレ、更ニ昭和八年廣島縣三原町ニ新工場ヲ定メテ直チニ其建設ニ着手シ、同九年十月竣工、一方大正十四年六月四〇〇萬圓増資、大正十五年五月七五〇萬圓増資、昭和二年六月八五〇萬圓増資シテ資本金二、一〇〇萬圓全額拂込トナリ、更ニ昭和八年一、五〇〇萬圓(四分ノ一拂込)ヲ増資シテ資本金三、六〇〇萬圓ノ本邦有数ノ大會社トナリ終ニ今日ノ如キ新界ニ卓越セル地位ヲ占ムルニ至レリ、昭和九年九月十二日直系會社第二帝國人組株式會社(資本金二、〇〇〇萬圓)ヲ設立ス、同年十月十日新株式第二回株金拂込徴收十二年七月一日第三回拂込徴收

【一株拂込金】 下期自 六月 至十一月 舊五〇圓 新三七圓五〇錢
【最近配當】 昭和十三年上期 十二年下期共 一割五分
【株式相場】 昭和十一年一、七月 舊株 安値 一四四、七 高値 一〇三、五 新株 安値 一三〇、七 高値 八五、〇 同十年下期 舊株 安値 一六四、四 高値 一三五、〇 新株 安値 一三七、六 高値 八八、一

【役員】 取締役社長 久村清三 常務取締役 永田逸三 取締役 吉川義房 同 東川義房 同 宇田義房 同 横田義房 同 小野三郎 同 飯高秀夫 同 中島啓一 同 大島啓一 同 吉岡壽人 同 岩國工場長 廣島工場長

(人組) 帝人

【大株主】 廣島工場長 泰逸三 帝人生命 一〇、二四〇 藤本ビルブローカー 一九、八六〇 野瀬清嗣 一七、四五〇 第二帝國人組、スフ約九三圓
【投資會社】 第二帝國人組(八月) 一〇〇D以下 三七、六〇〇封度 一〇〇D一、〇七一、九〇〇同 一〇〇D二、三四、九〇〇同 一〇〇D以上 四二、九〇〇同 特別株 六九、三〇〇同 合計 一、四五六、三〇〇封度 スフ(七月) 二、〇一七、〇〇〇封度
【銘柄】 天橋、三原、工場印(内地向)天橋、美女、工場印(輸出向)普通
【所在地】 廣島市南千田町 電話四五五〇一四五五
【沿革】 操短ニヨル休業ヲ當工場ニ振向一ケ目下休業中
【役員】 取締役社長 泰逸三
【株式相場】 八二五〇坪

三原工場

所在地 廣島縣三原市 電三原長三五〇

主要職員 工場長 大橋親二 事務部長 駒井節夫 技術部長 菊田秋夫 技術部長代理 米田茂夫 勞務課長 磯村茂夫 倉庫課長 宮浦巖太郎 製造課長 山口常太郎 製成品 相浦浩 職工數 三、四〇〇人 敷地坪數 約一〇萬坪

岩國工場

所在地 山口縣麻里布町 電岩國三九、一二一、三三〇 今津七四

主要職員 工場長 間室壽人 取締役 大橋親二 技術部長 和久利式 兼經理課長 甲斐多聞太 勞務課長 原口雄 倉庫課長 原口雄

(人組) 帝人・東洋レヨン

麻里布工場

製品 人組(艶消、ダイヤ、舊ダイヤ) スフ

敷地坪數 八〇、〇〇〇坪

所在地 山口縣麻里布町 電岩國二四六今津二〇〇、四二

主要職員 工場長 吉岡豐次 事務部長 宮城辨次 技術部長 西郡等 職工數 約二百人 敷地坪數 一、二〇、〇〇〇坪

東洋レヨン株式會社

本社 東京市日本橋區室町二ノ一三井三號館

出張所 電日本橋一五三一・二九二八 大阪市北區中ノ島三井ビル 電土佐堀六二二三

【沿革】 大正十五年一月 資本金一億圓ヲ以テ創立セラレ、東海千代田ノ南七ヶ坪ノ地ニ海濱工場ヲ建設シ着手シ、昭和二年八月ヨリ製造開始ス。昭和二年八月ヨリ製造開始ス。昭和二年八月ヨリ製造開始ス。

B 三七

【資本異動】 産三原ナリシモ逐年擴張シ、現在、日産七八圓ニ及ベリ、昭和八年三月三十萬圓ニ増資、十年三月十二圓五十錢拂込徴收、十二年九月十二圓五十錢拂込徴收
【資本金】 三〇、〇〇〇、〇〇〇圓
【株數】 二五、〇〇〇、〇〇〇圓
【決算期】 新株 四〇〇、〇〇〇圓 上半年自 十二月 至 五月 下半年自 六月 至 十一月
【最近配當】 昭和十二年下期 一割二分 昭和十三年上期 一割二分
【株式相場】 現物 昭和十三年一、七月 最高 一〇七、八圓 最低 六八、一圓 同 十二年 最高 一二一、八圓 最低 七七、六圓
【役員】 取締役社長 辛島淺彦 専務取締役 井上治一 常務取締役 小澤武 取締役 石田禮助 佐々田彰夫 中村幸助 若林卯三郎 高木茂樹 同 同 同 同 同

(人絹)東洋レヨン・東洋紡

同 佐羽太三郎
同 秋庭義清
同 宋戸干願

【大株主】 三井物産 株 五、六三〇株
三井物産 株 二、三九八株
三井物産 株 二、〇四一〇株
三井物産 株 八、八一〇株
三井物産 株 六、五〇〇株
三井物産 株 六、〇〇〇株
三井物産 株 四、〇〇〇株
三井物産 株 四、〇〇〇株
三井物産 株 四、〇〇〇株
三井物産 株 四、〇〇〇株

【投資会社】 東洋紡績、朝鮮レヨンを曹連
【生産能力】 人絹、スフ 約七三三三
【生産高】 人絹(八月) 一〇〇〇以下 五、六〇〇封度
一〇〇〇一、四〇六、七〇〇同
一五〇〇 二一、〇〇〇同
二〇〇〇以上 四六、〇〇〇同
特殊糸 二九、一〇〇同
合計 一、五〇八、四〇〇封度
スフ(七月) 一、〇二二、〇〇〇封度

【銘】 柄 東洋普通糸、東洋マルチ(艶付又ハ艶消)マルチ糸、マツトヨ
一セルトヨ、超マルチ(特殊糸)輸出向高標(萬壽宮標、)

B 三九

滋賀工場

所在地 大津市石山北大路町
電大津一五〇一
昭和二年八月ヨリ操業、當初日産三三三三、爾來引續キ擴張、現在日産七八八、スフ一〇題ニ及ブ
(常務取締役)小澤武
工場長 約七、〇〇〇人
職工數 一七八、九一七坪
敷地坪數

東洋紡績株式會社

【備考】 詳細ハ「紡績」參照
【本社】 大市北區堂島濱通二丁目
電北一六〇〇一、一六〇〇八、一八〇〇四、八三六〇一、八三六〇四、一〇〇五、六四一四、二四八四、三四三七
【人絹關係】 人絹、昭和三年三月創立操業開始、昭和九年六月二十二日昭和レヨンを株式會社ヲ合併ス
【資本金】 七二、七二五、〇〇〇圓
【拂込金】 全額拂込済
【株數】 一、四五四、五〇〇株
【決算期】 上半期 自 十二月 至 五月 下半期 自 六月 至 十一月
【最近配當】 昭和十二年下期 特 六分
昭和十三年上期 特 六分
普通 一割二分
現物 昭和十三年一、七月

【最高】 一九三、一〇〇圓
【最低】 一四七、〇〇圓
【平均】 一五八、〇〇圓

【人絹關係社員】 商事課長 有元 憲
人絹掛主任 藤田芳三郎
商事課主任 藤田芳三郎
掛主任 藤田芳三郎
工務課長 富久力 松
人絹課長 富久力 松

【生産能力】 人絹、スフ 五五五五
【生産高】 人絹(八月) 一〇〇〇以下 一〇、六〇〇封度
一〇〇〇一、七四一、六〇〇同
一五〇〇 一〇六、九〇〇同
合計 八五九、一〇〇封度
スフ(七月) 一、六一二、〇〇〇封度

堅田人絹工場

所在地 滋賀縣堅田町
電堅田一八四五
大正十五年三月東洋紡績堅田工場トシテ設立サレ、昭和三年三月昭和三十四年株式會社トシテ獨立シ、昭和九年三月五〇萬圓全額拂込シテ資本金一、〇〇〇萬圓ヲ定メ、昭和九年再ビ東洋紡ニ合併サレタ

(人絹)東洋紡・東京人絹

B 三九

東京人造絹絲株式會社

【本社】 東京市日本橋區大傳馬町二丁目
一、番地一(電浪花國代表一一九一・四)五五五二
【營業所】 本社
大阪市東區備後町二丁目五六第六
二野村ビル
電本町四一七〇九
【桐生出張所】 桐生市
【福井出張所】 福井市
【創立】 大正十五年四月二日
大正十一年五月現社長町田徳之助個人ニテ獨乙人技師ヲ招聘シ

岩國人絹工場

所在地 山口縣玖波郡瀬村
電瀬生二〇二一
原動機 一二、〇〇〇馬力
職工數 約七〇人
敷地坪數 一、二五、〇〇〇坪
建物坪數 三七、〇〇〇坪
主要職員 工場長 斧原甚三郎
人事課主任 米村和一郎
家務會計 原田一章
倉庫係 長澤 進
職工數 一、〇〇〇人
敷地坪數 一四九、〇〇〇坪

製品・商標 人絹、スフ共 孔雀、金蟻、眞珠
主要職員 工場長 和田鴻次郎
工務主任 小口源三
人事掛 田中 優
庶務掛 原健三
倉庫掛 富男
原動機 四、五〇〇キロ
紡糸機 一五、七〇〇錘
人絹 三〇〇錘
スフ 三〇〇錘

職工數 男一、五〇〇人 女一、七〇〇人
敷地坪數 八六、四四三坪
建物坪數 二五、四〇五坪

敦賀人絹工場

所在地 敦賀市津内
電敦賀三七・七三八
二七題(人絹、スフ共)
主要職員 工場長 太田豊彦
副工場長 落合和一
工務掛主任 増田周二
人事掛 米村和一郎
庶務掛 西塚建二
倉庫掛 馬場一夫
紡糸機 一六、〇〇〇錘
織機 三〇、〇〇〇錘

(人相) 東京人相

同神奈川カネコ工業株式會社... 昭和十二年九月臨時株主總會... 昭和十三年上期年八分...

【役員】

取締役社長 町田德之助... 専務取締役 小島喜六... 常務取締役 渡邊正吉...

B 四〇

【沼津工場】 化學課長 鈴木春彦... 製糸課長 齊藤尊郎... 工場長 湯淺徹也...

【鉛】

【錫】

合 計 四 五〇、三〇〇封度... 富士(普通入相マルチネ)... 白富士(特殊入相)...

【藥品及バルブ工場】

現在沼津工場ニ硫酸(五〇%)ニ... 硫化炭素(二〇%)工場アリ、又... 吉原工場ニ苛性ソーダ工場(一〇%)...

【職員數】

男一五〇人 女五人... 計一五五人

【工場數】

計三、〇〇〇人 女一、二〇〇人

吉原工場

所在地 靜岡縣富士郡吉原町... 電長二〇〇・四〇〇・四四〇... 大正十五年四月...

主要職員

常務取締役 小島喜六... 兼工場長 柏木登... 技師長 鈴木春彦...

(人相) 東京人相・日本レイヨン

生産設備

町田三七七噸... (日産三五噸) スフ(日産一二噸)

生産高

一〇〇D以下 六、二〇〇封度... 一〇〇D 三〇九、〇〇〇同... 一五〇D 一一二、八〇〇同...

新設計畫

日産一〇〇噸 苛性曹達工場... 日産一〇〇噸 バルブ工場

原動機

發電設備 八、五〇〇kw... (外ニ豫備機二四、〇〇〇kw)

職工數

男約一、〇〇〇人... 女約一、〇〇〇人... 計約二、〇〇〇人

敷地坪數

約九〇、〇〇〇坪... 二五、〇〇〇坪

建物坪數

約九〇、〇〇〇坪

所在地

沼津市本字七通

主要職員

工場長 湯淺徹也... 經理課長 金井俊介... 化學課長 伊達正巳...

日本レイヨン株式會社

大阪市東區北久太郎町三丁目三... 八(電船場)二二四二・二二八... 七・長二七二・二二四三...

B 四一

【役員及主要職員】	取締役社長 菊池文吾	取締役副社長 松野源一	取締役 小寺源吾	取締役 森田丁也	取締役 宇野賢一郎	取締役 伊藤宗次郎	取締役 岩田宗次郎	取締役 今村奇男	取締役 岡代重三	取締役 岩井武雄	取締役 宇野賢一郎	取締役 高谷俊吉	取締役 砂川忠徳	【大株主】	大日本紡績 一三、三九〇株	仁壽生命保険 九、〇〇〇株	菊池文吾 五、四二八株	上山勲太郎 五、五七二株
-----------	------------	-------------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	----------	-----------	----------	----------	-------	---------------	---------------	-------------	--------------

【生産能力】	人絹(八月) 約二二〇〇	一〇〇D以下 七、五〇〇封度	一〇〇D 二七三、七〇〇同	一五〇D 五六、〇〇〇同	合計 三三七、二〇〇封度	スフ(七月) 六一九、〇〇〇封度	花鳥踏(普通入絹)、白福面(内地向)、アイヌホッケ(輸出向)マルチ糸	【職工数】	男三、一一人 女二、七一人	計五、八二人	【工場敷】	二(宇治、岡崎)	【工場】	宇治工場	所在地 京都府久世郡宇治町	電号 宇治一〇一・一四六	主要職員	工場長 川井眞三郎	庶務課長 上山正雄
--------	--------------	----------------	---------------	--------------	--------------	------------------	------------------------------------	-------	---------------	--------	-------	----------	------	------	---------------	--------------	------	-----------	-----------

【生産能力】	人絹(七月末) 三五五	月末) 三五五	鳥印、日ノマル、雲馬、天壇牌	【職工数】	男一、七九四人 女一、三一〇人	計三、一〇四人	【工場敷】	七三、五〇〇坪	【工場】	岡崎工場	所在地 愛知縣岡崎市日名町	電号 岡崎一一三四・一二一四	主要職員	工場長 森田丁也	工場代理 兒玉慶次	庶務課長 平山秋夫	事務課長 藤生春治	人事課長 安部榮七	倉庫係 久瀬政一	原液部 野山政二	紡糸部 村山清之助	精練漂白部(兼) 兒玉慶次	仕上 築部 兒玉慶次	日産能力	人絹(八月末) 三三三	スフ(八月末) 一七、五〇〇	鳥印、日ノマル、雲馬、天壇牌
--------	-------------	---------	----------------	-------	-----------------	---------	-------	---------	------	------	---------------	----------------	------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	----------	-----------	---------------	------------	------	-------------	----------------	----------------

日清紡績株式会社

【備考】	詳細ハ「綿紡績」参照	【本 社】	東京市東區龜戸町二	【營業所】	東京市日本橋區浪花町二〇	【大阪出張所】	大阪市北區中ノ島近藤ビル	【名古屋出張所】	電北濱二四六三・二四六四	【名古屋出張所】	名古屋市中區下町第一ビル	【青島出張所】	電本局一六五・一六八	【青島出張所】	青島市外下四方庄	電青島二二八四・二二八八	【人絹關係】	昭和八年二月日清レイヨン株式會社、日清紡績子會社トシテ創立、昭和十三年九月二十六日、親會社ニ合併	【決算期】	上半期 自 十二月 至 五月 下半年 自 六月 至 十一月	【最近配當】	昭和十二年下期 一割	同 十三年上期 一割(善) 四分(臨時)	【株式相場】	現物 昭和十三年上半年 最高 九八、七〇	最低 七四、七〇	同 十二年 最高 一一七、一〇	最低 七八、六〇
------	------------	-------	-----------	-------	--------------	---------	--------------	----------	--------------	----------	--------------	---------	------------	---------	----------	--------------	--------	--	-------	-------------------------------	--------	------------	----------------------	--------	----------------------	----------	-----------------	----------

【生産能力】	人絹(八月) 約二二〇〇	一〇〇D以下 七、五〇〇封度	一〇〇D 二七三、七〇〇同	一五〇D 五六、〇〇〇同	合計 三三七、二〇〇封度	スフ(七月) 六一九、〇〇〇封度	花鳥踏(普通入絹)、白福面(内地向)、アイヌホッケ(輸出向)マルチ糸	【職工数】	約二、五〇〇人	約一、二〇〇〇人	【工場敷】	約一、二〇〇〇坪	【工場】	岡崎人絹工場	所在地 岡崎市美合町	電号 九二九	主要職員	取締役社長 朝北奈見十	工場長 久保木 泉	製糸係主任 和田 重 威	電機係主任 廣瀬 光 雄	事務係主任 廣岡 健 二	研究科長 高橋 健 吉	紡糸科長 湯淺 誠 也	原液科長 (應召中)
--------	--------------	----------------	---------------	--------------	--------------	------------------	------------------------------------	-------	---------	----------	-------	----------	------	--------	------------	--------	------	-------------	-----------	--------------	--------------	--------------	-------------	-------------	------------

【備考】	詳細ハ「綿紡績」参照	【本 社】	東京市東區龜戸町二丁目一ノ三	【營業所】	電銀座四九二二	【大阪出張所】	大阪市東區北濱四丁目三八安田ビル(電北濱一八六七)	【創立・沿革】	昭和九年二月一日設立、同十一年五月第一期日産五〇〇(人絹)一〇、〇〇〇、〇〇〇圓	【資本金】	一〇、〇〇〇、〇〇〇圓	【株 金】	三、五〇〇、〇〇〇圓	【決算期】	上半期 自 十二月 至 五月 下半年 自 六月 至 十一月	【最近配當】	昭和十二年下期 七分	昭和十三年上期 七分	【株式相場】	現物 昭和十三年一―七月 最高 二二、七〇	最低 一三、五〇	同 十二年 最高 一一七、一〇	最低 七八、六〇
------	------------	-------	----------------	-------	---------	---------	---------------------------	---------	--	-------	-------------	-------	------------	-------	-------------------------------	--------	------------	------------	--------	-----------------------	----------	-----------------	----------

日本人造羊毛株式会社

【備考】	詳細ハ「綿紡績」参照	【本 社】	東京市東區龜戸町二丁目一ノ三	【營業所】	電銀座四九二二	【大阪出張所】	大阪市東區北濱四丁目三八安田ビル(電北濱一八六七)	【創立・沿革】	昭和九年二月一日設立、同十一年五月第一期日産五〇〇(人絹)一〇、〇〇〇、〇〇〇圓	【資本金】	一〇、〇〇〇、〇〇〇圓	【株 金】	三、五〇〇、〇〇〇圓	【決算期】	上半期 自 十二月 至 五月 下半年 自 六月 至 十一月	【最近配當】	昭和十二年下期 七分	昭和十三年上期 七分	【株式相場】	現物 昭和十三年一―七月 最高 二二、七〇	最低 一三、五〇	同 十二年 最高 一一七、一〇	最低 七八、六〇
------	------------	-------	----------------	-------	---------	---------	---------------------------	---------	--	-------	-------------	-------	------------	-------	-------------------------------	--------	------------	------------	--------	-----------------------	----------	-----------------	----------

(人絹) 日本人造羊毛・日本毛織

〔最高〕二七、〇四
〔最低〕一一、五四

〔役員〕

取締役社長 金光甫夫
専務取締役 青木一葉
常務取締役 竹村房吉
取締役 井上篤太郎
同 洲戸吉漸
同 鈴木伊平
同 溝口新雄
同 田中敏雄
同 林正義
同 植村俊平
同 佐々田豊
同 麻生良

〔大株主〕

太陽生命保險會社 二六、〇〇〇
太陽曹達株式會社 二一、八二〇
遠藤重男 一〇、〇〇〇
戸田時行 五、〇〇〇
岡本幸三 四、八五〇
鬼木房夫 四、四〇〇
新井俤五郎 四、二五〇
野本直樹 四、二〇〇
星野準一郎 四、〇〇〇
長部尾市三 三、〇〇〇
都島茂雄 二、三〇〇
新日本火災海上保險株式會社 二、〇〇〇
〔商標〕三聖
〔日産能力〕人絹 約七庭 スフ

福島人絹株式會社

〔本 社〕 防府市三田尻
〔營業所〕 大阪市北區玉江町二福島紡績内
電土佐編一一一

〔創 立〕

昭和八年三月
昭和八年三月福島紡績ノ子會社トシテ資本七百圓ヲ以ツテ創立、三田尻工場ヨリ人絹ノ出市セシハ九年十月デアル。スフハ十年ニ日産一庭ヲ試驗工場ノ運轉ヲ開始シテ資本格化シ十年四月倍額増資

〔資本金〕

一四、〇〇〇、〇〇〇圓
八、七五〇、〇〇〇圓
〔株 數〕 舊株 一四〇、〇〇〇
新株 一四〇、〇〇〇
〔決 算 期〕 上半期 自 十二月 至 五月
下半期 自 六月 至 十一月
〔一株拂込金〕 舊五〇圓 新一二圓五〇錢

〔役 員〕

取締役社長 八代祐太郎
常務取締役 八代武次
取締役 野村徳七
同 今橋又吉
同 山内貴
同 河盛勘次郎
同 河盛勘次郎
〔大株主〕 福島紡績株式會社々々
八代祐太郎 一〇〇、〇〇〇
八代祐太郎 一〇〇、〇〇〇
野村徳七 一〇〇、〇〇〇
野村徳七 一〇〇、〇〇〇

(人絹) 福島人絹・富士織維

〔生産高〕 人絹(八月) 二二五、九〇〇封度
スフ(七月) 二七六、〇〇〇封度

大分工場

所在地 大分市大字大分
電大分一五一〇

〔昭和十年七月起工、同十一年八月ヨリ運轉開始〕

主要職員 工場長 田中敏雄
技師長 林正義
日産能力 人絹 七庭
生産高 人絹(八月) 二〇八、九〇〇封度
二〇〇D以上 七、〇〇〇同
合計 二二五、九〇〇封度
スフ(七月) 二七六、〇〇〇封度
敷地坪數 六七、〇〇〇坪

日本毛織株式會社

〔備考〕 詳細ハ「羊毛篇」參照
〔本 社〕 神戸兵庫區西出町
電兵庫二〇二二〇九

〔資本金〕 五、〇〇〇、〇〇〇圓
〔株 數〕 舊株 四〇〇、〇〇〇
新株 六〇〇、〇〇〇
〔決算期〕 五月、十一月
〔一株拂込〕 舊株 五〇圓 新株 二五圓

B 四四

〔最近配當〕 昭和十三年上期 一割二分
〔株式相場〕 現物 昭和十三年一―七月
舊株 最高 一〇二、〇〇圓
最低 九六、三〇圓
新株 最高 一二〇、〇〇圓
最低 九六、九〇圓
昭和十二年
舊株 最高 五二、九〇圓
最低 四五、八〇圓
新株 最高 四七、七〇圓
最低 四五、八〇圓

〔日産能力〕 人絹 約八庭
〔生産高〕 人絹(八月) 二二四、八〇〇封度
ニツケ(内地向)・NIKE(輸出向) 普通入絹
ニツケ高級艶消(内地向)・Rayon/NIKK Superior Mat Rayon(輸出向) ヌルチ糸

〔人絹工場〕 一
〔名古屋人絹工場〕 所在地 名古屋市中區岩塚町
電西一五二七
昭和三年四月操業開始

主要職員 工場長 内海保二
事務課長 田村千代二
研究部長 瀧田増太郎
敷地坪數 一〇三、〇八八坪
建物坪數 六、五七一坪

〔生産高〕 人絹(六月實産高) 一〇〇D以下
一〇〇D 四一、八〇〇封度
一五〇D 一四二、六〇〇同
二〇〇D以上 五五四、四〇〇封度
合計 七六三、〇〇〇封度
スフ(七月) 七六三、〇〇〇封度
〔日産能力〕 約二八庭
〔商標〕 金星星
〔備考〕 當社ノスフハ全部親會社福島紡績へ供給

本社工場

所在地 防府市三田尻
昭和九年三月操業開始、十月人絹ヲ出市、スフハ十年ニ至リ始、漸次本格化ス

主要職員 工場長 今橋又吉
副工場長 藤田龍吉
工務課長 三好 册
庶務人事課長 牧野綾夫
事務課長 淺野 静夫
原動機 電力使用 自家發電設備
タービン 二、五〇〇キロワット 二基

富士織維工業株式會社

〔本 社〕 東京市日本橋區本町二
電日本橋一八七
〔出 張 所〕 大阪市北區中ノ島二富士紡績内
電北濱四〇一〇

〔創立・沿革〕 昭和十年三月創立、十一年七月第二回七圓五錢拂込、十二年七月一〇圓拂込徴收

〔資本金〕 一、二〇〇、〇〇〇圓
〔株 數〕 七、二〇〇、〇〇〇圓
〔決 算 期〕 上半期 自 十一月 至 四月
下半期 自 五月 至 十月
〔最近配當〕 昭和十二年下期 五分
同 十三年上期 五分
〔株式相場〕 現物 昭和十三年一―七月
最高 二九、五〇圓
最低 二一、五〇圓
同 十二年
最高 三八、八〇圓
最低 二一、〇〇圓

〔役 員〕 取締役會長 日比谷平左衛門
常務取締役 後藤正煥

B 四五

(人絹) 富士纖維・大日本セルロイド

取締役 男前 森村市右衛門
同 川崎榮助
同 鹿村美久
同 伯野雅之助
同 常田健次郎
同 前川華逸夫
同 高橋謙逸夫
同 日比谷祐藏
監査役 薄田伍市

【大株主】
富士瓦斯紡績株式会社 一〇〇、〇六七
株式會社三菱社 四、五〇〇
日比谷平右衛門 三、八〇〇
大森 三、七六〇
森村同族株式會社 三、〇〇〇
常田健次郎 三、〇〇〇
川崎榮助 二、〇〇〇
森村市左衛門 一、九〇〇
壽重工業株式會社 一、八八二
千代田生命保險相互會社 一、八七二
岩崎久彌 一、六七〇
明治生命保險株式會社 一、五〇〇
前川華夫 一、五〇〇

【關係會社】 富士紡子會社
人絹、スフ
富士島居(内地向)、富士越能(輸出向)普通糸マルチ糸
銀富、士羽光糸銀票、美光糸白票(スフ)

【生産設備】 人絹紡織 日産 八履
スフ紡織 日産 一〇履

【生産高】 人絹(八月) 一二〇D 一七八、三〇〇封度
一五〇D 一〇七、五〇〇同
合計 二二五、八〇〇封度
スフ(七月) 四四五、〇〇〇封度

【工場敷】 一
【備考】 當社ノスフハ親會社富士紡ニ供給市販サレズ、シカモ富士紡デハスフ原料不足デ他ヨリ買入レテキル有様、此處ニ一貫作業ノ能率ヲアゲル爲富士紡トノ合併説モ起ル所以

富士工場

所在地 静岡県富士郡富士町
沿革 (昭和十年四月起工、昭和十一年三月竣工並ニ操業開始)

主要職員
取締役兼工場長技師長 前川華夫
庶務係主任 五十嵐哲治
人事係主任 前田幸恵
計算係主任 石津和光
原液係主任 西 周義
製糸係主任 宮本喜久夫
機械係主任 發電 六七八、五〇〇KW
電力使用 二〇、三五〇KW
計 八七九、八五〇KW
廢水處理 中和沈澱式
奇性曹達回收 旭式ダイアライザー(八九%)
敷地坪數 九、六〇〇坪

B 四六
建物坪數 一八、一六五坪

醋酸人絹の部

大日本セルロイド株式會社
【備考】 「維新」ノ「セロファン會社」ノ項參照

【本社】 大阪府堺市七道西町二一七
電戎五八八〇一五八八四堺二〇
五・九五〇

【工場出張所】
本工場 大阪府堺市七道西町二一七
電戎五八八〇一四・二七一六電
堺二〇五・九五〇
東京出張所 東京市向島區寺島町四丁目一三
七(電堺田一五七九・二九六三・二九六四)
大阪出張所 大阪市東區大今里町七〇九ノ一(電南三〇六二・三〇六三・二六五〇)
網干工場 兵庫縣揖保郡網干町新在家
電網干七・一二
東京工場 東京市板橋區志村小豆澤町八六
電大塚一二九〇赤羽二〇一〇
神崎工場 兵庫縣尼崎市一
電福島二八五八・二八五九尼崎
二一〇八

新井工場 新潟縣中頸城郡新井二二三〇
電新井一三一・二四二

【創立】 大正八年九月
【人絹部門】 當社ノ人絹研究ハ新井工場(新潟縣新井町)ニテ行ハレツ、アルガ未ダ工業化ノ域ニ達セズ

【資本金】 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
【株數】 一七、五〇〇、〇〇〇圓
【決算期】 上半期 自 十二月 至 五月
下半期 自 六月 至 十二月

【一株拂込金】 舊五〇圓 新三七圓五〇錢
【最近配當】 昭和十二年下期 八分
同 十三年上期 八分

【株式相場】 現物 昭和十三年上半期
舊株 最高 七二、〇〇圓
最低 五九、五〇圓
新株 最高 五二、五〇圓
最低 三八、二〇圓
昭和十二年申
舊株 最高 八〇、五〇圓
最低 六三、〇〇圓
新株 最高 四四、五〇圓
最低 二四、八〇圓

株式會社鐵興社

【本社】 京都市日本橋區京橋三
電京橋一〇六二
【大阪代理店】 大阪市東區平野町二小原商店大
阪支店內(電北濱二〇二一)

(人絹) 大日本セルロイド・鐵興社・日本窒素肥料

【創立】 昭和三年十月
【人絹部門】 當社酒田大瀨工場(山形縣酒田)ヲ建設中デアリ、就中醗酵纖維素部門ハ十四年度完成見込デア

【資本金】 一〇、〇〇〇、〇〇〇圓
【株數】 四、七五〇、〇〇〇圓
【決算期】 上半期 自 十二月 至 五月
下半期 自 六月 至 十一月

【一株拂込金】 舊五〇圓 第二株一二圓五〇錢
【最近配當】 昭和十二年下期 一割二分
同 十三年上期 一割二分

【株式相場】 現物 昭和十三年一・七月
舊株 最高 八四、五〇圓
最低 五七、〇〇圓
新株 最高 四四、七〇圓
最低 三一、五〇圓
同 十二年申
舊株 最高 九五、〇〇圓
最低 五〇、〇〇圓

役員

社長 棚橋寅五郎
専務取締役 佐野隆一郎
取締役 西脇清三郎
同 大塚寛治
同 佐野忠司
同 森重操
同 前島憲平
同 山本勇
監査役 山本勇

【大株主】 同 十樂寺義進

棚橋寅五郎 三四、二〇〇
佐野隆一郎 一八、一六〇
山田多計治 七、五〇〇
岡本利吉 七、一五〇
佐野忠司 七、〇〇〇
棚橋幹一 六、〇七〇
濱崎照胤 五、三〇〇
横部得三郎 五、一〇〇
山本 五、一〇〇

日本窒素肥料株式會社

【本社】 大阪府北區宗室町一 大阪ビル
電土佐堀八三五〇
【東京事務所】 東京市麹町區丸ノ内二八重州ビル(電丸ノ内一九一一)

【創立】 明治三十九年一月
【資本金】 二〇、〇〇〇、〇〇〇圓
【株數】 一、一七、五〇〇、〇〇〇圓
【決算期】 上半期 自 十二月 至 五月
下半期 自 六月 至 十一月

【一株拂込金】 舊五〇圓 新一二圓五〇錢
【最近配當】 昭和十二年下期 一割
同 十三年上期 一割

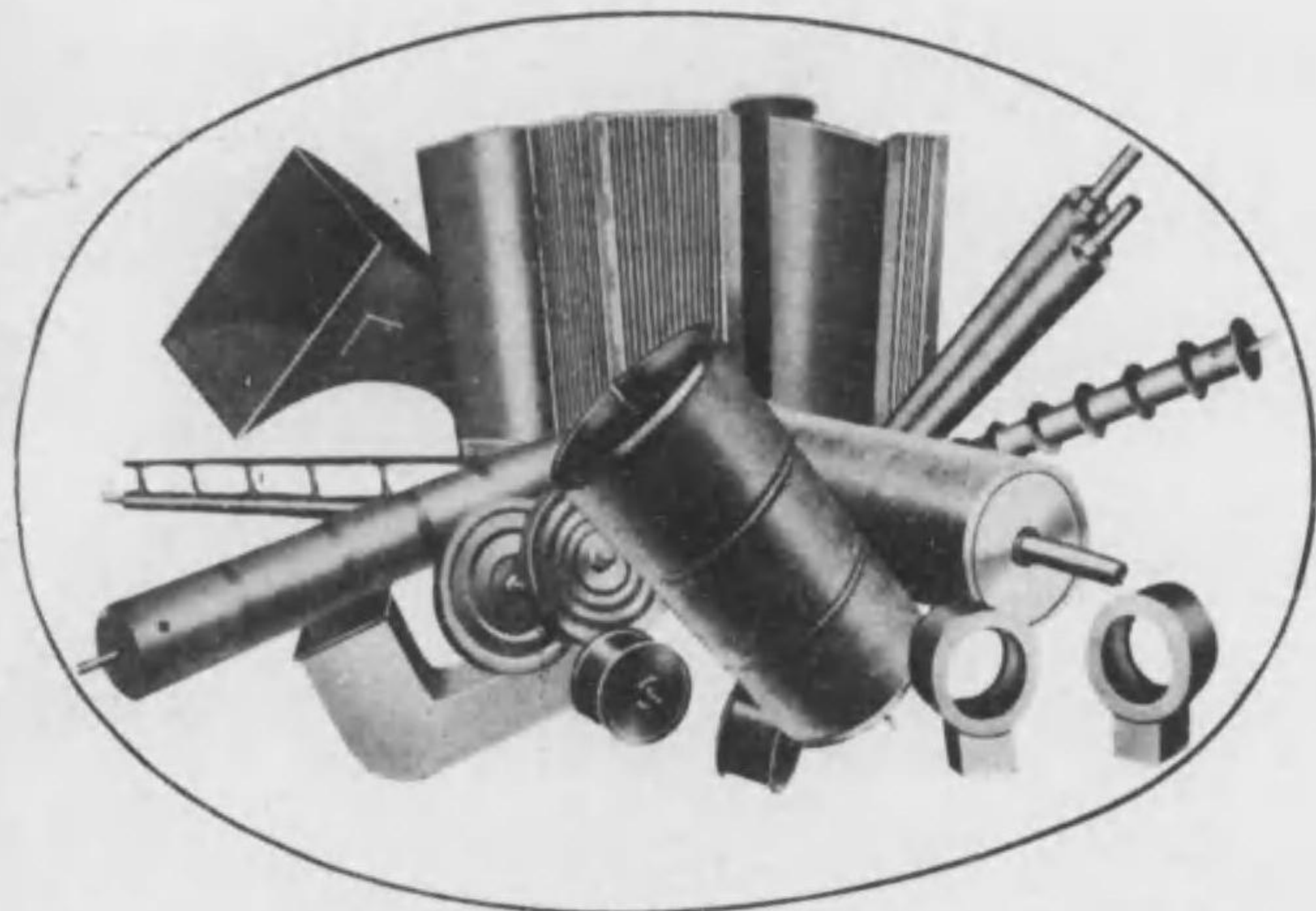
【株式相場】 現物 昭和十三年一・七月
舊株 最高 九〇、〇〇圓
最低 七七、〇〇圓

B 四七



營業種目

- 其他諸板金販賣
- 各種ローラー
- コームシヤフト
- コームチース各種
- 紡織附屬鍺力加工品
- ダストケージ
- ヂヨツキプリー
- チンローラー
- アンダーケーシング



日本ケーシング工作所

營業部

大阪市港區市岡元町三丁目一七

電話西(43)一三七七番

日本ケーシング工作所

特中

(人組) 日本窒素肥料・日本合成化學

新株(最高) 四〇、六〇〇
 最低 三〇、五〇〇
 同十二年 中
 舊株(最高) 一、二五、九〇〇
 最低 七、一、四〇〇
 (最低) 二、四、五〇〇

〔役員〕

社長 野口 誠
 副社長 市川 誠次
 専務取締役 榎並直二郎
 常務取締役 金田榮太郎

水俣工場

所在地 熊本縣北郡水俣町
 明治三十九年一月十二日
 當初ハカイバイドヲ製造販賣セシモ其後カイバイドノ原料トシテ石灰窒素變成硫安ノ製造ヲ開始セリ、アンモニアノ直接合成トシテアセチレン系有機合成化學ノ研究ニ着手シ、連続的ニ醋酸、無水醋酸、醋酸纖維素、アセト、ン等ノ工業的生産ヲ成就セリ、昭和六年ニ醋酸人絹ノ研究ハナリ、ズ並ニ着手昭和十二年ニミナレ、ズ以テ市販ヲ開始セリ

山本 義雄
 男二、五〇〇人 女一〇〇人
 計二、六〇〇人
 一三〇、〇〇〇坪
 四〇、〇〇〇坪

日本合成化學株式會社

〔本社〕 大阪市東區伏見町二
 電北濱二五一三
 〔營業所〕 大阪市東區備後町第二野村ビル
 電本町一八〇四
 昭和二年九月
 〔創立〕 當社ノ醋酸人絹ハ大塚工場(大阪市北切石町、工場長佐田正)ヲ行ツテキルガ數量ハ大シク事ハナイ
 〔資本金〕 一、五〇〇、〇〇〇圓
 〔拂込金〕 一、四一〇、〇〇〇圓
 〔株數〕 舊株 二〇、〇〇〇
 新株 二〇、〇〇〇
 舊五〇圓 新四一圓
 〔株拂込金〕 舊五〇圓 新四一圓
 〔役員〕 理事 野口 信吉
 同 藤田 忠次郎
 同 村崎 茂三郎
 同 伍藤 晴一

B

四八

株式會社 岡谷商店工機部

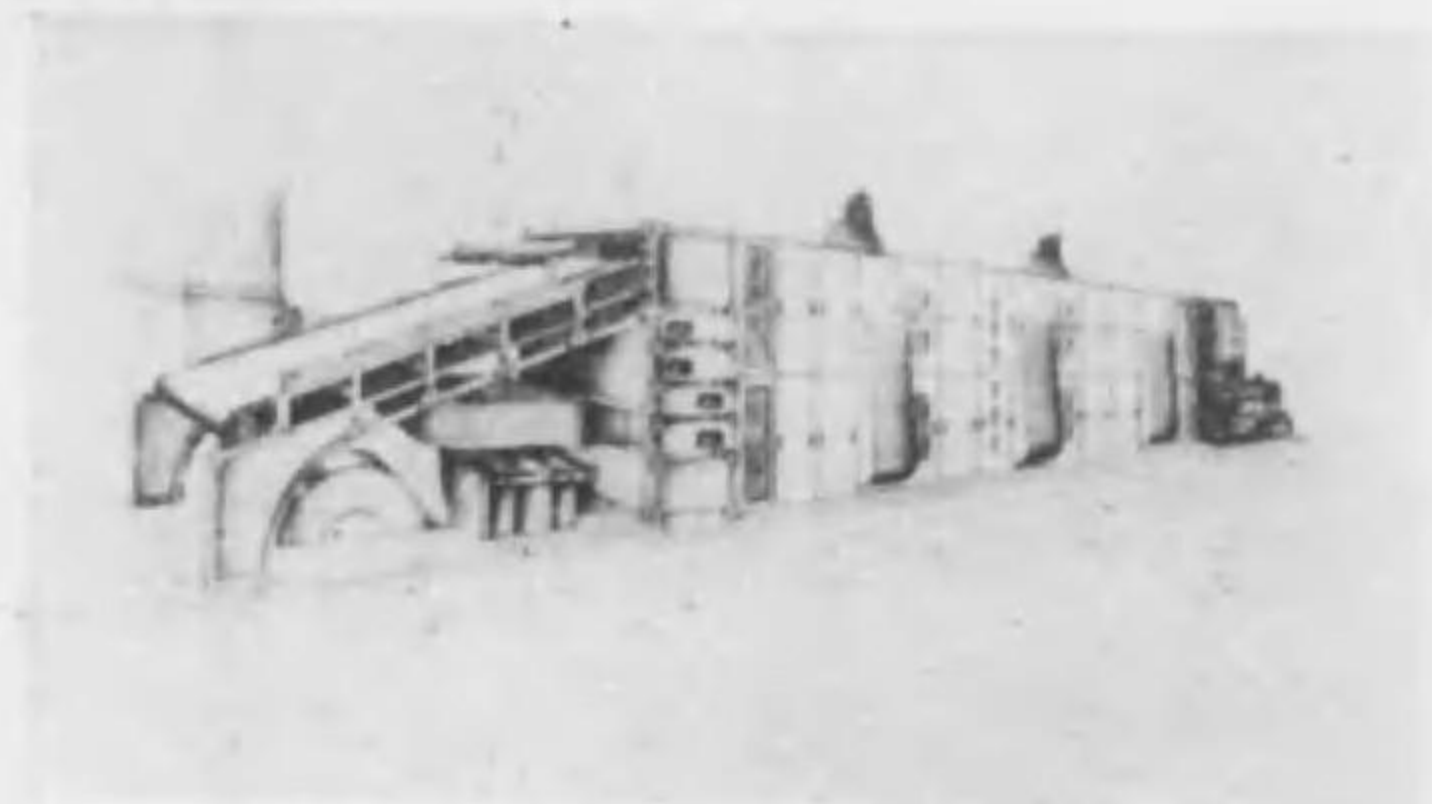
大阪市西區西長堀北通リ一丁目十八番地

電話新町 一六六一・一六六二・一六六三番
五七三一・五七三二・五七三三番
五七三四・五七三五・五七三六番



營業課目

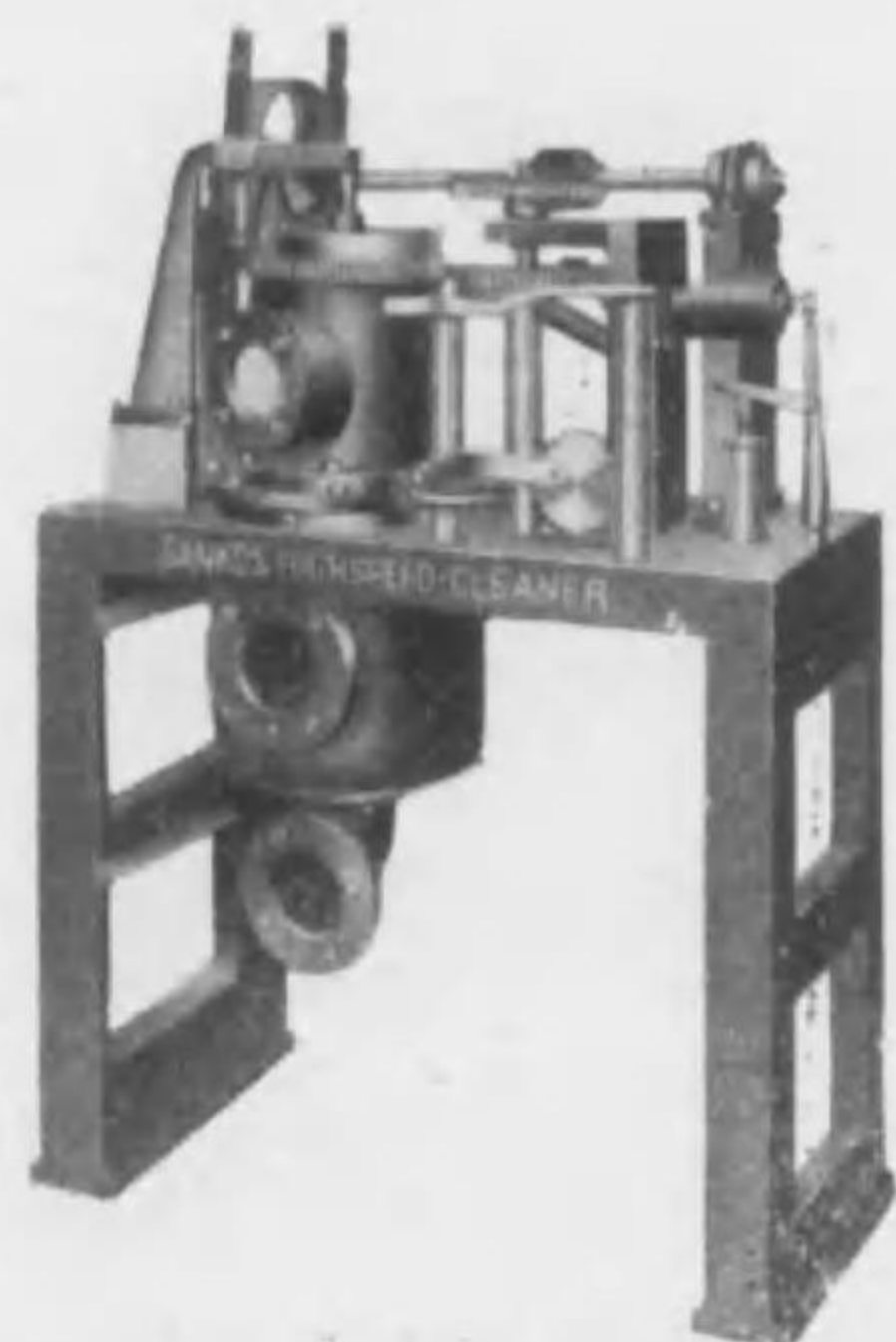
スフ・人絹・綿・毛・絹用機械
準備機・仕上整理諸機械一式
人絹・人織製造用諸機械
化學工業・鑛山用諸機械
高級精密工作機械
化學工業藥品各種



特許大和式光棉乾燥機



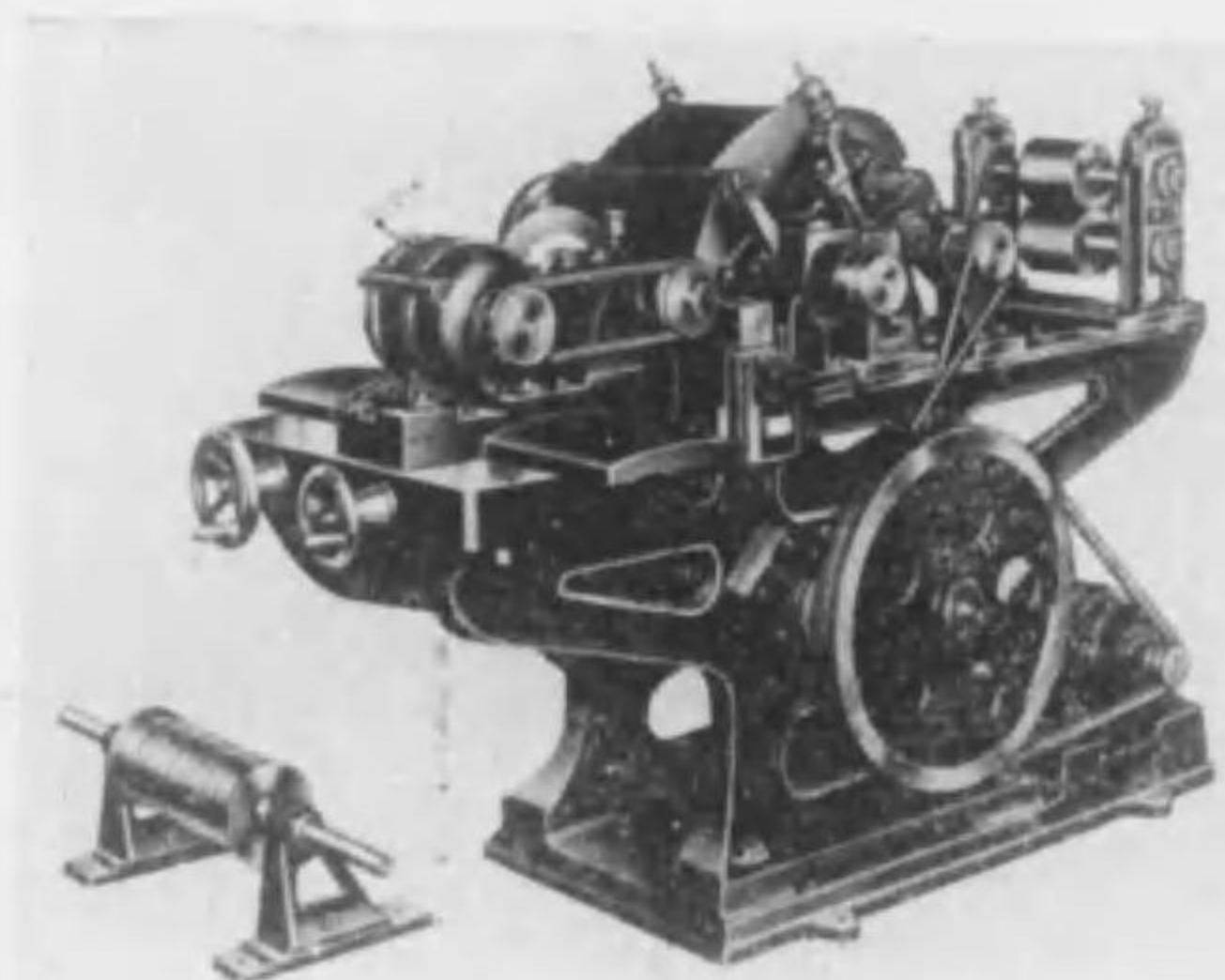
桐生式光棉用コーンワ井ンター



サンコー式自動濾水機



懸垂型遠心脱水機
フリクションクラッチ付



光棉自動切斷機

特許 S S
F F 集
サンコー式高圧ポンプ

株式會社 大和三光商會
東京市京橋區京橋三丁目二番地
電話京橋三五〇〇・五三二〇番

株式會社岡谷商店工機部

株式會社岡谷商店工機部

特中 三

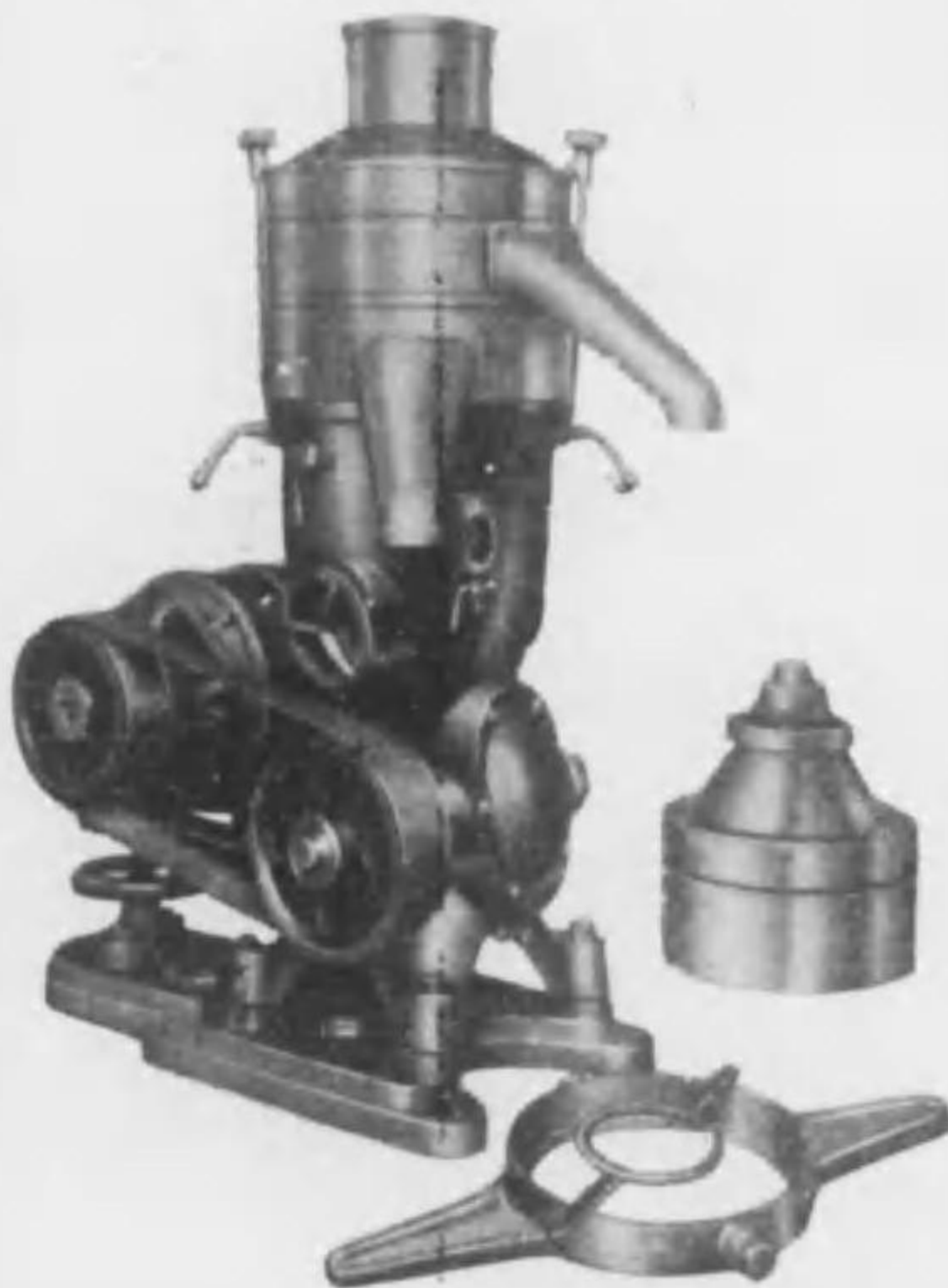
特中 二

國產遠心分離機



製造品目
 超速油分離機
 塗料清淨機
 牛乳分離機
 橫型遠心機
 醇母分離機
 糖蜜清淨機

超速遠心脫水機



超速油分離機

最新型性能優秀

●超速遠心油分離機

潤滑油排油の回収に油脂精製工程に弊所のデラバール型油分離機は純國産機として極めて優秀な性能を發揮してゐます。

御愛用を願ひます

●各紡績用遠心脫水機
大小御需要に應じます

各種超速遠心分離機専門

株式會社 日本遠心機製作所

本社、工場 東京市大森區大森三丁目三〇一番地
電話大森(06)6705・7450番・振替口座東京39699番
大阪營業所 大阪市西區西長堀北通五丁目
電話新町5047番

紡績機・製綿絹綿機

調合機ガーネットマシン

農林省御推奨ホームスパン用

諸機械各種ガーネットワキヤ

獨逸フアルコンブランド

針布會社代理店

新古針布並ニ附屬用品一式



會 合 社

三和商會

東京市瀧野川區西ヶ原町八七七番地

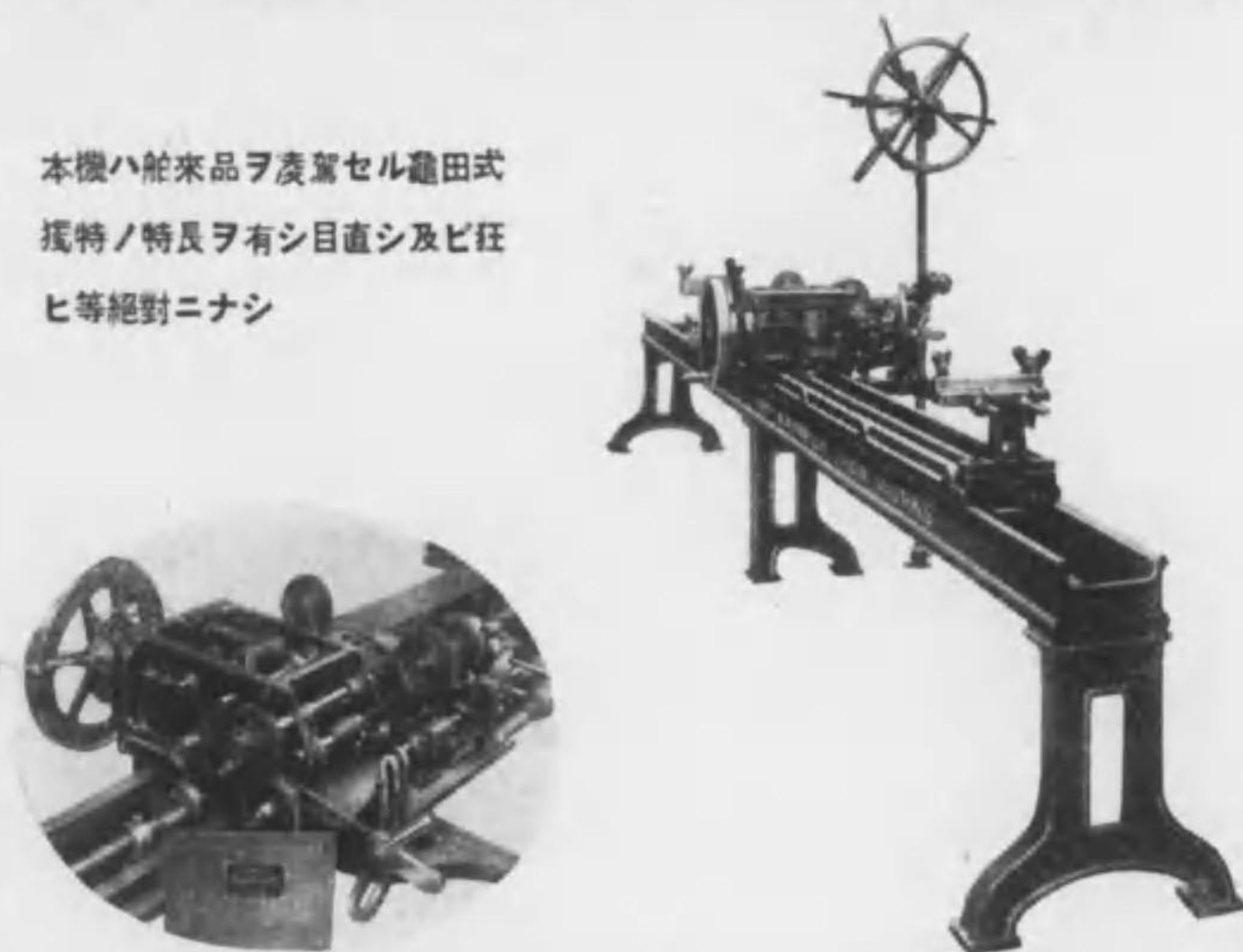
電話王子二八〇六番

工場 埼玉縣蕨町字蕨五八一〇番地

電話蕨二五八番

特許式 金箴機

本機ハ能來品ヲ凌駕セル龜田式
振替ノ特長ヲ有シ目直シ及ビ狂
ヒ等絕對ニナシ



- 特 徴
- 1. 長さ百吋迄を限度とす。(何時にても製作に應ず)
 - 2. 巾、外徑三吋半を最低とし最高六吋迄とす
 - 3. 二回巻、三回巻、四回巻
 - 4. A型、B型の二種

型録送呈

金箴機械専門製作
紡織機械附屬用品
其他諸機械設計製作

龜田鐵工所

營業所 大阪市東淀川区豊崎西通三丁目四四

電話北(36)三六八三番

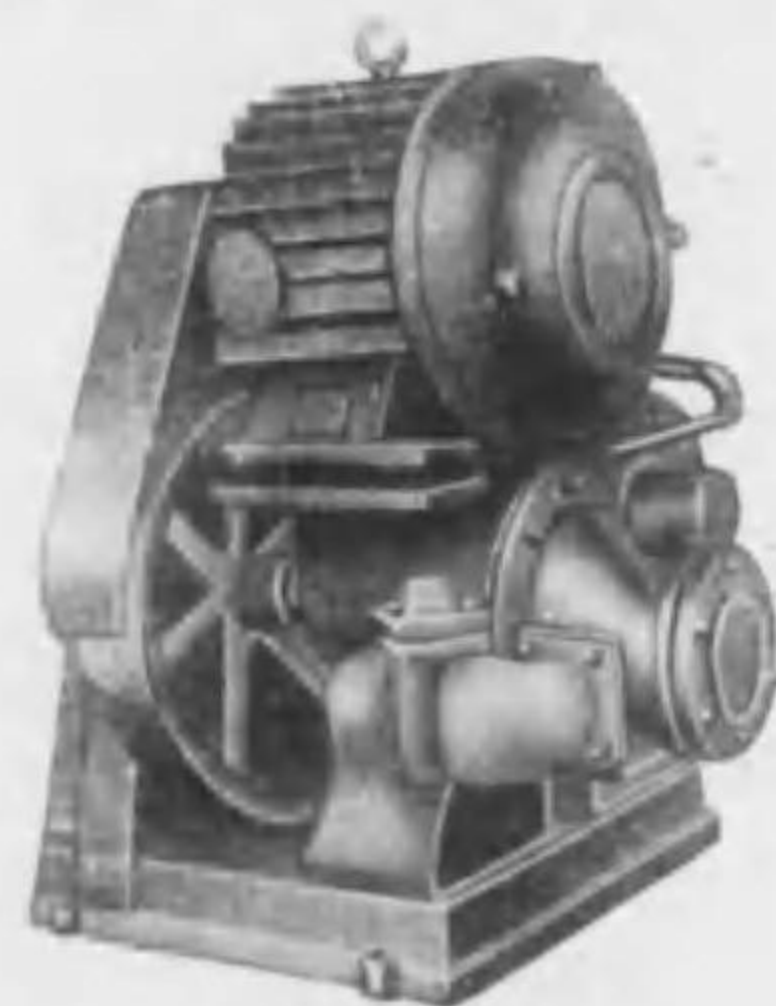
振替口座大阪一〇四九二番

工場 大阪市東淀川区豊崎西通三丁目三三

人絹及人造羊毛製造機械

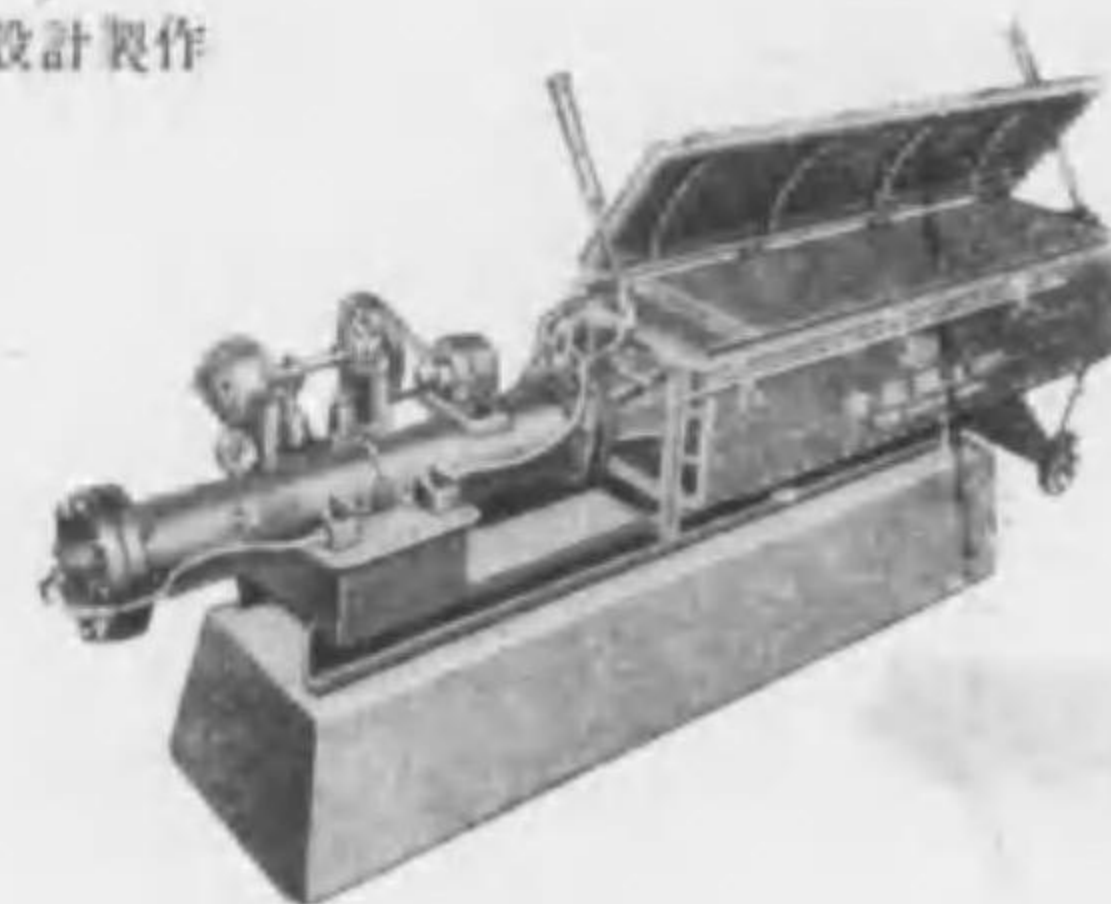
營業科目

- バルバー
- パッキュームニーダー
- ドライヤ
- ビスコースグラインダー
- ブランジヤポンプ
- スチーピングプレス
- フィルター
- 其他諸機械設計製作



ビスコースグラインダー

實用新案 第224858號 第228848號
佛國特許番號 第815352號
伊國特許番號 第352380號
英、米特許出願中



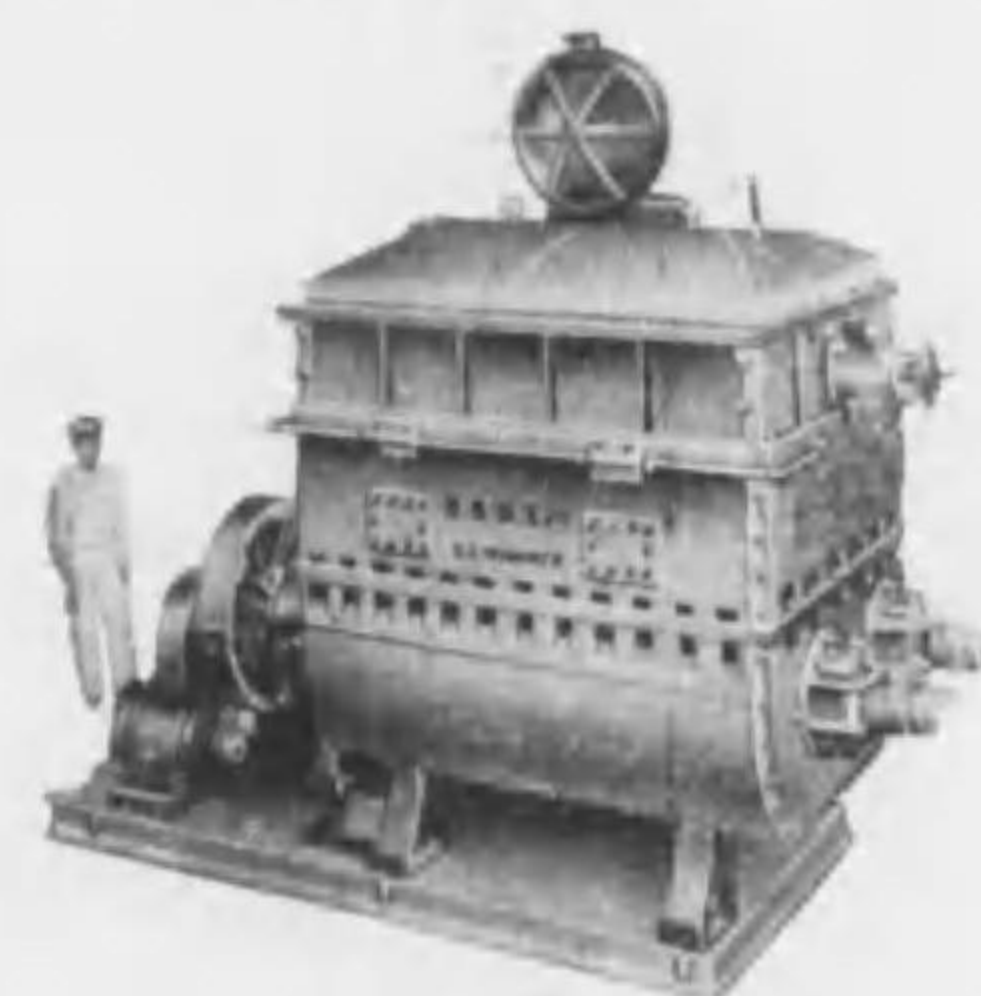
スチーピングプレス
(蓋の開いたもの)

實用新案 第207949號 第222519號 第228731號
第228731號 第228732號 第235837號
特許 第120647號



バルバー傾倒圖

特許 第115415號
實用新案 第218251號 第219943號
第222467號 第232820號



パッキュームニーダー

實用新案 第214831號

齋藤鐵工所

東京市品川区東品川四丁目四十六番地
電話高輪(44)6615 6629

人絹論文集第二輯

天然絹糸の溶解に関する研究

工學博士 高松勇治郎著

菊判 九〇頁
定價 一圓二〇錢
送料 十五錢

天然絹糸の溶解方法のうち理論的にも工業的にも興味ある二様の方法がある。

- 1 天然絹糸を中性鹽の濃厚溶液に溶解する方法
- 2 天然絹糸を銅アルカリ液に溶解する方法

此等を次に掲ぐ目次のもとに、豊富なる著者の研究結果を総合的に論述しかく動物性の天然絹糸と植物纖維と溶解方式の同一なるを理論的に立證し、ファイブロイン並に纖維素化學研究の一助に資せんとした所のものである。

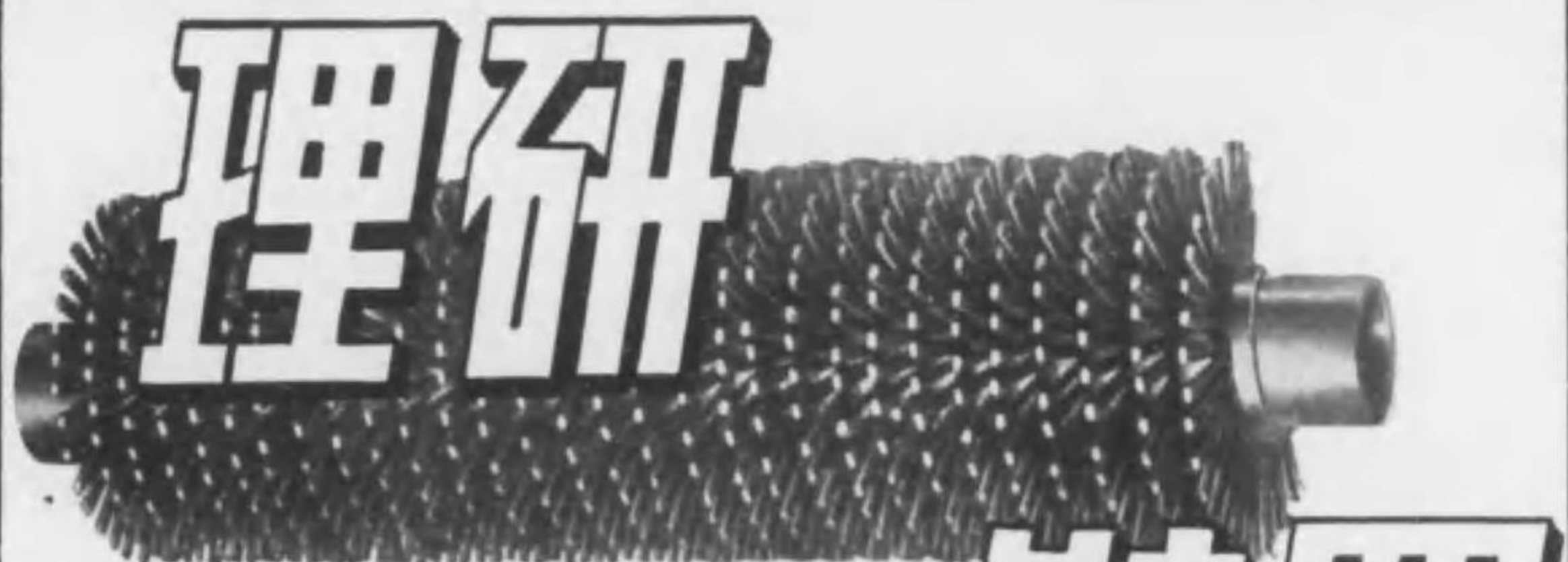
★ 目 次 ★

- 第一章 ファイブロイン銅アミン素に於ける反應並に溶解現象の一般的考察
- 第二章 銅アミン液に於けるファイブロインの溶解度とその溶解現象に就て
- 第三章 ファイブロイン銅アミン素に於けるファイブロイン銅アミン醋化物に就て
- 第四章 ファイブロイン銅アミン素に於けるファイブロインの溶解機構と其反應並に溶解の方式に就て
- 第五章 ファイブロイン銅アミンの苛性アルカリ素の溶解方式に就て
- 第六章 ファイブロイン銅アルカリ素に於ける化學反應と其の溶解現象に就て
- 第七章 本研究に関する結論

紡織圖書は紡織雜誌社

特 中 八

理化學興業株式會社



理研

装置

空気調和 恒温恒湿

設計・製作 工事監督請負

特 許

シユタッヘル・レーヨンヒーター
PATENT No. 111161, 201234

最も高き傳導率 最も強き耐久力

- I 廣き傳熱面
- II 面接觸をなすフィンとチューブ
- III 肉厚なるフィン
- III 棘狀なるフィン



各種理興送風機製作

理化學興業株式會社

本社・東京市墨田区有樂町一丁目常盤生命ビル・電話代表銀座7611(10)
出張所 大阪市北区宗屋町一丁目大阪ビル・電話土佐堀3030~3033
名古屋市中區廣小路通住友ビル・電話本局(2)4282

厚紙 九

全 國 ス フ 製 造 會 社 一 覽 表
 全 國 ス フ 製 造 會 社 一 覽 表
 本 邦 ス フ 工 業 概 觀
 全 國 ス フ 製 造 會 社 工 場 要 覽
 全 國 ス フ 製 造 會 社 工 場 要 覽

大阪合同株式会社



大阪合同株式会社

油脂部 化学工場

純良品

オリーヴエマルジョン 人絹糸柔軟剤
 レヨポール 柔軟仕上剤
 ソフトポール 特殊柔軟仕上剤
 ニューポール 給油用油脂乳化剤
 ブライトナー 柔軟光澤仕上剤
 ウールオリーヴオイル 乳化良好梳毛油
 ソルブルオレイン 乳化性紡毛油
 トリポール 柔軟仕上剤
 モルソープ 染色仕上助剤
 トリボリン 乳化性糊配合剤
 人絹、人絹柔軟平滑剤

サファール

特許90014号 日本油脂株式会社製

純良品

ソルブルシルク蠟 經糊配合剤
 ブロフアーン 染色滲透助剤
 キングオイル 精練助剤
 デカポール 精練助剤
 ロート油 一般染色助剤
 カラリン 捺染糊泡消剤
 ゴーゼー 洗滌染色助剤

マルセール石鹼

純良品

オゲノール 一浴完全防水剤
 モスノール 完全防皺剤
 ネオ糊付剤 永久的糊付剤
 メリノールソープ 羊毛精練助剤
 ダイゾール 染料溶解剤

京都市東山区本町十一丁目 電話 祇園 (G) 2612・2817・1959

本社 大阪市東区北久寶寺町一丁目 電話船場(83) 695-6-1844-6-3434-5-4755

支店・出張所 東京・名古屋・京都・濱松・福山・福井・和歌山
久留米・足利・高岡・京城・天津・奉天・上海

厚紙 一〇

露光量違いの為重複撮影



ス

フ

C

全 國 ス プ 製 造 會 社 一 覽 表
 全 國 ス プ 紡 績 會 社 一 覽 表
 本 邦 ス プ 工 業 概 観
 全 國 ス プ 製 造 會 社 工 場 要 覽
 全 國 ス プ 紡 績 會 社 工 場 要 覽

大 阪 合 同 株 式 會 社



油 脂 部 化 学 工 場

純 良 品

オリーヴ・マージョー 大粒オリーブ油
 レヨ・コーキ 子油
 ソフト・コーキ 子油
 コニー・コーキ 子油
 フラ・イ・コーキ 子油
 ウール・オリーブ・オイル 子油
 ソル・フル・オリーブ 子油
 トリ・コーキ 子油
 モス・フル・オリーブ 子油
 トリ・ホリ・ン 子油

サ フ ァ ー ル

精計90014 日本油脂株式会社製

純 良 品

ソル・フル・オリーブ 子油
 フロ・ア・ン 子油
 キン・ク・オ・イ 子油
 テ・カ・ル・ール 子油
 ロ・ー・ト 子油
 カ・ラ・リ・ン 子油
 コ・ニ・ー・セ 子油

マ ル セ ー ル 石 鹼

純 良 品

オ・ケ・ジ 子油
 モス・フル・オリーブ 子油
 テ・カ・ル・ール 子油
 メ・ラ・ノール・メ 子油
 タ・イ・フ 子油

京都市東山区本町十一丁目 電話 紙圖 (0) 2612・2817・1959

本社 大阪市東山区本町十一丁目 電話部 83 595 6-1844 6-3434 5-4755
 支店・出張所 東京・名古屋・京都・濱松・福山・福井・和歌山
 久留米・足利・高岡・京城・天津・奉天・上海

運搬車の近代化は

SKゴム車輪より

ゴムのはづかれぬ

SK **ゴム車輪と各種運搬車**

使用ガ永久 親切第一主義
専門製作



在庫豊富

直車車車車車車車車車車
搬搬搬搬搬搬搬搬搬搬搬
運運運運運運運運運運運
用用用用用用用用用用用
積積積積積積積積積積積
訪訪訪訪訪訪訪訪訪訪訪



日本ゴム車輪製作所

大阪市西區新町通三丁目二番

全國ステープルファイバー製造會社一覽表 (五十番順)

會社名	公稱資本金 千圓	拂込資本金 千圓	本社所在地	營業所
旭ベンベルグ絹絲株式會社	四六、〇〇〇	三七、〇〇〇	大阪市北區宗是町一丁目大阪ビル	同上
出雲製織株式會社	二〇、〇〇〇	一一、五〇〇	島根縣津和野市	大阪市東區備後町二丁目綿業會館
鐘淵紡績株式會社	六〇、〇〇〇	六〇、〇〇〇	東京市向島區隅田町二丁目	神戸市林田區御崎町一丁目
錦華紡績株式會社	三三、〇〇〇	二二、六八五	金澤市大豆田新町	大阪市東區瓦町二丁目三和ビル
倉敷絹織株式會社	五〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇	倉敷市元町	同上
新日本レイヨン株式會社	三〇、〇〇〇	一三、二五〇	大阪市北區曾根崎上二丁目共同ビル	同上
新興人絹株式會社	一〇、〇〇〇	七、五〇〇	東區北久太郎町三丁目寺田ビル	同上
昭和人絹株式會社	一一、二四八	一〇、〇〇〇	東區今橋四丁目三菱信託ビル	同上
庄内川レイヨン株式會社	六、〇〇〇	四、五〇〇	名古屋市京橋區青町一丁目味の素ビル	同上
第二帝國人絹株式會社	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	名古屋市西區堀越町字榮越	同上
大日本紡績株式會社	二〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	大阪市北區中之島二丁目江商ビル	同上
太陽レイヨン株式會社	二五、〇〇〇	六六、五〇〇	兵庫縣尼崎市東本町一丁目	同上
帝國人造絹絲株式會社	三六、〇〇〇	一三、七五〇	大阪市東區南久太郎町二丁目阿部市ビル	同上
東洋レイヨン株式會社	三〇、〇〇〇	三二、二五〇	北區中之島二丁目江商ビル	同上
東京人造絹糸株式會社	一五、〇〇〇	二五、〇〇〇	東京市日本橋區室町二丁目三井三號館(出張所)	大阪市北區中之島二丁目三井ビル
東洋絹織株式會社	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	同 大傳馬町二丁目	同上
東邦人造絹織株式會社	一五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	同 堂町二丁目三井三號館 (出張所)	大阪市北區中之島二丁目三井ビル
東洋紡績株式會社	七二、七二五	一一、二五〇	同 龜町區丸の内昭和ビル (出張所)	東區伏見町五丁目日本徴兵館
東亞纖維工業株式會社	八、〇〇〇	七二、七二五	大阪市北區堂島濱通二丁目	同上
豐田光棉紡績株式會社	三〇、〇〇〇	四、〇〇〇	神戸市葺合區藤崎町三丁目	大阪市東區北濱二丁目片倉館
日東紡績株式會社	二九、六〇〇	三〇、〇〇〇	名古屋市中區南大津通二丁目福壽ビル	愛知縣碧海郡刈谷町
日曹人絹ハルプ株式會社	三〇、〇〇〇	七、五〇〇	福島縣信夫郡杉妻村大字郷野目	東京市京橋區京橋三丁目片倉ビル
			東京市麩町區大手町二丁目日本曹達内	同上

(スフ) 生産會社一覽表

C 一

(スフ) 生産會社一覽表・紡績會社一覽表

會社名	公積資本金	拂込資本金	本社所在地	營業所
新潟人絹工業株式會社	三,〇〇〇	三,〇〇〇	新潟市外大形村河渡新田	同上
日本人造纖維株式會社	一〇,〇〇〇	四,三七五	前橋市岩神町	同上
日本人造羊毛株式會社	一〇,〇〇〇	三,五〇〇	東京市龜町區內幸町二丁目大阪ビル新館	大阪市東區北濱四丁目安田ビル
日本レイヨン株式會社	三〇,〇〇〇	二二,五〇〇	大阪市東區北久太郎町三丁目寺田ビル	同上
日清紡績株式會社	二七,〇〇〇	二七,〇〇〇	東京市東區龜井戸町二丁目	東京市日本橋區浪花町
日本毛織株式會社	五〇,〇〇〇	三五,〇〇〇	神戸市神戶區明石町	同上
日出紡績株式會社	二一,〇〇〇	八,九二五	和歌山縣日高郡御坊町	大阪市東區北久太郎町二丁目
富士纖維工業株式會社	一一,〇〇〇	七,二〇〇	東京市日本橋區本町二丁目富士紡内	同上
福島人絹株式會社	一四,〇〇〇	一,二〇〇	防府市三田尻町	(出張所)大阪市北區玉江町二丁目
明正レイヨン株式會社	五,〇〇〇	五,〇〇〇	大阪市東區三津屋新町	同上

全國ステープルファイバー紡績會社一覽表 (五十音順)

會社名	本社若クハ營業所	主要製造品目
愛知紡績株式會社	名古屋市中區高見町四丁目	綿糸布、スフ糸布
足利紡績株式會社	同 西區下町二丁目	綿糸布、スフ糸
旭紡績株式會社	栃木縣足利郡山邊町八幡	綿糸布、スフ糸
旭紡績株式會社	東京市日本橋區大傳馬町傳馬ビル	綿糸布、スフ糸
旭紡績株式會社	大阪市北區宗光町大阪ビル	人絹、スフ、スフ糸布
旭紡績株式會社	大阪府泉南郡貝塚町字澤	綿糸布、スフ糸布
旭紡績株式會社	大阪市東區備後町二丁目綿業會館	スフ糸布、綿糸布
旭紡績株式會社	同 高麗橋二丁目三井生命四階	スフ糸布、スフ糸
旭紡績株式會社	山口縣宇部市	綿糸布、スフ糸
旭紡績株式會社	福岡市比惠	スフ糸
旭紡績株式會社	大阪府泉北郡和泉町新在家	綿糸布、スフ糸布
旭紡績株式會社	大阪府堺市七道	スフ糸
旭紡績株式會社	大阪市東區安土町二丁目伊藤忠商事内	綿糸布、スフ糸

(スフ) 紡績會社一覽表

會社名	本社所在地	主要製造品目
近江絹織株式會社	滋賀縣彦根市西馬場町	スフ糸、絹紡糸
近江絹織株式會社	大阪市東區淡路町三丁目淡路町ビル二階	綿糸布、綿帆布、スフ糸
近江絹織株式會社	同 西淀川區野里町	綿糸布、スフ糸
近江絹織株式會社	大阪府泉南郡信達村大字岡田	綿糸布、絹紡糸布、生糸、毛糸、人絹糸布、スフ
近江絹織株式會社	神戸市林田區御崎町一丁目	スフ糸
近江絹織株式會社	大阪府南河内郡柏原町	綿糸布、スフ糸布
近江絹織株式會社	大阪市東區南久太郎町二丁目阿部市ビル	スフ糸、人絹紡績糸
近江絹織株式會社	大阪府泉南郡貝塚町字貝塚北	スフ糸
近江絹織株式會社	平塚市須賀	スフ糸
近江絹織株式會社	大阪市西淀川區大和田町	綿糸布、スフ糸布
近江絹織株式會社	同 東區瓦町二丁目三和ビル	綿糸布、人絹糸布、スフ、スフ糸布
近江絹織株式會社	同 北久太郎町三丁目寺田ビル	綿糸布、スフ糸布
近江絹織株式會社	大阪市西區江戶堀北通一丁目	綿糸布、スフ糸布、毛糸
近江絹織株式會社	同 東區安土町二丁目伊藤忠商事内	綿糸布、スフ糸
近江絹織株式會社	倉敷市御船町	綿糸、スフ糸
近江絹織株式會社	埼玉縣北葛飾郡栗橋町	綿糸布、スフ糸
近江絹織株式會社	名古屋市東區備後町二丁目田附商店内	綿糸、スフ糸
近江絹織株式會社	同 本町一丁目竹村綿業内	綿糸布、スフ糸
近江絹織株式會社	同 北區曾根崎上二丁目共同ビル	スフ、スフ糸
近江絹織株式會社	岸和田市北町	綿糸布、スフ糸布
近江絹織株式會社	東京市日本橋區通二丁目	綿糸布、スフ糸
近江絹織株式會社	大阪市東區今橋四丁目	スフ、スフ糸布
近江絹織株式會社	和歌山市外北島	綿糸布、スフ糸
近江絹織株式會社	大阪市東區北久太郎町三丁目寺田ビル	スフ、スフ糸布
近江絹織株式會社	高崎市大橋町	絹紡糸、スフ糸
近江絹織株式會社	長野縣小縣郡九子町大字上九子	絹紡糸、スフ糸
近江絹織株式會社	名古屋市中區光音寺町	綿糸、スフ糸

本邦ステープルファイバー工業概観 (昭和十三年度)

はしがき

事變の進展に伴ふ、戦時經濟體制の強化は纖維工業に對して色々な變革をもたらした、スフの強制混用から綿製品國家管理によるオールスフ時代の出現、更に綿業、人絹、羊毛、スフリンククの實施、其他生産、配給、消費統制等目まぐるしい迄に統制の手は延びた。絹を除く我國の纖維原料は輸入に依存すること大きく、纖維商品の輸出振興を計る爲には當然國內消費の節約を要求するものであつた、斯かる時代に於いてスフはその持つ自給可能性、及輸入爲替を節約し得るといふ戰時的意味を以て綿毛の代替纖維として登場し一躍纖維界の花形となつた。

スフの需給

昭和十三年のスフ生産高は次の如く累月増加した、これは前記の如く昭和十二年十一月より實施された、毛製品混用令、昭和十二年十二月より實施された綿に對する混用令の強制等によるものが其の大なる原因とみるべきである。

もちろんスフ自體の持つ發展力によつて假りに以上の如き外的原因がなくても或る程度はびるであらうことはこゝに事改めて斷るまでもなきことであらう、殊に其の原料がバルブは圓プロックに於いて比較的自給し易きものであるから、政策的にもスフへの關心使用は高まつたであらうから。

ではどの位に生産高が増加したかと云ふに、本年上半期のスフ生産高は昨年同期の約三倍に近く、またこれを各社の生産設備の擴大に徴するも昭和十二年十二月末と十三年七月末とを比較すると次の通りである。

昭和十二年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	累計
	七、八五〇	九、三三三	一〇、〇〇〇	一〇、四九七	一一、二八八	一二、九七七	一四、四一七	一七、三二九	六六、八五一
最近スフ生産高 (單位千封度)									
十二年十二月末									六七三〇
十三年七月末									一一、一五〇
									二五八〇 (生産統制が實施されてゐる)
									三五五〇 (生産統制が實施されてゐる)

昭和十三年 一九、三六三 三六、六五三 三三、九四四 三〇、三六六 二六、八〇〇 二三、四四六 二〇、七〇〇 一七、九八五 一五、二七〇
 十二年中世界スフ總生産高 二六二、九二〇 日本スフ生産高 (十二年中) 一四四、三〇六 (十一年中) 一〇四、八〇五
 これに對するスフの需給高は綿、羊毛への混用、スフ糸の需要増加により内需は當然増加したが、この爲輸出伸展力の差抑へられたことは其絕對額はともかく相當は延びたであらうスフ及スフ製品の前途をチエツクし誠に残念なことであつた。

計	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	累計
	一七、一五九	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇
生産高	一九、二六二	二〇、三三〇	二一、三九八	二二、四六六	二三、五三四	二四、六一二	二五、六八〇	二六、七四八	二七、八一六
スフ糸輸出高	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
スフ糸輸出高	七三四	六三五	五四五	四四五	三四五	二四五	一四五	〇四五	一、一五六
スフ織物輸出高	四〇二	三三〇	二五八	一八六	一一四	四二	〇	〇	一、〇四一
輸出高計	一、一五六	一、〇四一	九二五	八〇一	六八〇	五五九	四三八	三一七	二、〇〇六
差引國內推定消費高	一八、一〇六	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一八、一〇六
国内供給高	一八、一〇六	二〇、三三〇	二一、三九八	二二、四六六	二三、五三四	二四、六一二	二五、六八〇	二六、七四八	二七、八一六
綿混紡	三、〇九九	三、〇九九	三、〇九九	三、〇九九	三、〇九九	三、〇九九	三、〇九九	三、〇九九	三、〇九九
スフ糸紡出	九、三七〇	九、三七〇	九、三七〇	九、三七〇	九、三七〇	九、三七〇	九、三七〇	九、三七〇	九、三七〇
絹との混紡	九七八	九七八	九七八	九七八	九七八	九七八	九七八	九七八	九七八
毛との混紡	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一	七六一
合計	一四、二〇八	一四、二〇八	一四、二〇八	一四、二〇八	一四、二〇八	一四、二〇八	一四、二〇八	一四、二〇八	一四、二〇八

備考 綿混紡は紡績發表の消費高とする
 スフ糸混紡は人絹工業會生産及アウトサイダース糸生産高より製糸歩合九四%として推算
 絹との混紡は絹紡工業會生産のスフ糸及混紡糸(五割混紡假定)より推算羊毛との混紡は羊毛工業會生産の混紡毛糸の混紡率を五割として推算
 (ステープルファイバー講座第八卷經濟篇による、紡績雜誌社發行)

スフ糸の需給高は、綿糸毛糸との生産減少によつて當然需要増加した、生産高も次の数字の示す如く累増し、また其の生産設備 (スフ) 概観 C 七

(スフ) 概観

も急増し昭和十三年七月現在スフ紡績工業組合加盟会社は九四社に達し、其の錘数は計画中のものを含めると三四〇萬錘に達し、此の錘数は綿糸生産能力の約四分の一に當る。

スフ紡績工業組合加盟会社生産設備

登録錘数	二、六〇〇、〇〇〇錘
紡績紡工業會より轉籍の分	四六七、〇〇〇錘
計画中のもの	三二八、〇〇〇錘
合計	三、三九五、〇〇〇錘

C 八

昭和十三年上半期スフ生糸生産高 (單位千封度)

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	合計
十三年	一一、〇〇三	一三、七〇〇	一四、八二六	一八、九一四	二二、〇九五	四、〇三〇	四、六五三	四、八〇八	八三七
十二年	一三、七〇〇	一四、八二六	一八、九一四	二二、〇九五	四、〇三〇	四、六五三	四、八〇八	五、三三二	八二七

混紡糸の需給

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	合計
十三年	八、九二四	一一、〇〇三	一三、七〇〇	一四、八二六	一八、九一四	二二、〇九五	四、〇三〇	四、六五三	八三七
十二年	一三、七〇〇	一四、八二六	一八、九一四	二二、〇九五	四、〇三〇	四、六五三	四、八〇八	五、三三二	八二七

混紡糸にはスフと毛、スフと綿、スフと絹との混紡糸が生産されてゐる、紙数の關係で簡単に述べると、綿の混紡糸の生産高は次の如くであるが、政府は今後、混紡等の生産は可及的少くし、國內消費はオールスフで賄はんとする意圖と察せられる。

昭和十三年度上半期紡績混紡糸生産高

月	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	合計
混紡糸生産高(千捆)	二一、九一三、五	七二、六一〇、五	七六、五二三、五	八〇、四一一	七九、三四五、五	五八、九一四、五			三、〇九九
混紡用スフ消費高(千封度)	一一、一一一	一一、四四一	一一、七四八	一一、五七四	九、〇四四				六、五七二
混紡用棉花消費高(千封度)	二、二〇五	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇

絹との混紡糸の生産は次の如く昨年あたりと大した變りはない。

絹紡工業會スフ混紡糸生産高 (單位一俵一四、四貫)

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	合計
昭和十三年	一、四五六	一、五九一	一、五四四	一、六一三	一、六七三	一、六一三	二、三五五、六	二、七四四、四	九五九
十二年	一、四五六	一、五九一	一、五四四	一、六一三	一、六七三	一、六一三	二、三五五、六	二、七四四、四	九五九

毛との混紡糸も原毛輸入が次第に制限度を強め、毛紡生産設備の約半分位しかの輸入が認められない爲、輸出の方はリンク制により手當するとしても國內用には益々混用率が擴大せざるを得ず七割以上のスフ混用が行はれるものとみてよからう、しかし原毛の内需は制限されるから、七割混用するも生産高の増大はチエツクされる。(混用率は十三年七月十日商工省令を以て擴大された、即ち毛糸に對し五九割、紡毛糸に對して二割以上、毛織物に對して梳毛織物五割以上、紡毛品は二一三割の混用、メリヤスは五割以上)。

(スフ) 概観

羊毛工業會混紡糸生産高 (單位千封度)

年	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	合計
十三年	一、四三六	二、六八二	三、九五五						五、七九四
十二年	一、四三六	二、六八二	三、九五五						五、七九四

C 九

(スフ) 概観

スフ織物の需給

スフ織物及交織物の生産も激増を示してゐる、純毛モスの代品であるスフモスは毎月二五―二六萬疋程度の生産高を示して居り又綿業統制の大轉換によるオールスフ時代への推移は綿畑へのスフ織の進出を一層進めた。
スフ織物の生産高に付いては、確たる統計もない、併しその生産の増加は糸の生産増加と輸出状況よりして當然推測し得る。現在其の生産高が如何程に達せるかは商工省が去る十三年六月から生産統計を發表したので其數字を下記に示さう。

数量 (米)	価格 (圓)	数量 (米)	価格 (圓)
サイチ	七、九三、〇六九	モスリン	一〇、〇〇、〇〇〇
	二、九七、八六六	ポプリン	一、七五、〇〇〇
		スフと毛の混紡織物	四、八〇、〇〇〇
		小倉	二、五五、〇〇〇
		其他	四、八〇、〇〇〇
		合計	二、一八〇、八八六
着尺セル	一、七〇、〇〇〇	洋服用サイチ	一、七〇、〇〇〇
羅紗	一、〇〇、〇〇〇	其他婦人子服地	二、九六、〇〇〇
スフと毛の交織物	一、〇〇、〇〇〇	毛布(肩掛及膝掛を含む)	一、〇〇、〇〇〇
		其他	四、八〇、〇〇〇
		合計	八、九四、〇〇〇

スフは内需の旺盛及びこれと關聯して價格高騰した爲前述の如く輸出を抑制され、輸出成績は次の如く激減した、而して其の輸出先は圓ブロックを主とし、昨年華かに進出した米國內の米國市場は米國內のスフ生産の増加、伊太利品の進出に任せられてゐる。

スフ及スフ製品の輸出

十三年一月	二月	三月	四月	前年同期計	十三年一月	二月	三月	四月	前年同期計
滿洲國	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	滿洲國	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
關東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	關東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
中華民國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	中華民國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
シヤム	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	シヤム	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
英印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	英印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
シリア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	シリア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
蘭印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	蘭印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
獨逸	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	獨逸	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
白國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	白國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

スフ仕向地別輸出高 (單位封度)

比律賓	米國	亞爾然丁	パナマ	濠洲	南阿聯邦	其他	合計
一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	七、〇〇〇

(スフ) 概観

スフ糸の輸出

スフ糸の輸出は昨年より増加してゐるが、それは主として圓ブロックへであり、圓ブロック輸出の抑制方針である現在第三國への輸出を目指す必要があるが、何分生産が極度に制限されてゐるのではかばかしくない。

スフ糸仕向地別輸出高 (單位封度) ○は一三二封度以下

十三年一月	二月	三月	四月	五月	前年同期計	十三年一月	二月	三月	四月	五月	前年同期計
滿洲國	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	滿洲國	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
關東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	關東州	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
中華民國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	中華民國	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
香港	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	香港	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
海峽植民地	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	海峽植民地	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
英印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	英印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
シリア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	シリア	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
蘭印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	蘭印	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

(スフ) 概観

年	月	前年同期	六月	七月	八月	九月	累計
十三年	一月	1,579	8,514	17,028	25,542	34,056	42,570
	二月	1,579	10,093	19,607	29,121	38,135	46,649
	三月	1,579	11,662	21,176	31,240	40,744	49,263
	四月	1,579	13,231	22,745	33,299	42,803	51,317
	五月	1,579	14,800	24,314	35,358	44,847	53,371
	六月	1,579	16,369	25,883	37,417	46,891	55,425
	七月	1,579	17,938	27,452	39,476	48,940	57,479
	八月	1,579	19,507	29,021	41,535	50,984	59,533
	九月	1,579	21,076	30,590	43,594	53,028	61,587
	十月	1,579	22,645	32,159	45,653	55,072	63,641
	十一月	1,579	24,214	33,722	47,712	57,116	65,695
	十二月	1,579	25,783	35,281	49,770	59,164	67,749
前年	同	1,579	25,783	51,566	77,350	103,543	129,736

スフ織物の輸出は増加を示して居り、輸出先も前二者に較べて多方面に亘つてゐる、スフ織物輸出好調は、競争國の未だ妙いこと、且つ第三國向けは糸と同様はかばかしくなす。

スフ織物仕向地別輸出高 (單位千方碼)

年	月	滿洲國	關東州	支那	香港	英印	比律賓	荷蘭	瑞典	濠洲	比利亞	其他	合計
十三年	一月	103	38	1	17	3	6	10	10	1	1	1	158
	二月	103	43	1	17	3	6	10	10	1	1	1	166
	三月	103	48	1	17	3	6	10	10	1	1	1	174
	四月	103	53	1	17	3	6	10	10	1	1	1	182
	五月	103	58	1	17	3	6	10	10	1	1	1	190
	六月	103	63	1	17	3	6	10	10	1	1	1	198
	七月	103	68	1	17	3	6	10	10	1	1	1	206
	八月	103	73	1	17	3	6	10	10	1	1	1	214
	九月	103	78	1	17	3	6	10	10	1	1	1	222
	十月	103	83	1	17	3	6	10	10	1	1	1	230
	十一月	103	88	1	17	3	6	10	10	1	1	1	238
	十二月	103	93	1	17	3	6	10	10	1	1	1	246
前年	同	103	93	1	17	3	6	10	10	1	1	1	254

要するにスフ及其製品の輸出は遠き将来は別として、現在は肝心のスフの生産統制のためはかばかしく冀手を延ばせない憾みがある。(追記、十月一日よりスフリンクタ制が實施された、これにより原料難は緩和されたからコストさへ下げ得るならば輸出は増加しようが、其の絶対額は尙多量を見込み得ないと思ふ。)

スフ及スフ製品の生産費

スフのコストはバルブ、薬品石炭等其他一般物價値上りによる營業費等の騰貴によつて、昭和十一年末の生産費約四五圓三四銭(日産一〇通工場)(推定)に比較して六九圓二二銭に迄騰貴したのである、勿論これは一例であつて會社によつて異なることは言ふまでもない。これに需給上の逼迫状態が加はつて、スフの騰貴を來たしたが遂に政府は十三年七月のスフ及スフ糸の公定價格を制定するに至つた。(尙後節参照)

同時にスフと共に高騰せるスフ糸の公定價格も制定されたが、スフの公定價格六五圓は其のコストに比較して利ざや少きに對しスフ糸の方は相當の利益が見込まれてゐる、即ち次の如し。

品名	公定價格	原價	利益
二〇〇手	九三,〇〇〇圓	七五,六七圓	一七,三三圓
三〇〇手	九七,〇〇〇圓	七九,五四圓	一七,四六圓
四〇〇手	一〇二,〇〇〇圓	八一,〇四圓	二〇,九六圓

スフ織物に付いては未だ最高價格は決定されてゐないが、近く公定されることによつてゐる、これと關聯してスフ織物の規格が制定されることにより既に其原案も十三年十月内定したと聞いてゐる。(追記、最高價格、規格は明年二月一日より實施される)今、其の市價及コストをみると。

品名	市價	一碼當原價
モスリン	二四錢	二三錢
サリ	四〇錢	三三錢
チ		四錢

(スフ) 概観

(スフ) 概観

二 巾 (前掲スフ講座、經濟篇、紡織雜誌社發行)

二二錢四

三二錢

C 一四

スフの統制

前述の様にスフは綿毛の國內消費節約に應じて、華々しく登場したが、スフの原料たるバルブは十二年中の生産高が五萬七千噸、本年の生産高が約九萬噸であつて、未だ其の大部分を輸入に依存する。従つて軍需充足を第一とする戦時經濟の持つ性格はスフと雖も無制限にバルブの輸入、消費をさすことを許さない、原料の輸入、スフの生産、配給消費面にわたつて強力なる統制の手を加へられるのは蓋し當然のことであつた。

人絹バルブ統制協會は昭和十三年のバルブ輸入量を人絹二五萬噸スフを一八萬噸、合計四三萬噸と申請したが、政府は各社のバルブ在荷の相當量に上ることを考慮し其偏在を調整して十三年スフ用バルブ消費高を一五萬八千六百噸としこれによつてスフ原料を賄ふことに決められたのである。

よつて、バルブ統制協會は新たにバルブ調整組合を設立し、各社の手持ち、以後入荷する外國産バルブ及び國産バルブの生産量を基礎としてバルブの供給計畫を樹立することになつた、即ち、調整組合は輸入バルブ、國産バルブの總てを買い上げて配給を司り手持ちの多い會社からバルブを買い上げ手持ちの少い會社へ賣り渡し、調整作用を發揮することになつた、では、十三年のバルブ供給見透しはと云ふに凡そ次の如くであつた。

昭和十三年度人絹スフ及セロファンバルブ供給豫想

昭和十二年各社手持	一六八千噸	人絹	一四九千噸
昭和十二年度新規許可	一八九〇〇	セロファン	一五八〇〇
昭和十三年度新規許可	五八〇〇〇	スフ	九〇〇〇〇
内地生産	三三八〇〇	需合	三一六〇〇
供給高總計	七〇千噸	常備	八〇〇〇
内地物産	三三五〇〇	需高	三九六〇〇
普通生産	二二五〇〇	要合	五八〇〇〇
日本産	二二〇〇〇	差引	不足
北越、日曹、山紙、日本バルブ	二二〇〇〇	不足	
北越、日曹、山紙、日本バルブ	二二〇〇〇		
王子製紙野田、泊居人絹バルブ轉換	二〇〇〇〇		

前記供給豫想に於てスフ用バルブは一五八、〇〇〇噸と規定されての算定のみだが其根據は次の通りである。

昭和十三年中のスフ需要高 (單位一〇〇萬封度)	朝鮮向	純スフ糸紡出用	純スフ増産分	輸出	合計
一〇八	一六	一三・五	八四	五二	一三
昭和十二年末スフ、ストック					四〇
スフ需要高					三二〇
昭和十三年末ストック					二九〇
昭和十三年中に生産すべきスフの量					三四八

この豫想に基いてスフ同業會は一定規準(略)により各社へバルブを割當てたが、三一〇百萬封度と年末ストックたるべき二〇百萬封度の合計三三〇百萬封度では各月生産高は二、七五〇萬封度となり五月生産高に比し平均して二九・八%の減少に當る。しかも此の操短率は六月より更に擴大されるに至つた、といふのは十三年四月に輸入を許可されることによつてゐた五八千噸のバルブの輸入が不許可となつた爲で、これより根本的にバルブ消費豫定の變更を餘儀なくされ、六月よりスフの生産統制なすことになり其の操業率は生産能力の半分以下に迄低下された、即ち七月現在の各社スフ生産能力は日産一千噸を越してゐるが、六月以後は日産三五〇噸程度にまで下げられた。

スフの配給統制

スフの生産減少に對しスフの需要は、綿毛の制限によつて愈々増大するのであるから、必然配給統制の必要を生じ七月よりスフ同業會(現在日本ステープルファイバー製造工業組合)は商工省の決定せる基準及配給高のもとにスフ割當を開始した。其の第一回七月度のスフ配給は次の如くである。

七月スフ割當 (單位千封度)

羊毛關係	二、七〇〇
内羊毛工業會	二、四五〇
紡毛糸工聯	一三〇〇
アウトサイダー	七〇

(スフ) 概観

C 一五

紡績聯合會	留	五〇
絹紡工業會		一八、一三〇 (特織七〇〇封度を含む)
人織工業會		一五〇
合保		八、二八〇
計留		一、二六〇
合計		三〇、五二〇

この配給量に従へば紡績關係のスフ消費量は十分カバーでき、羊毛工業會のスフ消費量も従前と大した變りはない、只今後のスフ混紡率の増加を考へる時、毛とスフの混紡等の生産減は免れ難い、絹紡工業會への割當も従来より幾分多いと云はれる、歩の悪いのは人織工業會の分である、即ちこの割當量では六月に比し約三割位の操業しか出来ない、スフ紡績工組加盟會社中には紡績加盟社もあり特織毎月七〇〇萬封度の配給があるので操業率は未だしもであるが人絹、スフ糸及スフ紡績のみの會社は非常な痛手である、よつて紡績のスフ紡績は除籍して、紡績へは混紡用のスフのみに止め、スフ糸原料はスフ紡績工組へ割當てることが必要であるとの主張も聞くのである。

スフ糸の配給統制

スフ糸の配給統制は一つは綿工聯と一つは日本のスフ織物工業組合聯合會とによつて行はれる、尤も後者は未だ統制の準備中である、綿工聯の分は紡績各社のスフ糸を機業家に一定基準(略)の下に配給するもので、後者は人織紡績工業組合加盟會社のスフ糸を受持つものである。

スフの價格統制

前記の如く、累増を續けたスフの生産も遂に制限されるに至つたが、國內消費の節約は七月の物動計畫を期として更に強化されることになり、綿製品の非常管理は國內オールスフ時代を實現せしめ、スフの需要はいよいよ募る計り、斯うした供給と需要の喰違ひは勢ひ價格に統制の手をかへる外はないのであつて、遂にスフ及スフ糸の公定價格が十三年七月十日商工省令によつて公布、實施をみるに至つたのである。(最高價格表略) 尙、一三頁参照

斯ういふ風にスフ統制は全面的に實施されるに至つた、從て各團體——スフ同業會、人織工業會の工組合並に各地に設立されたスフ染色捺染工組、スフ織物工組の設立及び其上に立つ聯合會の創立——の事を書く可きだが省略する、只だ此統制組合の上に近

かくスフの大工聯が設立され統制系統の確立の近きことを付け加へておかう。

更に、此の統制も決つて圓滑に行はれておかない、例へばスフ及スフ糸の配給は頗る不圓滑で、紡績及機業地に於いて原料の手に當に困窮せる者も尠くない、スフ製造工組では八月より切符制による配給を開始したが、とに角ストツタの勢いの拘らずスフの配給割當が數量的に且つ時間的にきり詰めて配給せねばならないのでは不圓滑は當然である。

或は品質の良好なるものは自家紡績用として止め悪質のものは賣渡用に充てる等の弊害がある、また最高價格制によつて品質の悪いものも一律に最高價格で賣れるので品質の劣悪の生じたものもあると云ふ。(此の品質問題に關聯してスフ同業會と紡績以下の五つの消費團體とによつて裁定委員會を作り受渡品の品質に付いて紛糾の生じた場合、委員に格賣を決定せしめ値引其他の方法で調整することになつた)。

又た、スフ糸の配給統制(スフ織工組聯の分)も割當基準を調査中であるが、其の基準は十二年及十三年三月迄考慮することになつてゐるが、それ迄に實績のない者も相當あり、問題を殘してゐる。

統制と會社

統制によつて會社の受ける影響は一般的に云つて勿論、生産減と價格の公定による利潤の減少である、しかし此の中にも各社によつて影響の程度は異なる、例へばスフの生産統制によつて各社のスフ生産は減少したが、人絹兼營では人絹の方と機械設備を二重登録せる上に、人絹七割操短の結果獲得せる特織によつて、スフ専門會社より遙かに操業率は良い、よつて専門會社は二重登録を廢止し、スフ設備はスフ、人絹設備は人絹と截然と分け、これに應じてバルブの配給統制をなすべしと唱へてゐる。

また、スフ紡績に於いては設備五割、實績五割によつて配給の基準となしたが、これに對してスフ人絹會社の設備は比較的新しく、實績は尠いから紡績各社と較べて非常に不利であると云はれる。殊に最高價格はスフに悪く(スフ公定價格、六五圓、十二月渡六八圓)スフ糸に良いことは一層此の問題を深刻化する。

近く許可されるといふスフのリンクル制も第三國への輸出がその生産に對して僅少の割合にあることを想へば、輸出も期待をかけ難く、明年のスフ人絹バルブは國産二〇萬噸は可能と見られ、本年より約十萬噸の増産ではあるが、スフの生産は矢張り毎日二千三百萬封度見當に抑へられて行くのではないか。斯うしてスフ専門會社の悩みは果てない。

全國 ファイバー 製造會社・工場要覽

(五十音順)

(備考) 人絹兼營、綿紡兼營ハ夫ゾレ人絹及綿紡會社ノ項ヲ参照セラレタシ

旭ペンベルグ絹絲株式會社

〔本 社〕 大阪市北區宗是町一丁目大阪ビ
ル
電土佐堀四九〇二一五
昭和六年五月
創立
資本金 四六、〇〇〇千圓
株 本 三七、〇〇〇千圓
配 當 新 五〇圓 五六〇千株
舊 二五圓 三六〇千株
〔決 算 期〕 十二年下期 一割
十三年上期 同
四月 十月

〔社 員〕 社長 野口 近
常務取締役 市川 誠次
取締役 坂並直三郎
上島五郎
飯島貞祐
立川正三
ベルナルド・モーア
クルト・フロワイン
同 坂 啓次郎
同 萩 生傳
同 コンラート・ヘルマン

〔大 株 主〕 日本 室 素 六七七、七二二

〔投資會社〕 旭染工、旭絹織
〔人絹日産能力〕 三五〇
〔綿日産能力〕 二五〇
〔人絹七月運轉能力〕 日産 二〇〇
〔人絹七月運轉能力〕 一、二、八二八兩
〔スフ日産能力〕 三、一三〇
〔スフ七月運轉能力〕 一、四〇〇
〔スフ七月運轉能力〕 八、〇七三千封度
〔スフ七月運轉能力〕 八、七五五千封度
〔スフ紡機運轉〕 一萬
〔スフ紡機運轉〕 八、五〇〇(六月)
〔無水アンモニア年産能力〕 一、二〇〇
〔硫酸日産能力〕 一、〇〇〇
〔苛性曹達日産能力〕 五、六〇〇
〔合成硝酸日産能力〕 四、〇〇〇
外ニ備人絹小量ノ生産アリ

〔大 株 主〕 滋賀縣大津市膳所栗津町
電大津二五六

工場長 立川 正三
スフ紡機運轉數 三、一三〇
綿紡 一萬
延岡ペンベルグ工場
所在地 宮崎縣延岡市恒富
電延岡三一七
杉本 敏夫
工場長 二五〇
日産能力 二五〇

延岡レーヨン工場
所在地 宮崎縣延岡市岡
富電延岡三四一
辻井 武吉
工場長 三五〇
人絹日産能力 三五〇

出雲製織株式會社
〔本 社〕 島根縣津和野市町
電今市六〇〇
〔營 業 所〕 大阪市東區備後町三丁目綿業會
館 電本町一三二一
大正九年一月
創立
資本金 二〇、〇〇〇千圓
株 本 一〇、〇〇〇千圓
配 當 新 五〇圓 二〇〇千株
舊 二五圓 二〇〇千株
〔決 算 期〕 十二年下期 一割
十三年上期 同

〔決 算 期〕 五月 十一月

〔社 員〕 取締役社長 穴道寛一
取締役 四方武太郎
同 糸原武一郎
同 佐藤 眞一
同 米益 清一
同 多田 芳一
同 飯田重之助
同 山田金右衛門
同 櫻内 幸雄
同 相 談 役 櫻内 幸雄
〔綿紡機〕 一九七、〇九二
〔綿糸機〕 五、六九二
〔織 機〕 一、四〇七
〔人絹日産能力〕 一五〇
〔人絹七月運轉能力〕 五五
〔人絹七月運轉能力〕 三、〇九八兩
〔スフ日産能力〕 七、一〇〇
〔スフ七月運轉能力〕 六〇
〔スフ十三年上期生産高〕 二、三四二千封度
〔スフ七月生産高〕 三九二千封度
スフ糸ハ穴道工場デ行ハル

石見人絹工場
所在地 島根縣美濃郡高津町大字須子
電高津一一
工場長 米益 清一
人絹、スフ能力ハ前掲

鐘淵紡績株式會社
〔本 社〕 東京市向島區隅田町二丁目
電隅田二〇九一二
〔營 業 所〕 神戸市林田區御崎町一丁目
(スフ) 出雲製織・鐘紡

〔投資會社〕 旭染工、旭絹織
〔人絹日産能力〕 三五〇
〔綿日産能力〕 二五〇
〔人絹七月運轉能力〕 日産 二〇〇
〔人絹七月運轉能力〕 一、二、八二八兩
〔スフ日産能力〕 三、一三〇
〔スフ七月運轉能力〕 一、四〇〇
〔スフ七月運轉能力〕 八、〇七三千封度
〔スフ七月運轉能力〕 八、七五五千封度
〔スフ紡機運轉〕 一萬
〔スフ紡機運轉〕 八、五〇〇(六月)
〔無水アンモニア年産能力〕 一、二〇〇
〔硫酸日産能力〕 一、〇〇〇
〔苛性曹達日産能力〕 五、六〇〇
〔合成硝酸日産能力〕 四、〇〇〇
外ニ備人絹小量ノ生産アリ

〔大 株 主〕 滋賀縣大津市膳所栗津町
電大津二五六

〔綿 紡 機〕 一、一三五、五一六
〔綿 糸 機〕 一、一三五、五一六
〔織 機〕 一、一三五、五一六
〔人絹日産能力〕 一、一三五、五一六
〔人絹七月運轉能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ日産能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ七月運轉能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ十三年上期生産高〕 一、一三五、五一六
〔スフ七月生産高〕 一、一三五、五一六

東 証 一六、二八〇
株 代 行 一四、一〇〇

〔綿 紡 機〕 一、一三五、五一六
〔綿 糸 機〕 一、一三五、五一六
〔織 機〕 一、一三五、五一六
〔人絹日産能力〕 一、一三五、五一六
〔人絹七月運轉能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ日産能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ七月運轉能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ十三年上期生産高〕 一、一三五、五一六
〔スフ七月生産高〕 一、一三五、五一六

神 取 一六、二八〇
株 代 行 一四、一〇〇

〔綿 紡 機〕 一、一三五、五一六
〔綿 糸 機〕 一、一三五、五一六
〔織 機〕 一、一三五、五一六
〔人絹日産能力〕 一、一三五、五一六
〔人絹七月運轉能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ日産能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ七月運轉能力〕 一、一三五、五一六
〔スフ十三年上期生産高〕 一、一三五、五一六
〔スフ七月生産高〕 一、一三五、五一六

高 砂 工 場
所在地 兵庫縣加古郡高砂町
北野 榮政
工場長 一五〇
スフ日産能力 一五〇

防 府 工 場
所在地 山口縣防府市三田尻
渡邊 定範
工場長 三〇〇
スフ日産能力 三〇〇

平 塚 工 場
所在地 朝鮮平壤府舟楡里
C 一九

〔スフ〕 鐘紡・錦華紡・倉紡

工場長 小島 光彦
建設中 一〇〇
スフ生産ノ計畫アリ
スフ系ハ東京、兵庫、中島、松坂、高砂、大
阪、洲本、和歌山、西大寺、備前ノ工場ヲ操
業、尚紡紡式ハ上京、下京工場ヲ操業

錦華紡績株式會社

【本社】 金澤市大豆田新町
電三九三〇
【營業所】 大阪市東區瓦町二丁目三和ビル
電北濱七三七
【創立】 大正六年六月
【資本】 三三、〇〇〇千圓
【株込】 二、六八五千圓
【配當】 舊 五〇圓 三八四、九二〇株
新 一二、五圓 二七五、〇八〇株
【決算期】 十二年度下期 一割
十三年上期 應四分 普一割
五月 十一月

【投資會社】 調査課長 根來 謙三
研究所長 有 成 九十九
那振興、住友金屬工業、倉敷紡
績、數島織布、富國人絹パ
績、四國中央電力、千住製絨所

【大株主】 倉敷紡績 一七五、五〇三
大原合資會社 一〇六、四一九
住友 二八、八〇〇
住友 二七、〇〇〇
住友化學工業 一一、二八〇
第一徵兵保險 一、二一四
大株代 五、一四二
職員數 男四一七名 女八名
【職工數】 計四二五名 男三、八三五名 女二、一二六名
【人絹日産能力】 八四〇
【人絹七月運轉能力】 二二〇
【人絹七月生産高】 一四、一六〇兩
【スフ日産能力】 一七〇
【スフ七月運轉能力】 一七〇
【スフ七月生産高】 一、二二三千封度

倉敷工場

所在地 岡山縣都窪郡中洲村大字酒津
電話五八〇一
昭和三年五月
主要職員 工場長 原 謙太郎
事務課長 橋本 正治
人事課長 楠本 正治
（スフ） 倉紡・壽織維

【大株主】

江崎 幸一 一九、八〇〇
西澤 義一 一五、七〇〇
小澤 進 一〇、一〇〇
千代田 生命 九、九五〇
望月 太郎 七、〇〇〇
住友 生 七、〇〇〇

宇品工場

【本社】 倉敷市元町四九七ノ四
電倉敷一〇一
【大阪出張所】 大阪市東區今橋四丁目三菱信託
ビル 電北濱六二〇二一三、六二五三
九、六〇八四
【備考】 スフ系ハ浪速、佐賀、福井、金澤工
場ヲ行ハル
【主要職員】 工場長 藤岡 邦二
試験部長 岩崎 一郎
スフ系ハ浪速、佐賀、福井、金澤工
場ヲ行ハル

製造課長 野村 重基
機械課長 太田 正治
職工數 男一、〇七七名 女六七〇名
建設地 計一、七四七坪
一、一七、四六二坪
二四、〇三三坪
建設地 二四〇坪
人絹日産能力 四、三七七
スフ日産能力

岡山工場

所在地 岡山市福島
電岡山六七八一
昭和十一年八月
主要職員 工場長 橋本 富三郎
事務課長 今村 晴男
製造課長 大 山 政一
機械課長 笠 本 政 旭
職工數 男七九六名 女六五二名
計一、四四八名
二一七、六〇九坪
建設地 七〇〇坪
人絹日産能力 二二〇
スフ日産能力 七〇
工場新設（昭和十四年上期竣工
予定）
倉敷人絹パルプ工場、日産二〇〇
工場新設

新居濱工場

所在地 新居濱市甲一、五四四
電新居濱五五・六五
昭和八年十一月
主要職員 工場長 豊島 武治

〔販賣課東京出張所〕

東京市日本橋區大傳馬町
二丁目傳馬ビル六階
電浪花一九一五一六
大正十九年六月
【創立】 五、〇〇〇千圓
【資本】 三〇、〇〇〇千圓
【株込】 三〇、〇〇〇千圓
【配當】 新 三、七五圓 二〇〇千株
舊 五〇圓 四〇〇千株
【決算期】 十二年度下期 一割
十三年上期 一割
五月 十一月

大原 孫三郎
神橋 澄吉
高橋 澄吉
原 井 助三
福井 伸治
吉原 得助
三井 得一
大村 純一
大村 健
中村 常三
福成 常三
仙石 常三
高城 常三
水野 常三
若木 常三
福井 常三

事務課長 西村 拾五郎
人事課長 木村 三夫
機械課長 森 分好
製造課長 約一、一七〇坪
建設地 一、一七〇坪
人絹日産能力 二七三
スフ日産能力

西條工場

所在地 愛媛縣新居郡西條町
電西條二四・一〇
昭和十一年七月二十七日
主要職員 工場長 中村 道雄
事務課長 川崎 盛三
人事課長 渡邊 市郎
製造課長 紀野 久次郎
機械課長 計一、二一九名
男九一五名 女三〇四名
建設地 一八、四八一坪
一八、四八一坪
人絹日産能力 一五〇
スフ日産能力 二二〇

壽織維工業株式會社

【本社】 大阪市北區會根崎上二丁目共同
建設中
スフ日産一〇〇工場ヲ朝鮮郡山
ニ建設中

(スフ) 寄織維・新日本レイヨン

【出張所】 電北三四二〇一五
東京市日本橋區室町二丁目三和
電北七階
電日本橋一〇〇六

【創立】 昭和十年十月

【資本金】 二〇、〇〇〇千圓

【株数】 一、三、二、五〇〇千株

【配當】 新二七、五〇〇圓 三〇〇〇千株
十二下期 八分
十三年上期 五分

【決算期】 四月 十月

【役員】

代表取締役	常務取締役	取締役	監査役	監査役	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問
菊本直次郎	常田健次郎	林原繁次郎	北野彦三郎	河野次郎	廣瀬次郎	武村駒治郎	瀧野多三郎	深尾吉次郎	常田吉次郎	寺家七兵衛
今下村奇男	寺家七兵衛	常田吉次郎	深尾吉次郎	常田吉次郎	寺家七兵衛	常田吉次郎	深尾吉次郎	常田吉次郎	寺家七兵衛	常田吉次郎

【役員】

代表取締役	常務取締役	取締役	監査役	監査役	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問
遠山併成株式會社	荒川長太郎	井上政則	小崎善太郎	片岡次郎	横田敏造	山田正之	野逸雄	山田正之	野逸雄	山田正之

新日本レイヨン株式会社

【本社】 大阪市東區今橋三丁目共同信託ビル四階 電北濱六七五一九

【資本金】 七、五〇〇千圓

【株数】 一、二、五〇〇千株

【配當】 十二下期 ナシ
十三年上期 ナシ

【決算期】 五月 十一月

【役員】

代表取締役	常務取締役	取締役	監査役	監査役	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問
伊藤野萬助	森田一也	小寺源成	松野源成	宮野源成	菊池文三	常田吉次郎	深尾吉次郎	常田吉次郎	寺家七兵衛	常田吉次郎

小杉工場

【所在地】 富山縣射水郡小杉町戸破 三、四五六 電小杉三七

【工場長】 伊藤丹治

【職工数】 男一、四〇〇名 女一、三〇〇名 計一、七〇〇名

【業務】 竹田方策

【主要職員】

代表取締役	常務取締役	取締役	監査役	監査役	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問
岩田宗次郎	岡部正三	田代重義	下村太郎	上山助太郎	岩田宗次郎	伊藤萬助	菊池文三	日本紡績會	日本レイヨン	大株主

江津工場

【所在地】 島根縣那賀郡江津町大字郷田字後濱新開一、二八〇 電石見江津一〇二

【建設中】

【主要職員】

工場長 中原孝之

(スフ) 新日本レイヨン・新興人絹

新興人絹株式會社

【本社】 大阪市東區今橋四丁目一、三菱信託ビル

【創立】 昭和八年八月

【沿革】 備後川口河崎町河崎新製絲株式會社設立。昭和八年八月、備後川口河崎町河崎新製絲株式會社を合併し、備後川口河崎新製絲株式會社と改稱。昭和八年八月、備後川口河崎新製絲株式會社を合併し、備後川口河崎新製絲株式會社と改稱。昭和八年八月、備後川口河崎新製絲株式會社を合併し、備後川口河崎新製絲株式會社と改稱。

新日本レイヨン株式会社

【本社】 大阪市東區今橋三丁目共同信託ビル四階 電北濱六七五一九

【資本金】 七、五〇〇千圓

【株数】 一、二、五〇〇千株

【配當】 十二下期 ナシ
十三年上期 ナシ

【決算期】 五月 十一月

【役員】

代表取締役	常務取締役	取締役	監査役	監査役	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問	顧問
伊藤野萬助	森田一也	小寺源成	松野源成	宮野源成	菊池文三	常田吉次郎	深尾吉次郎	常田吉次郎	寺家七兵衛	常田吉次郎

(スフ) 新興人絹

【スフ七月生産高】一、五一一千封度
【スフ紡機別付】六二、〇〇〇封
【スフ撚糸機】二二、〇〇〇封

大竹工場

所在地 廣島縣佐伯郡小方村
電大竹四・一二五
昭和十年一月

主要職員 加美好男
事務科長 山本昌彦
工務科長 巢山嘉吉

岐阜工場

所在地 岐阜市本庄
昭和十年十二月

主要職員 安岡勉
工場長 安岡勉
工務科長 中山山勉
スフ糸紡機 前掲(運轉 五三三封度)

【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同
【スフ糸紡機】同

昭和人絹株式會社

【本社】 東京市京橋區室町一丁目味の素ビル 電京橋一〇八・六一〇〇
【出張所】 大阪市東區安土町伊藤忠商事内 電本町三〇五一
【資本金】 昭和人絹株式會社 二、二四八千圓

二四

【苛性曹達】日産(九八%)八五噸(五〇%)
【硫酸】日産(九八%)八五噸(五〇%)
【二硫化炭素】日産二五噸
【過燐酸石灰】同 二〇〇噸
【過燐酸石灰】同 二〇〇噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸

錦工場

所在地 福島縣石城郡錦町

主要職員 鈴木本一
工場長 鈴木本一
工務主任 川名啓三
庶務主任 藤又且太
電力主任 藤又且太
計理主任 藤又且太
計理主任 藤又且太

高萩工場

所在地 茨城縣多賀郡高萩町

主要職員 鈴木本一
工場長 鈴木本一
工務主任 川名啓三
庶務主任 藤又且太
電力主任 藤又且太
計理主任 藤又且太
計理主任 藤又且太

【スフ七月生産高】一、〇〇〇キロ
【ワット(高萩工場)】日産三五噸
【苛性曹達】日産(九八%)八五噸(五〇%)
【硫酸】日産(九八%)八五噸(五〇%)
【二硫化炭素】日産二五噸
【過燐酸石灰】同 二〇〇噸
【過燐酸石灰】同 二〇〇噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸

工場長 村田 靖長
職工數 男一、七八二名 女六七八名
計二、四六〇名
人絹日産能力 一〇、〇七二坪
スフ日産能力 二一・七噸

津工場

所在地 三重縣津市外三本松
電津六〇〇
工場長 松谷榮二郎
職工數 男二五一名 女二一六名
計四六七名
建築地 四、八〇〇坪
人絹日産能力 三噸
人絹七月生産高 三噸
【備考】 當工場ハ昭和十二年十一月十日三重人絹ヲ合併セルモノナリ

龍山工場

所在地 兵庫縣伊南郡伊保村
電龍一〇九・五六三坪
【備考】 當工場ハ敷地ノミ

庄内川レイヨン株式會社

【本社】 名古屋市西區堀越町字乘越 電西五三・八五一八七
【資本金】 昭和人絹株式會社 六、〇〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓
【株數】 四、五〇〇千圓

庄内工場

所在地 愛知縣西春日井郡庄内町
昭和八年十月
主要職員 三好甲子郎

第二帝國人絹株式會社

【本社】 大阪市北區中之島二丁目江商ビル 電北濱三一・八八一九
【資本金】 二〇、〇〇〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓

(スフ) 新興人絹・庄内川レイヨン・第二帝國人

【スフ七月生産高】一、〇〇〇キロ
【ワット(高萩工場)】日産三五噸
【苛性曹達】日産(九八%)八五噸(五〇%)
【硫酸】日産(九八%)八五噸(五〇%)
【二硫化炭素】日産二五噸
【過燐酸石灰】同 二〇〇噸
【過燐酸石灰】同 二〇〇噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸
【人絹七月生産高】一、三三三噸

高萩工場

所在地 茨城縣多賀郡高萩町

主要職員 鈴木本一
工場長 鈴木本一
工務主任 川名啓三
庶務主任 藤又且太
電力主任 藤又且太
計理主任 藤又且太
計理主任 藤又且太

錦工場

所在地 福島縣石城郡錦町

主要職員 鈴木本一
工場長 鈴木本一
工務主任 川名啓三
庶務主任 藤又且太
電力主任 藤又且太
計理主任 藤又且太
計理主任 藤又且太

庄内工場

所在地 愛知縣西春日井郡庄内町
昭和八年十月
主要職員 三好甲子郎

第二帝國人絹株式會社

【本社】 大阪市北區中之島二丁目江商ビル 電北濱三一・八八一九
【資本金】 二〇、〇〇〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓
【株數】 二五〇千圓

二五

各種纖維糊付劑
各種染色助劑
各種柔軟劑
各種精練加工劑
製造專門

新製品 ダブラー

飛ばぬ、散らぬ、持ちのよい
纖維工業上最も經濟的なリング用潤滑油



合名會社 松本商店

大阪府中河内郡久寶寺村久寶寺(八尾中學校西横)

電話 八尾 434, 479, 振替大阪 76821 番

(スフ) 東洋紡・東亞纖維

日本生命 一八、九八五
帝國生命 一五、一〇〇
濱尾喜兵衛 一三、二三〇
【投資會社】裕豐紡績、東洋染色、大阪毛織
【綿紡機】一、六九九、八七二
【綿紡機】四三、一七六
【綿紡機】四一、三、六八八
【梳毛機】三七、〇二〇
【梳毛機】二二、一五二
【人絹日産能力】四八
【人絹七月生産高】一八
【人絹七月生産高】一、六四二
【スフ日産能力】七〇、三
【スフ七月運轉能力】一、二五
【スフ七月運轉能力】一九、〇二五
【スフ七月生産高】一、六一二

岩國工場

所在地 山口縣玖珂郡瀬村海土路
電話生二一
昭和十二年七月一日
主要職員 坂原甚三郎
技術師 坂野和威
用人部長 米村和威
取用部長 原田一
計算法部長 長澤一
原糸部部長 石本澤
紡糸部部長 森本澤
精練漂白部部長 阿部良
保全部部長 橋本良
職工數 男八三〇名 女一五〇名

堅田工場

所在地 滋賀縣堅田町
工場長 和田鴻次郎
【スフ日産能力】一五〇
【人絹日産能力】一〇〇

敦賀工場

所在地 福井縣敦賀町
工場長 太田豊彦
【人絹日産能力】三〇
【スフ日産能力】一〇〇
津島、王子工場ヲ採業

東亞纖維工業株式會社

【本社】兵庫縣赤穂郡坂越町坂越
【大阪營業所】大阪市東區北濱二丁目片倉館
【創立】昭和十三年十月十五日
【資本金】一億圓
【株數】一六〇千株
【舊紡機】十二下期 一割五分
【舊紡機】十三年上期 一割二分

役員

代表取締役 松尾忠二
取締役 土居一男
常務取締役 今根奇二
取締役 中根三郎
同 黒田高吉
同 廣井重吉
同 古川重吉
同 大田川義雄
同 依田武治
同 依田武治
同 依田武治

監査役

監査役 依田武治
監査役 依田武治
監査役 依田武治

庶務主任

庶務主任 依田武治
庶務主任 依田武治
庶務主任 依田武治

主要職員

技術師 坂原甚三郎
技術師 坂野和威
用人部長 米村和威
取用部長 原田一
計算法部長 長澤一
原糸部部長 石本澤
紡糸部部長 森本澤
精練漂白部部長 阿部良
保全部部長 橋本良
職工數 男八三〇名 女一五〇名

坂越工場

所在地 兵庫縣赤穂郡坂越町坂越
電話一九・長二一
【舊紡機】昭和十年九月九日

三菱 電機



弊社紡績用高率モートルによつて單獨運轉されつゝある精紡機

紡績工場用發變電設備
紡績紡織機運轉用高能率電動機
紡績工場用受電及保安設備

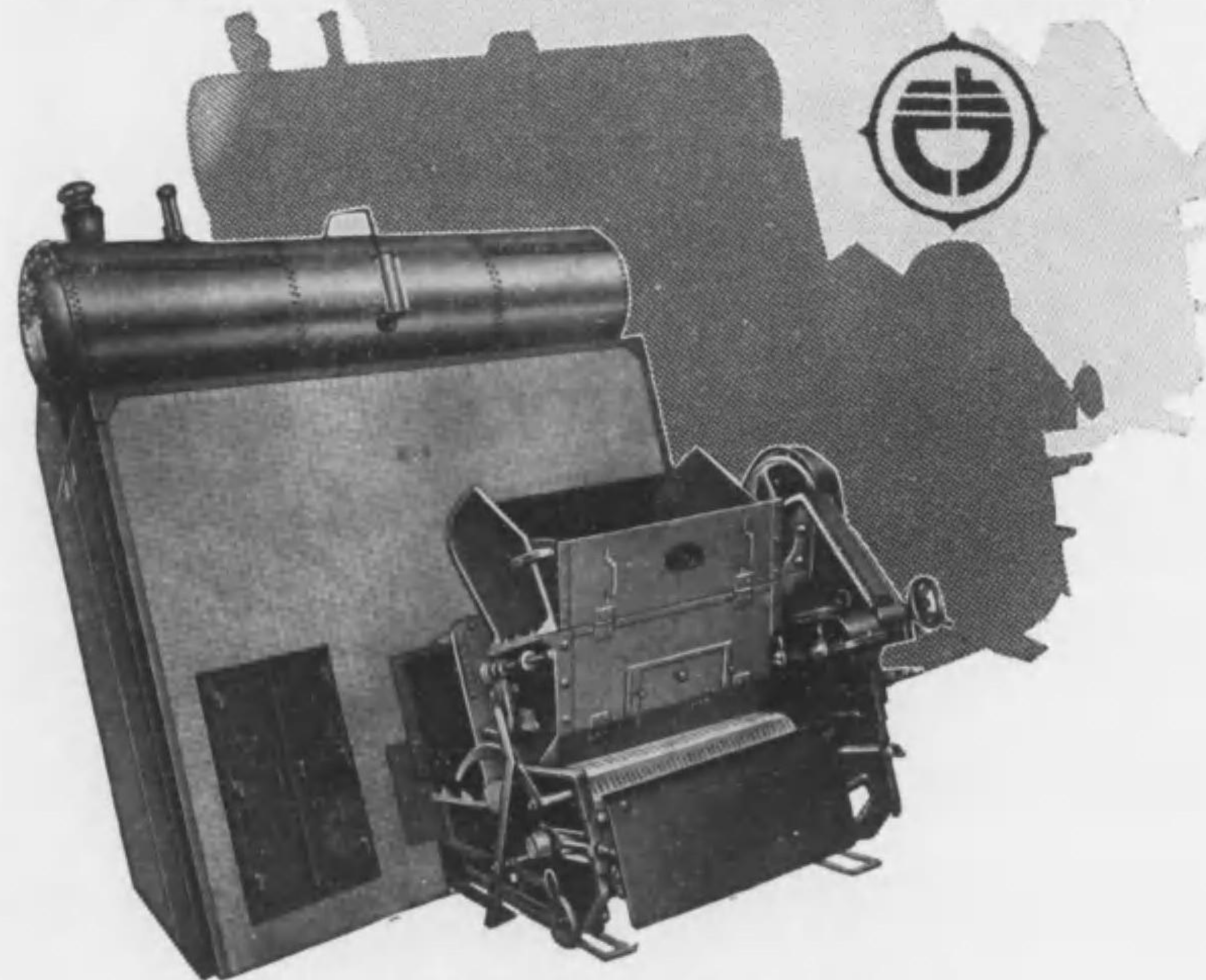
三菱電機株式会社

本店 東京丸ノ内 神戸製作所 神戸市和田崎町
名古屋製作所 名古屋市東區矢田町 長崎製作所 長崎市平戸小屋町

一手販賣元

三菱商事株式会社

AK水管式汽罐



特許出願番號願第8,276號
實用新案出願公告第14946號

(型錄進呈)

日本汽罐製造株式会社

本社 東京市日本橋區馬喰町四丁目一番地
電話原能⑥0663・0993番

工場 東京市深川區毛利町二番地
電話本所⑥3803・3903・5836番

千代田生命 七、一〇〇
 保險相互會社 三、〇七〇
 片倉生命 三、〇〇〇
 片倉株式會社 二、五〇〇
 片倉三平 四、六四〇
 江商株式會社 三、九四〇
 【投資會社】日本毛糸紡績株式會社、鬼首鐵業株式會社

【主要職員】

總務部長 阿部利七郎
 經理部長 白井千尋
 工務部長 田中藤治
 工務部長 島村芳三
 同 部長 長崎三郎
 庶務部長 小井新平
 庶務部長 井上繁次
 庶務部長 谷留藏
 庶務部長 林田康二
 庶務部長 樋口康二
 庶務部長 北村菊太郎
 庶務部長 村上勤太郎
 庶務部長 上川次郎
 庶務部長 山田次郎
 庶務部長 山口八郎
 庶務部長 乙竹八郎
 庶務部長 森下五郎
 庶務部長 羽岡謙
 庶務部長 山縣謙
 庶務部長 新井順次
 庶務部長 計二七三名 女一名
 庶務部長 計二七四名 女一名
 庶務部長 計一〇、一九八名

郡山第二工場
 所在地 福島縣郡山市豊田町一三三
 電話 郡山七五七・八五八
 計一、〇〇四名
 一四、四三七坪
 八、六四五坪

郡山第三工場
 所在地 郡山市長者町二二五
 電話 六六・九一
 田中康年
 電力一七三瓩 二、二二六馬力
 三七、四〇〇瓩
 男一一名 女五八〇名
 計六九一名
 二〇、四七三坪
 七、三三八坪

名古屋工場(綿糸工場)
 所在地 名古屋市中川區八熊町
 電話 二四九四・四一六四
 (スフ) 日東紡・日曹人絹バルフ

【工場機】 電力三、三三〇瓩
 二九、七六五馬力
 【紡】 二九、七六五馬力
 精梳糸 一、七九〇瓩
 粗紡糸 二、〇〇〇瓩
 細紡糸 七、四六八瓩
 縮編用精梳糸 三、二一六瓩
 縮編用粗梳糸 六、九〇〇瓩
 合計 二五、四九二瓩
 一七、〇〇〇瓩
 一、三三六瓩
 一、四二六瓩
 合計 一、四六九瓩
 一、三三六瓩
 一、一三三瓩
 合計 一、四六九瓩
 一、三三六瓩
 一、一三三瓩

伊丹工場

所在地 兵庫縣川邊郡津村
 電話 大阪福島三八九六伊丹六三七
 主要職員 田中貞雄
 工場主任 高橋富雄
 庶務主任 高橋富雄
 染色部主任 高橋富雄
 原動機 一五六瓩 六七一馬力

新潟工場(綿糸工場)
 所在地 新潟市沼垂町字大山三、五二〇
 電話 一一一五・一五九八

福島工場
 所在地 福島縣信夫郡杉妻村大字野目
 字東一 電六五・六七
 主要職員 廣川憲
 工場主任 須藤義治
 庶務主任 須藤義治
 人事主任 須藤義治
 電力 一、一五六瓩
 九、〇三三馬力
 二五、〇四〇瓩
 一一、二四八瓩
 二八、六六瓩
 三五、五〇瓩

富久山工場
 所在地 福島縣安積郡富久山町字福原
 電話 二五三・八六五・九六七
 主要職員 秀瀬日吉
 工場主任 外村榮一

精練出來高 一日 二八、〇〇〇反
 染色出來高 一日 五、〇〇〇反
 職工數 男一八〇名 女一三四名
 計三一四名
 一四、八三七坪
 五、九九三坪

金澤工場

所在地 金澤市諸江町上町
 電話 四六四
 主要職員 富田由明
 工場主任 小林忠進
 庶務主任 岩上進
 電力 一九二瓩 三五一馬力
 六、二〇〇瓩
 大巾 一、三三六瓩
 二六一瓩
 男七〇名 女九八一名
 計一六八一名
 一六、二一〇坪
 五、二九五坪

郡山工場
 所在地 郡山市龍山町一五
 電話 八七・八九
 主要職員 安倍恒雄
 工場主任 宮澤源一
 電力 一九〇瓩
 一、四六〇馬力
 二〇、八二八瓩
 一〇、五一六瓩
 男二四八名 女七五六名

日曹人絹バルフ株式會社
 (本) 社 東京市麹町區大手町二丁目八ノ
 七日本曹達内
 電話 九ノ内代表長一七七一(五)
 長二四二(一五)長四五一(一五)
 二九九二
 昭和十二年三月十一日
 昭和三十二年三月十一日
 萬圓(四百五十萬圓)ヲ以テ
 創立セラレ次イデ同年八月日本
 日本人絹株式會社並ニ綾羽紡績
 株式會社ヲ合併シタル結果資本
 金三千萬圓(七百五十萬圓拂込)
 トナリタリ

資本金 三〇、〇〇〇千圓
 拂込金 七、五〇〇千圓
 株數 一、二五〇千株
 配當 十二下期 ナシ
 決算期 四月 十月
 取締役社長 中野友禮
 三五

(スフ) 日本人造羊毛・日本レイヨン

新井 啓五郎 四、二五〇
星野 準一郎 四、〇〇〇
【人絹日産能力】四〇〇
【人絹七月生産高】二・三〇〇
【人絹七月生産高】四、八二四千封度
【スフ日産能力】六〇〇
【スフ七月生産高】四〇〇
【スフ七月生産高】三、五七千封度
【スフ七月生産高】二、七六千封度

大分工場

所在地 大分縣大分市豊河原
電大分一五一〇

日本レイヨン株式会社

【本社】 大阪市東區今橋三丁目共同信託ビル
【東京出張所】 東京市日本橋區小船町小倉石油ビル四階 電茅場町(66)六一四八・六二二八
【名古屋出張所】 名古屋市中區榮町三丁目安田信託ビル 電中(3)四六三七・四六九七
【創立】 大正十五年三月十七日
【資本金】 三、〇〇〇千圓
【株数】 二、五〇〇千株
【配當】 新舊五〇圓 三〇〇千株
十二年下期 一割二分

三八

計五、八二二名
【人絹日産能力】六八〇
【人絹七月生産高】一八〇
【人絹七月生産高】一、六八一兩
【スフ日産能力】五、四九〇
【スフ七月生産高】一、〇三二千封度
【スフ七月生産高】一、〇三二千封度

宇治工場

所在地 京都府久世郡宇治町
電宇治一〇一・一四六

岡崎工場

【本社】 神戸市神戶區明石町四七 電三宮五五〇一七
【支張所】 東京市龜町區二丁目丸ビル 電丸ノ内七七五
【出金】 大正市東區淡路町四丁目 三五、〇〇〇千圓
【株数】 新舊五〇圓 四〇〇千株
【配當】 十二年下期 一割二分
【投資會社】 共立モスリン、昭和毛糸紡績

日本毛織株式会社

【本社】 東京市東區龜井町二丁目 電龜田二二一九
【支張所】 東京市日本橋區浪花町 電浪花二二五一
【創立】 明治四十年二月
【資本金】 二七、〇〇〇千圓
【株数】 五〇〇千株
【配當】 十二年下期 一割二分
【投資會社】 共立モスリン、昭和毛糸紡績

日清紡績株式会社

【本社】 東京市東區龜井町二丁目 電龜田二二一九
【支張所】 東京市日本橋區浪花町 電浪花二二五一
【創立】 明治四十年二月
【資本金】 二七、〇〇〇千圓
【株数】 五〇〇千株
【配當】 十二年下期 一割二分
【投資會社】 共立モスリン、昭和毛糸紡績

岡崎工場

【本社】 岡崎市美合町 電九二九・一四三六
【支張所】 岡崎市美合町 電九二九・一四三六
【創立】 明治三十七年
【資本金】 九、〇〇〇千圓
【株数】 三、〇〇〇株
【配當】 十二年下期 一割二分
【投資會社】 共立モスリン、昭和毛糸紡績

三九

【本社】 川西市清兵衛 電川西清兵衛
【支張所】 川西市清兵衛 電川西清兵衛
【創立】 明治三十七年
【資本金】 九、〇〇〇千圓
【株数】 三、〇〇〇株
【配當】 十二年下期 一割二分
【投資會社】 共立モスリン、昭和毛糸紡績

(スフ) 日本毛織・日出紡織

安田貯蓄 一八、五五〇
有馬市蔵 一八、一九五
澤田清兵衛 一七、三〇〇
川西清兵衛 一五、〇九二
梳毛機 一五六、一〇〇
梳毛機 二九、〇〇〇
梳毛機 一〇〇、〇〇〇
梳毛機 七五、〇〇〇
梳毛機 一、八〇〇、〇〇〇
(人絹日産能力) 六、五〇〇
(人絹七月運轉能力) 四、二〇〇
(人絹七月生産高) 二、八二七兩

名古屋人絹工場

所在地 名古屋市中川區岩塚町
工場長 内海 保次
人絹日産能力 前掲
スフ七月生産高 ナシ

日出紡織株式會社

【本社】 和歌山縣日高郡御坊町大字園
【營業所】 大阪府東區南久太郎町二丁目
【創立】 明治四十五年六月
【資本】 八、九二五、〇〇〇圓
【株主】 新二〇〇圓 一四、〇〇〇株
【配當】 十二年下期 二、五〇〇圓 二、一〇〇株
【決算】 十三年上期 同
【役員】 五月 十一月

富士纖維工業株式會社

【本社】 東京市日本橋區本町二丁目富士
【大阪事務所】 大阪府北區中之島二丁目富士
【大阪事務所】 土瓦紡績内
【創立】 昭和十年三月
【資本】 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【株主】 七、二〇〇、〇〇〇株
【配當】 十二年下期 五分
【決算】 十三年上期 同
【役員】 四月 十月
【主要職員】 日比谷平左衛門
【工場長】 玉木徳次郎
【取締役】 川村榮助
【同】 森村市左衛門
【同】 鹿村義久
【同】 林 雅之助

(スフ) 日出紡・富士纖維・福島人絹

【役員】

社長 田中榮八郎
専務取締役 加名生良
事務取締役 石野貞敏
常務取締役 木村代良
同 伊藤健三
同 初井宗吉
同 越野三藏
同 村上平助
同 西野貞助
同 永井雅也
同 岩井和一郎
同 渡邊滿次郎
同 瀧川又太郎
同 山田直二
同 田中清三郎
同 稲本利太郎
同 井尻孝一
同 大川合名會社
同 大川正雄
同 田中榮八郎
同 木代合資
同 初井千代三郎
同 岩田健三

【主要職員】

紡績課長 村上平助
技術課長 西野貞助
調査課長 永井雅也
調査課長 岩井和一郎
技術課長 渡邊滿次郎
技術課長 瀧川又太郎
技術課長 山田直二
技術課長 田中清三郎
技術課長 稲本利太郎
技術課長 井尻孝一
技術課長 大川合名會社
技術課長 大川正雄
技術課長 田中榮八郎
技術課長 木代合資
技術課長 初井千代三郎
技術課長 岩田健三

【大株主】

富士瓦紡績 一〇〇、〇〇〇株
日比谷平左衛門 四、五〇〇株
川村榮助 三、七〇〇株
森村市左衛門 三、七〇〇株
大田健次郎 三、七〇〇株
常田健次郎 三、七〇〇株
川村榮助 三、七〇〇株
森村市左衛門 三、七〇〇株
大田健次郎 三、七〇〇株
常田健次郎 三、七〇〇株

福島人絹株式會社

【本社】 防府市三田尻町
【工場長】 前川 華夫
【主要職員】 日比谷平左衛門
【工場長】 玉木徳次郎
【取締役】 川村榮助
【同】 森村市左衛門
【同】 鹿村義久
【同】 林 雅之助

C 四〇

【職工數】 男四〇六名 女二、八三九名
【原動機】 計三、二四五名
【原動機】 月一、八五〇、〇〇〇キロワット
【スフ】 三、三六〇圓
【スフ七月運轉能力】 一六〇
【スフ七月生産高】 三、三三三、〇〇〇圓
【スフ七月運轉能力】 六〇〇
【スフ七月生産高】 三、三三三、〇〇〇圓
【スフ七月運轉能力】 三、三三三、〇〇〇圓
【スフ七月生産高】 三、三三三、〇〇〇圓

舞鶴第一工場

【本社】 京都府舞鶴市宇喜多
【工場長】 久松英彦
【技術課長】 清水敏彦
【機械課長】 坪坂一彦
【原動機課長】 白坂一彦
【試驗課長】 菅野源一
【事務課長】 高田金藏
【職工數】 男四五〇名 女一〇〇名
【建地】 計四、四〇〇坪
【スフ日産能力】 六、二七六坪
【スフ七月運轉能力】 一六〇(ビスコース式一、五三、〇〇〇)

舞鶴第二工場

【本社】 舞鶴市宇高野山里
【工場長】 丹羽盛明
【主要職員】 久松英彦
【技術課長】 清水敏彦
【機械課長】 坪坂一彦
【原動機課長】 白坂一彦
【試驗課長】 菅野源一
【事務課長】 高田金藏
【職工數】 男四五〇名 女一〇〇名
【建地】 計四、四〇〇坪
【スフ日産能力】 六、二七六坪
【スフ七月運轉能力】 一六〇(ビスコース式一、五三、〇〇〇)

【出張所】

大阪府北區玉江町二丁目
【創立】 昭和八年三月
【資本】 一、〇〇〇、〇〇〇圓
【株主】 一、〇〇〇、〇〇〇株
【配當】 十二年下期 一分
【決算】 十三年上期 一分
【役員】 五月 十一月
【主要職員】 八代祐太郎
【工場長】 今橋又吉
【副工場長】 今橋又吉
【事務主任】 今橋又吉
【事務主任】 今橋又吉
【事務主任】 今橋又吉
【事務主任】 今橋又吉

C 四一

(スフ) 福島人絹・明正レイヨン・大日本紡・三眞織維

工場長 今橋又吉
副工場長 藤田龍吉
製造課長 三好野成
庶務課長 長生辰三
用地課長 約一〇萬坪
敷地 約一〇萬坪
人絹日産能力 二九〇〇
人絹七月産能力 二九〇〇
人絹七月生産高 五、九〇五兩
スフ日産能力 五〇・七〇
スフ七月産能力 一、二〇〇
スフ七月生産高 二、九八二千封度
スフ七月生産高 七六三三封度

明正レイヨン株式会社

【本 社】 大阪市東淀川区三津屋新町
電北五一四二一四
【創 立】 昭和九年三月十日
【沿革】 昭和九年三月創立スフ日産五〇
二年日産十二噸半増設、同十
【資 本】 五、〇〇〇千圓
【株 主】 五〇〇〇株
【配 当】 五〇圓 一〇萬株
【決 算 期】 十二年度 七分
【役員】 取締役社長 堀 文平
取締役 伊 中 徳 人
監査役 南 東 義 三
同 井 萬 録 郎
同 坂 口 平 兵 衛

壬生川工場

所在地 愛媛縣周桑郡壬生川町
電壬生川二
主要職員
工場長 伊東義人
工場副長 武田三郎
事務係主任 坂本猪佐男
機械係主任 松本 光 植
製造係主任 吉川 敏 夫
試験研究主任 前川悦太郎
事務係主任 武田重作
主任 本多禮次郎
坪数 五萬坪
建設坪数 一萬二千坪
スフ日産能力 二六・八〇
スフ七月産能力 一〇〇〇
スフ七月生産高 三、七九〇千封度
スフ七月生産高 六二二二封度

大日本紡績大垣工場

所在地 岐阜縣大垣市本今町(電大垣八
二九)
工場長 河野 修次
昭和十三年九月二六日
元岸和田人絹大垣工場を合併
製 品 人絹・スフ
日産能力 八〇〇
スフ 四〇〇
敷 地 六五、〇〇〇坪
【備 考】 東京市神田區松枝町松枝ビル
(電浪花五二四・八三五・八三六)
【所 在 地】 スフ加工品(特殊スフ)
【製 品】 昭和十二年七月
【創 立】 川崎市二子

【備考】 スフ日産能力ハスフ製造工組登録ノ
各社スフ日産能力表ニ依ルモノデア
ルガ、コレト工場ノスフ能力ト喰ヒ
違ヒノアルノハ數字ノ出處ニ相違ア
ル爲デ、些少ノ狂ヒハ如何トモシ難
カツタ。尙、調査ハ原則トシテ十三年七月現
在トナツテケル。

全國ステープルファイバー紡績會社工場要覽(五十音順)

【備考】 (1) 綿紡績會社ハ綿紡績ヲ参照サレタシ。
(2) 調査項目中ノ登録種ハスフ紡績工組ヘノ登録種數。運轉種ハ七月中ノスフ紡績工組在籍種ノ運轉種數。紡績七月割當ハスフ配給統制ニヨル各社ヘノ割當高。スフ紡績工組割當ハ
スフ紡績工組ヘノ九月配給割當高。絹紡割當(混紡糸)ハ絹紡工業會ヘノ割當ヲ示ス。
(3) 種數ハ紡績トスフ紡績工組トダブツケルモノモアルノデ、運轉種數ニ於イテ登録種ヨリ多イモノモアルガ如何ト
モシ難カツタ。
(4) 綿紡系會社ノスフ紡績工場ハ時々變ルガ以下ハ大體七月頃ノ狀況ノ調査デアル。

スフ紡績専門

大鳥光綿紡績株式會社
【本 社】 大阪府泉北郡和泉町字今在家
電伯太二二四
【出 張 所】 大阪市東區南久太郎町二丁目住
友ビルディング三階
電話場二二一九
昭和十二年三月五日

【大 株 主】 大鳥織布株式會社 一、五〇〇
中山 奈良 藏 一、〇〇〇
西村 政 雄 一、〇〇〇
田所 繁 治 一、〇〇〇
【生 産 高】 スフ糸(〇号單糸) 一八萬封度
十三年七月中 八五萬封度
十三年上期中 (八、五〇〇俵)
【職 員 數】 男一〇二名 女三名 計一〇五名
計二五〇名
【工 場 數】 一
【増 産 計 畫】 二萬五千種増設計畫ナルモ完成
期未定

關西シミレーン紡績株式會社
【本 社】 大阪市東區濱路町三丁目豊岡商
店內
【營 業 所】 大阪市東區南久太郎町二丁目阿
都市ビル
【創 立】 昭和十年三月
四三

(スフ紡績) 大鳥光綿・關西シミレーン

(スフ紡績) 日本纖維・日本光棉・松田工業・愛知織物・愛知紡績・足利紡績・旭紡績

取締役 伊藤忠兵衛
監査役 高橋吉保
同 坂井新次
同 佐藤治雄
同 林新治
同 山崎種二
同 岩田宗次郎
同 小田喜一郎
同 町田徳之助
同 反田新作

所在地 長岡市蔵王町五八〇
電長岡六四八
スフ紡績 五五、〇〇〇(一萬錘運轉)

日本光棉紡績株式會社

【營業所】愛知縣西春日井郡新川町 豊田
式機株式會社内
電代表名古屋西五二二〇
【資本】五、〇〇〇千圓
【株數】一、二五〇千圓
【役員】
會長 兼 松野
専務取締役 益子愛太郎
取締役 高橋忠兵衛
伊藤忠兵衛
野村幸一
小野林
井上富三

同 山本三郎
同 川崎肇
同 兼 松貞二

所在地 岐阜縣加茂郡坂祝村酒倉
一、〇七九
八、〇〇〇(錘)

スフ紡績 八、〇〇〇(錘)
スフ糸紡績 一、四六五(混紡糸)
スフ七月運轉 五八三(スフ糸)
スフ糸紡績 三六、〇〇〇
スフ七月運轉 二、〇〇〇
【備考】當社ハ十三年四月一日、豊田式機機ノ紡績部業務一切ヲ譲受ケタルモノナリ

松田工業株式會社

【本 社】字治山田市大世古町
【創 業】昭和十三年五月
【登 録】三、〇〇〇
【資 本】一、〇〇〇
【株 數】一、〇〇〇
【スフ紡績工組割當】一、六三九封度

スフ紡績兼營

【備考】以下綿紡、人絹、絹紡、羊毛、スフ等ノ會社工場ニシテスフ紡績ヲ兼營セルモノ
愛知織物株式會社
【本 社】名古屋市中種區高見町四丁目

C 四六

【登 録】二三、〇〇〇
【運轉】一八、〇〇〇
【紡績七月割當】一五、六一九
【紡績九月割當】一二五、八〇〇封度
【スフ紡績工組割當】一四八、五〇〇同
【スフ紡績工組割當】八一、七五八同

【本 社】名古屋市中區下園町二丁目
【登 録】一、六〇〇
【運轉】一、六〇〇

足利紡績株式會社

【本 社】東京市日本橋區芳町二丁目
【登 録】四、四〇〇
【運轉】七、八〇〇
【紡績七月割當】三、〇六六
【紡績九月割當】二八、七〇〇封度
【紡績九月割當】三〇、六〇〇同
【スフ紡績工組割當】二〇、三〇五同
【スフ紡績工場ハ足利工場

旭紡績株式會社

【本 社】東京市日本橋區大傳馬町傳馬ビ
【登 録】七、〇〇〇
【運轉】五、五一六
【紡績七月割當】六一、一〇〇封度
【紡績九月割當】六三、二〇〇同

旭ベンベルグ絹絲株式會社

【スフ紡績工組割當】
スフ製造會社ノ項參照
和泉織物株式會社
【營業所】大阪府泉南郡貝塚町字澤
【登 録】四、二〇〇
【運轉】四、一六六
【紡績七月割當】七四、二〇〇封度
【紡績九月割當】七四、五〇〇同
【スフ紡績工組割當】不詳

出雲製織株式會社

【營業所】大阪市東區備後町二丁目綿業會
【登 録】四九、〇〇〇
【運轉】二二、〇〇〇
【紡績七月割當】不詳
【紡績九月割當】九〇、〇五九封度
【スフ紡績工組割當】不詳

宇部紡績株式會社

【本 社】山口縣宇部市
【登 録】一一、〇〇〇
【運轉】一、〇〇〇
【紡績七月割當】四、八〇〇
【紡績九月割當】六三、五〇〇封度
【紡績九月割當】七三、二〇〇同
【スフ紡績工組割當】不詳
【スフ紡績工場ハ本社工場

(スフ紡績) 旭ベンベルグ・和泉織物・出雲製織・宇部紡績・内海紡績・小津武林起業・大阪紡績・大町紡績・近江絹絲・近江帆布・大阪織物

内海紡績株式會社

【營業所】大阪府東區高麗橋二丁目 三井
生命四階
【登 録】五四、〇〇〇
【運轉】六八、〇〇〇
【紡績七月割當】二二、〇二八
【紡績九月割當】二四六、〇〇〇封度
【紡績九月割當】三九三、八六七同
【スフ紡績工組割當】三九三、八六七同
【スフ紡績工場ハ本社工場、廣、尾崎工場

小津武林起業株式會社

【本 社】大阪市西淀川區野里町
【登 録】三、八〇〇
【運轉】八〇
【紡績七月割當】一一、一九
【紡績九月割當】一一、二〇封度
【スフ紡績工組割當】一、二六一同
【スフ紡績工場ハ本社工場

大阪紡績株式會社

【本 社】大阪府泉南郡信達村
【登 録】三、七〇〇
【運轉】一、七〇〇
【紡績七月割當】二、三二〇
【紡績九月割當】七九、三〇〇封度
【スフ紡績工組割當】七九、六〇〇同
【スフ紡績工場ハ本社工場、六、八七四同

大町紡績株式會社

【營業所】大阪府東區安土町二丁目
【登 録】三三、〇〇〇
【運轉】三三、〇〇〇

近江絹絲紡績株式會社

【本 社】彦根市馬場町
【登 録】六二、〇〇〇
【運轉】六一、〇〇〇
【紡績八月割當】九、五〇〇封度
【紡績九月割當】八、七〇〇同
【スフ紡績工組割當】三三〇、六四二同

近江帆布株式會社

【營業所】大阪府東區淡路町三丁目淡路町
ビル
【登 録】一五、〇〇〇
【運轉】一、三〇〇
【紡績七月割當】七、四〇〇封度
【紡績九月割當】四、三〇〇同
【スフ紡績工組割當】二、九三八同
【スフ紡績工場ハ味野、三瓶工場

大阪織物株式會社

【本 社】堺市七道
【登 録】一六、〇〇〇
【運轉】一七、二三四
【紡績七月割當】五九、〇〇〇封度
【紡績九月割當】五九、二〇〇同
【スフ紡績工組割當】一一六、二七八同

C 四七

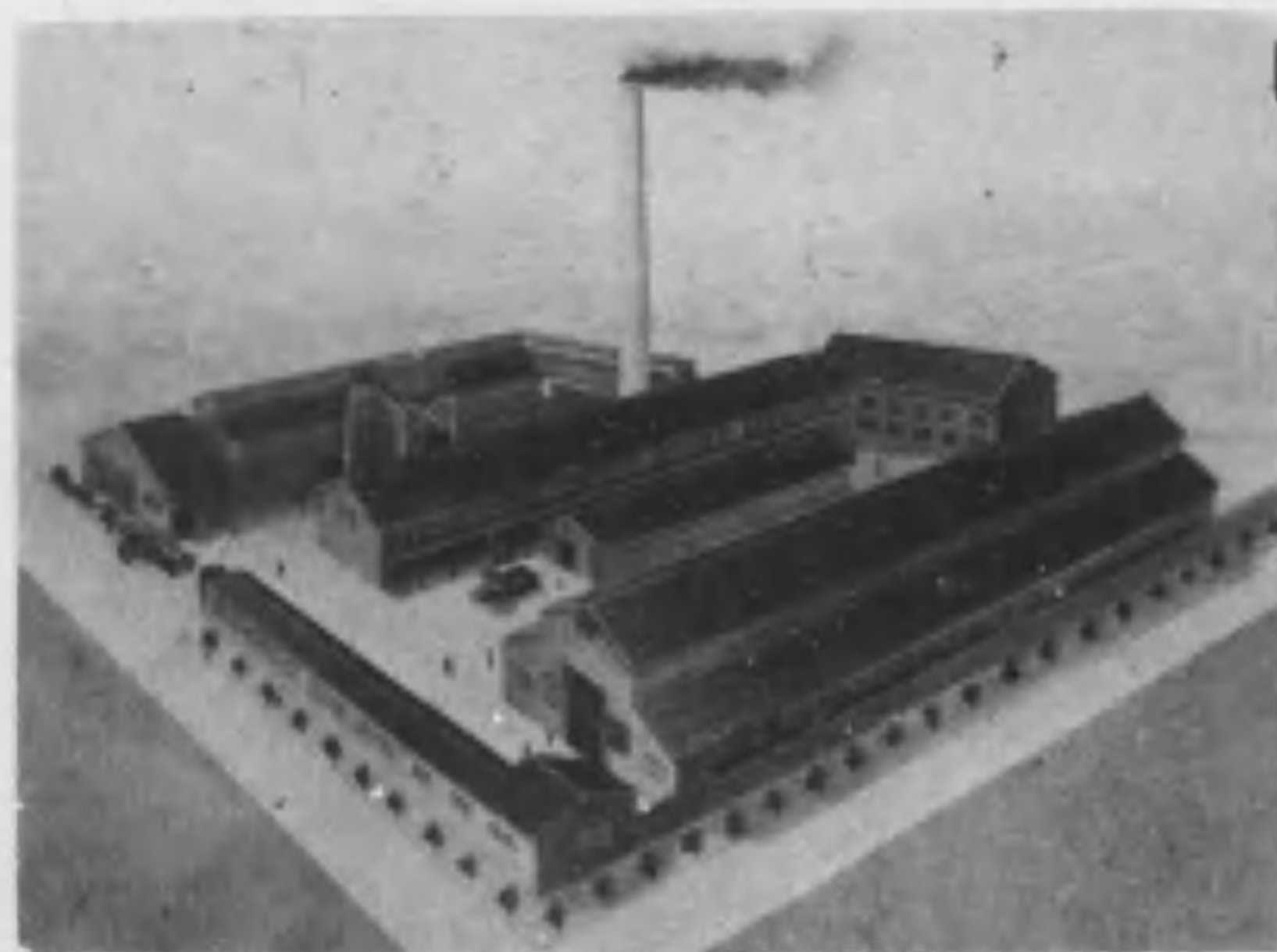


各種工口



第一工場

正面圖



第二工場

弊社製品

ソレハ弊社
作ノ入念、
依ル

(スフ紡績) 大阪織物・おたふく綿・鐘紡・柏原紡・貝塚紡・關東紡・協和紡・岸紡・錦華紡・倉紡

C 四八

スフ紡績工場ハ本社工場
おたふく綿株式会社

【本 社】 福岡市比恵
【登 録 証】 四〇〇〇鍾
【運 轉 証】 不詳
【紡績七月割當】 六〇〇封度
【紡績九月割當】 三二、五〇〇同
【スフ紡績工組割當】

鐘淵紡績株式会社

【營業 所】 神戸市林田區御崎町一丁目
電兵庫八〇
【登 録 証】 一五五、〇〇〇鍾
【運 轉 証】 一五四、〇〇〇鍾
【紡績運轉証】 七一、〇二一鍾
【紡績七月割當】 九七二、〇〇〇封度
【紡績九月割當】 九七五、八〇〇同
【スフ紡績工組割當】 五五二、四五二同
スフ紡績工場ハ東京、兵庫、中島、松坂、高砂、大阪、絹紡式ハ上京、下京

柏原紡績株式会社

【本 社】 大阪府南河內郡柏原町
【登 録 証】 八、〇〇〇〇鍾
【運 轉 証】 六〇〇〇鍾
【紡績運轉証】 不詳
【紡績七月割當】 三二、五〇〇封度
【紡績九月割當】 三二、五〇〇同
【スフ紡績工組割當】 三一、八八二同
スフ紡績工場ハ本社工場

貝塚紡績株式会社

【本 社】 大阪府泉南郡貝塚町宇貝塚北
【登 録 証】 二、〇〇〇〇鍾
【運 轉 証】 二、〇〇〇〇鍾
【紡績運轉証】 四二七鍾
【紡績七月割當】 三二、八〇〇封度
【紡績九月割當】 三三、七〇〇同
【スフ紡績工組割當】

關東紡績株式会社

【本 社】 平塚市須賀
【紡績八月割當】 七、六〇〇封度
【紡績九月割當】 六、六〇〇同
【スフ紡績工組割當】

協和紡績株式会社

【營業 所】 大阪市西淀川區大和田町
【登 録 証】 六〇〇〇〇鍾
【運 轉 証】 六〇〇〇〇鍾
【紡績運轉証】 六二〇〇鍾
【紡績七月割當】 五七、六〇〇封度
【紡績九月割當】 五九、三〇〇同
【スフ紡績工組割當】 一、三六八同
スフ紡績工場ハ天濱、北泉工場

岸和田紡績株式会社

【營業 所】 大阪市東區北久太郎町三丁目寺
田ビル
【登 録 証】 三三、〇〇〇〇鍾
【運 轉 証】 三三、〇〇〇〇鍾
【紡績運轉証】 二九、一五二鍾
【紡績七月割當】 二九九、七〇〇封度

【紡績九月割當】 三〇一、三〇〇同
【スフ紡績工組割當】 一四、七七三同
スフ紡績工場ハ春木、大垣工場、津工場ハ不詳

錦華紡績株式会社

【營業 所】 大阪市東區瓦町二、三和ビル
【登 録 証】 六〇、〇〇〇〇鍾
【運 轉 証】 三三、〇〇〇〇鍾
【紡績七月割當】 三六〇、八〇〇封度
【紡績九月割當】 不詳
【スフ紡績工組割當】 一九三、一三七同
スフ紡績工場ハ金澤、浪速、佐賀、福井工場

倉敷紡績株式会社

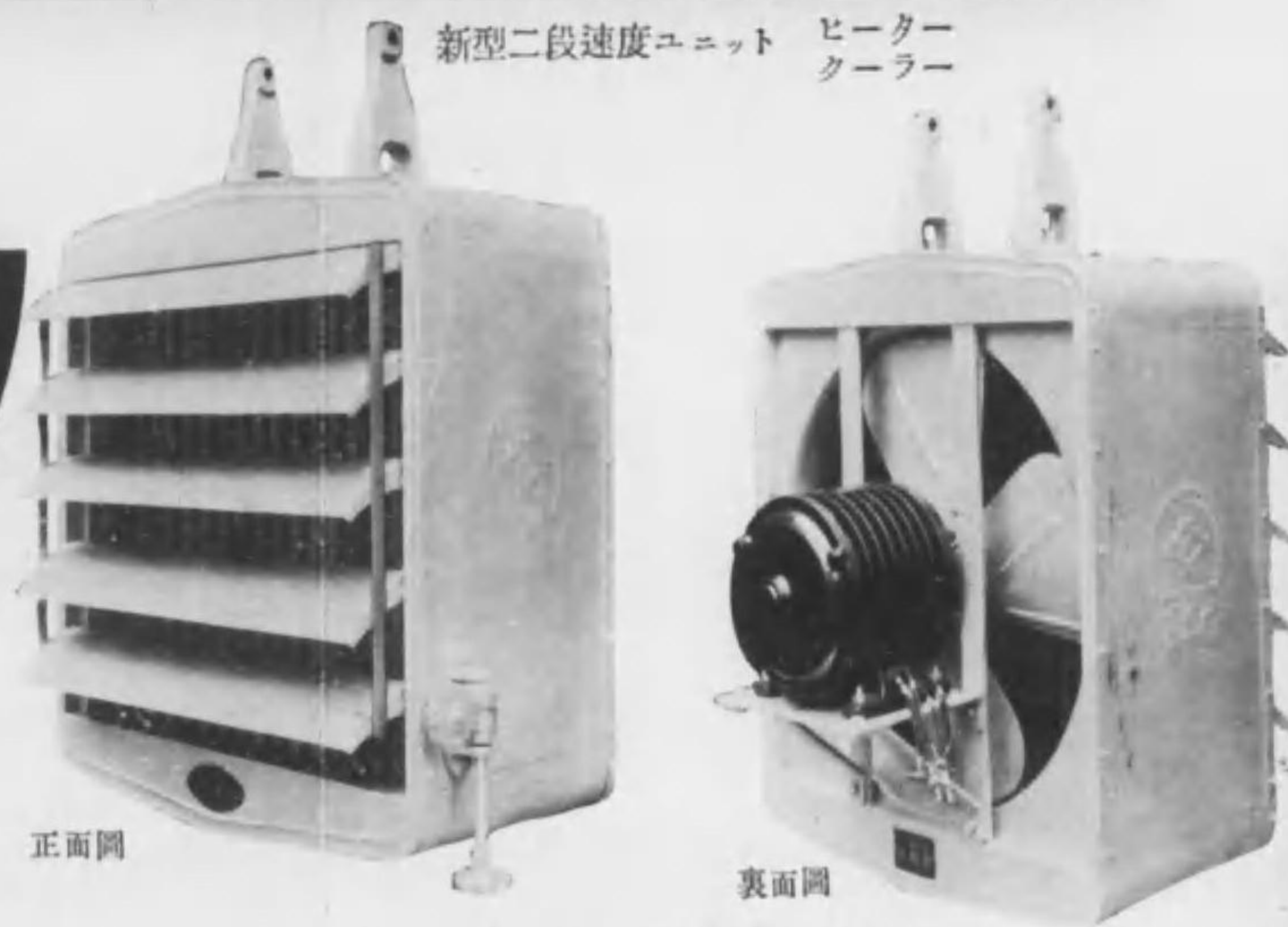
【營業 所】 大阪市西區江戸堀北通一丁目
【登 録 証】 九六、〇〇〇〇鍾
【運 轉 証】 五七、〇〇〇〇鍾
【紡績運轉証】 四七、五一七鍾
【紡績七月割當】 五六〇、七〇〇封度
【紡績九月割當】 五五三、一〇〇〇同
【スフ紡績工組割當】 三〇〇、九三二同

早島工場

所在地 岡山縣都窪郡早島町大字早島
電 四
沿革 大正十年一月一日早島紡績株式
會社ヲ合併ス
昭和三十二年八月
スフ紡績操業 光棉糸 二〇番手 三〇番手
製品及商標 三〇番双糸 四〇番手
月産額 紡糸 四〇〇、〇〇〇封度
主要職員

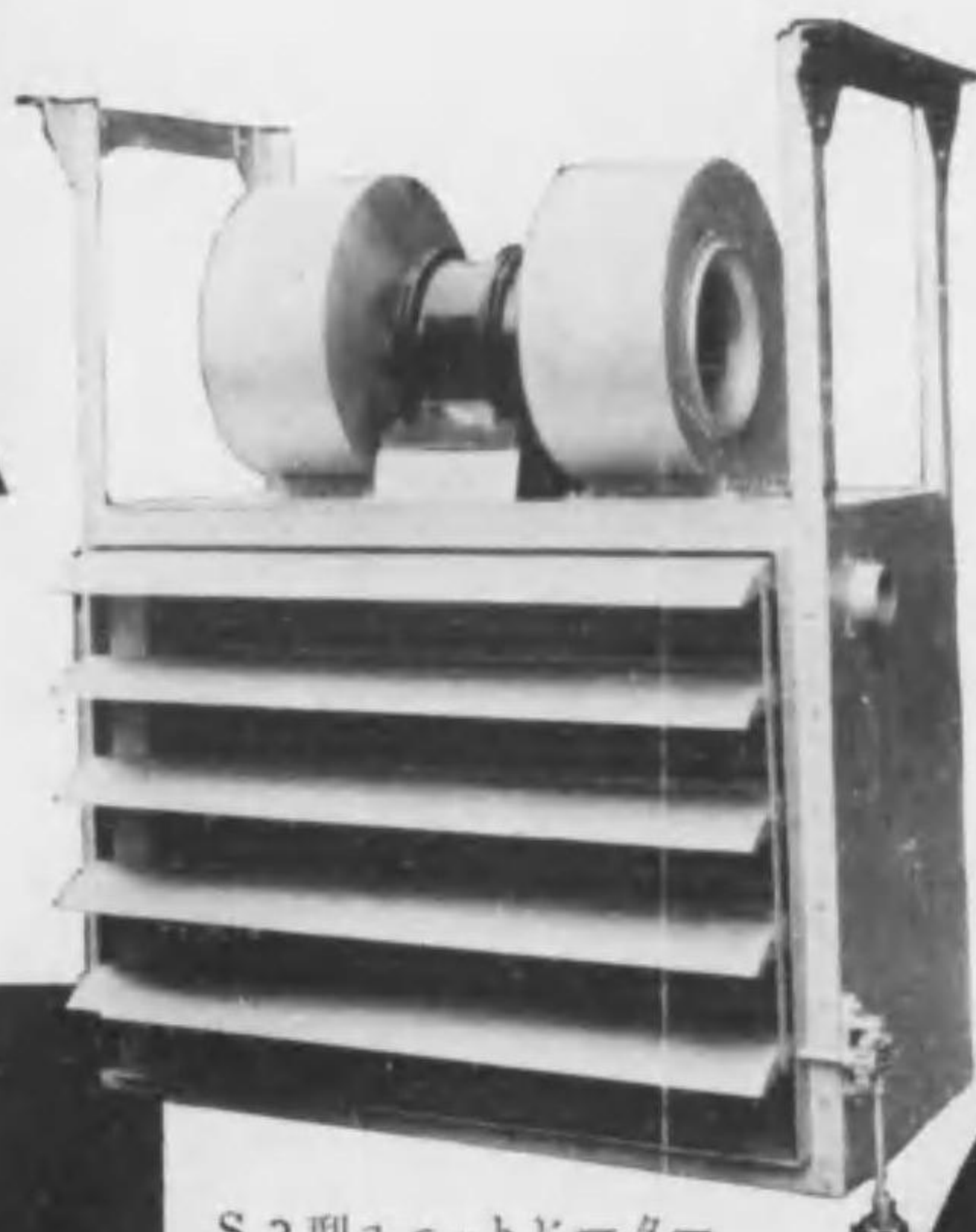
露光量違いの為重複撮影

各種エロフィンヒーター

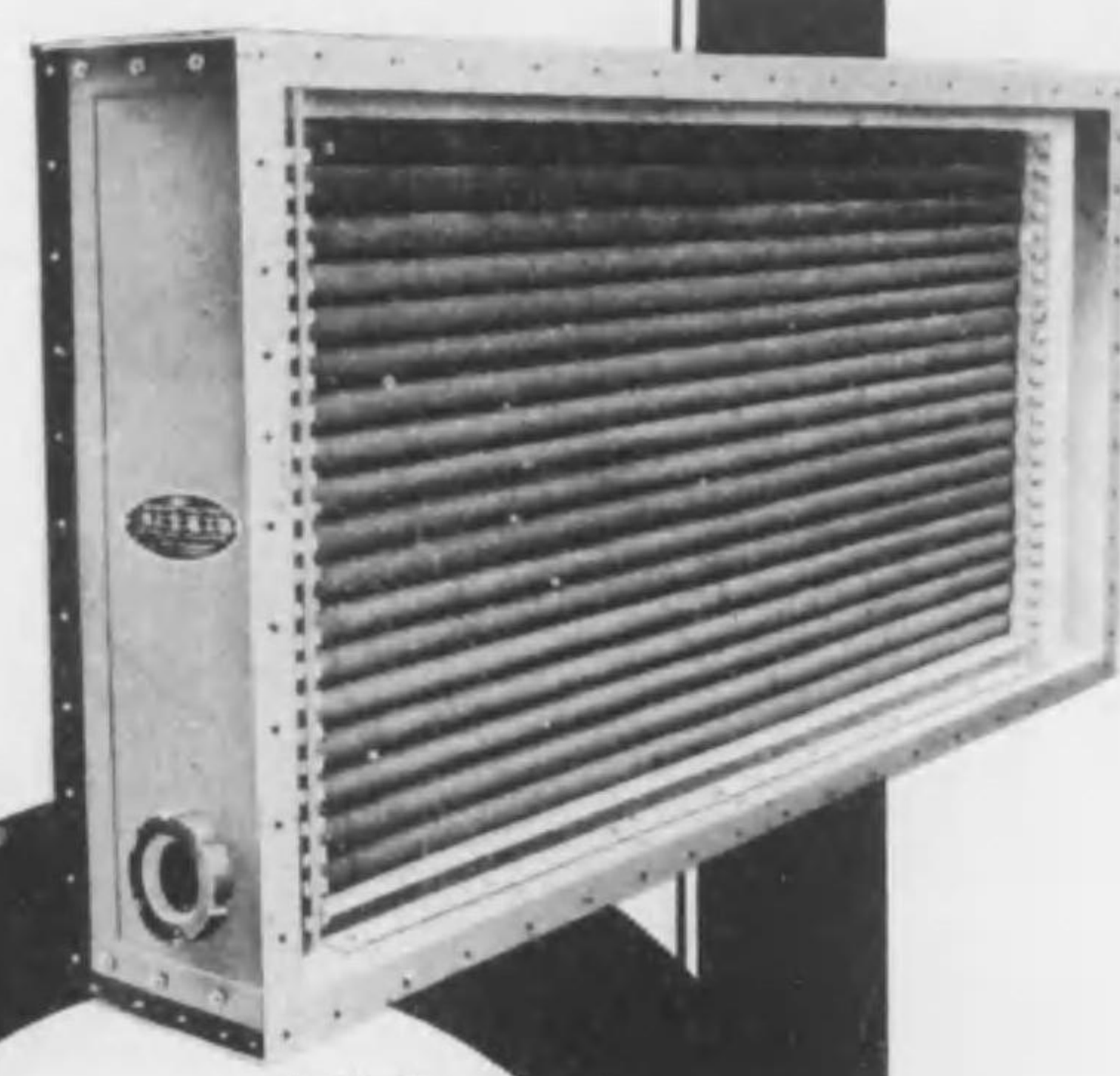


新型二段速度ユニット ヒーター
クーラー

二段速度ナルガ故ニ朝晩即チ外氣ノ變化
ニ對シテ實用溫度ヲ簡單ニ調整シ得



S2型ユニットヒーター



標準型エロフィン



エロフィン



井上エロフィン對流放熱器



弊社製品ハ何故歡迎セラル、ヤ?

ソレハ弊社ガ多年營業方針トシテ取り來レル工
作ノ入念、親切、價格低廉、納期迅速、嚴守ニ
依ル

事實ハ之ヲ立證ス!!

井上金属工業株式會社

井上金属工業株式會社
【本 社】大阪府南河内郡柏原町
【登 録 証】八〇〇〇〇
【運 轉 証】六〇〇〇
【紡 織 運 轉 証】不詳
【紡 織 七 月 割 當】三二、五〇〇封度
【紡 織 九 月 割 當】三二、五〇〇同
【ス ー フ 紡 織 工 組 割 當】三一、八八二同
スーファ紡織工場ハ本社工場

岸和田紡績株式會社
【營 業 所】大阪府東區北久太郎町三丁目寺
田ビル
【登 録 証】三、四〇〇〇
【運 轉 証】三、四〇〇〇
【紡 織 運 轉 証】二九、一五二
【紡 織 七 月 割 當】二九九、七〇〇封度

清 革
スーファ紡績投業
製品及商標
光棉糸 昭和十一年八月
三〇番手 三〇番手
四〇番双糸 四〇番手
紡糸 四〇〇、〇〇〇封度

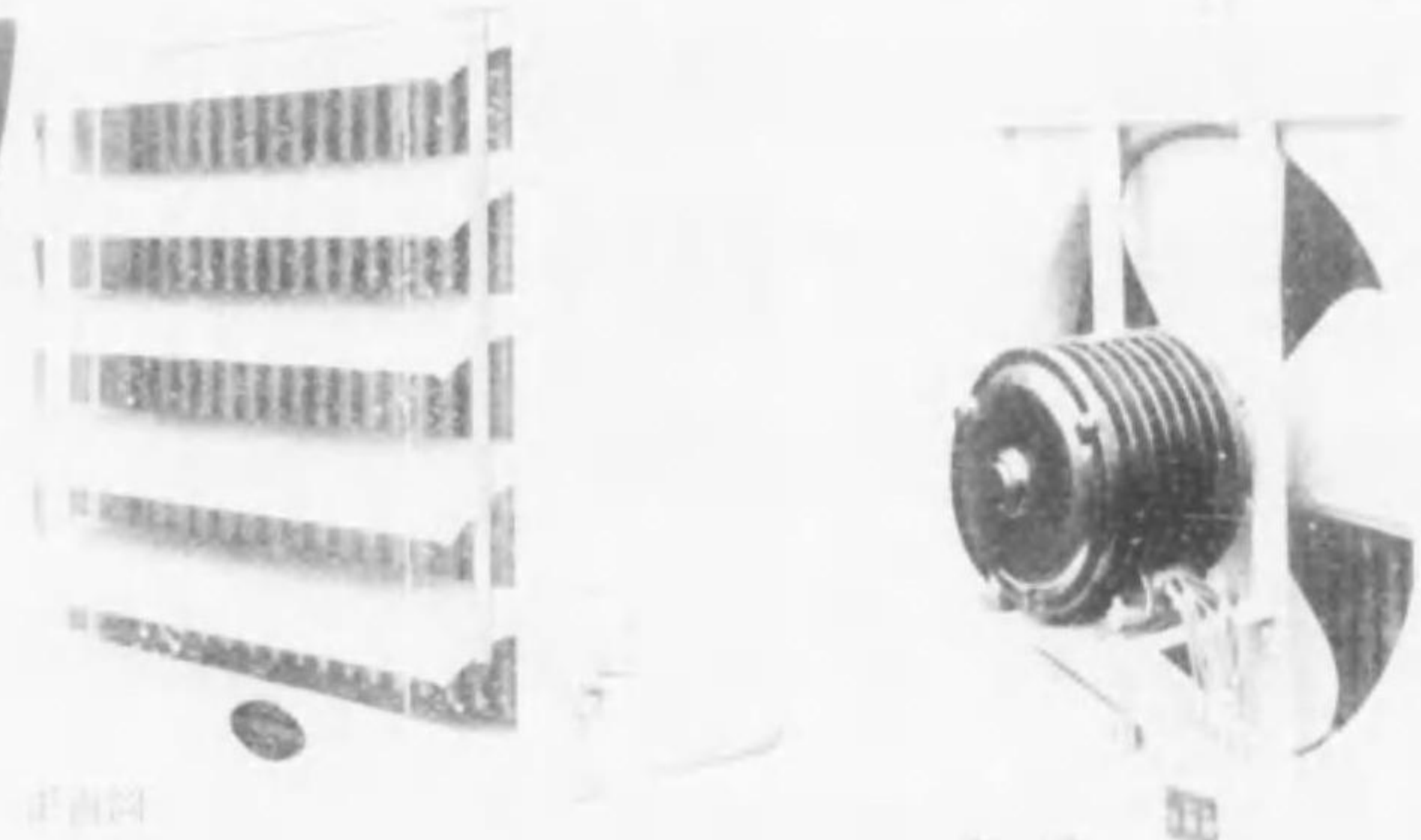
工場

工場

露光量違いの為重複撮影

各種アロフィンヒーター

● 新型二段速度オートヒーター



正面図

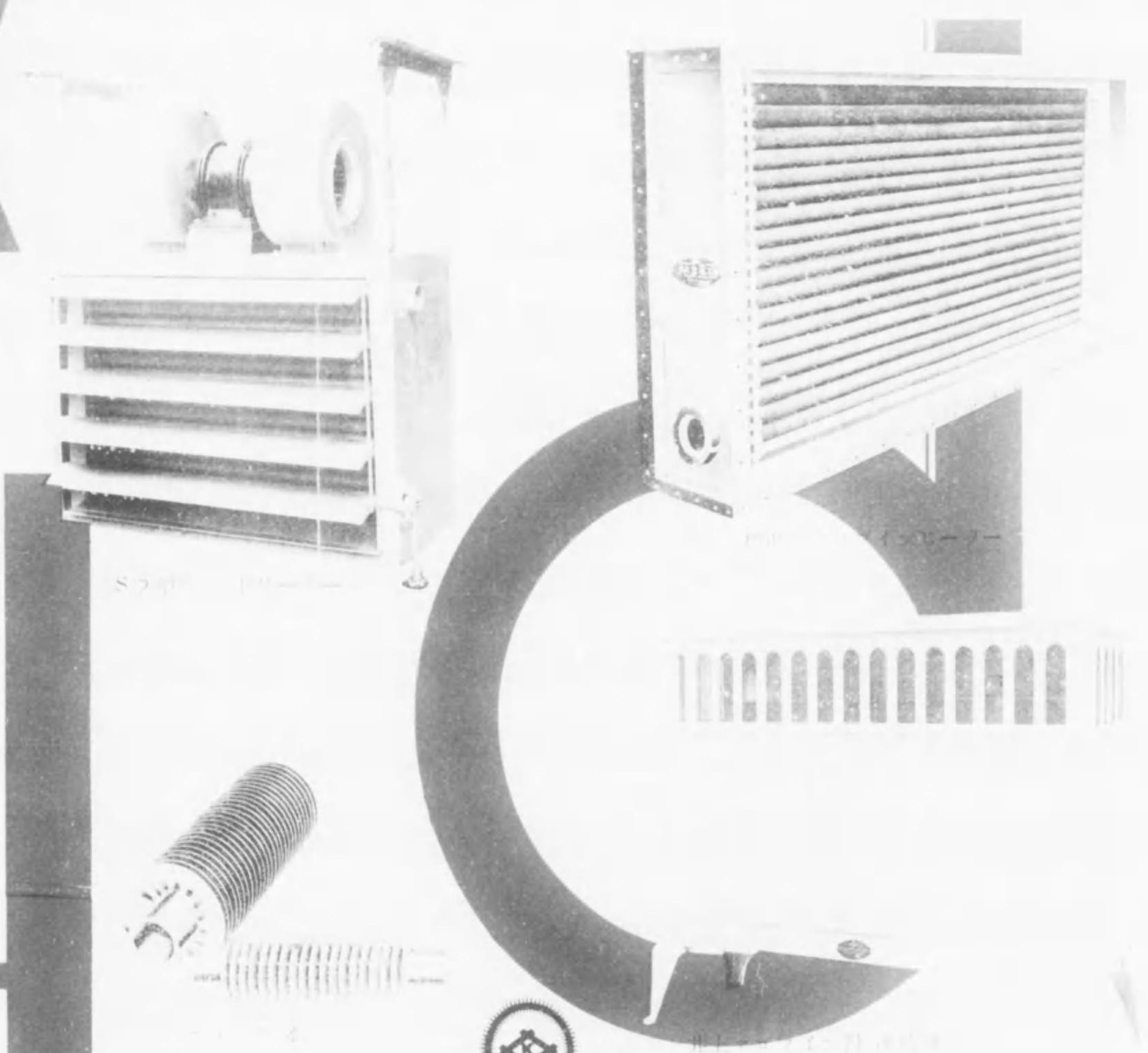
実面図

二段速度、二段温度、二段出力、二段変化
設計、二段調整、二段調整、二段調整

弊社製品ハ何故歓迎セラル、ヤ?

ソレハ弊社ガ多年營業方針トシテ取リ來レル工
作ノ入念、親切、價格低廉、納期迅速、嚴守ニ
依ル

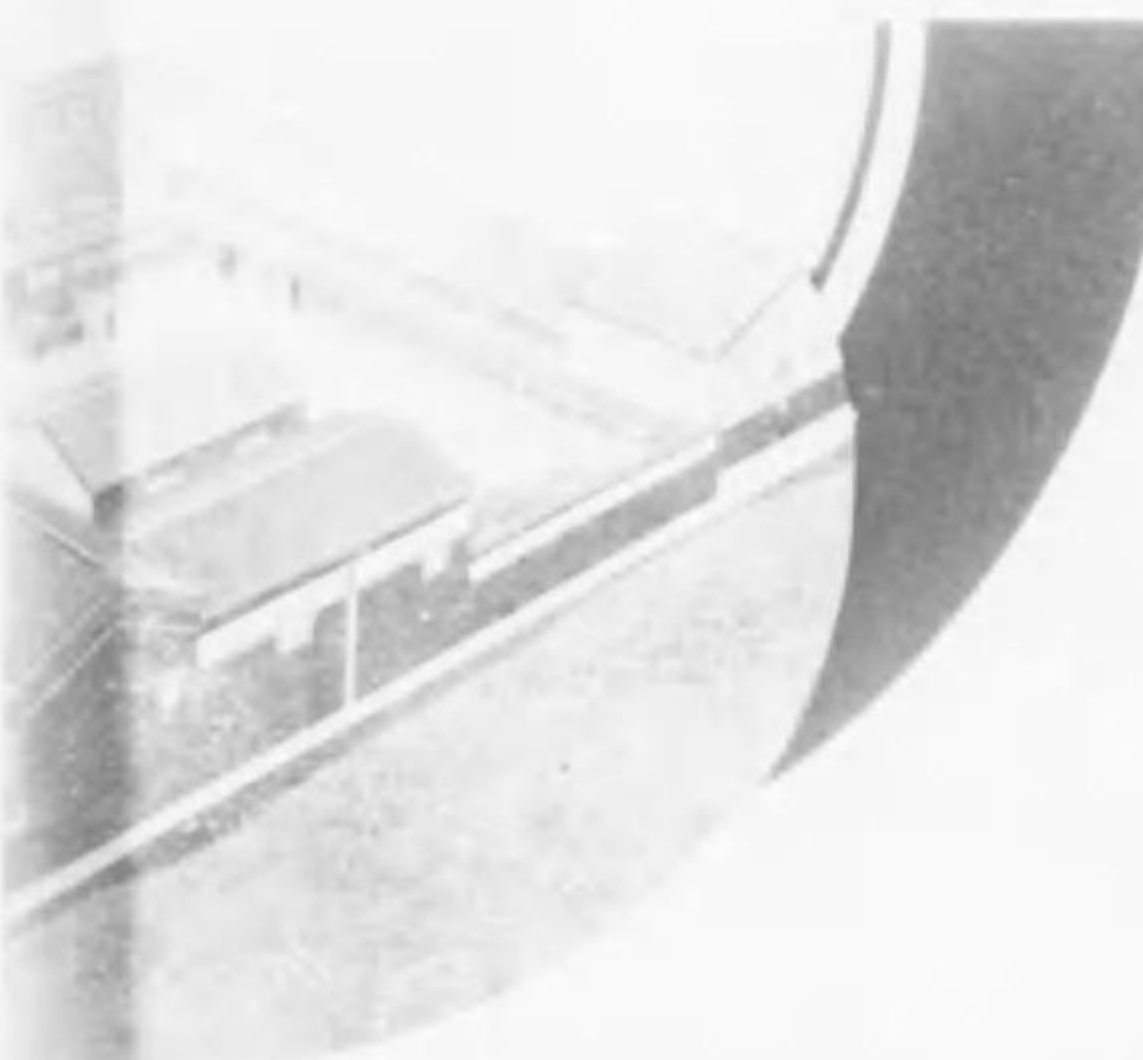
事實ハ之ヲ立證ス!!



大阪市北區都島北通一丁目

井上金属工業株式會社

電話堀川(35) 一八九〇番番



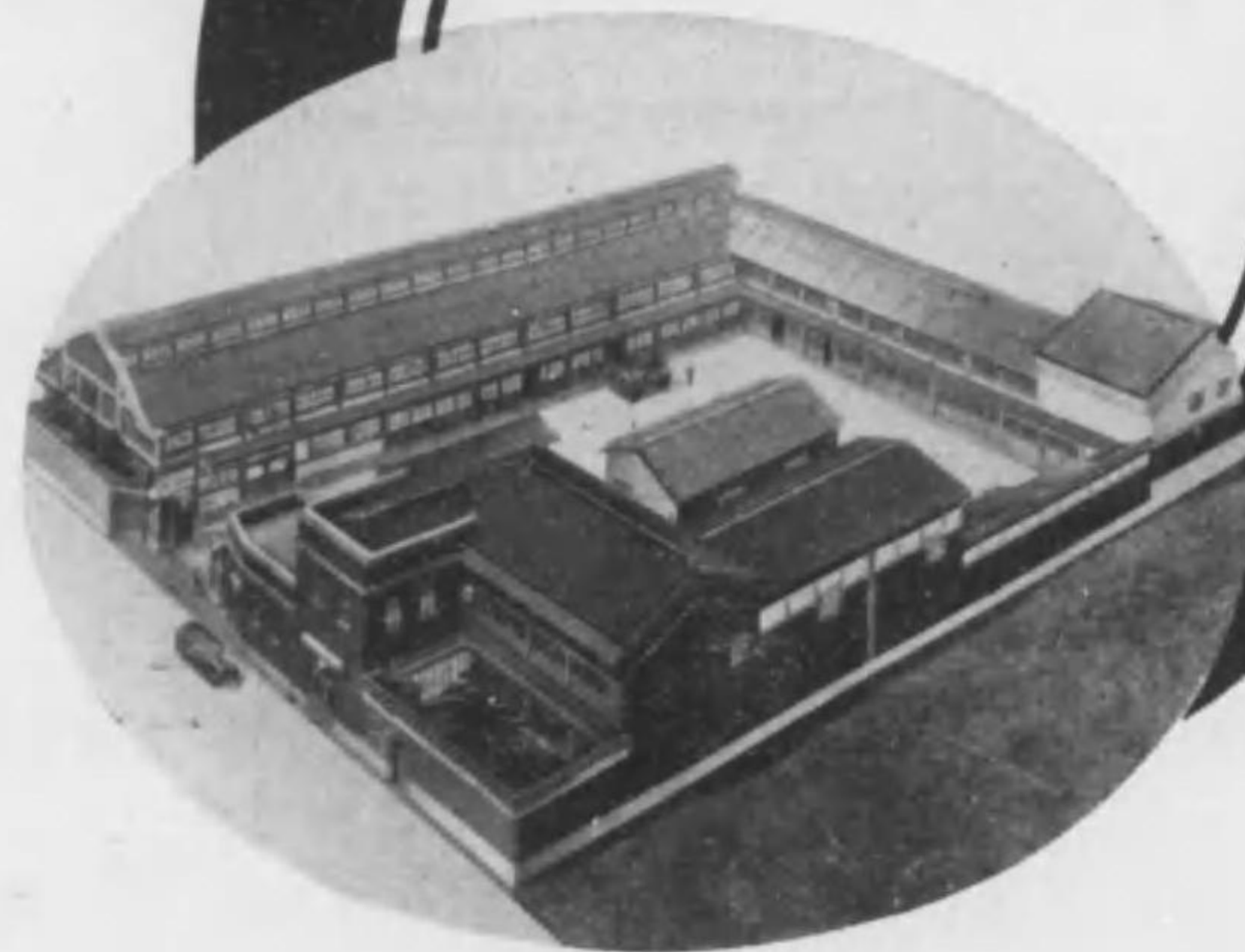
工 場

井上金属工業株式會社
大阪事務所
〒103 大阪市北區都島北通一丁目
電話 堀川(35) 一八九〇番番

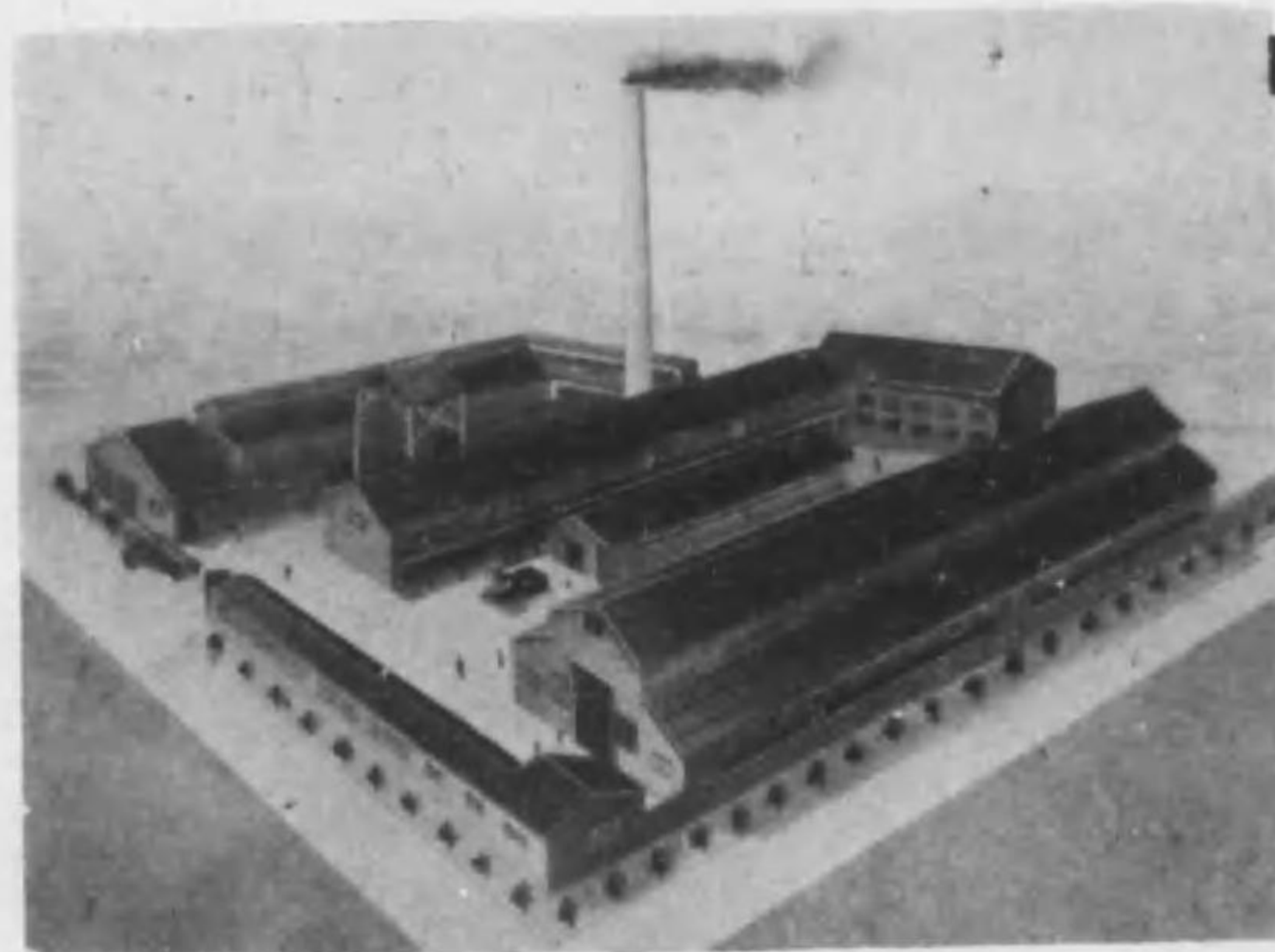
露光量違いの為重複撮影



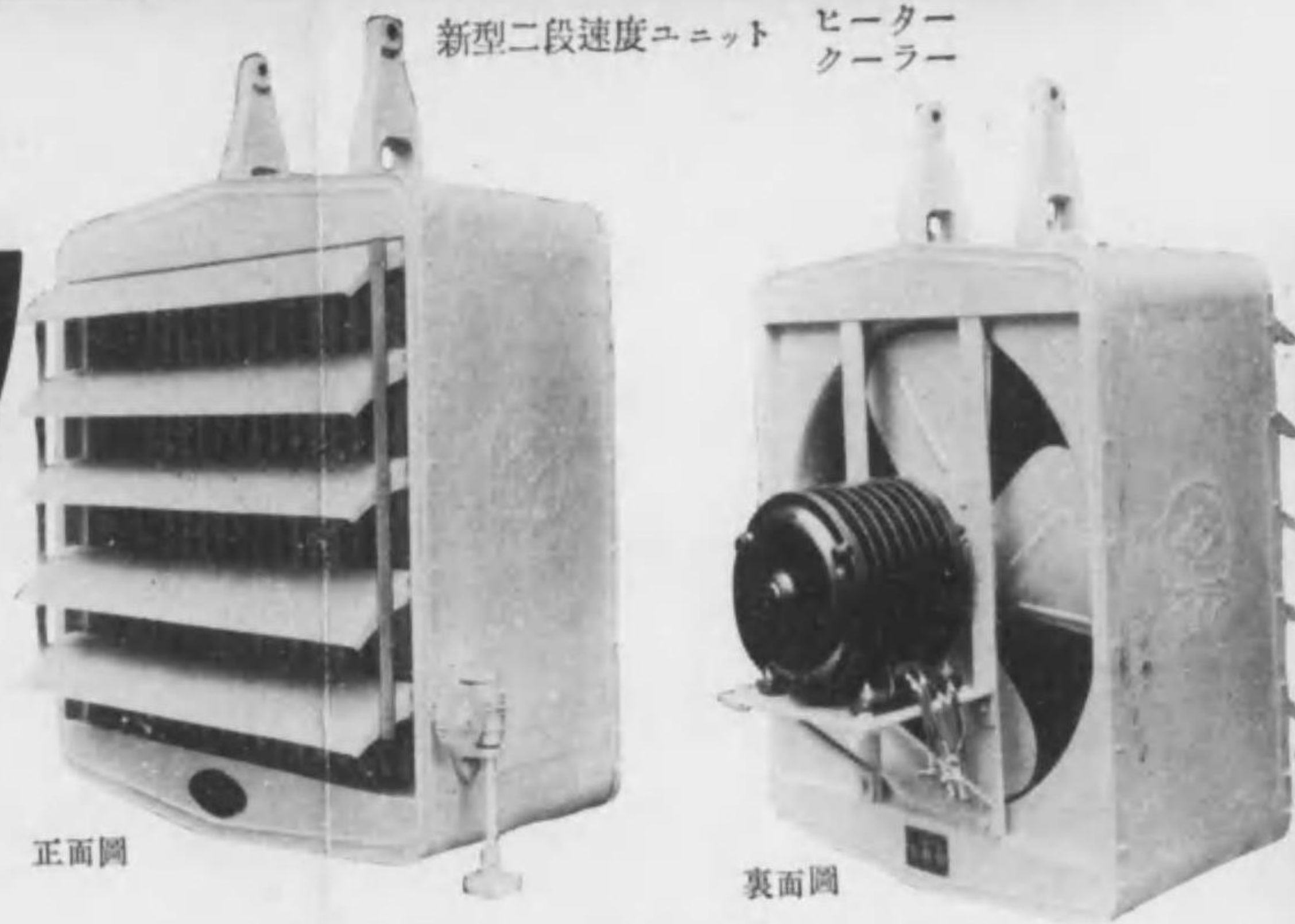
各種エロフィンヒーター



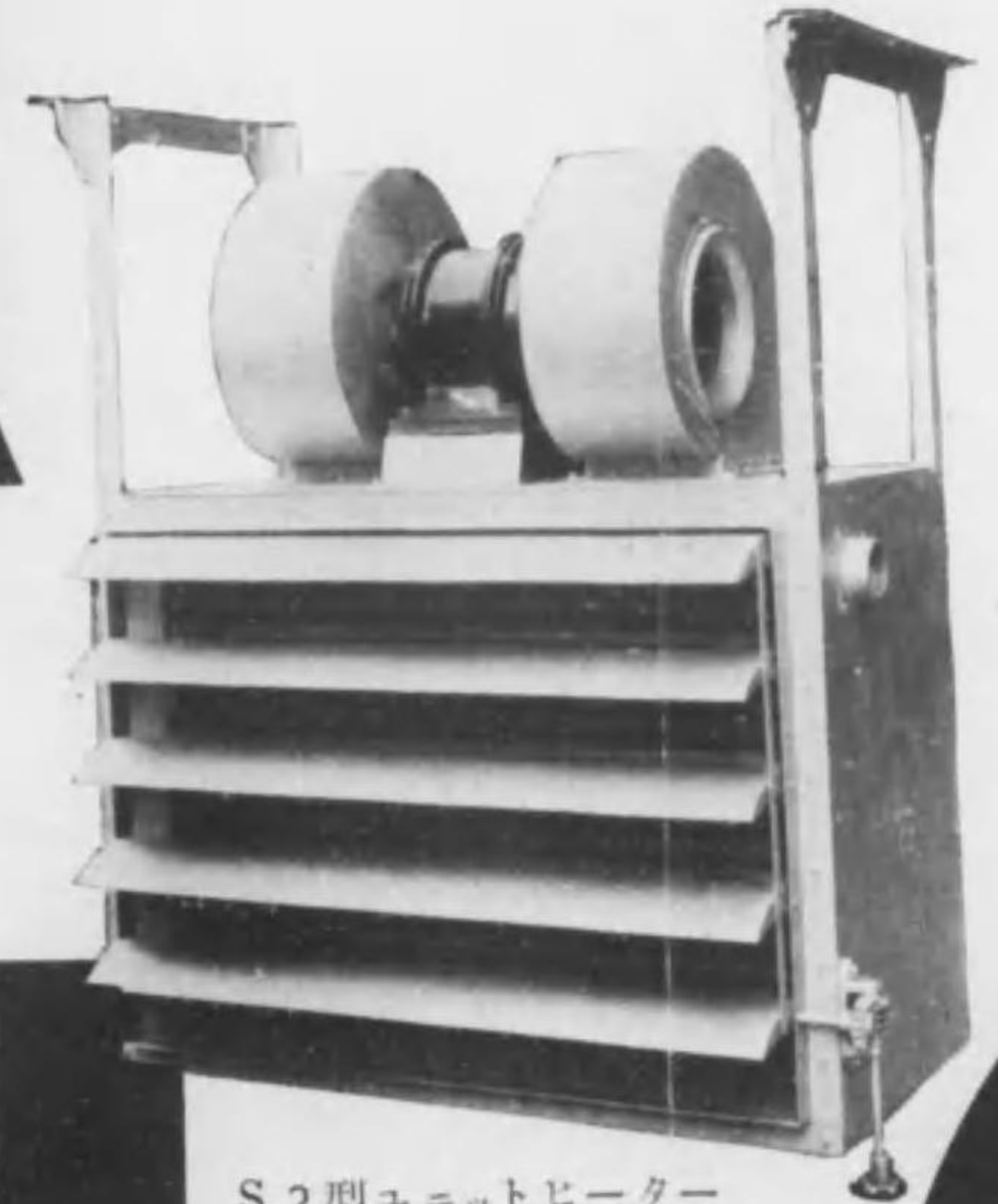
第一工場



第二工場



二段速度ナルガ故ニ朝晩即チ外氣ノ變化ニ對シテ實用溫度ヲ簡單ニ調整シ得



S2型ユニットヒーター



エロフィン



弊社製品ハ何故歓迎セラル、ヤ?

ソレハ弊社ガ多年營業方針トシテ取り來レル工作ノ入念、親切、價格低廉、納期迅速、嚴守ニ依ル

事實ハ之ヲ立證ス!!

井上金属

露光量違いの為重複撮影

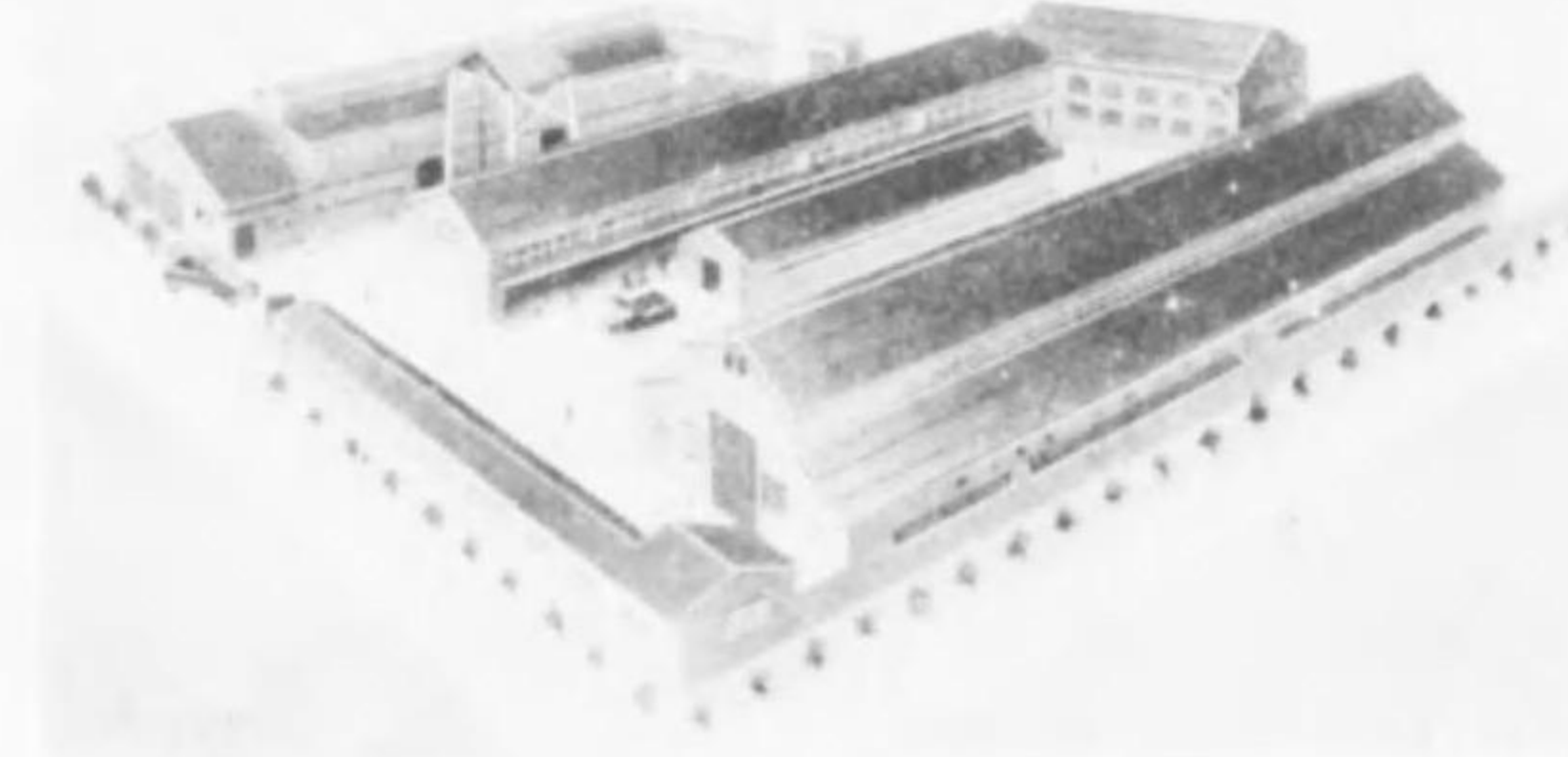
各種工口フィンヒーター



第一工場



第一工場

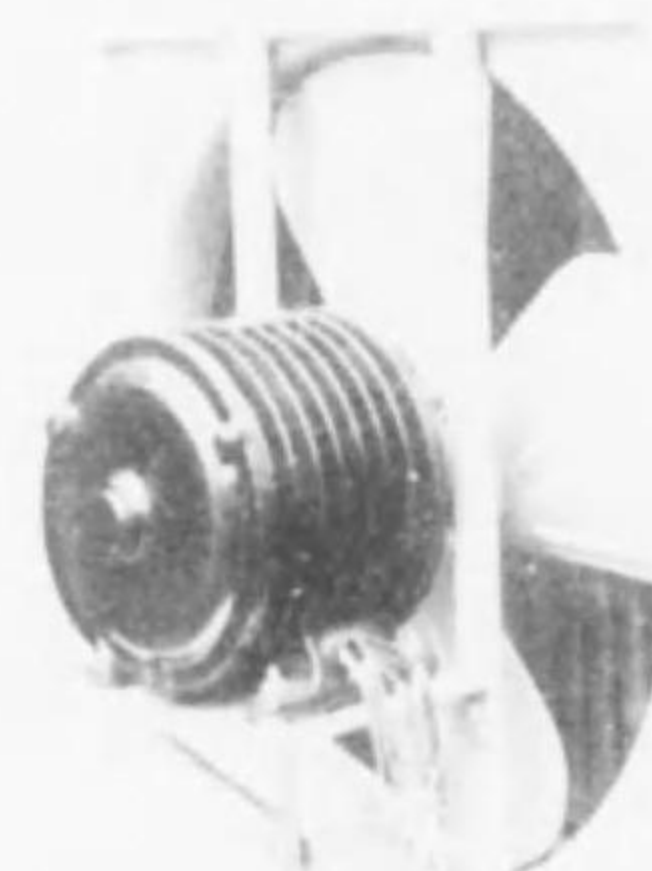


第二工場

新型二段速度ヒーター



正面図



後面図

二段速度による放熱効率の向上と、
對一般用途の節電に効果的。



S700



弊社製品ハ何故歡迎セラル、ヤ?

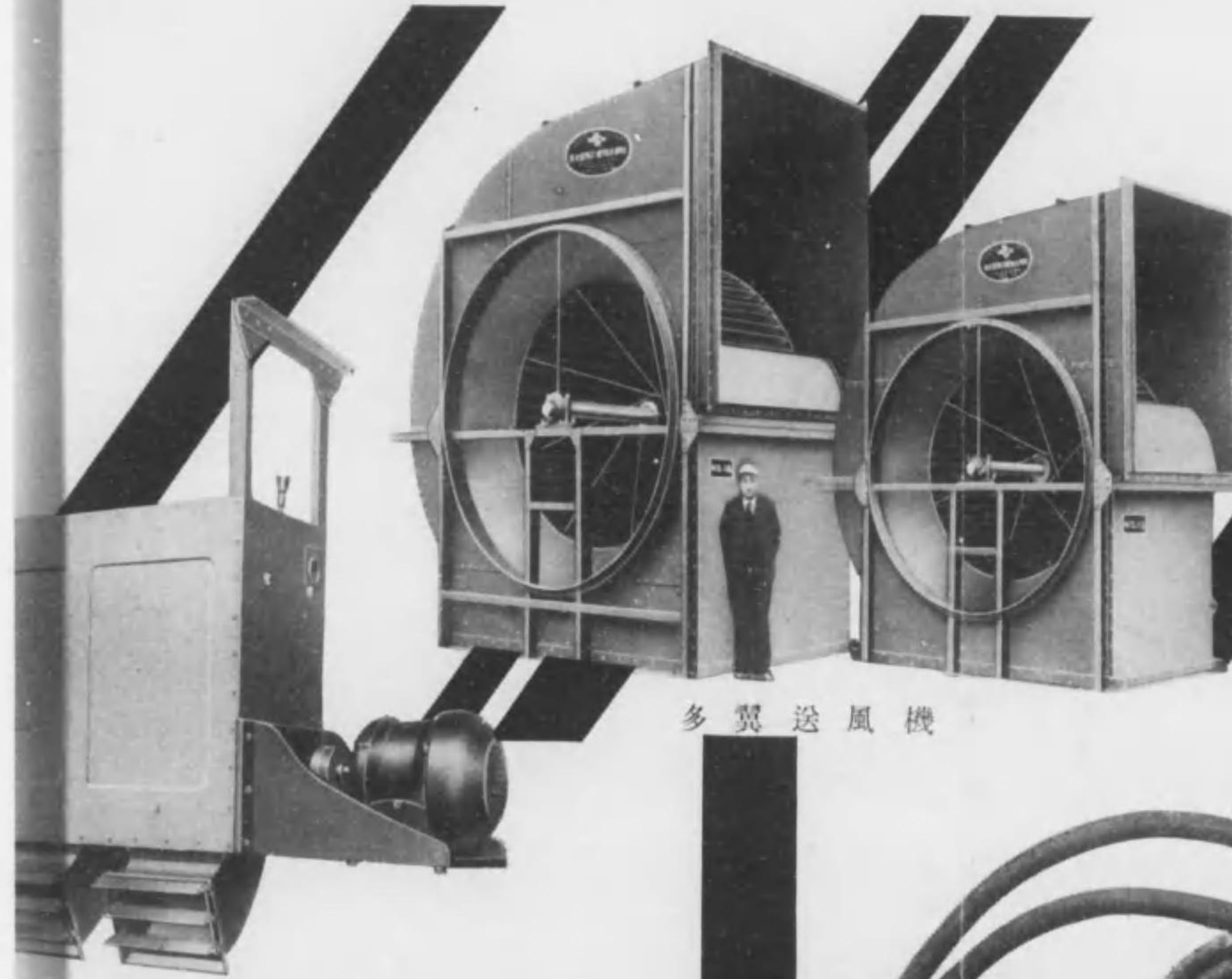
ソレハ弊社カ多年營業方針下ニテ取り來レル工
作ノ入念、親切、價格低廉、納期迅速、嚴守ニ
依ル。

事實ハ之ヲ立證ス!!

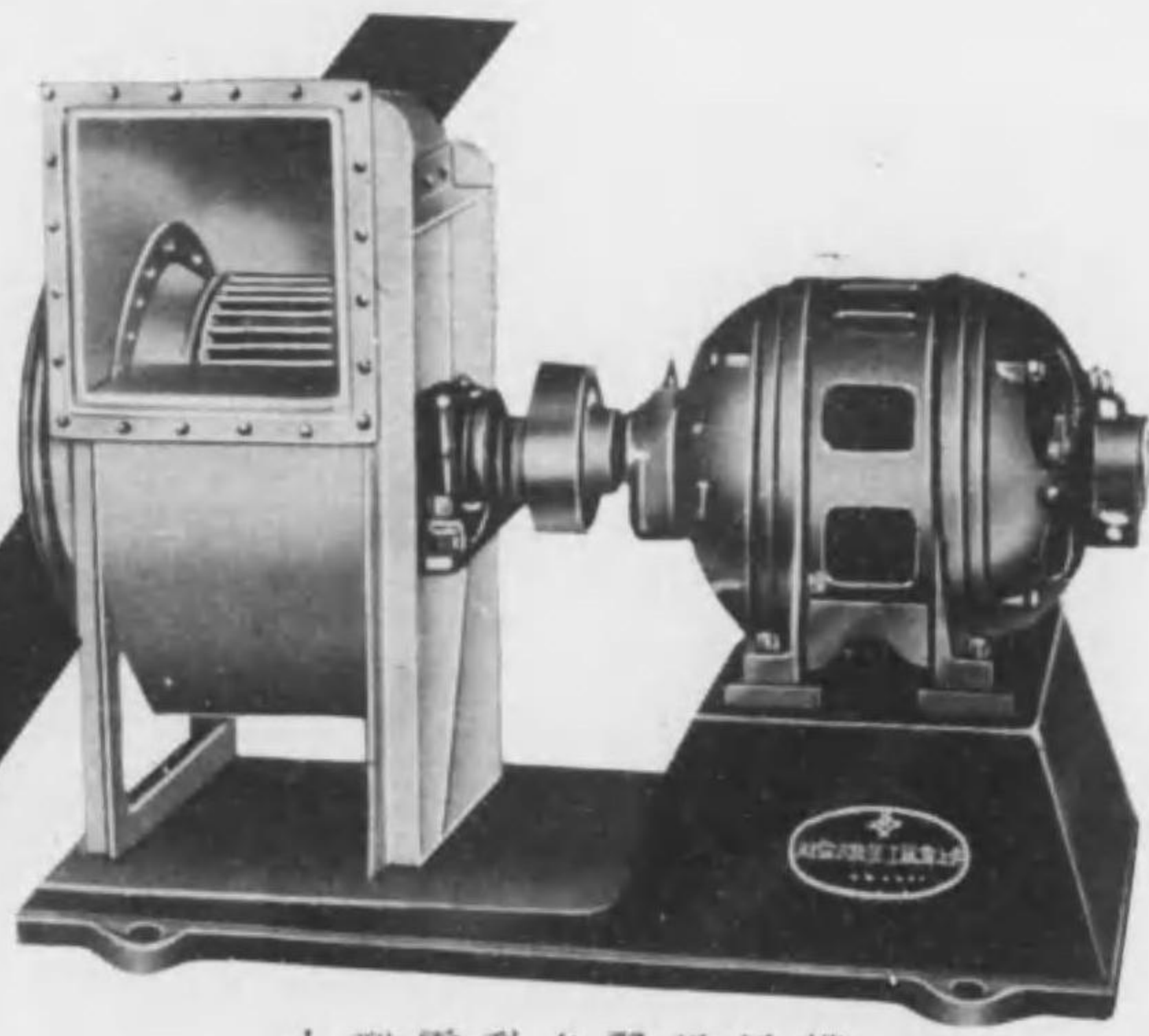
大阪市北區
井上金属工業株式会社

電話堀川

露光量違いの為重複撮影

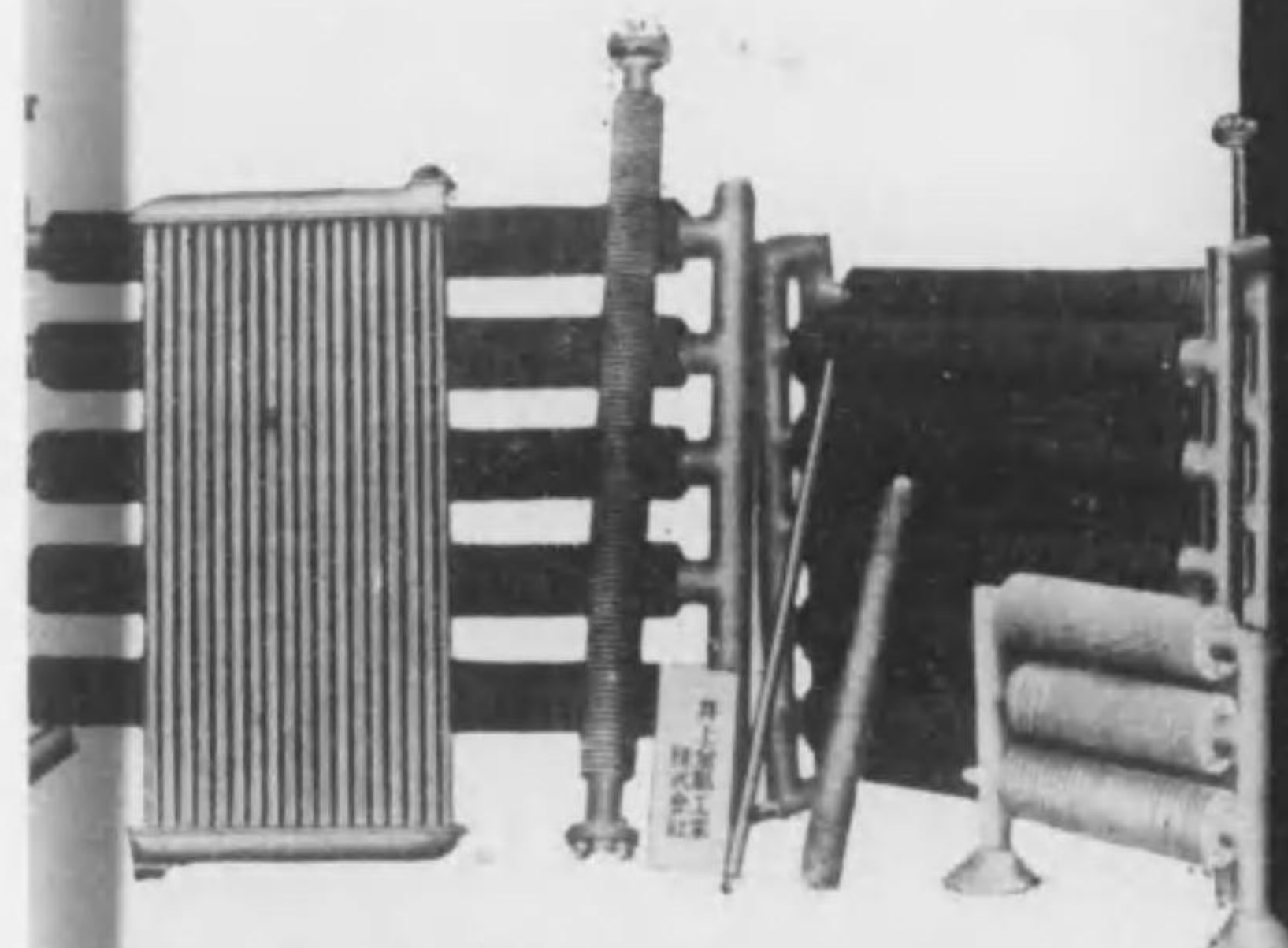


多翼送風機

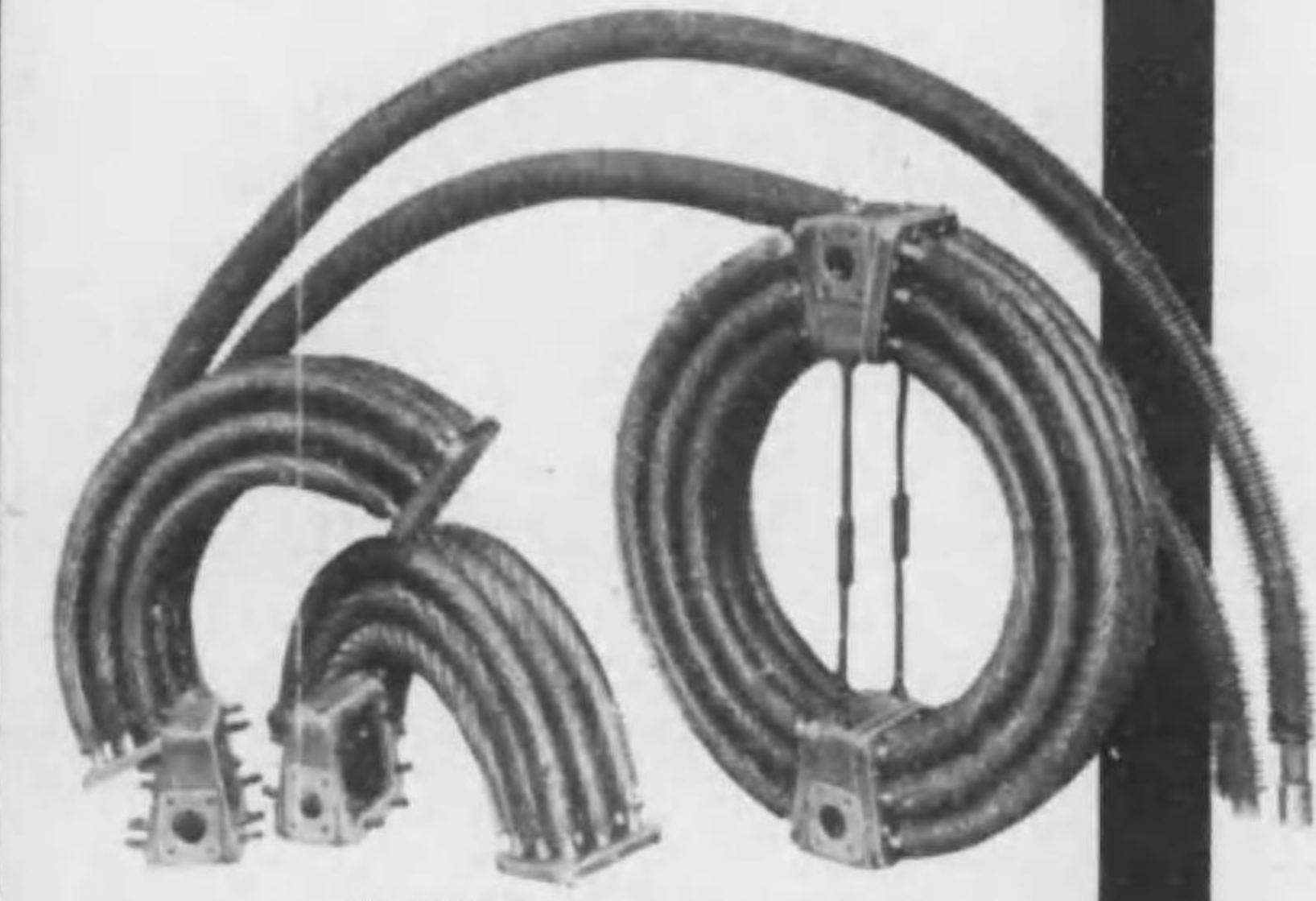


小型電動多翼送風機

イン F.S. 型ユニットヒーター



乾燥機用組立ヒーター



冷凍機用エロフィンクーラー



營業課目

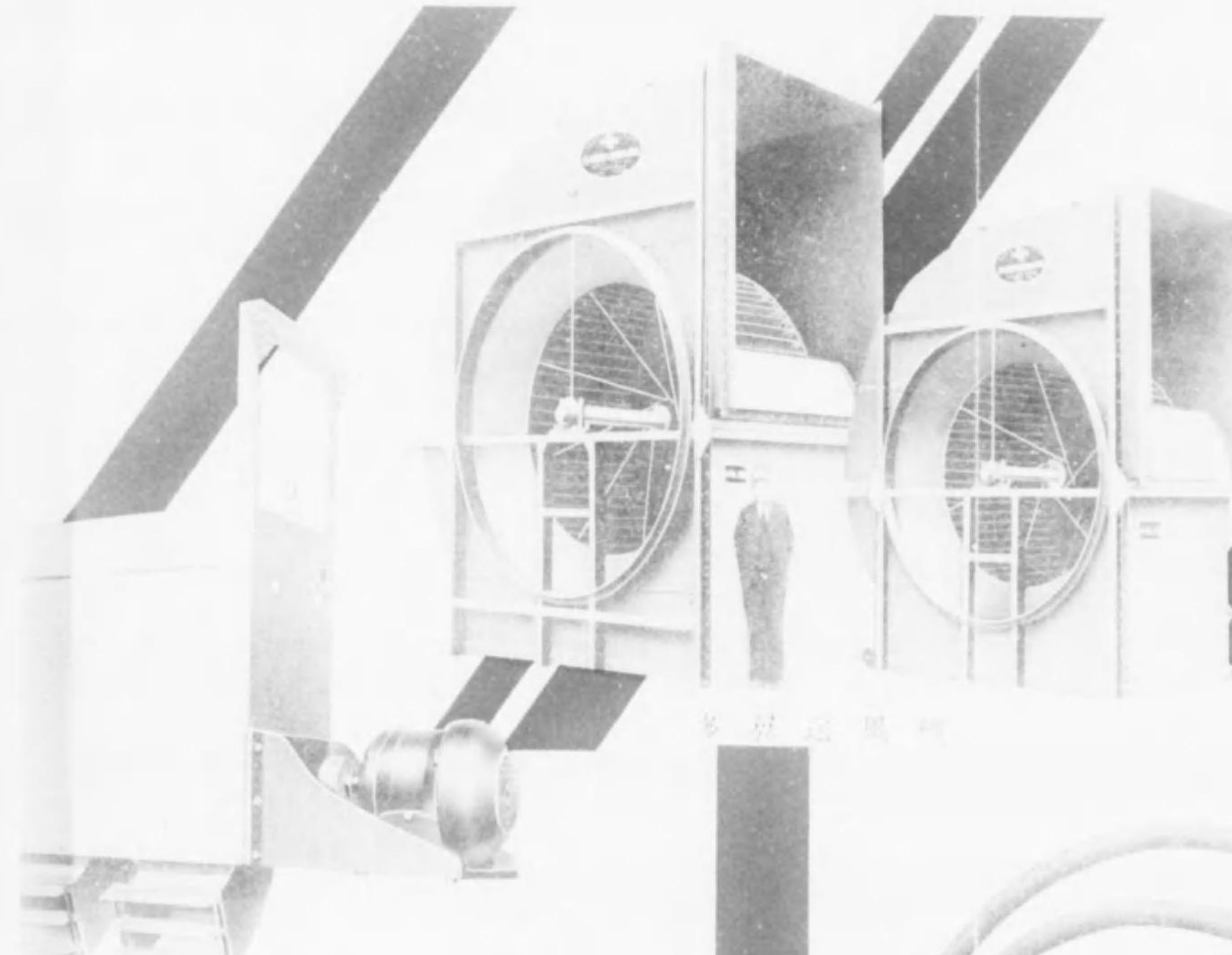
諸機械製作各種金屬加工

特許井上エロフィンクーラー
 井上ユニットヒーター各種
 乾燥機各種
 煖冷房装置各種
 送風機、排風機各種
 空氣機械一式
 遠心分離機各種
 紡織機用品各種
 高級拔物押物各種
 一般考案設計製作

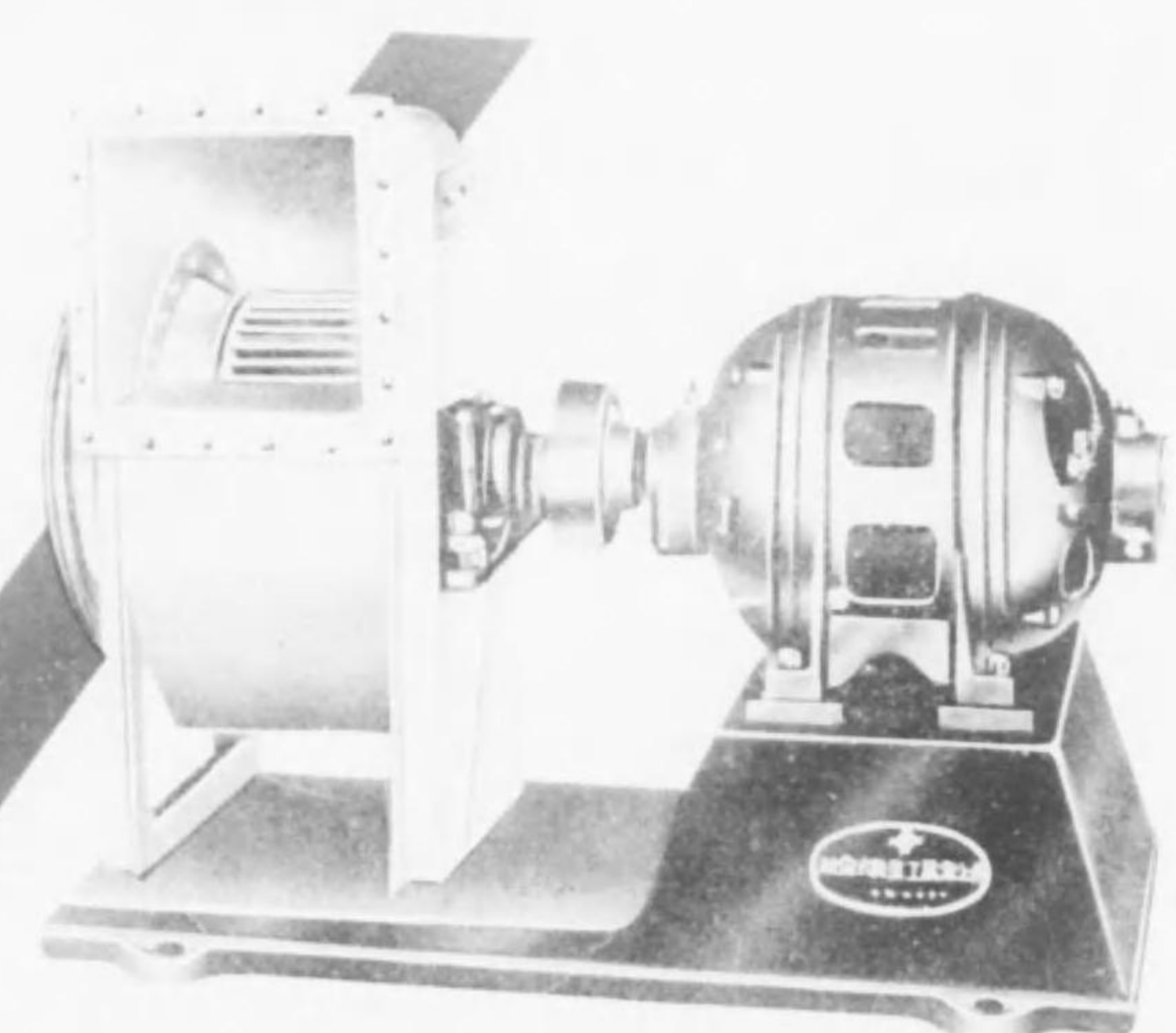
其他一般設計並工事請負

井上金屬工業株式會社

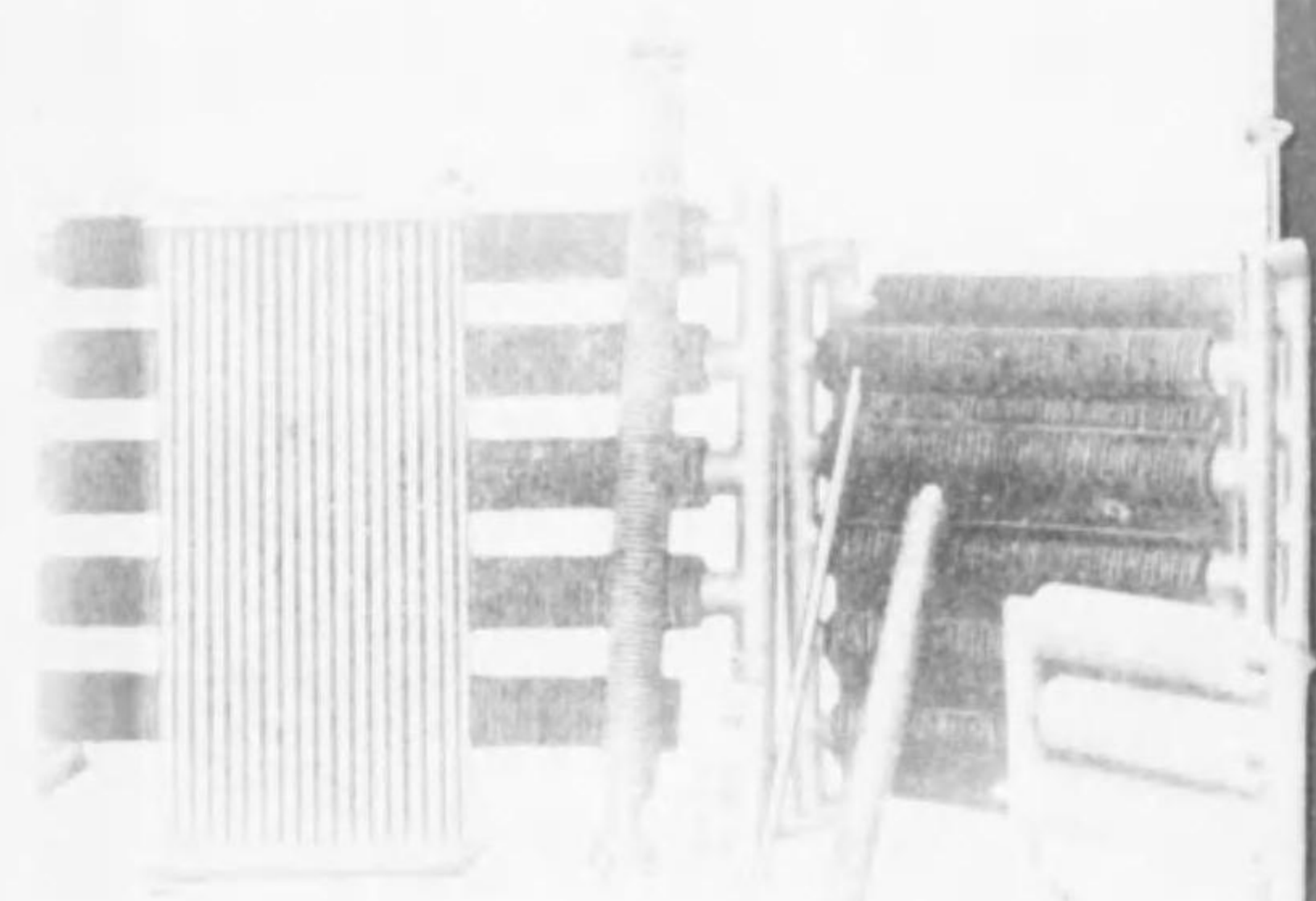
露光量違いの為重複撮影



多層送風機



小型電動多層送風機



心線製鋼機



各種電線ケーブル



營業課目

諸機械製作各種金屬加工

- 特許井上エロフィンヒーター
- 井上ユニットヒーター各種
- 乾燥機各種
- 煖冷房装置各種
- 送風機排風機各種
- 空氣機械一式
- 遠心分離機各種
- 紡織機用品各種
- 高級抜物押物各種
- 一般考案設計製作
- 其他一般設計並工事請負

大阪市北區都島北通一丁目

井上金屬工業株式會社

電話堀川(35)

一八九〇番番